

シ ラ バ ス

令和3年度以降入学生対象 動物看護学科カリキュラム表

注1 : 表内の数字は単位数であり、○数字は選択科目を示す

注2 : △印は、当該期間中のいずれか1回のみ履修可能

区分	授業科目	1年次		2年次		3年次		4年次		備考
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
教養教育科目	生命倫理学				2					教養教育科目全体から選択18単位以上取得のこと
	哲学		②							
	生活と法律	②								
	生活と経済	②								
	美術史			②						
	心理学				②					
	動物とジャーナリズム		②							
	キャリアマネジメント				②					
	基礎生物学		2							
	基礎化学	2								
	基礎生化学		②							
	環境科学				②					
	英語Ⅰ	1								
	英語Ⅱ		1							
英語Ⅲ			1							
英語Ⅳ				1						
フランス語入門		②								
情報リテラシー(基礎)	1									
情報リテラシー(応用)		1								
健康とスポーツ(実技を含む)			②							
専門基礎科目	生命科学概論			2						専門教育科目より94単位以上取得のこと
	バイオテクノロジー					②				
	動物看護学概論	2								
	動物人間関係学概論		2							
	動物形態機能学	2								
	動物生理学		2							
	動物形態機能学実習		2							
	動物生態学		2							
	動物行動学			2						
	動物遺伝学	2								
	動物繁殖学					2				
	動物薬理学		2							
	動物病理学		2							
	動物臨床看護学(基礎)	2								
動物臨床看護学(基礎)実習		2								
動物臨床看護学(内科)			2							
動物臨床看護学(内科)実習			2							
動物臨床看護学(外科)				2						
動物臨床看護学(外科)実習				2						
動物臨床看護学(総合)					②					
動物臨床看護学(総合)実習					②					
動物臨床検査学		2								
動物臨床検査学実習		2								
特殊検査								②		
動物医療機器				2						
動物口腔ケア論					②					
動物口腔ケア実習					②					
ヒトと動物の共通感染症					2					
公衆衛生学			2							
動物生化学				②						
微生物学					2					
血液学					②					
寄生虫学			2							

区分	授業科目	1年次		2年次		3年次		4年次		備考
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
専門教育科目	小動物放射線学					2				専門教育科目より94単位以上取得のこと
	小動物栄養学			2						
	小動物臨床栄養学			2						
	エキゾチックアニマル看護学							2		
	動物看護ソーシャルワーク								1	
	ペットロス論								②	
	リハビリテーション論					②				
	動物リハビリテーション								②	
	動物病院実習					2				
	動物飼育管理論	2								
	動物飼育管理実習			2						
	コンパニオンアニマルケア(グルーミング)論	2								
	コンパニオンアニマルケア(グルーミング基礎)実習	2								
	コンパニオンアニマルケア(グルーミング応用)実習			②						
伴侶動物学					2					
産業動物学					1					
実験動物学						1				
野生動物学				2						
動物愛護・福祉と関連法規	2									
医療安全								②		
高齢動物看護学								②		
在宅・訪問動物看護論								②		
ペット関連産業論								2		
サイエンスイングリッシュ						②				
統計学				②						
動物看護学総合演習								①		
卒業論文								4		
インターンシップ						②△		②△		
研修・ボランティア活動	①△		①△		①△		①△			
動物実習短期留学	④△		④△		④△		④△			
アッセンブリーアワーⅠ	1									
アッセンブリーアワーⅡ								1		
総合科目	統計学				②					
	動物看護学総合演習							①		
卒業論文								4		
インターンシップ						②△		②△		
研修・ボランティア活動	①△		①△		①△		①△			
動物実習短期留学	④△		④△		④△		④△			
アッセンブリーアワーⅠ	1									
アッセンブリーアワーⅡ								1		

【卒業要件】

区分	必修	選択	合計
教養教育	人文と社会	2	18
	自然と環境	4	
	言語・情報・スポーツ	6	
	小計	12	
専門教育	専門基礎	24	9
	専門科目	55	
	総合科目	6	
	小計	85	
合計	97	27	124

【備考】

- ① 卒業要件の詳細については、履修ガイド20ページを参照すること。
- ② 動物人間関係学科で開講される専門教育選択科目を履修し、単位を修得した場合は、専門教育選択科目としてみなし、卒業要件に参入する。

授業科目 目次 (動物看護学科)

区分	授業科目	担当教員	頁	
人文と社会	生命倫理学	高橋 克樹	31	
	哲学	高橋 克樹	32	
	生活と法律	渋谷 寛	33	
	生活と経済	矢島 隆志	34	
	美術史	長能 美香	35	
	心理学	加藤 理絵	36	
	動物とジャーナリズム	仁科 邦男	37	
	キャリアマネジメント	中村 昌	38	
自然と環境	基礎生物学	茂木 千恵	39	
	基礎化学	石川 牧子	40	
	基礎生化学	◎梅村 隆志・植田 富貴子	41	
	環境科学	石川 牧子	42	
言語・情報・スポーツ	英語Ⅰ	島森 尚子・大橋 由紀子 斎藤 寿葉	43 48	
	英語Ⅱ	島森 尚子・大橋 由紀子 加藤 剛	49 54	
	英語Ⅲ	大橋 由紀子・阿部 敬子 植月 恵一郎	55 60	
	英語Ⅳ	大橋 由紀子・阿部 敬子 植月 恵一郎	61 66	
	フランス語入門	白川 理恵	67	
	情報リテラシー (基礎)	若林 義啓	68	
	情報リテラシー (応用)	若林 義啓	69	
	健康とスポーツ (実技を含む)	中山 多美	70	
	専門基礎科目	生命科学概論	◎小黒 美枝子・石川 牧子 茂木 千恵	71
		バイオテクノロジー	小黒 美枝子	72
動物看護学概論		◎内田 明彦・今村 伸一郎 岡崎 登志夫・梅村 隆志 櫻井 富士朗	73	
動物人間関係学概論		◎植田 富貴子・小黒 美枝子 奥野 卓司・島森 尚子	74	
動物形態機能学		今村 伸一郎	75	
動物生理学		今村 伸一郎	76	
動物形態機能学実習		今村 伸一郎	77	
動物生態学		茂木 千恵	78	
動物行動学		茂木 千恵	79	
動物遺伝学		石川 牧子	80	
動物繁殖学		◎長島 孝行・加田 日出美	81	
動物薬理学		◎富田 幸子・近藤 昌弘 藤村 響男	82	
動物病理学		梅村 隆志	83	
動物臨床看護学(基礎)		◎富田 幸子・鈴木 友子	84	
動物臨床看護学(基礎)実習		◎富田 幸子・荒川 真希 三井 香奈・秋山 蘭 友野 悠	85	

区分	授業科目	担当教員	頁
専門科目	動物臨床看護学(内科)	◎谷口 明子・櫻井 富士朗	86
	動物臨床看護学(内科)実習	◎谷口 明子・荒川 真希 三井 香奈・友野 悠 藤井 聖久	87
	動物臨床看護学(外科)	◎武藤 眞・宮田 拓馬	88
	動物臨床看護学(外科)実習	◎秋山 蘭・尾崎 明恵 浴本 涼子	89
	動物臨床看護学(総合)	◎富田 幸子・谷口 明子 小方 宗次・本田 三緒子	90
	動物臨床看護学(総合)実習	◎富田 幸子・谷口 明子 小方 宗次・本田 三緒子	91
	動物臨床検査学	◎岡崎 登志夫・宮井 紗弥香	92
	動物臨床検査学実習	◎岡崎 登志夫・宮井 紗弥香 荒川 真希	93
	特殊検査	◎岡崎 登志夫・谷口 明子 宮井 紗弥香	94
	動物医療機器	鈴木 友子	95
	動物口腔ケア論	鈴木 友子	96
	動物口腔ケア実習	鈴木 友子	97
	ヒトと動物の共通感染症	内田 明彦	98
	公衆衛生学	植田 富貴子	99
	動物生化学	小黒 美枝子	100
	微生物学	梅村 隆志	101
	血液学	岡崎 登志夫	102
	寄生虫学	内田 明彦	103
	小動物放射線学	谷口 明子	104
	小動物栄養学	◎大島 誠之助・荒川 真希	105
	小動物臨床栄養学	◎大島 誠之助・荒川 真希	106
	エキゾチックアニマル看護学	霍野 晋吉	107
	動物看護ソーシャルワーク	◎友野 悠・山川 伊津子	111
	ペットロス論	新島 典子	113
	リハビリテーション論	手塚 潤一	114
動物リハビリテーション	井上 留美◎	115	
動物病院実習	◎今村 伸一郎・茂木 千恵 荒川 真希・友野 悠	116	
動物飼育管理論	◎堀井 隆行・島森 尚子 田向 健一・吉田 俊一	121	
動物飼育管理実習	◎堀井 隆行・島森 尚子 細野 茂之・田向 健一 吉田 俊一	122	
コンパニオンアニマルケア(グルーミング)論	◎福山 貴昭・荒川 真希	123	
コンパニオンアニマルケア(グルーミング基礎)実習	◎福山 貴昭・荒川 真希 土屋 恵美・武田 侑子	124	
コンパニオンアニマルケア(グルーミング応用)実習	◎福山 貴昭・土屋 恵美 武田 侑子・宮田 淳嗣	125	

授業科目 目次 (動物看護学科)

区分	授業科目	担当教員	頁
専門科目	伴侶動物学	◎福山 貴昭・早田 由貴子 小嶋 篤史	129
	産業動物学	鎌田 壽彦	134
	実験動物学	◎今村 伸一郎・梅村 隆志	135
	野生動物学	小宮 輝之※	136
	動物愛護・福祉と関連法規	小島 香代子	137
	医療安全	本田 三緒子	138
	高齢動物看護学	◎富田 幸子・鈴木 友子 花田 道子※・本田 三緒子	139
	在宅・訪問動物看護論	◎富田 幸子・花田 道子※ 本田 三緒子	140
	ペット関連産業論	越村 義雄	142
	サイエンスイングリッシュ	小黒 美枝子	151
総合科目	統計学	植田 富貴子	153
	動物看護学総合演習	今村 伸一郎	154
	卒業論文	内田 明彦・梅村 隆志 今村 伸一郎・岡崎 登志夫 富田 幸子・谷口 明子 大橋 由紀子・茂木 千恵 鈴木 友子・福山 貴昭 宮井 紗弥香・三井 香奈	155
	インターンシップ	◎堀井 隆行・秋山 蘭 三井 香奈	156
	研修・ボランティア活動	若林 義啓・◎加藤 理絵 宮井 紗弥香	157
	動物実習短期留学	◎島森 尚子・加藤 剛	158
	アッセンブリーアワー I	◎新島 典子・植田 富貴子	159
アッセンブリーアワー II	◎秋山 順子・梅村 隆志	160	

名前についているマークについて

◎：複数教員が担当する科目の授業科目目次及び、シラバスの科目担当教員欄において、名前の前に◎がついた教員は「科目担当責任者」となります。

※：名前の後ろに「※」がついた教員は、「実務家教員」となります。

なお、シラバスの実務家教員欄に「○」がついている科目の詳細については、履修ガイド&シラバス161ページをご覧ください。

令和3年度以降入学生対象 動物人間関係学科カリキュラム表

注1：表内の数字は単位数であり、○数字は選択科目を示す

注2：△印は、当該期間中のいずれか1回のみ履修可能

区分	授業科目	1年次		2年次		3年次		4年次		備考	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
人文と社会	生命倫理学			2						教養教育科目全体から選択18単位以上取得のこと	
	哲学		②								
	生活と法律	②									
	生活と経済	②									
	美術史			②							
	心理学				②						
	動物とジャーナリズム		②								
	キャリアマネジメント				②						
	自然と環境	基礎生物学		2							
		基礎化学	2								
基礎生化学			②								
環境科学					②						
言語・情報・スポーツ	英語Ⅰ	1									
	英語Ⅱ		1								
	英語Ⅲ			1							
	英語Ⅳ				1						
	フランス語入門		②								
	情報リテラシー(基礎)	1									
	情報リテラシー(応用)		1								
	健康とスポーツ(実技を含む)				②						
	専門基礎科目	生命科学概論			2						専門教育科目より94単位以上取得のこと
バイオテクノロジー						②					
動物看護学概論		2									
動物人間関係学概論			2								
動物形態機能学		2									
動物生理学			2								
動物形態機能学実習				②							
動物生態学				②							
動物行動学					2						
動物遺伝学			2								
動物繁殖学						2					
動物薬理学				②							
動物病理学				②							
専門教育科目	動物臨床看護学(基礎)	2									
	動物臨床看護学(基礎)実習		2								
	動物臨床看護学(内科)				②						
	動物臨床看護学(内科)実習				②						
	動物臨床看護学(外科)					②					
	動物臨床看護学(外科)実習					②					
	動物臨床検査学				②						
	動物臨床検査学実習				②						
	ヒトと動物の共通感染症					2					
	公衆衛生学				2						
	寄生虫学			2							
	小動物栄養学			2							
	ヒトと動物の関係学				2						
	社会福祉					②					
	臨床心理学					②					
	コミュニケーション論						1				
	ペットロス論							2			
	アニマルアシステッドセラピー論					2					
	アニマルアシステッドセラピー実習						②				
	アシスタントドッグ論					2					
伴侶動物資源・育種学						②					
動物飼育管理論	2										
動物飼育管理実習				2							

区分	授業科目	1年次		2年次		3年次		4年次		備考
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
専門教育科目	コンパニオンアニマルケア(グルーミング)論	2								専門教育科目より94単位以上取得のこと
	コンパニオンアニマルケア(グルーミング基礎)実習	2								
	コンパニオンアニマルケア(グルーミング応用)実習				②					
	伴侶動物行動演習						①			
	コンパニオンドッグトレーニング論						②			
	コンパニオンドッグトレーニング実習							②		
	イヌ・ネコの特性論					2				
	エキゾチックアニマル特性論						②			
	コンパニオンパード特性論						②			
	ジェロントロジーとドッグウォーキング						②			
	産業動物学					1				
	実験動物学						1			
	野生動物学				2					
	動物愛護・福祉と関連法規	2								
	医療安全								2	
	動物災害・危機管理								2	
	ペット関連産業論							②		
	ペットビジネス起業論							②		
	消費者行動分析学							②		
	情報危機管理論							②		
総合科目	動物とアート		①							
	動物文化人類学				②					
	水族動物学					②				
	動物園・水族館論					②				
	有害動物学						②			
	サイエンスイングリッシュ					②				
	アカデミックスキルズ					2				
	統計学				②					
	動物看護学総合演習								①	
	卒業論文								④	
インターンシップ						②△	②△			
研修・ボランティア活動	①△		①△		①△		①△			
動物実習短期留学	④△		④△		④△		④△			
アッセンブリーアワーⅠ	1									
アッセンブリーアワーⅡ								1		

【卒業要件】

区分	必修	選択	合計
教養教育	人文と社会	2	30
	自然と環境	4	
	言語・情報・スポーツ	6	
小計	12		
専門教育	専門基礎	16	94
	専門科目	41	
	総合科目	4	
小計	61		
合計	73	51	124

【備考】

- ① 卒業要件の詳細については、履修ガイド20ページを参照すること。
- ② 動物看護学科で開講される専門教育選択科目を履修し、単位を修得した場合は、専門教育選択科目としてみなし、卒業要件に参入する。

授業科目 目次 (動物人間関係学科)

区分	授業科目	担当教員	頁	区分	授業科目	担当教員	頁	
人文と社会	生命倫理学	高橋 克樹	31	専門教育科目	動物臨床看護学(内科)	◎谷口 明子・櫻井 富士朗	86	
	哲学	高橋 克樹	32		動物臨床看護学(内科)実習	◎谷口 明子・荒川 真希 三井 香奈・友野 悠 藤井 聖久	87	
	生活と法律	渋谷 寛	33		動物臨床看護学(外科)	◎武藤 眞・宮田 拓馬	88	
	生活と経済	矢島 隆志	34		動物臨床看護学(外科)実習	◎秋山 蘭・尾崎 明恵 浴本 涼子	89	
	美術史	長能 美香	35		動物臨床検査学	◎岡崎 登志夫・宮井 紗弥香	92	
	心理学	加藤 理絵	36		動物臨床検査学実習	◎岡崎 登志夫・宮井 紗弥香 荒川 真希	93	
	動物とジャーナリズム	仁科 邦男	37		ヒトと動物の共通感染症	内田 明彦	98	
	キャリアマネジメント	中村 昌	38		公衆衛生学	植田 富貴子	99	
	自然と環境	基礎生物学	茂木 千恵		39	寄生虫学	内田 明彦	103
		基礎化学	石川 牧子		40	小動物栄養学	◎大島 誠之助・荒川 真希	105
基礎生化学		◎梅村 隆志・植田 富貴子	41	ヒトと動物の関係学	安藤 孝敏	108		
環境科学		石川 牧子	42	社会福祉	山川 伊津子	109		
言語・情報・スポーツ		英語 I	島森 尚子・大橋 由紀子 齋藤 寿葉	43 48	臨床心理学	加藤 理絵※	110	
		英語 II	島森 尚子・大橋 由紀子 加藤 剛	49 54	コミュニケーション論	加藤 理絵※	112	
		英語 III	大橋 由紀子・阿部 敬子 植月 恵一郎	55 60	ペットロス論	新島 典子	113	
		英語 IV	大橋 由紀子・阿部 敬子 植月 恵一郎	61 66	アニマルアシステッドセラピー論	◎山崎 薫・秋山 順子 山崎 恵子	117	
		フランス語入門	白川 理恵	67	アニマルアシステッドセラピー実習	◎秋山 順子・堀井 隆行 山川 伊津子	118	
		情報リテラシー (基礎)	若林 義啓	68	アシスタンスドッグ論	◎秋山 順子・高柳 友子	119	
	情報リテラシー (応用)	若林 義啓	69	伴侶動物資源・育種学	野村 こう	120		
	健康とスポーツ (実技を含む)	中山 多美	70	動物飼育管理論	◎堀井 隆行・島森 尚子 田向 健一・吉田 俊一	121		
	専門基礎科目	生命科学概論	◎小黒 美枝子・石川 牧子 茂木 千恵	71	動物飼育管理実習	◎堀井 隆行・島森 尚子 細野 茂之・田向 健一 吉田 俊一	122	
		バイオテクノロジー	小黒 美枝子	72	コンパニオンアニマルケア (グルーミング) 論	◎福山 貴昭・荒川 真希	123	
動物看護学概論		◎内田 明彦・今村 伸一郎 岡崎 登志夫・梅村 隆志 櫻井 富士朗	73	コンパニオンアニマルケア (グルーミング基礎) 実習	◎福山 貴昭・荒川 真希 土屋 恵美・武田 侑子	124		
動物人間関係学概論		◎植田 富貴子・小黒 美枝子 奥野 卓司・島森 尚子	74	コンパニオンアニマルケア (グルーミング応用) 実習	◎福山 貴昭・土屋 恵美 武田 侑子・宮田 淳嗣	125		
動物形態機能学		今村 伸一郎	75	伴侶動物行動演習	堀井 隆行	126		
動物生理学		今村 伸一郎	76	コンパニオンドッグトレーニング論	◎堀井 隆行・山本 央子	127		
動物形態機能学実習		今村 伸一郎	77	コンパニオンドッグトレーニング実習	山本 央子	128		
動物生態学		茂木 千恵	78	イヌ・ネコの特性論	山崎 薫・◎福山 貴昭 宮田 淳嗣・早田 由貴子	130		
動物行動学		茂木 千恵	79	エキゾチックアニマル特性論	霍野 晋吉	131		
動物遺伝学		石川 牧子	80	コンパニオンバード特性論	◎島森 尚子・小嶋 篤史	132		
専門科目	動物繁殖学	◎長島 孝行・加田 日出美	81	ジェロントロジーとドッグウォーキング	秋山 順子	133		
	動物薬理学	◎富田 幸子・近藤 昌弘 藤村 響男	82	産業動物学	鎌田 壽彦	134		
	動物病理学	梅村 隆志	83	実験動物学	◎今村 伸一郎・梅村 隆志	135		
	動物臨床看護学(基礎)	◎富田 幸子・鈴木 友子	84					
	動物臨床看護学(基礎)実習	◎富田 幸子・荒川 真希 三井 香奈・秋山 蘭 友野 悠	85					

授業科目 目次 (動物人間関係学科)

区分	授業科目	担当教員	頁
専門 科目	野生動物学	小宮 輝之※	136
	動物愛護・福祉と関連法規	小島 香代子	137
	医療安全	本田 三緒子	138
	動物災害・危機管理	◎福山 貴昭・小島 香代子	141
	ペット関連産業論	越村 義雄	142
	ペットビジネス起業論	宮下 めぐみ	143
	消費者行動分析学	杉山 尚子	144
	情報危機管理論	若林 義啓	145
	動物とアート	斉藤 康介	146
	動物文化人類学	奥野 卓司	147
	水族動物学	吉田 俊一	148
	動物園・水族館論	小宮 輝之※	149
	有害動物学	谷川 力	150
	サイエンスイングリッシュ	小黒 美枝子	151
	専門 教育 科目	アカデミックスキルズ	新島 典子
統計学		植田 富貴子	153
動物看護学総合演習		今村 伸一郎	154
卒業論文		植田 富貴子・小黒 美枝子 島森 尚子・高橋 克樹 石川 牧子・新島 典子 若林 義啓・加藤 理絵 秋山 順子・堀井 隆行	155
インターンシップ		◎堀井 隆行・秋山 蘭 三井 香奈	156
研修・ボランティア活動		若林 義啓・◎加藤 理絵 宮井 紗弥香	157
動物実習短期留学		◎島森 尚子・加藤 剛	158
アッセンブリーアワー I		◎新島 典子・植田 富貴子	159
アッセンブリーアワー II		◎秋山 順子・梅村 隆志	160
総合 科目			

名前についているマークについて

◎：複数教員が担当する科目の授業科目目次及び、シラバスの
科目担当教員欄において、名前の前に◎がついた教員は

「科目担当責任者」となります。

※：名前の後ろに「※」がついた教員は、「実務家教員」と
なります。

なお、シラバスの実務家教員欄に「○」がついている科目の
詳細については、履修ガイド&シラバス162ページをご覧ください。

授業科目	生命倫理学			実務家教員	—	担当教員	高橋 克樹
科目英名	Bioethics						
開講期間	2年次 後期	必修科目 2単位	授業形態	講義	科目区分	教養教育 [人文と社会]	
到達目標							
<p>生命倫理学は生きとし生けるいのちとの関係についての学びである。現代社会は科学技術の驚異的な進歩によって「いのち」にかかわる生命倫理上の課題が急速に立ち現われるようになった。生殖医療や出生前診断、ターミナルケアの現場に直面したときに、どうすべきか判断が求められるようになった。医療現場においては、インフォームドコンセントなど様々な課題を抱えている。安楽死の問題をどのように考えるか、病状告知をいかにすべきか、家族への配慮も求められる。それら「いのち」にかかわる事柄に対して、基本的姿勢や考え方を樹立することが目標である。</p>							
講義概要							
<p>科学技術としての医療は、これまで不治とされていた疾病を治療し生命の健康増進に大いに貢献してきた。しかし同時に今日デメリットも顕在化してきている。科学技術は人間の欲望を肥大化させて、自由にならない現実との共生能力を人間から喪失させかねない状況である。医療の場合も同様であり、病気や死を隠蔽し排除した人間社会は狭隘にならざるを得ない。これらは倫理としての生命倫理が要請される理由でもある。生きとし生けるものとの関係における倫理的主体としての人間の在りようと行動を考える学問は、医療倫理に留まらずエコエシックスをも展望する研究である。それらを講義と事例研究形式で授業を進める。</p>							
授業計画							
<ol style="list-style-type: none"> 1 生命倫理とは何か① ～「いのち」の根源を問う 2 生命倫理とは何か② ～関係から「いのち」を捉える 3 生命倫理が要請されてきた背景 ～「いのち」は誰のものか 4 「いのち」の尊厳性と優生思想 ～アウシュヴィッツ、ヒロシマ、ナガサキから考える 5 自死は死ぬ権利？～自死は正当化できるか 6 出生前診断・遺伝子検査～「いのち」の選択は正しいことなのか 7 インフォームド・コンセントおよび生殖補助医療～正しく情報を伝える 8 安楽死と尊厳死～安楽死は本当の尊厳を与えるのか 9 脳死と臓器移植～あなたは自分の臓器を提供しますか？ 10 ターミナルケア（終末期医療）～スピリチャリティの視点から 11 遺伝管理社会～健康が義務となる社会 12 生命倫理と優生思想～「いのち」に価値の差はあるのか？ 13 グリーフ・ワークとペットロスの心理的傾向 14 動物の権利①～動物の生存権について 15 動物の権利②～人間と動物の共存の道 							
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
リアクションペーパーでの質問、意見、要望について、次週の授業で回答する。							
履修上の注意							
動物をはじめすべての生けるいのちへの広い関心と人間としての責任を自覚する姿勢を求めたい。							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
各授業回で配布した資料の内容をよく読んでおくこと。							
評価方法（評価基準を含む）							
定期的に要求するリアクションペーパー（20%）、授業への参加度（50%）そして定期試験（30%）から総合的に評価する。							
教科書							
特には指定しない							
参考書、教材等							
授業の中で適宜紹介する。							

授業科目	哲学			実務家教員	—	担当教員	高橋 克樹
科目英名	Philosophy						
開講期間	1年次 後期	選択科目 2単位	授業形態	講義	科目区分	教養教育 [人文と社会]	
到達目標							
<p>「生きた哲学は現実を理解しうるものでなくてはならない」とは九鬼周造のことばです。なぜ人は愛する人を喪うと生き方が変わるのか。2018年と2019年にもっとも読まれた本のひとつ「君たちはどう生きるか」を手掛かりに日常生活での哲学的思考の修得を目指す。</p>							
講義概要							
<p>「哲学とはなにか」を出発点として学んでいく。哲学の学修にとって哲学史は欠かすことができない領域である。したがって、ギリシャ哲学から現代へと繋がる視点から、プラトン、ソクラテス、アリストテレスを取り上げ、中世のスコラ哲学を経て、近・現代哲学、特にキェルケゴール、そしてM. ブーバー等の思想を学ぶ。</p>							
授業計画							
<ol style="list-style-type: none"> 1 「豊かさ」について①—貧しい友人と油揚げ事件・いじめ— 2 「豊かさ」について②—生産する人、消費する人— 3 「友だち」について①—本当の友だちとは？— 4 「友だち」について②—消えることのない過ちへの対処— 5 「歴史」について①—なぜ紛争はなくなるのか— 6 「歴史」について②—歴史に学ぶ生き方— 7 「どう生きるか」について①—ナポレオンは偉大か— 8 「どう生きるか」について②—本を読むという営み— 9 「哲学する」について①—心が折れそうになるときでも— 10 「哲学する」について②—裏切りからの回復— 11 パトスの知①—われ思う、ゆえにわれ在りから— 12 パトスの知②—われ悲しむ、ゆえにわれあり— 13 「私たちはどう生きるか」①—どう生きてきたかを検証する— 14 「私たちはどう生きるか」②—これからをどう生きていくのか— 15 まとめと振り返り 							
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
リアクションペーパーでの質問、意見、要望について、次週の授業で回答する。							
履修上の注意							
教科書をしっかり読み、各自の問題意識を持って授業に出席すること。							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
事前にテキストを読んでおくこと。							
評価方法（評価基準を含む）							
授業への参加度と貢献度（50%）、リアクションペーパー（20%）、定期試験（30%）から総合的に評価する。							
教科書							
『君たちはどう生きるか』（吉野源三郎 岩波文庫）							
参考書、教材等							
『君たちはどう生きるかの哲学』（上原隆 幻冬舎新書） その他授業のなかで適宜取りあげて 必要な参考文献を紹介する。							

授業科目	生活と法律			実務家教員	—	担当教員	渋谷 寛
科目英名	Law in Everyday Life						
開講期間	1年次 前期	選択科目 2単位	授業形態	講義	科目区分	教養教育 [人文と社会]	
到達目標							
日常生活において必要な法的知識、法的紛争解決手続きを修得することを到達目標とする。							
講義概要							
日常生活における必要な法的知識、法的紛争解決手続きを修得することを目的とする。 憲法、民法そして刑法等の基本的な法律の知識を得る。売買契約、消費貸借契約、賃貸借契約、請負契約そして寄託契約等の契約類型についても学ぶ。裁判制度、特に新設された「裁判員制度」について学ぶ。 さらに、ペットに関する業界特有の法知識の修得も志す。動物愛護管理法等の関係法令の規定を知る。獣医療過誤訴訟の実態、その他のペットを取り巻く日常的な法律問題を解説する。							
授業計画							
1 法学入門、法の歴史、江戸時代の生類憐れみの令							
2 日本国憲法、人権問題、戦争放棄、天皇制、政治の仕組み、憲法改正など							
3 売買契約に関すること、消費者保護制度、クーリングオフなど							
4 ① 賃貸借契約に関すること、契約締結に関する注意事項、大家さんとのトラブル解決法							
② その他の民法上の契約、消費貸借、委任契約、寄託契約など							
5 ① 家庭的な法律問題、結婚、離婚、相続など							
② 保険制度、労働法に関する問題、就業規則、不当解雇など							
6 ① 犯罪と刑罰に関する問題、覚せい剤犯罪、動物愛護法の罰則規定など							
② 裁判に関する法、民事訴訟と刑事訴訟の手続の流れ							
7 裁判員制度について1 (制度の概説)							
8 裁判員制度について2 (放火の事例)							
9 裁判員制度について3 (殺人未遂・傷害の事例)							
10 未成年者の飲酒の禁止と交通法規							
11 獣医療過誤事件1							
12 獣医療過誤事件2							
13 動物愛護法など動物に関する法律1							
14 動物愛護法など動物に関する法律2							
15 動物愛護法など動物に関する法律3							
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック							
授業中の質問については、適切に答える。授業に対する要望があれば、できる限り対応する。							
履修上の注意							
試験問題のほとんどは、授業で扱ったところから出題されるので、授業中にメモを取ることが望ましい予習よりも復習が大切。							
事前・事後学修 (予習・復習) の内容							
配布した資料を読み返す。							
評価方法 (評価基準を含む)							
授業内容をよく理解したか否か、および日常生活に関する基本的な法的知識を備えたか否か、更に動物に関する法律問題に対する知識を備えたか否かを評価基準とし、授業への参加度 (3%) と定期試験 (97%) により総合的に評価する。							
教科書							
「ペットのトラブル相談Q&A (第2版)」 渋谷寛他2名共著 発行所 株式会社民事法研究会							
参考書、教材等							
「ペットの判例ガイドブック」 渋谷寛他共著 発行所 株式会社民事法研究会							
「動物看護コアテキスト第1巻 (第2版) 人と動物の関係」 発行所 株式会社ファームプレス							
「ねこの法律とお金」 発行所 廣済堂出版							

授業科目	生活と経済			実務家教員	—	担当教員	矢島 隆志
科目英名	Life and Economy						
開講期間	1年次 前期	選択科目 2単位	授業形態	講義	科目区分	教養教育 [人文と社会]	
到達目標							
身近な社会変化やふだんの生活の中にある事例を取り上げながら、生活に密着した経済について基本的な知識を身につけることを到達目標とする。生活に密着した経済について基本的な知識を学修し、社会に出てから必要となる基礎知識及び実務に役立つ経済を学ぶ。							
講義概要							
社会生活においては経済的な考え方が大切であり、経済的な考え方無しで、社会の中で生きていくことも困難である。日々生活のなかで経済活動の中心となっている「お金」は重要な役割を担っていることは周知のとおりであり、本講義では、社会や生活の中の経済について基本知識を修得するとともに、経営や財務の中で社会に出てから必要となる基礎知識実務に役立つ経済を学ぶ。また経済全体の範囲や概要、マクロ経済の概観、ミクロ経済と経営の基本知識を解説する。							
授業計画							
1 経済とは何か 2 世界経済はどう動いているか 3 日本の経済問題のポイント 4 企業経営にチャレンジ 5 起業するにはどうしたらいいか 6 経営マネジメントを学ぶ 7 ビジネスプランの作り方 (1) 8 ビジネスプランの作り方 (2) 9 ニュービジネスはこれだ 10 マーケティングのノウハウ 11 価格戦略のおもしろさ 12 グローバル化している経済 13 環境と経済 14 これからの経済 15 生活と経済のまとめ							
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
フィードバックとして小テストを回収後、翌週の講義で問題点や課題についてのコメントを行う。							
履修上の注意							
毎回の授業の終わりに小テストをする。 期末テストの代わりに課題の提出(PowerPointによるグループワーク)を行う。							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
事後学修として、毎授業後に配布した資料をよく再読すること。							
評価方法（評価基準を含む）							
課題の評価（70%）、授業への参加度（30%）から総合的に評価する。							
教科書							
毎回プリントを配布する。							
参考書、教材等							
「18歳からの格差論」井出英策 東洋経済新報社（1080円）							

授業科目	美術史			実務家教員	—	担当教員	長能 美香
科目英名	History of Art						
開講期間	2年次 前期	選択科目 2単位	授業形態	講義	科目区分	教養教育 [人文と社会]	
到達目標							
<p>西洋美術の流れや、時代や地域による様式変遷を理解する。</p> <p>また、馴染みのない美術作品はしばしば近寄り難いもの、わからないものとして敬遠されることがある。講義を通してこうした先入観を払拭すると同時に、学生が自ら考えて自分の価値観を構築し、物事を判断できるようになることを到達目標とする。</p>							
講義概要							
<p>人類は文明の始まりから、生活に彩を与える美意識と超自然的な力を崇拝する心を持ち合わせていた。この装飾本能と信仰こそが美術を誕生させる二つの源泉である。人間と美術の関係を深く理解するために本講義では西洋美術の流れを概観する。人類は文明のはじまりからつねに動物とともに過ごしてきた。その過程で多くの動物たちは「寓意」や「象徴」を与えられて、人間の想像力の源泉として重要な役割を果たしてきた。本科目では、古代から現代に至るまでの動物表現を美術史的観点から考察し、動物とアートとの関係と多様性について学び、学生が固定概念を払拭し、自由に芸術作品を鑑賞できるようになることを目標とする。</p> <p>西洋美術と日本美術の中から動物を表現したモニュメンタルな芸術作品を取り上げ、動物と人間との関わりについて学ぶ。対象の芸術作品のディスクリプションから始め、作品に表された動物の図像や様式分析を通して、作品研究について学ぶ。その後、神話や聖書の説話・伝承に着想を得た動物表現、現代美術やポップカルチャーに表された動物表現について講義する。</p>							
授業計画							
<ol style="list-style-type: none"> 1 美術と美術史：人間だけが作り出す芸術 2 美術のはじまり：先史時代の美術 3 オリエント文明と美術 4 ギリシア、ローマの美術：ヨーロッパ文化の源泉 I 5 初期キリスト教美術と初期中世美術：ヨーロッパ文化の源泉 II 6 西欧中世美術の造形原理とロマネスク美術 7 ゴシック美術とルネサンスの曙 8 初期ルネサンス I：初期ネーデルラント絵画編 9 初期ルネサンス II：イタリア（フィレンツェとその周辺）編 10 盛期ルネサンス：三人の巨匠とヴェネツィア派 11 マニエリスムとバロック美術 I：国王の世紀 12 バロック美術 II：各国のバロック様式 13 19世紀前半の美術：新古典主義とロマン主義 14 印象派以降の19世紀美術 15 現代美術を理解するためのヒント 							
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
講義レポートは採点・添削した後、返却する。							
履修上の注意							
<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業で扱うスライド一覧を配布するが、自分が重要だと思ったことをノートにとること。 2. 美術に限らずともよいので、できるだけ多くの本物の芸術の触れて心を耕すことが望ましい。 							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
<p>事前学修：講義の理解を助けるために、簡単な美術史概説書または歴史教科書や図説の文化史の部分を読むこと。事後学修：各講義の内容に該当する配布資料を読み、復習をすること。</p>							
評価方法（評価基準を含む）							
授業への参加度（50%）、講義レポート（50%）の割合で総合的に評価する。							
教科書							
使用しない。							
参考書、教材等							
講義中に適宜紹介する。							

授業科目	心理学			実務家 教員	-	担当 教員	加藤 理絵
科目英名	Psychology						
開講期間	2年次 後期	選択科目 2単位	授業形態	講義	科目区分	教養教育 [人文と社会]	
到達目標							
<p>心理学は、独自で多様な視点と科学的方法を用いて人間を理解し、その発達や問題解決に有用な知見を蓄積してきた。さまざまな知見があるなかで、本講義では、心理学の基礎的な項目として知覚、記憶、学習、感情、脳と神経、発達等に関する事柄に加え、ポジティブ心理学という新しいアプローチを加え、人間の心の動きを身体的基盤を含めて多様な方面から学び、他者や自分への関心、理解を深め、現代社会で生きる力を養うことを目的とする。</p>							
講義概要							
<p>本講義では、心理学の基礎的な項目として知覚や記憶、学習、知能、感情、脳と神経、社会と個人の関係、心理的・社会的発達に関する事柄に加え、心理臨床領域として性格、心の問題と解決、予防と援助を学び、次に学修する臨床心理学、コミュニケーション論などの基礎を理解する。心理学系の科目としては最初の講義であるため、日常的な例を取り上げたり、視聴覚教材を用いたりすることにより我々にとって身近な学問としての心理学を学修する。</p>							
授業計画							
<ol style="list-style-type: none"> 1 心理学の歴史 2 心理学の研究 3 心と脳Ⅰ：心と脳 4 心と脳Ⅱ：心と神経 5 知覚 6 記憶Ⅰ：記憶のあらまし 7 記憶Ⅱ：生きることと記憶 8 学習 9 情動 10 自己と人間関係 11 人間の発達Ⅰ：乳児期から児童期 12 人間の発達Ⅱ：青年期以降 13 心の問題と援助Ⅰ：ストレス 14 心の問題と援助Ⅱ：メンタルヘルス・正常と異常 15 試験と解説 							
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
フィードバックとしてテストを回収後、解答の解説を行う							
履修上の注意							
<p>講義内容を実感をもって理解するためには、学生が自分自身の心理的体験を振り返ることが必要である。また、復習や感想レポートの提出を着実にを行うこと。授業に積極的に参加し、欠席、遅刻、私語はしないこと。尚、本講義では、出欠の確認、ワーク、リアクションペーパーの回収の効率化を行う目的から、座席を学籍番号順に指定する。</p>							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
事前学修「各授業回の内容に関連するテーマについて調べておくこと」							
事後学修「毎授業後、授業における重要キーワードについての理解、整理をしておくこと」							
評価方法（評価基準を含む）							
授業への参加態度、意欲度（70%）・試験（30%）から総合的に評価する。							
教科書							
PDF データを用意する。必要に際し、各自資料をダウンロード、プリントアウト可能。							
参考書、教材等							
参考書は講義中に紹介する。ビデオなど視聴覚教材も用いる。							

授業科目	動物とジャーナリズム			実務家教員	—	担当教員	仁科 邦男
科目英名	Animal and Journalism						
開講期間	1年次 後期	選択科目 2単位	授業形態	講義	科目区分	教養教育 [人文と社会]	
到達目標							
動物に関する人の価値観、考え方は、時代や民族や地域によって大きく異なり、今も変化し続けている。新聞・雑誌・テレビなどで報じられる、動物についてのさまざまな出来事—外来種の問題、絶滅の恐れのある希少動物の問題、シカ・イノシシなど増加する野生動物と人の生活の関係などをテーマに取り上げ、人と動物（野生動物、家畜、ペット）との関わり方、意識の変化について学び、理解することを目標とする。							
講義概要							
本科目では、ジャーナリズムを通じて動物と人との関わり合いはどのように報じられてきたのかを、新聞、雑誌の記事、テレビ・ニュース等を素材として講義する。東日本大震災時の犬の救出・保護運動等インターネットの登場による動物関係ニュースの変貌ぶりについても触れる。主として犬を中心に講義を進めるが、随時、他の動物にも話を広げる。動物愛護法、自然環境保全法等時代によってどのように法律が変化していったかについても、各回のテーマに応じて言及する。							
授業計画							
1 最近のニュース	犬はなぜ「イヌ」というのか。猫はなぜ「ネコ」というのか。語源を考える。						
2 最近のニュース	犬と猫の帰家（帰巢）能力を考える。帰家世界記録、日本記録。						
3 最近のニュース	アライグマ、ハクビシン、マングース、アカゲザル、野生化した外来動物の波紋。						
4 最近のニュース	クマ、シカ、イノシシ…野生動物と人の暮らし。その問題点。						
5 最近のニュース	世界の侵略的動物ワースト100になぜネコ（野猫）が選ばれたのか。						
6 最近のニュース	捨て犬、捨て猫は犯罪である。動物愛護管理法改正。						
7 最近のニュース	絶滅した動物たち。ニホンオオカミ、リョコウバト、フクロオオカミほか。						
8 最近のニュース	動物と病気。キタキツネとエキノコックス、狂犬病と犬、マダニ感染症ほか。						
9 最近のニュース	人類に最も大きな影響を与えた学説、ダーウィン進化論の伝わり方、考え方。						
10 最近のニュース	カッコウ、ホトトギス…托卵鳥に見る進化の不思議。						
11 最近のニュース	ゴリラ、チンパンジー、ボノボ、ニホンザル…ヒトとサルに分かれ目。						
12 最近のニュース	オーストラリアでは大害獣の野生イエウサギ。何が起きているのか。日本では？						
13 最近のニュース	オオタカ、シジュウカラガン、ナベヅル、アホウドリ…増え始めた動物たち。						
14 最近のニュース	忠犬ハチ公はどうして「忠犬」になったのか。動物報道のあり方を考える。						
15 最近のニュース	「ヒトは知りたがるサルである」。人の進化について考える。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
前の週の講義後、受講者全員から提出されたミニレポート（学生の感想、質問）をもとに質問への回答、補足説明をする。							
履修上の注意							
A4で2ページ程度の資料を授業当日に配る。資料は moodle にも掲載する。 受講者にはその日の授業のミニレポート「感想・質問」の提出を求める。 テーマは時々のニュースにより変わることがある。							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
必要に応じて次週講義のテーマ、概要を説明する							
評価方法（評価基準を含む）							
授業への参加度 50% 授業後の感想・質問（ミニレポート。出席票を兼ねる）10%、学期末に提出するレポート 40%。							
教科書							
特になし							
参考書、教材等							
特になし							

授業科目	キャリアマネジメント			実務家教員	-	担当教員	中村 晶
科目英名	Career Management						
開講期間	2年次 後期	選択科目 2単位	授業形態	講義	科目区分	教養教育 [人文と社会]	
到達目標							
<p>社会・経済構造の変化により、人々の就業形態も多様化し、個人の職業観と勤労意識も変化している。労働市場の流動化により、現代は個人主導のキャリア形成が求められているが、学生が適職を探し、将来のキャリアを思い描くことは容易ではない。そこで働くことの意味を考え、自己理解を深めると共に、自己啓発を促していく。2年次の段階で職業について知識を持ち、必要な能力の育成を行うことが大切である。本学での履修を活かしたキャリア形成を自覚し、実践できる事を到達目標とする。</p>							
講義概要							
<p>キャリアとは、生涯を通じての人間の生き方とその表現である。学校、職場、地域貢献、ボランティア活動等の広義での仕事を含め、人生の経験を複合的に積むことで得る。本講義では、講義と実践によりキャリアデザインの基礎を理解する。ワークシートを作成し自己分析を行い、自己の理解を深めると共に自己啓発を促す。そして社会が求める人材について検討し、「社会人になるということは」「社会のメカニズムは」「人間は何故働くの」を出発点として、キャリアで必要とされる基礎知識や社会人としてのマナーを学ぶ。同時にどのようなキャリアの選択肢があるのか、自分のプランを考え希望する選択肢を実現させるために、どのように考え行動していくのかを講義する。</p>							
授業計画							
<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション：授業の目的、内容、進め方、成績評価の基準の説明、挨拶の励行について 2 現代社会とキャリアデザイン：キャリアデザインの基礎理解：自己分析・自己発見⇒職務適性試験 3 キャリアと人生設計（1）：ライフサイクルと職業 4 キャリアと人生設計（2）：生涯収支と職業 5 キャリアと人生設計（3）：キャリアと生涯発達 6 キャリアのための自己理解（1）：働く意味と自分の職業感 7 キャリアのための自己理解（2）：自分の強みと弱みを知る⇒就活三大質問の処方箋 8 キャリアと仕事理解（1）：学生生活とキャリア意識の明確化 9 キャリアと仕事理解（2）：経済・雇用環境の変化と働き方を考える 10 キャリアと職場理解（1）：キャリア形成と多様な職種と業種の中で自分の適職を検討する 11 キャリアと職場理解（2）：公務員としての警察官・科捜研の仕事理解と警察犬 12 ケーススタディ（1）：ペット関連業界でのキャリア 13 ケーススタディ（2）：その他の業界でのキャリア 14 キャリアマネジメント（1）：キャリアデザインの方向性 15 キャリアマネジメント（2）：まとめ 							
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
フィードバックとして、レポート回収後、解説・アドバイス等を行う。							
履修上の注意							
<p>一部内容・回の順番を替える場合は、講義内で連絡をする。 社会人に必要な事はなんであるか。学生と社会人の違いを考えておこう。自己分析、自己PR、自分の長所・短所も考えておこう。</p>							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
事前学修「各授業回の内容に関連する教科書のページを読んでおくこと」							
事後学修「毎授業後、関連する内容をインターネット・図書館等で調べ、まとめておくこと」							
評価方法（評価基準を含む）							
授業への参加度を30%、発表および課題提出（ワークシート、レポート）を70%とし、総合的に評価する。							
教科書							
『キャリアデザイン講座 第3版－理論と実践で自己決定力を伸ばす』 日経BPソフトプレス (適宜、資料を配布する)							
参考書、教材等							
講義中に紹介する。また、講義のレジュメ等を配布する。							

授業科目	基礎生物学			実務家教員	—	担当教員	茂木 千恵
科目英名	Basic Biology						
開講期間	1年次 後期	必修科目 2単位	授業形態	講義	科目区分	教養教育 [自然と環境]	
到達目標							
細菌や植物を含め、広範囲の生物学的基礎知識を習得する。この授業で学ぶ内容は、2年次以降の必修科目である専門基礎科目群で取り扱われる内容の概説である。本講義の履修終了時の目標は、生体を構成する物質、構造、代謝、遺伝方式、動物の正常な生命活動全般の専門用語について具体的なイメージが浮かび、説明できるようになることである。							
講義概要							
生物学は、生物の成り立ち及び生命現象を研究する自然科学の1分野である。本講義では生命の最小単位である細胞の構造と機能、生体を構成する物質、生命維持のしくみ、個体発生のしくみ、生物の恒常性のしくみ、及び生物の環境適応のしくみ等生物学の各分野について階層的に知識を積み上げ包括的に理解を深めることを目的とする。さらに、比較生物学の観点から生物の多様性の意義についての理解を深め、専門科目を理解し学ぶために必要な基礎知識を身につける。							
授業計画							
<ol style="list-style-type: none"> 1 生物の系統と分類 2 細胞の構造 3 生体を構成する物質 4 栄養素と代謝 5 遺伝の仕組み（遺伝の法則） 6 遺伝の仕組み（遺伝子突然変異） 7 生殖（細胞周期） 8 生殖（減数分裂） 9 発生（有性生殖と無性生殖） 10 動物の組織（上皮組織、結合組織、筋組織、神経組織、血液） 11 動物の器官（消化器系、血液循環系、呼吸器系、感覚器系） 12 恒常性（生体の調節とホルモン） 13 外部刺激と反応（神経系の機能と調節） 14 免疫機構（免疫細胞と免疫応答） 15 まとめ（14回までの授業内容から特に重要な部分を再解説する） 							
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
毎講義終了時に授業内容の小テストを実施する。講義内容に関する質問も毎回講義終了後に受け付け、次回以降の講義時に解説する。課題レポートにコメント・評価を付して（修正フィードバック）返却する。							
履修上の注意							
<p>授業は配布資料、パワーポイントおよび板書をもとに進めていく。重要事項を積極的にノートに書きとるようにし、自筆ノートの作成と記憶の定着を心がけること。配布資料は忘れず持参すること。</p> <p>*欠席した場合は、次の授業までに、理由を明記した欠席届を提出あるいはメールを送ること。</p> <p>Moodle を利用した掲示、授業参考資料の配布などをするので、各講義前には確認を怠らないこと。</p>							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
<p>事前学修：次回の授業範囲の資料を Moodle 上で精読し、専門用語の意味等を理解しておくこと。</p> <p>事後学修：各授業回の重要内容に該当する部分をノートにまとめること。配布資料を再度読んでおくこと。</p>							
評価方法（評価基準を含む）							
<p>学期末試験（60%）、授業への参加度（30%）、およびレポート課題（10%）から総合的に評価する。</p> <p>レポート課題は第7回講義終了時に提示する。第8回講義終了時に提出のこと。</p> <p>なお、授業への参加度は毎講義終了時に提出する出席回答と授業内容小テストを併せて評価する。</p>							
教科書							
講義内容の資料を Moodle の各講義回に事前に掲示し、講義時に配布する。							
参考書、教材等							
参考書は講義の中で紹介する。							

授業科目	基礎化学			実務家 教員	—	担当 教員	石川 牧子
科目英名	Basic Chemistry						
開講期間	1 年次 前期	必修科目 2 単位	授業形態	講義	科目区分	教養教育 [自然と環境]	
到達目標							
<p>本講義では、生命、生活、環境と密着した化学の基本に重点を置き、基本原理から有機化学、生体物質化学の基礎を理解することを目標とする。更に、医療・看護系において生体や医薬品を扱う場合に不可欠な応用知識までを広範に身に付け、専門教育科目の基盤を構築することを到達目標とする。</p>							
講義概要							
<p>化学とは、地球上の全ての物質の理解に欠かせない広大な学問分野である。化学は、生命現象を司る様々な物質が我々の体の中で互いにどのように関わっているかを明らかにすることにより、我々人類の生活にも大きな貢献をしている。本科目では、生命、生活、環境と密着した化学の基本に重点を置き、基本原理から有機化学、生体物質化学の基礎までを総合的に講述する。また、本科目での学修により、医療・製薬・看護系において生体や医薬品を扱う場合に不可欠な応用知識までを広範に身に付け、専門教育科目の基盤を構築する。</p>							
授業計画							
<ol style="list-style-type: none"> 1 化学のなりたち 2 原子とその構造 3 電子配置 4 周期表と元素 5 原子とイオン 6 化学結合と分子 7 物質の量と状態 8 溶液の化学 9 酸と塩基，酸化と還元 10 有機化学 I；有機化合物の構造 11 有機化学 II；異性体と立体化学 12 有機化学 III；有機化学反応 13 有機化合物 I；高分子化合物，糖質と脂質 14 有機化合物 II；アミノ酸，タンパク質，核酸 15 医療，動物看護，生活と化学の関わり 							
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
小課題や質問は、課題返却時および講義内でフィードバックする。							
履修上の注意							
講義内で適宜小課題を行い、学修内容の定着を確認する。							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
事前学修：授業計画に沿って教科書を読んでおく。							
事後学修：講義内で配布された資料の復習、小課題の直しを行う。							
評価方法（評価基準を含む）							
試験（65%）、授業への参加度・受講態度・提出課題（35%）の総合評価。							
教科書							
齋藤勝裕，荒井貞夫，久保勘二著；コ・メディカル化学，裳華房，2015.							
参考書、教材等							
梅本宏信編；基礎から学ぶ大学の化学，培風館，2012.							
桜井弘編；薬学のための分析化学，化学同人，2012.							
H. ハートラ著，秋葉欣哉・奥彬共訳；基礎有機化学 改訂版，2002.							
他、必要に応じ適宜参考資料を配布する。							

授業科目	基礎生化学			実務家教員	—	担当教員	◎梅村 隆志・植田 富貴子
科目英名	Basic Biochemistry						
開講期間	1 年次 後期	選択科目 2 単位	授業形態	講義	科目区分	教養教育 [自然と環境]	
到達目標							
<p>大学レベルの生物学は、今日では「生化学」、「分子生物学」、「細胞生物学」などに細分化されているが、いずれも複雑な生命現象を理解するための手段であり、その意味では全てが「生命科学」の範疇に入れられる。「生化学」はさまざまな生体物質の働きや代謝を手がかりとして生命現象を明らかにする学問であるが、本講義は「生化学」を柱として教養レベルの「生命科学」を修得することを到達目標とする。</p>							
講義概要							
<p>本科目の趣旨は、基本的な生命現象について物質代謝と遺伝子の両面からアプローチすることにある。細胞の進化、すなわち古細菌、原核細菌の出現から真核細胞の誕生までを学び、細胞及びオルガネラの構造や機能を理解するとともに、光合成及び活性酸素の生成と解毒について概説する。全体の 2/3 でエネルギー生産代謝（ATP 合成、解糖系、β酸化、TCA サイクル、電子伝達系）及び遺伝情報の発現とタンパク質合成、ならびにタンパク質の分解とアミノ酸代謝について解説し、残り 1/3 で主要な脂質の合成代謝について解説する。</p>							
授業計画							担当教員
<ol style="list-style-type: none"> 1 生物とは何か 2 自然の成り立ち 生態系 3 自然の成り立ち 種と分類、種分化の仕組み 4 細胞 5 生物の分子 アミノ酸、タンパク質 6 生物の分子 糖質、脂質 7 生物の分子 核酸 8 生物の分子 無機化合物 9 代謝 代謝経路 10 代謝 酵素の働き 11 遺伝 セントラルドグマ 12 遺伝 遺伝情報の発現調節 13 恒常性：タンパク質の働き、DNA 修復 14 恒常性：受容体 15 まとめ 							梅村 植田 植田 植田 植田 植田 植田 植田 植田 植田 植田 植田 植田 植田 梅村
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
提出されたレポートに関して、後日、評価基準の説明を行う予定である。							
履修上の注意							
2 学年以上にて履修する「動物生化学」や「小動物栄養学」などを理解する上で非常に参考となるので、特に高校までで、「化学」や「生物」を履修していない、あるいは不得意であった学生は履修が望ましい。							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
シラバスを参考に事前に基礎知識の収集に努めること。授業中に示された資料に基づきノートをまとめ、図書館等を利用して知識の上積みに努めること。							
評価方法（評価基準を含む）							
定期試験（60%）、レポート提出（20%）、授業への参加度（20%）を基に総合的に評価する。							
教科書							
生物科学入門 - 代謝遺伝恒常性 - 白木賢太郎著 東京化学同人							
参考書、教材等							
参考書：「図解よくわかる生化学」（中島邦夫・柏俣重夫・樋廻広重 著、南山堂）							

授業科目	環境科学			実務家 教員	—	担当 教員	石川 牧子
科目英名	Environmental Science						
開講期間	2年次 後期	選択科目 2単位	授業形態	講義	科目区分	教養教育 [自然と環境]	
到達目標							
<p>本科目を通じ、現代の地球環境とそれを形成してきた地球環境史を軸に、地球環境の特性や物質循環、地域、あるいは地球規模の環境問題に対する基礎知識を修得する。これらの知識に基づき、現在、地球規模で起こっている重要な環境問題の生成要因について基本的理解を得、抑制策について考え、自らの言葉で表現できるようになることを到達目標とする。</p>							
講義概要							
<p>環境科学とは、ヒトを含む生物を取り巻く自然環境の成り立ちや特性を理解する学問である。本科目では、現代の地球環境とそれを形成してきた地球環境史を軸に、地球環境の特性や物質循環、地域、あるいは地球規模の環境問題に対する基礎知識を修得する。その知識をもとに、環境保全、環境修復について積極的に考えていく素養を身に付け、環境問題について統合的に理解できるような内容とする。また、講義の中で環境問題に関する新聞記事等を教材とした小論文を書くことにより、身につけた知識を整理し自分の言葉で表現する方法を学修する。</p>							
授業計画							
<ol style="list-style-type: none"> 1 太陽系の中の地球、固体地球 2 大気圏Ⅰ；大気圏の構造 3 大気圏Ⅱ；大気圏の運動 4 物質循環 5 水圏Ⅰ；水の循環 6 水圏Ⅱ；陸水 7 水圏Ⅲ；海洋 8 大気汚染、水質汚染、土壌汚染 9 生物多様性 10 地球環境変化、現在の環境の形成 11 人類と環境Ⅰ；人類の出現と影響 12 人類と環境Ⅱ；気候変動 13 人類と環境Ⅲ；エネルギーと環境 14 人類と環境Ⅳ；生物多様性の危機、環境保全への取り組み 15 これからの環境科学、講義内テストと小論文 							
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
返却課題内のコメントや講義内でフィードバックする。							
履修上の注意							
講義では新聞記事等を教材とするため、新聞報道などを通じ、意識的に時事問題に関心を持つことを心掛けてほしい。							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
事前学修：積極的に新聞報道に目を通し、時事問題に関する知識を吸収する。 事後学修：返却課題をコメントに沿って修正するなど、講義内配布資料の復習をする。							
評価方法（評価基準を含む）							
小論文と講義内テスト(60%)、授業への参加度と講義内での提出課題(40%)の総合評価。							
教科書							
特に指定しない。必要に応じ適宜参考資料を配布する。							
参考書、教材等							
<p>九里徳泰他編著、新訂 地球環境の教科書 10 講、東京書籍、2014。 鷲谷いづみ他編；現代生物科学入門 6 地球環境と保全生物学、岩波書店、2010。 吉原利一他編；環境科学、オーム社、2010。</p>							

授業科目	英語 I			実務家教員	—	担当教員	島森 尚子
科目英名	English I						
開講期間	1 年次 前期	必修科目 1 単位	授業形態	演習	科目区分	教養教育 [言語・情報・スポーツ]	
到達目標							
英語を聞き、読み、さらに書き、話すための基礎的な統語の知識を身につけることによって英語の 4 技能をレベルアップし、グローバル化社会を見据えて、大学教養英語の基礎を確立する。							
講義概要「英語 I A」							
大学で必要とされる英語の運用能力を身につけるために基礎知識の修得を図り、さらに、英語独特の発想や表現を身につけることを目標とする。その際、これまでの英語の学習経験において不足している知識を無理なく身に付けるために、プレースメント試験を実施して各自の学修ステージを決定している。この授業では、文法項目を復習しながらテキストを読み、聴き、発音することで、実用的な英語をアクティブに学んでゆく。							
授業計画							
1 ガイダンス・英語の品詞と統語の基礎・音声学基礎、‘Introduction’ リスニング、読解 2 状態動詞と動作動詞 1 解説と問題演習、‘Tropical Rainforests’ リスニング、読解と問題演習 3 状態動詞と動作動詞 2 解説と問題演習、‘Tropical Rainforests’ リスニング、読解と問題演習 4 品詞と文型 1 解説と問題演習、‘Rainforest Layers’ リスニング、読解と問題演習 5 品詞と文型 2 解説と問題演習、‘Rainforest Layers’ リスニング、読解と問題演習 6 レビュー1 Quiz1 と解説 7 動詞の時制 単純時制 1 解説と問題演習、‘Plants’ リスニング、読解と問題演習 8 動詞の時制 単純時制 2 解説と問題演習、‘Plants’ リスニング、読解と問題演習 9 法助動詞の種類と用法 1 解説と問題演習、‘Rivers’ リスニング、読解と問題演習 10 法助動詞の種類と用法 2 解説と問題演習、‘Rivers’ リスニング、読解と問題演習 11 レビュー2 Quiz 2 と解説 12 名詞と代名詞 解説と問題演習、‘Mammals’ リスニング、読解と問題演習 13 前置詞と前置詞句 解説と問題演習、‘Mammals’ リスニング、読解と問題演習 14 レビュー3 総まとめと問題演習 15 復習試験および解説							
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
毎回 Moodle で Quiz を終えた後解説を読み、質疑応答する。							
履修上の注意							
履修クラスはオリエンテーション時に実施した英語学習傾向試験の結果に基づいて決定されている。Moodle 上に設置された英語のリメディアル教材を並行して受講すること。							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
次回の授業内容は教場で指示するので、必ず予習すること。毎回、その日に学んだ内容を復習すること。							
評価方法（評価基準を含む）							
授業への参加度（発言、発表など）20%、Quiz 80%として総合的に評価する。							
教科書							
<i>Life in Rainforest</i> . Oxford Read and Discover series, OUP. その他、教場・Moodle にて配付する。							
参考書、教材等							
教場・Moodle にて指示、あるいは配付する。							

授業科目	英語 I			実務家 教員	—	担当 教員	大橋 由紀子
科目英名	English I						
開講期間	1年次 前期	必修科目 1単位	授業形態	演習	科目区分	教養教育 [言語・情報・スポーツ]	
到達目標							
この授業では、大学教養レベルの文法を身につけるために、英文を読みながら文法事項を解説する。大学レベルの英文法基礎を修得し、基本的な英文記事や論文要旨、および文献を読むための土台づくりを目標とする。							
講義概要「英語 I B」							
大学で必要とされる英語の運用能力を身につけるために基礎知識の修得を図り、さらに、英語独特の発想や表現を身につけることを目標とする。その際、これまでの英語の学習経験において不足している知識を無理なく身に付けるために、プレースメント試験を実施して各自の学修ステージを決定する。ステージは基礎的な大学英文法を中心に学ぶ A・B、文法と語彙を学び英語での発信力を養う C・D、文法や構文を復習しながら読解と作文の力を身につける E・Fに分かれ、クラスごとに学修する。すべての学生が、自分に適したステージで効果的に学修を進められるよう配慮する。							
授業計画							
<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス・品詞の解説 2 動詞の種類 動詞の形の解説と問題演習 3 Literature and Culture on Animals 1 (リスニング、リーディング、語彙と文法) 4 Literature and Culture on Animals 2 (ペアワーク、問題演習) 5 動詞の種類について、小テストと復習を含んだ解説 6 未来形 (文法解説と問題演習、グループ活動) 7 Pet Keeping 1 (リスニング、リーディング、語彙と文法) 8 Pet Keeping 2 (ペアワーク、問題演習) 9 未来形について、小テストと復習を含んだ解説 10 法助動詞 (文法解説と問題演習、ペアワーク) 11 Animal Behaviour 1 (リスニング、リーディング、語彙と文法) 12 Animal Behaviour 2 (グループワーク、問題演習) 13 法助動詞 (文法解説と問題演習、グループ活動) 14 全内容までの総復習、構文、表現に関する小テストおよび解説 15 総復習 (テストと解説) 							
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック							
フィードバックとして、テストを行った場合は返却後、解説する。 課題提出に関しては、提出後コメントを記載して返却する。							
履修上の注意							
オリエンテーション時に実施した学習傾向試験の結果に基づき、履修クラスを決定している。 受講にあたっては、毎回、予習・復習を欠かさず行う必要がある。 授業では、積極的に発言することが望まれる。							
事前・事後学修 (予習・復習) の内容							
事前学習として、テキスト (該当箇所は教場で指示) を予習すること。 事後学習として、テキストを含め、授業で扱った内容を復習すること。							
評価方法 (評価基準を含む)							
試験 (60%)、発言など授業への参加度 (40%) から総合的に評価する。							
教科書							
『シンプルセンテンスで学ぶ基本英文法』 Simply Grammar 南雲堂							
参考書、教材等							
教場で指導する。							

授業科目	英語 I			実務家教員	—	担当教員	齋藤 寿葉
科目英名	English I						
開講期間	1 年次 前期	必修科目 1 単位	授業形態	演習	科目区分	教養教育 [言語・情報・スポーツ]	
到達目標							
<p>大学卒業後にも役立つ「生きた英語力」を養うため、以下の項目を達成することを目指す。</p> <p>① まとまった長さの英文を読み内容を理解することで、文法や語彙の「使える知識」を増強する。</p> <p>② ペアワークやグループワークの中で、短い文章から少しずつ英語で意見を発信する力を身につける。</p> <p>小テストや学期末の授業内試験により、英文を読む際に文法や語彙の知識を活用できているか確認する。英作文課題はペアワークやグループワークの成果を生かすものと位置づける。また、英語を用いてコミュニケーションをする際には、語学の知識だけでなく「伝えるべき意見」を持つことが重要である。この授業では、動物に関するさまざまなエピソードを読み、受講生それぞれが感じたこと・考えたことをディスカッションやコメントシートの紹介によって共有していく。</p>							
講義概要「英語 I C」							
<p>大学で必要とされる英語の運用能力を身につけるために基礎知識の修得を図り、さらに、英語独特の発想や表現を身につけることを目標とする。その際、これまでの英語の学習経験において不足している知識を無理なく身に付けるために、プレースメント試験を実施して各自の学修ステージを決定する。ステージは基礎的な大学英文法を中心に学ぶ A・B、文法と語彙を学び英語での発信力を養う C・D、文法や構文を復習しながら読解と作文の力を身につける E・F に分かれ、クラスごとに学修する。すべての学生が、自分に適したステージで効果的に学修を進められるよう配慮する。</p>							
授業計画							
<ol style="list-style-type: none"> 1 イントロダクション 2 Unit 1 The Giant Leader of the African Plain (基本時制) 3 Unit 2 Thinkers of the Forest : the Jungle's Gentle Great Apes (基本 5 文型) 4 Unit 3 The Heart-Warming Story of Two Emperor Penguin Chicks (動名詞と不定詞) 5 Unit 4 The Impossible Romance of a Short-Tailed Albatross (前置詞・接続詞) 6 Unit 5 Hero or Victim? : the Sad Fate of War Pigeons (助動詞) 7 Unit 6 The Tragedy of a Pure-Hearted Sea Animal (受動態) 8 Quiz/Review 9 Unit 7 The Gray Whale's Struggle for Survival (比較) 10 Unit 8 The Story of Sheila, the Baby Walrus (It の特別用法) 11 Unit 9 The Lion Raised in a London Furniture Shop (完了形) 12 Unit 10 The Wise Wolf-King of Currumpaw (分詞) 13 Unit 11 Never Give Up! : a Polar Bear's Struggle for Life (関係詞) 14 Unit 12 The Odds of Meeting Again at the Circus: the Adventure of Two Young Tigers (仮定法) 15 まとめ/授業内試験 							
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
<p>毎回、授業終了後にコメントシートを記入してもらい、クラス全体で共有すべき内容は次の授業で紹介する。英作文の課題はコメント付きで返却し、多かった間違いは授業内で詳しく解説する。小テスト実施後は授業内で解説する。</p>							
履修上の注意							
<p>履修クラスはオリエンテーション時に実施した英語学習傾向試験の結果に基づき決定している。</p>							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
<p>事前学修 → 各ユニットの Pre-Reading Tasks 「2.Words and Phrases」を解いておく。</p> <p>事後学修 → 語彙や文法事項など新たに学んだことを整理し、授業で扱った英文をもう一度読む。</p>							
評価方法（評価基準を含む）							
<p>授業内試験 50%、英作文課題 15%、小テスト 15%、授業への参加度 20%</p>							
教科書							
<p><i>The Fight for Life: True Stories from the Wild Animal Kingdom</i>, 荒金房子&マーク・レモン (南雲堂)</p>							
参考書、教材等							
<p>授業内で紹介する。また、毎回必ず辞書（紙のものでも電子辞書でも可）を持参すること。</p>							

授業科目	英語 I			実務家 教員	—	担当 教員	斎藤 寿葉
科目英名	English I						
開講期間	1 年次 前期	必修科目 1 単位	授業形態	演習	科目区分	教養教育 [言語・情報・スポーツ]	
到達目標							
<p>大学卒業後にも役立つ「生きた英語力」を養うため、以下の項目を達成することを目指す。</p> <p>① まとまった長さの英文を読み内容を理解することで、文法や語彙の「使える知識」を増強する。</p> <p>② ペアワークやグループワークの中で、短い文章から少しずつ英語で意見を発信する力を身につける。</p> <p>小テストや学期末の授業内試験により、英文を読む際に文法や語彙の知識を活用できているか確認する。英作文課題はペアワークやグループワークの成果を生かすものと位置づける。また、英語を用いてコミュニケーションをする際には、語学の知識だけでなく「伝えるべき意見」を持つことが重要である。この授業では、動物に関するさまざまなエピソードを読み、受講生それぞれが感じたこと・考えたことをディスカッションやコメントシートの紹介によって共有していく。</p>							
講義概要「英語 I D」							
<p>大学で必要とされる英語の運用能力を身につけるために基礎知識の修得を図り、さらに、英語独特の発想や表現を身につけることを目標とする。その際、これまでの英語の学習経験において不足している知識を無理なく身に付けるために、ブレースメント試験を実施して各自の学修ステージを決定する。ステージは基礎的な大学英文法を中心に学ぶ A・B、文法と語彙を学び英語での発信力を養う C・D、文法や構文を復習しながら読解と作文の力を身につける E・F に分かれ、クラスごとに学修する。すべての学生が、自分に適したステージで効果的に学修を進められるよう配慮する。</p>							
授業計画							
<ol style="list-style-type: none"> 1 インTRODクシヨン 2 Unit 1 The Giant Leader of the African Plain (基本時制) 3 Unit 2 Thinkers of the Forest : the Jungle's Gentle Great Apes (基本 5 文型) 4 Unit 3 The Heart-Warming Story of Two Emperor Penguin Chicks (動名詞と不定詞) 5 Unit 4 The Impossible Romance of a Short-Tailed Albatross (前置詞・接続詞) 6 Unit 5 Hero or Victim? : the Sad Fate of War Pigeons (助動詞) 7 Unit 6 The Tragedy of a Pure-Hearted Sea Animal (受動態) 8 Quiz/Review 9 Unit 7 The Gray Whale's Struggle for Survival (比較) 10 Unit 8 The Story of Sheila, the Baby Walrus (It の特別用法) 11 Unit 9 The Lion Raised in a London Furniture Shop (完了形) 12 Unit 10 The Wise Wolf-King of Currumpaw (分詞) 13 Unit 11 Never Give Up! : a Polar Bear's Struggle for Life (関係詞) 14 Unit 12 The Odds of Meeting Again at the Circus: the Adventure of Two Young Tigers (仮定法) 15 まとめ/授業内試験 							
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
<p>毎回、授業終了後にコメントシートを記入してもらい、クラス全体で共有すべき内容は次の授業で紹介する。英作文の課題はコメント付きで返却し、多かった間違いは授業内で詳しく解説する。小テスト実施後は授業内で解説する。</p>							
履修上の注意							
<p>履修クラスはオリエンテーション時に実施した英語学習傾向試験の結果に基づき決定している。</p>							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
<p>事前学修 → 各ユニットの Pre-Reading Tasks 「2.Words and Phrases」を解いておく。</p> <p>事後学修 → 語彙や文法事項など新たに学んだことを整理し、授業で扱った英文をもう一度読む。</p>							
評価方法（評価基準を含む）							
<p>授業内試験 50%、英作文課題 15%、小テスト 15%、授業への参加度 20%</p>							
教科書							
<p><i>The Fight for Life: True Stories from the Wild Animal Kingdom</i>, 荒金房子&マーク・レモン（南雲堂）</p>							
参考書、教材等							
<p>授業内で紹介する。また、毎回必ず辞書（紙のものでも電子辞書でも可）を持参すること。</p>							

授業科目	英語 I			実務家教員	—	担当教員	大橋 由紀子
科目英名	English I						
開講期間	1年次 前期	必修科目 1単位	授業形態	演習	科目区分	教養教育 [言語・情報・スポーツ]	
到達目標							
この授業では、基本的な文法、構文、語彙等の知識を応用し、それらを用いた英文を正確に読み、使えるようになることを目標とする。英文の中で頻出する英文法や単語の復習を行いながら、一人で内容の理解ができるよう、英文の効果的な読み方を修得し、最終的には内容を英文で説明できるようになることを目標とする。							
講義概要「英語 I E」							
大学で必要とされる英語の運用能力を身につけるために基礎知識の修得を図り、さらに、英語独特の発想や表現を身につけることを目標とする。その際、これまでの英語の学習経験において不足している知識を無理なく身に付けるために、プレースメント試験を実施して各自の学修ステージを決定する。ステージは基礎的な大学英文法を中心に学ぶ A・B、文法と語彙を学び英語での発信力を養う C・D、文法や構文を復習しながら読解と作文の力を身につける E・Fに分かれ、クラスごとに学修する。すべての学生が、自分に適したステージで効果的に学修を進められるよう配慮する。							
授業計画							
<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス (後期授業について、および前期の復習) 2 文章の構成 1 (英文構成の種類を紹介し、読み方を理解する。) 3 Literature and Culture on Animals 1(リスニング、リーディング、語彙と文法) 4 Literature and Culture on Animals 2 (ディスカッション、問題演習) 5 Pet Keeping 1 (リスニング、リーディング、語彙と文法) 6 Pet Keeping 2 (ペアワーク、問題演習) 7 Animal Behaviour 1 (リスニング、リーディング、語彙と文法) 8 Animal Behaviour 2 (グループワーク、発表) 9 Animal Nursing 1 (リスニング、リーディング、語彙と文法) 10 Animal Nursing 2 (ディスカッション、問題演習) 11 News on Animals (ペアワーク、問題演習) 12 News on Animals (グループワーク、発表) 13 Animal Science and Studies (リスニング、リーディング、語彙と文法) 14 全内容までの総復習、構文、表現に関する小テストおよび解説 15 復習試験 							
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック							
フィードバックとして、テストを行った場合は返却後、解説する。 課題提出に関しては、提出後コメントを記載して返却する。							
履修上の注意							
履修クラスは、オリエンテーション時に実施した学習傾向試験に基づき、決定する。							
事前・事後学修 (予習・復習) の内容							
事前学習として、テキスト (該当箇所は教場で指示) を予習すること。 事後学習として、テキストを含め、授業で扱った内容を復習すること。							
評価方法 (評価基準を含む)							
試験 (60%)、授業への参加度 (40%) から総合的に評価する。							
教科書							
指定なし。							
参考書、教材等							
教場で指導する。							

授業科目	英語 I			実務家 教員	—	担当 教員	島森 尚子
科目英名	English I						
開講期間	1 年次 前期	必修科目 1 単位	授業形態	演習	科目区分	教養教育 [言語・情報・スポーツ]	
到達目標							
<p>コミュニケーションな英語を運用するための基礎知識を確認し、さらに、英語独特の発想や表現を身につけることを目標とする。統語や語法の確認に重点を置くことになるが、加えて語彙や表現の修得と運用能力の向上を目指す。</p>							
講義概要「英語 I F」							
<p>大学で必要とされる英語の運用能力を身につけるために基礎知識の修得を図り、さらに、英語独特の発想や表現を身につけることを目標とする。その際、これまでの英語の学習経験において不足している知識を無理なく身に付けるために、プレースメント試験を実施して各自の学修ステージを決定している。</p> <p>この授業では、文法や構文を復習しながら読解と作文の力を身につけられるよう、BBC のオンライン教材を用いて、シャドーイングでリスニング力をつけ、語彙力を増強して読解力をつけ、さらにグループワークで発信力を高める。</p>							
授業計画							
<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス、演習問題と解説 2 Article on animals 1 内容理解、問題演習、シャドーイング 3 Article on animals 2 内容理解、問題演習、シャドーイング 4 Article on animals 3 内容理解、問題演習、シャドーイング 5 Article on animals 4 内容理解、問題演習、シャドーイング 6 Article on animal conservation 1 内容理解、問題演習、シャドーイング 7 Article on animal conservation 2 内容理解、問題演習、シャドーイング 8 Article on animal conservation 3 内容理解、問題演習、シャドーイング 9 Article on animal conservation 4 内容理解、問題演習、シャドーイング 10 Article on globalisation 1 内容理解、問題演習、シャドーイング 11 Article on globalisation 2 内容理解、問題演習、シャドーイング 12 Article on globalisation 3 内容理解、問題演習、シャドーイング 13 Article on Animal Welfare 1 内容理解、問題演習、シャドーイング 14 Article on Animal Welfare 2 内容理解、問題演習、シャドーイング 15 復習、問題演習 							
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
Moodle 上に設定した Quiz を終えた後解説を読み、不明点は質疑応答する。							
履修上の注意							
履修クラスはオリエンテーション時に実施した英語学習傾向試験の結果に基づいて決定されている。							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
次回の授業内容は教場で指示するので、必ず予習すること。毎回、その日に学んだ内容を復習すること。							
評価方法（評価基準を含む）							
平常点（授業参加等）30%、Quiz70%として総合的に評価する。							
教科書							
Moodle にて配布する。							
参考書、教材等							
教場・Moodle 上にて指示する。							

授業科目	英語Ⅱ			実務 家 教 員	—	担 当 教 員	島森 尚子
科目英名	English II						
開講期間	1年次 後期	必修科目 1単位	授業形態	演習	科目区分	教養教育 [言語・情報・スポーツ]	
到達目標							
前期に学んだ知識を発展させてより複雑な英文を理解する力を養い、さらに実用的な英作文や会話ができるようになる。							
講義概要「英語ⅡA」							
「英語Ⅰ」で身につけた文法・語彙・読解力の知識や実力を基に、実践的な語学力を養うことを目的とする。英語ⅠAで学んだ文法知識を用いて読解と作文を学修し、発信型の語彙力と表現力を身につけるために、前期に引き続きテキストを読み、音声教材を聞いた上でグループワークを行ない、発話と作文の演習を行なう。							
授業計画							
1 ガイダンス、前期の復習と問題演習 2 動詞の相：進行相と完了相 解説と問題演習、‘Minibeasts’リスニング、読解と問題演習 3 態：受動態と能動態 解説と問題演習、‘Minibeasts’リスニング、読解と問題演習 4 接続詞1 等位接続詞 解説と問題演習、‘Birds’リスニング、読解と問題演習 5 接続詞2 従属接続詞 解説と問題演習、‘Birds’リスニング、読解と問題演習 6 レビュー1 語彙と表現の修得 Quiz 1 7 関係詞1 解説と問題演習、‘People’リスニング、読解と問題演習 8 関係詞2 解説と問題演習、‘People’リスニング、読解と問題演習 9 比較の表現 解説と問題演習 10 法：直説法と仮定法 解説と問題演習、‘Rainforest Problems’リスニング、読解と問題演習 11 レビュー2 Quiz2 と解説 12 準動詞1 動名詞 解説と問題演習、‘Rainforest Problems’リスニング、読解と問題演習 13 準動詞2 不定詞 解説と問題演習、‘Save the Rainforests!’リスニング、読解と問題演習 14 準動詞3 分詞 解説と問題演習、‘Save the Rainforests!’リスニング、読解と問題演習 15 復習試験と解説							
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
MoodleでQuizを終えた後、解説を読み、必要に応じて質疑応答する。							
履修上の注意							
前期の成績に応じてクラスの変更が生じる場合がある。また、条件が整っている者は変更希望も受け付ける。詳細はガイダンス時に説明するので、ガイダンスには必ず出席すること。							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
リスニングは事前にシャドウイングを行うこと。教科書は予習し、不明点は授業で理解する。文法については、前期の範囲も含め適宜復習し、英語の運用能力を高める。							
評価方法（評価基準を含む）							
授業への参加度20%、Quiz80%として総合的に評価する。							
教科書							
<i>Life in Rainforest</i> . Oxford Read and Discover series, OUP. (前期と同じ)							
参考書、教材等							
教場・Moodleにて指示、あるいは配布する。							

授業科目	英語Ⅱ			実務家教員	—	担当教員	大橋 由紀子
科目英名	English II						
開講期間	1年次 後期	必修科目 1単位	授業形態	演習	科目区分	教養教育 [言語・情報・スポーツ]	
到達目標							
この授業では、大学教養レベルの英文法の総復習を行い、コミュニケーションな英語を運用するための基礎知識を学ぶ。英文読解に必要な基本的な構文の解釈、および日常コミュニケーションにおいて必要な語彙の修得を目標とする。							
講義概要「英語ⅡB」							
「英語Ⅰ」で身につけた文法・語彙・読解力の知識や実力を基に、実践的な語学力を養うことを目的とする。A・BではⅠで学んだ文法知識を用いて読解と作文を学修し、発信型の語彙力と表現力を身につける。C・Dでは多読と速読を通じて語彙力と読解力を修得する。E・Fでは広範なテーマの英文を読んで語彙力や表現力を養い、リスニングやディクテーションを適宜行いながら英語運用能力を向上させる。							
授業計画							
<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス（後期授業について、および前期の復習） 2 時制（文法解説と問題演習、ペアワーク） 3 Animal Nursing 1（リスニング、リーディング、語彙と文法） 4 Animal Nursing 2（ディスカッション、問題演習） 5 時制について小テストと解説 6 前置詞（文法解説と問題演習、ペアワーク） 7 News on Animals 1（リスニング、リーディング、語彙と文法） 8 News on Animals 2（グループワーク、問題演習） 9 前置詞について小テストと解説 10 不定詞（文法解説と問題演習、ペアワーク） 11 Animal Science and Studies 1（リスニング、リーディング、語彙と文法） 12 Animal Science and Studies 2（グループワーク、問題演習） 13 不定詞について小テストと解説 14 英文記事について、グループワークと発表 15 総復習（テストと解説） 							
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
フィードバックとして、テストを行った場合は返却後、解説する。 課題提出に関しては、提出後コメントを記載して返却する。							
履修上の注意							
前期の成績に応じてクラスの変更が生じる場合がある。また、条件が整っている者は、変更希望も受け付ける。詳細はガイダンス時に説明するので、ガイダンスには必ず出席すること。							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
事前学習として、テキスト（該当箇所は教場で指示）を予習すること。 事後学習として、テキストを含め、授業で扱った内容を復習すること。							
評価方法（評価基準を含む）							
試験（60%）、授業への参加度（40%）から総合的に評価する。							
教科書							
『シンプルセンテンスで学ぶ基本英文法』 Simply Grammar 南雲堂							
参考書、教材等							
教場で指導する。							

授業科目	英語Ⅱ			実務家教員	—	担当教員	加藤 剛																														
科目英名	English II																																				
開講期間	1年次 後期	必修科目 1単位	授業形態	演習	科目区分	教養教育 [言語・情報・スポーツ]																															
到達目標																																					
動物看護に関する様々な英文を読み、大学で研究をする上で必要な英文読解力を習得することを主たる目的とする。英文読解力を身につけることは、大学での研究活動を成功させるために必須である。課題であれ自主学習であれ、今後、英語で書かれた文献を読む機会が増えるはずである。その際に運用可能な英文読解力を養うために、精読と速読のスキル、科学論文の読み方、辞書の使い方、英文法、及び語彙を習得することを目指す。																																					
講義概要「英語ⅡC」																																					
「英語Ⅰ」で身につけた文法・語彙・読解力の知識や実力を基に、実践的な語学力を養うことを目的とする。A・BではⅠで学んだ文法知識を用いて読解と作文を学修し、発信型の語彙力と表現力を身につける。C・Dでは多読と速読を通じて語彙力と読解力を修得する。E・Fでは広範なテーマの英文を読んで語彙力や表現力を養い、リスニングやディクテーションを適宜行いながら英語運用能力を向上させる。																																					
授業計画																																					
<table border="0"> <tr> <td>1 ガイダンス</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2 精読と速読 1 (英文の構造、英文解釈の基本姿勢、辞書の使い方)</td> <td>単語テスト 1 (機能語 1)</td> </tr> <tr> <td>3 精読と速読 2 (英文の構造、英文解釈の基本姿勢、辞書の使い方)</td> <td>単語テスト 2 (機能語 2)</td> </tr> <tr> <td>4 精読と速読 3 (英文の構造、英文解釈の基本姿勢、辞書の使い方)</td> <td>単語テスト 3 (機能語 3)</td> </tr> <tr> <td>5 Review1</td> <td>単語テスト 4 (機能語 4)</td> </tr> <tr> <td>6 Science in short 1 (科学論文の構成・要旨)</td> <td>単語テスト 5 (名詞)</td> </tr> <tr> <td>7 Science in short 2 (科学論文の構成・要旨)</td> <td>単語テスト 6 (形容詞)</td> </tr> <tr> <td>8 Science in short 3 (科学論文の構成・要旨)</td> <td>単語テスト 7 (副詞)</td> </tr> <tr> <td>9 Review2</td> <td>単語テスト 8 (動詞 1)</td> </tr> <tr> <td>10 Reading Scientific Journal 1 (タイトル、Abstract)</td> <td>単語テスト 9 (動詞 2)</td> </tr> <tr> <td>11 Reading Scientific Journal 2 (全体の構成、段落の要旨)</td> <td>単語テスト 10 (動詞 3)</td> </tr> <tr> <td>12 Reading Scientific Journal 3 (タイトル、Abstract)</td> <td>単語テスト 11 (動詞 4)</td> </tr> <tr> <td>13 Reading Scientific Journal 4 (全体の構成、段落の要旨)</td> <td>単語テスト 12 (動詞 5)</td> </tr> <tr> <td>14 Reading Scientific Journal 5 (総合)</td> <td>単語テスト 13 (総合 1)</td> </tr> <tr> <td>15 Review3</td> <td>単語テスト 14 (総合 1)</td> </tr> </table>								1 ガイダンス		2 精読と速読 1 (英文の構造、英文解釈の基本姿勢、辞書の使い方)	単語テスト 1 (機能語 1)	3 精読と速読 2 (英文の構造、英文解釈の基本姿勢、辞書の使い方)	単語テスト 2 (機能語 2)	4 精読と速読 3 (英文の構造、英文解釈の基本姿勢、辞書の使い方)	単語テスト 3 (機能語 3)	5 Review1	単語テスト 4 (機能語 4)	6 Science in short 1 (科学論文の構成・要旨)	単語テスト 5 (名詞)	7 Science in short 2 (科学論文の構成・要旨)	単語テスト 6 (形容詞)	8 Science in short 3 (科学論文の構成・要旨)	単語テスト 7 (副詞)	9 Review2	単語テスト 8 (動詞 1)	10 Reading Scientific Journal 1 (タイトル、Abstract)	単語テスト 9 (動詞 2)	11 Reading Scientific Journal 2 (全体の構成、段落の要旨)	単語テスト 10 (動詞 3)	12 Reading Scientific Journal 3 (タイトル、Abstract)	単語テスト 11 (動詞 4)	13 Reading Scientific Journal 4 (全体の構成、段落の要旨)	単語テスト 12 (動詞 5)	14 Reading Scientific Journal 5 (総合)	単語テスト 13 (総合 1)	15 Review3	単語テスト 14 (総合 1)
1 ガイダンス																																					
2 精読と速読 1 (英文の構造、英文解釈の基本姿勢、辞書の使い方)	単語テスト 1 (機能語 1)																																				
3 精読と速読 2 (英文の構造、英文解釈の基本姿勢、辞書の使い方)	単語テスト 2 (機能語 2)																																				
4 精読と速読 3 (英文の構造、英文解釈の基本姿勢、辞書の使い方)	単語テスト 3 (機能語 3)																																				
5 Review1	単語テスト 4 (機能語 4)																																				
6 Science in short 1 (科学論文の構成・要旨)	単語テスト 5 (名詞)																																				
7 Science in short 2 (科学論文の構成・要旨)	単語テスト 6 (形容詞)																																				
8 Science in short 3 (科学論文の構成・要旨)	単語テスト 7 (副詞)																																				
9 Review2	単語テスト 8 (動詞 1)																																				
10 Reading Scientific Journal 1 (タイトル、Abstract)	単語テスト 9 (動詞 2)																																				
11 Reading Scientific Journal 2 (全体の構成、段落の要旨)	単語テスト 10 (動詞 3)																																				
12 Reading Scientific Journal 3 (タイトル、Abstract)	単語テスト 11 (動詞 4)																																				
13 Reading Scientific Journal 4 (全体の構成、段落の要旨)	単語テスト 12 (動詞 5)																																				
14 Reading Scientific Journal 5 (総合)	単語テスト 13 (総合 1)																																				
15 Review3	単語テスト 14 (総合 1)																																				
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック																																					
単語テストについては、プリントを授業内で配布・解説し、翌週にテスト形式で実施及び解説をする。英文読解の授業内外の課題についても、事後に解説を加える。																																					
履修上の注意																																					
前期の成績に応じてクラスを変更する場合がある。																																					
事前・事後学修 (予習・復習) の内容																																					
事前学修 → 単語テストの予習。 事後学修 → 単語テスト及び英文読解の復習、速読教材の音読。																																					
評価方法 (評価基準を含む)																																					
授業への参加度と貢献度 (50%)、英文読解・速読の授業内外の課題 (30%)、及び単語テスト (20%) を総合して判断する。																																					
教科書																																					
使用しない。																																					
参考書、教材等																																					
適宜印刷教材や視聴覚教材を使用する。また、毎回必ず英和辞典を持参すること。																																					

授業科目	英語Ⅱ			実務家 教員	—	担当 教員	加藤 剛
科目英名	English II						
開講期間	1年次 後期	必修科目 1単位	授業形態	演習	科目区分	教養教育 [言語・情報・スポーツ]	
到達目標							
動物看護に関する様々な英文を読み、大学で研究をする上で必要な英文読解力を習得することを主たる目的とする。英文読解力を身につけることは、大学での研究活動を成功させるために必須である。課題であれ自主学习であれ、今後、英語で書かれた文献を読む機会が増えるはずである。その際に運用可能な英文読解力を養うために、精読と速読のスキル、科学論文の読み方、辞書の使い方、英文法、及び語彙を習得することを目指す。							
講義概要「英語ⅡD」							
「英語Ⅰ」で身につけた文法・語彙・読解力の知識や実力を基に、実践的な語学力を養うことを目的とする。A・BではⅠで学んだ文法知識を用いて読解と作文を学修し、発信型の語彙力と表現力を身につける。C・Dでは多読と速読を通じて語彙力と読解力を修得する。E・Fでは広範なテーマの英文を読んで語彙力や表現力を養い、リスニングやディクテーションを適宜行いながら英語運用能力を向上させる。							
授業計画							
1 ガイダンス							
2 精読と速読 1 (英文の構造、英文解釈の基本姿勢、辞書の使い方)						単語テスト 1 (機能語 1)	
3 精読と速読 2 (英文の構造、英文解釈の基本姿勢、辞書の使い方)						単語テスト 2 (機能語 2)	
4 精読と速読 3 (英文の構造、英文解釈の基本姿勢、辞書の使い方)						単語テスト 3 (機能語 3)	
5 Review1						単語テスト 4 (機能語 4)	
6 Science in short 1 (科学論文の構成・要旨)						単語テスト 5 (名詞)	
7 Science in short 2 (科学論文の構成・要旨)						単語テスト 6 (形容詞)	
8 Science in short 3 (科学論文の構成・要旨)						単語テスト 7 (副詞)	
9 Review2						単語テスト 8 (動詞 1)	
10 Reading Scientific Journal 1 (タイトル、Abstract)						単語テスト 9 (動詞 2)	
11 Reading Scientific Journal 2 (全体の構成、段落の要旨)						単語テスト 10 (動詞 3)	
12 Reading Scientific Journal 3 (タイトル、Abstract)						単語テスト 11 (動詞 4)	
13 Reading Scientific Journal 4 (全体の構成、段落の要旨)						単語テスト 12 (動詞 5)	
14 Reading Scientific Journal 5 (総合)						単語テスト 13 (総合 1)	
15 Review3						単語テスト 14 (総合 1)	
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック							
単語テストについては、プリントを授業内で配布・解説し、翌週にテスト形式で実施及び解説をする。英文読解の授業内外の課題についても、事後に解説を加える。							
履修上の注意							
前期の成績に応じてクラスを変更する場合がある。							
事前・事後学修 (予習・復習) の内容							
事前学修 → 単語テストの予習。							
事後学修 → 単語テスト及び英文読解の復習、速読教材の音読。							
評価方法 (評価基準を含む)							
授業への参加度と貢献度 (50%)、英文読解・速読の授業内外の課題 (30%)、及び単語テスト (20%) を総合して判断する。							
教科書							
使用しない。							
参考書、教材等							
適宜印刷教材や視聴覚教材を使用する。また、毎回必ず英和辞典を持参すること。							

授業科目	英語Ⅱ			実務家教員	—	担当教員	大橋 由紀子
科目英名	English II						
開講期間	1年次 後期	必修科目 1単位	授業形態	演習	科目区分	教養教育 [言語・情報・スポーツ]	
到達目標							
この授業では前期に学んだ文法事項に基づき、動物に関するDVDをみながら、リスニングおよびディクテーション等の作業を通して、動物関連の英語表現を学び、翻訳せずに英語のまま内容を理解することを目標とする。更に、動物看護の現場で役立つ表現を学び、それを応用して自ら文章化できるようにする。							
講義概要「英語ⅡE」							
「英語Ⅰ」で身につけた文法・語彙・読解力の知識や実力を基に、実践的な語学力を養うことを目的とする。A・BではⅠで学んだ文法知識を用いて読解と作文を学修し、発信型の語彙力と表現力を身につける。C・Dでは多読と速読を通じて語彙力と読解力を修得する。E・Fでは広範なテーマの英文を読んで語彙力や表現力を養い、リスニングやディクテーションを適宜行いながら英語運用能力を向上させる。							
授業計画							
<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス（前期授業について、および1学年の復習） 2 野生動物の生活1 ‘Viverridae’（解説後、グループワーク） 3 野生動物の生活2 ‘Wild birds’（解説後、グループワーク） 4 Wild animals に関連する英文記事を読み、解説後グループワーク、発表 5 海洋生物1 ‘Deep-water fish’（解説後、ディスカッション） 6 海洋生物2 ‘Creature in the sea and undersea life’（ディスカッションを行う） 7 Creature in the sea に関する英文記事を読み、解説後、グループワーク、発表 8 前回までの総復習（小テスト、解説） 9 昆虫1 ‘Aquatic insects’（解説後、グループワーク） 10 昆虫2 ‘Body invaders’（解説後、グループワーク） 11 Insects に関する英文記事を読み、解説後、グループワーク、発表 12 英文記事の理解1 ‘GM foods’（グループワーク、mini quiz） 13 英文記事の理解2 ‘Dog training’（ディスカッション、mini quiz） 14 英文記事の理解3 ‘Nutrition’（ディスカッション、mini quiz） 15 総復習（小テスト、および解説を行う） 							
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
フィードバックとして、テストを行った場合は返却後、解説する。 課題提出に関しては、提出後コメントを記載して返却する。							
履修上の注意							
前期の成績に応じてクラスの変更が生じる場合がある。また、条件が整っている者は変更希望も受け付ける。詳細はガイダンス時に説明するので、ガイダンスには必ず出席すること。							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
事前学習として、テキスト（該当箇所は教場で指示）を予習すること。 事後学習として、テキストを含め、授業で扱った内容を復習すること。							
評価方法（評価基準を含む）							
試験（60%）、授業への参加度（40%）から総合的に評価する。							
教科書							
指定なし。							
参考書、教材等							
教場で指導する。							

授業科目	英語Ⅱ			実務家 教員	—	担当 教員	島森 尚子
科目英名	English II						
開講期間	1年次 後期	必修科目 1単位	授業形態	演習	科目区分	教養教育 [言語・情報・スポーツ]	
到達目標							
英文の内容を正確に把握し、英語を用いて自分の意見を書き、話す練習に重点を置く。動物に関する英文を教材とするので、今後必要となるであろう語彙や表現の修得にも力を入れ、英語運用力を向上することを目的とする。							
講義概要「英語ⅡF」							
「英語ⅡF」で身につけた文法・語彙・読解力の知識や実力を基に、実践的な語学力を養うことを趣旨とする							
授業では、広範囲なテーマの英文を読んで語彙力と表現力を向上させるために、BBC のオンライン教材の他に、トピカルなオンライン記事などを選び、実際に使われている英文を読んだのちに、それに基づいてディスカッションし、英文を書くといったアクティビティを行う。							
授業計画							
1 ガイダンス、問題演習							
2 Literature on animals 1 リスニング、リーディング、ペアワーク							
3 Literature on animals 2 リスニング、リーディング、ペアワーク							
4 Literature on animals 3 リスニング、リーディング、ペアワーク							
5 Article on Pet Animals 1 リスニング、リーディング、ペアワーク							
6 Article on Pet Animals 2 リスニング、リーディング、ペアワーク							
7 Article on Zoology 1 リスニング、リーディング、ペアワーク							
8 Article on Zoology 2 リスニング、リーディング、ペアワーク							
9 Article on Animal Behaviour 1 リスニング、リーディング、ペアワーク							
10 Article on Animal Behaviour 2 リスニング、リーディング、ペアワーク							
11 Article on Animal Health 1 リスニング、リーディング、ペアワーク							
12 Article on Animal Health 2 リスニング、リーディング、ペアワーク							
13 Article on Animal Welfare リスニング、リーディング、ペアワーク							
14 ライティングとディスカッション							
15 ライティングとディスカッション							
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
復習試験終了後、教場で解説する。							
履修上の注意							
前期の成績に応じてクラスの変更が生じる場合がある。また、条件が整っている者は変更希望も受け付ける。詳細はガイダンス時に説明するので、ガイダンスには必ず出席すること。							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
予習として、配布した教材の下調べを、辞書や図鑑等の資料を用いておこない、不明な点は授業中に解決できるようにする。授業で得た知識はその日のうちに復習して身につける。リスニングの練習は自宅で欠かさず行う。							
評価方法（評価基準を含む）							
平常点（授業参加など）40%、試験 60%として総合的に評価する。							
教科書							
教場・Moodle にて配布する。							
参考書、教材等							
教場・Moodle にて配布する。							

授業科目	英語Ⅲ			実務家教員	—	担当教員	植月 恵一郎
科目英名	EnglishⅢ						
開講期間	2年次 前期	必修科目 1単位	授業形態	演習	科目区分	教養教育 [言語・情報・スポーツ]	
到達目標							
<p>「文法が骨、語彙が血肉」であることを理解し、語彙力を増強し精確な文法を把握する。parsing (文の分析・解剖) を徹底する。語学の4技能「読み、書き、聞く、話す」全般の基本を復習する。語学辞書のみならず、英語事典の参照力を磨く。将来専門的な英文を読んだり、書いたりする際の基礎・基盤を形成する。TOEIC 換算で400点近傍を目標とする。</p>							
講義概要「英語ⅢA」							
<p>統語や語法に関する演習、およびペアワークを取り入れた言語活動を中心に授業を行う。言語活動を行うために必要な大学レベルの文法事項を復習し、実践的な語学力を修得することを目指す。A・Bでは主に動物に関する教材を使用し、アクティビティーを通してリスニング・リーディング・ライティング・スピーキングの4技能を強化するための訓練を行う。C・Dでは実用的な英語の運用能力向上を目指して、専門的な語彙の習得とそれに基づく多読のアクティビティーを主として行う。E・Fではより高度な語彙の修得を図り、正確かつ早い読解の技法を学ぶ。</p>							
授業計画							
<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス：英語学修心得 2 ユニット1：名詞の誤り／salary 給与と wage 賃金の違い等 3 エッセイ Glass Ceiling を読む 4 ユニット2：冠詞の誤り／可算名詞でも冠詞がつかない場合等 5 エッセイ A Sense of Belonging を読む 6 ユニット3：動詞の誤り（1）／put on と wear の違い等 7 エッセイ Onsen を読む 8 ユニット4：動詞の誤り（2）／rise と raise の違い等 9 エッセイ Events and Festivals を読む 10 ユニット5：日・英時制のズレ／時制の誤り等 11 エッセイ Lost and Found を読む 12 ユニット6：動詞＋名詞の誤り／「注目を集める」の「集める」は collect か gather か他の動詞か？ 13 エッセイ Omotenashi を読む 14 応用：『イソップ物語』(Aesop Fables)、『ピーター・ラビット』(Peter Rabbit)、『ドリトル先生』(Doctor Dolittle)、『くまのプーさん』(Winnie-the-Pooh) 等〈動物文学〉作品を読んでみる 15 復習と試験 							
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
<p>試験・小テストなど正解が一つに決まるもの場合は、終了後その正解に至る過程を懇切丁寧に解説する。レポート等に関しては、正解例を示し、上位のレポートを紹介し、総評を述べ、そのテーマに対して理解を深める。</p>							
履修上の注意							
<p>前年度の成績に応じてクラスの変更が生じる場合がある。また、条件を満たした者は変更希望も受け付ける。詳細はガイダンス時に説明するので、ガイダンスには必ず出席すること。事前・事後の学修は必須である。</p>							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
<p>事前学修「文法事項確認回については、10項目の解説部分を熟読しておく。エッセイを読む回では、skim し、分からない語彙を調べておく。」</p> <p>事後学修「毎授業後、文法事項を確認し、語彙については綴り、意味、発音の三位一体で正確に記憶する。」</p>							
評価方法（評価基準を含む）							
<p>試験（小テストを含む）50%、平常点（発表、提出物、授業参加度等）50%として総合的に評価する。</p>							
教科書							
<p>木塚晴夫・Roger Northridge『読み・書く 英語表現のポイント15章』（音羽書房鶴見書店、2021年） 本体1,800円＋税、ISBN 978-4-7553-0052-3</p>							
参考書、教材等							
<p>初回授業時、および必要な場合随時指示する。</p>							

授業科目	英語Ⅲ			実務家 教員	—	担当 教員	大橋 由紀子
科目英名	English III						
開講期間	2年次 前期	必修科目 1単位	授業形態	演習	科目区分	教養教育 [言語・情報・スポーツ]	
到達目標							
この授業では英文を読み、読解に必要な英文法、および単語を解説しながら、文構造を理解することを目標とする。最終的には文献を一人で読み進めることができるよう、自ら考え、修得した知識から応用力をつけることを目指す。							
講義概要「英語ⅢB」							
統語や語法に関する演習、およびペアワークを取り入れた言語活動を中心に授業を行う。言語活動を行うために必要な大学レベルの文法事項を復習し、実践的な語学力を修得することを目指す。A・Bでは主に動物に関する教材を使用し、アクティビティーを通してリスニング・リーディング・ライティング・スピーキングの4技能を強化するための訓練を行う。C・Dでは実用的な英語の運用能力向上を目指して、専門的な語彙の習得とそれに基づく多読のアクティビティーを主として行う。E・Fではより高度な語彙の修得を図り、正確かつ早い読解の技法を学ぶ。							
授業計画							
<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス（後期授業について、および前期の復習） 2 ‘Professional appearance of AHT’ を読み内容を理解する 3 ‘Common procedures of AHT’ に関する内容を読む 4 ‘Common procedures of AHT’ に関する内容を読み、ペアワーク 5 ‘Common procedures of AHT’ に関する内容を読み、ディスカッション 6 Review 1（前回までの内容の復習、小テスト、および解説） 7 ‘Occupational Safety and Health’ に関する内容を読む 8 ‘Occupational Safety and Health’ に関する内容を読み、ペアワーク 9 ‘Occupational Safety and Health’ に関する内容を読み、ディスカッション 10 Review 2（前回までの内容の復習、小テスト、および解説） 11 英文解釈1 一般的な内容の記事を読み、英文の構造を解説する 12 英文解釈2 記事を読み、内容を解説する（ディスカッションを含む） 13 最新の英文記事1 最新の動物に関する記事を英文で読み、内容を理解する 14 最新の英文記事2 最新の動物に関する記事を英文で読み、内容を理解する 15 総復習（小テスト、解説） 							
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
フィードバックとして、テストを行った場合は返却後、解説する。 課題提出に関しては、提出後コメントを記載して返却する。							
履修上の注意							
1年次の成績に応じてクラスの変更が生じる場合がある。詳細はガイダンス時に説明するので、ガイダンスには必ず出席すること。							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
事前学習として、テキスト（該当箇所は教場で指示）を予習すること。 事後学習として、テキストを含め、授業で扱った内容を復習すること。							
評価方法（評価基準を含む）							
試験（60%）、発言など授業への参加度（40%）から総合的に評価する。							
教科書							
指定なし。							
参考書、教材等							
教場で指導する。							

授業科目	英語Ⅲ			実務家教員	—	担当教員	阿部 敬子
科目英名	EnglishⅢ						
開講期間	2年次 前期	必修科目 1単位	授業形態	演習	科目区分	教養教育 [言語・情報・スポーツ]	
到達目標							
1年次に学んだ知識を基にして、より実用的な英語運用能力の習得を目標とする。動物に関する様々な英文を読んで語彙と文法を学び、内容を正確に把握する力及び速読力を養う。さらに、視聴覚教材に取り組む事により、リスニング力を鍛える。							
講義概要「英語ⅢC」							
統語や語法に関する演習、およびペアワークを取り入れた言語活動を中心に授業を行う。言語活動を行うために必要な大学レベルの文法事項を復習し、実践的な語学力を修得することを目指す。A・Bでは主に動物に関する教材を使用し、アクティビティーを通してリスニング・リーディング・ライティング・スピーキングの4技能を強化するための訓練を行う。C・Dでは実用的な英語の運用能力向上を目指して、専門的な語彙の習得とそれに基づく多読のアクティビティーを主として行う。E・Fではより高度な語彙の修得を図り、正確かつ早い読解の技法を学ぶ。							
授業計画							
1 Introduction ガイダンス・問題演習							
2 Marine Creatures 1 速読・精読・リスニング							
3 Marine Creatures 2 小テスト・速読・精読・リスニング							
4 Dogs' Noses 1 小テスト・速読・精読・リスニング							
5 Dogs' Noses 2 小テスト・速読・精読・リスニング							
6 Animals in the City 1 小テスト・速読・精読・リスニング							
7 Animals in the City 2 小テスト・速読・精読・リスニング							
8 Review 1 復習試験・解説							
9 Eels 1 小テスト・速読・精読・リスニング							
10 Eels 2 小テスト・速読・精読・リスニング							
11 Eels 3 小テスト・速読・精読・リスニング							
12 How Pets Navigate 1 小テスト・速読・精読・リスニング							
13 How Pets Navigate 2 小テスト・速読・精読・リスニング							
14 How Pets Navigate 3 小テスト・速読・精読・リスニング							
15 Review 2 復習試験・解説							
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
小テスト及び復習試験実施後、教場で解説を行う。							
履修上の注意							
1年次の成績に応じてクラスの変更が生じる場合がある。詳細はガイダンス時に説明するので、ガイダンスには必ず出席する事。							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
事前学修 → 次回の授業内容は教場もしくは Moodle で指示するので、予習する事。							
事後学修 → 小テスト及び復習試験に向けて、授業で学習した内容を復習する事。							
評価方法（評価基準を含む）							
平常点（小テスト、授業への参加度等）70%							
復習試験 30%							
教科書							
使用しない。							
参考書、教材等							
適宜、印刷教材や視聴覚教材を使用する。英和辞典を持参する事。							

授業科目	英語Ⅲ			実務家 教員	—	担当 教員	阿部 敬子
科目英名	EnglishⅢ						
開講期間	2年次 前期	必修科目 1単位	授業形態	演習	科目区分	教養教育 [言語・情報・スポーツ]	
到達目標							
1年次に学んだ知識を基にして、より実用的な英語運用能力の習得を目標とする。動物に関する様々な英文を読んで語彙と文法を学び、内容を正確に把握する力及び速読力を養う。さらに、視聴覚教材に取り組む事により、リスニング力を鍛える。							
講義概要「英語ⅢD」							
統語や語法に関する演習、およびペアワークを取り入れた言語活動を中心に授業を行う。言語活動を行うために必要な大学レベルの文法事項を復習し、実践的な語学力を修得することを目指す。A・Bでは主に動物に関する教材を使用し、アクティビティーを通してリスニング・リーディング・ライティング・スピーキングの4技能を強化するための訓練を行う。C・Dでは実用的な英語の運用能力向上を目指して、専門的な語彙の習得とそれに基づく多読のアクティビティーを主として行う。E・Fではより高度な語彙の修得を図り、正確かつ早い読解の技法を学ぶ。							
授業計画							
1 Introduction ガイダンス・問題演習							
2 Marine Creatures 1 速読・精読・リスニング							
3 Marine Creatures 2 小テスト・速読・精読・リスニング							
4 Dogs' Noses 1 小テスト・速読・精読・リスニング							
5 Dogs' Noses 2 小テスト・速読・精読・リスニング							
6 Animals in the City 1 小テスト・速読・精読・リスニング							
7 Animals in the City 2 小テスト・速読・精読・リスニング							
8 Review 1 復習試験・解説							
9 Eels 1 小テスト・速読・精読・リスニング							
10 Eels 2 小テスト・速読・精読・リスニング							
11 Eels 3 小テスト・速読・精読・リスニング							
12 How Pets Navigate 1 小テスト・速読・精読・リスニング							
13 How Pets Navigate 2 小テスト・速読・精読・リスニング							
14 How Pets Navigate 3 小テスト・速読・精読・リスニング							
15 Review 2 復習試験・解説							
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
小テスト及び復習試験実施後、教場で解説を行う。							
履修上の注意							
1年次の成績に応じてクラスの変更が生じる場合がある。詳細はガイダンス時に説明するので、ガイダンスには必ず出席する事。							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
事前学修 → 次回の授業内容は教場もしくは Moodle で指示するので、予習する事。							
事後学修 → 小テスト及び復習試験に向けて、授業で学習した内容を復習する事。							
評価方法（評価基準を含む）							
平常点（小テスト、授業への参加度等） 70%							
復習試験 30%							
教科書							
使用しない。							
参考書、教材等							
適宜、印刷教材や視聴覚教材を使用する。英和辞典を持参する事。							

授業科目	英語Ⅲ			実務家 教員	—	担当 教員	大橋 由紀子
科目英名	English III						
開講期間	2年次 前期	必修科目 1単位	授業形態	演習	科目区分	教養教育 [言語・情報・スポーツ]	
到達目標							
この授業は、英文読解を中心に構文や文法の解説を行い、動物に関する記事を英語で理解し、コミュニケーションな英語を運用するための基礎知識を身につける。さらに、動物に関するトピックを学び、関連語彙および表現を修得することを目標とする。							
講義概要「英語ⅢE」							
統語や語法に関する演習、およびペアワークを取り入れた言語活動を中心に授業を行う。言語活動を行うために必要な大学レベルの文法事項を復習し、実践的な語学力を修得することを目指す。A・Bでは主に動物に関する教材を使用し、アクティビティーを通してリスニング・リーディング・ライティング・スピーキングの4技能を強化するための訓練を行う。C・Dでは実用的な英語の運用能力向上を目指して、専門的な語彙の習得とそれに基づく多読のアクティビティーを主として行う。E・Fではより高度な語彙の修得を図り、正確かつ早い読解の技法を学ぶ。							
授業計画							
<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス後、テキストの introduction を読む 2 'A real winner' part 1 (読解後、内容確認等解説) 3 'A real winner' part 2 (読解後、内容確認等解説後、グループワーク) 4 Dog sled races に関する関連記事を読み、内容確認後、基本構文、表現を学ぶ 5 'Zoo dentists' part 1 (読解後、内容確認等解説) 6 'Zoo dentists' part 2 (読解後、内容確認等解説後、グループワーク) 7 Zoo keeper, zoo dentist に関する記事を読み、ディスカッション、発表を行う 8 全内容までの総復習、構文、表現に関する小テストおよび解説 9 'Solar Cooking' part 1 (読解後、内容確認等解説) 10 'Solar Cooking' part 2 (読解後、内容確認等解説後、グループワーク) 11 Solar power に関する記事を読み、ディスカッション、発表を行う 12 'Bird Girl' part 1 (読解、解説後、) 13 'Bird Girl' part 2 (読解、内容確認等解説後、グループワーク) 14 Bird Girl に関連する記事を読み、ディスカッション、発表を行う 15 復習試験 							
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
フィードバックとして、テストを行った場合は返却後、解説する。 課題提出に関しては、提出後コメントを記載して返却する。							
履修上の注意							
1年次の成績に応じてクラスの変更が生じる場合がある。また、詳細はガイダンス時に説明するので、ガイダンスには必ず出席すること。授業には毎回辞書を持参すること。							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
事前学習として、テキスト（該当箇所は教場で指示）を予習すること。 事後学習として、テキストを含め、授業で扱った内容を復習すること。							
評価方法（評価基準を含む）							
試験（60%）、授業への参加度（40%）から総合的に評価する。							
教科書							
<i>Snapshots from the Globe</i> (CENGAGE Learning)							
参考書、教材等							
教場で指導する。							

授業科目	英語Ⅲ			実務家 教員	—	担当 教員	植月 恵一郎
科目英名	EnglishⅢ						
開講期間	2年次 前期	必修科目 1単位	授業形態	演習	科目区分	教養教育 [言語・情報・スポーツ]	
到達目標							
より高度な英語運用力を身に着ける。とくに英文読解力向上を目指す。「文法が骨、語彙が血肉」であることを理解し、語彙力を増強し精確な文法を把握する。parsing（文の分析・解剖）を徹底する。語学辞書のみならず、英語事典の参照力を磨く。将来専門的な英文を読んだり、書いたりする際の基礎・基盤を形成する。TOEIC 換算で 600 点近傍を目標とする。							
講義概要「英語ⅢF」							
統語や語法に関する演習、およびペアワークを取り入れた言語活動を中心に授業を行う。言語活動を行うために必要な大学レベルの文法事項を復習し、実践的な語学力を修得することを目指す。A・B では主に動物に関する教材を使用し、アクティビティーを通してリスニング・リーディング・ライティング・スピーキングの 4 技能を強化するための訓練を行う。C・D では実用的な英語の運用能力向上を目指して、専門的な語彙の習得とそれに基づく多読のアクティビティーを主として行う。E・F ではより高度な語彙の修得を図り、正確かつ早い読解の技法を学ぶ。							
授業計画							
<ol style="list-style-type: none"> 1 前期ガイダンス：英語の読み方を理解する 2 Unit 1 Green School: Where Learning Is Fun 3 Unit 1 の応用 4 Unit 2 From Tibet With Love: Water Rights on the Asian Continent 5 Unit 2 の応用 6 Unit 3 How to Measure the Size of the Earth: Simple is Best 7 Unit 3 の応用 8 Unit 4 Being Green: The Example of a Famous Hotel 9 Unit 4 の応用 10 Unit 5 How to Live to Be 100: Three Examples 11 Unit 5 の応用 12 Unit 6 The Great Pacific Garbage Patch: What We Have Done to the Sea 13 Unit 6 の応用 14 応用練習：『ドリトル先生』（<i>Doctor Dolittle</i>）を読み「動物語」を使うファンタジーを楽しむ 15 復習試験と解説 							
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
試験・小テスト等は、正解に至る過程を懇切丁寧に解説する。レポート等については、解答例を示し、上位のレポートを紹介するなどして総評を行う。							
履修上の注意							
前年度の成績に応じてクラスの変更が生じる場合がある。また、条件を満たした者は変更希望も受け付ける。詳細はガイダンス時に説明するので、ガイダンスには必ず出席すること。事前・事後の学修は必須である。授業へは積極的に参加しなければならない。							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
事前学修「各ユニットのタイトルを示した回では、First Reading の部分を読み、分からない語彙・表現をチェックしておくこと。「応用」となっている回では、練習問題を事前に解いてみること。」 事後学修「新出語彙に関しては、綴り・意味・発音の三位一体を正確に記憶すること。練習問題では誤答箇所を再度解答を試みること。」							
評価方法（評価基準を含む）							
平常点（毎回授業時の発表等） 50%、試験（小テスト等含む） 50%として総合的に評価する。							
教科書							
原田祐貨ほか編 <i>A New Look at the World : Easy to Read Contemporary Topics</i> （金星堂、2020年）ISBN 978-4-7647-4104-1、本体 1,900 円（税別）							
参考書、教材等							
授業初回時、および随時指示する。							

授業科目	英語Ⅳ			実務家 教員	—	担当 教員	植月 恵一郎
科目英名	EnglishⅣ						
開講期間	2年次 後期	必修科目 1単位	授業形態	演習	科目区分	教養教育 [言語・情報・スポーツ]	
到達目標							
<p>「文法が骨、語彙が血肉」であることを理解し、語彙力を増強し精確な文法を把握する。parsing（文の分析・解剖）を徹底する。語学の4技能「読み、書き、聞く、話す」全般の基本を復習する。語学辞書のみならず、英語事典の参照力を磨く。将来専門的な英文を読んだり、書いたりする際の基礎・基盤を形成する。TOEIC 換算で400点近傍を目標とする。</p>							
講義概要「英語ⅣA」							
<p>大学の教養教育における英語学修の総仕上げとして、語彙、統語論、英語表現等のインプットを行い、アウトプットに繋がる演習を通じて発展的な技能の修得を目指す。A・Bでは自分の意見を英語で発表するための実用的な英語運用能力を身につける。C・Dでは英語運用能力の向上を目指して4技能のレベルアップを図る。E・Fではインプットとして専門的な動物関連の文献を用いて文章構成や構文を学修し、英語での表現能力を向上させるためのアウトプットに応用する。</p>							
授業計画							
<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス：英語学修心得 2 ユニット7：準動詞の誤り／look forward toに続くのは通例代名詞等 3 エッセイ Being on Time を読む 4 ユニット8：形容詞の誤り／「狭い」はつねに narrow か等 5 エッセイ Culture of Shame を読む 6 ユニット9：副詞の誤り／形容詞最上級を修飾する副詞は何？等 7 エッセイ Washoku を読む 8 ユニット10：比較の誤り／比較級を修飾する副詞は mush か far か等 9 エッセイ Anime を読む 10 ユニット11：関係詞の誤り／関係代名詞の所有格は whose がもっとも一般的等 11 エッセイ Religion を読む 12 ユニット12：接続詞の誤り／「と」はつねに and ではない 13 エッセイ Nature をふ読む 14 応用：『イソップ物語』(Aesop Fables)、『ピーター・ラビット』(Peter Rabbit)、『ドリトル先生』(Doctor Dolittle)、『くまのプーさん』(Winnie-the-Pooh) 等〈動物文学〉作品を読んでみる 15 復習と試験 							
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
<p>試験・小テストなど正解が一つに決まるもの場合は、終了後その正解に至る過程を懇切丁寧に解説する。レポート等に関しては、正解例を示し、上位のレポートを紹介し、総評を述べ、そのテーマに対して理解を深める。</p>							
履修上の注意							
<p>前年度の成績に応じてクラスの変更が生じる場合がある。また、条件を満たした者は変更希望も受け付ける。詳細はガイダンス時に説明するので、ガイダンスには必ず出席すること。事前・事後の学修は必須である。</p>							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
<p>事前学修「文法事項確認回については、10項目の解説部分を熟読しておく。エッセイを読む回では、skimし、分からない語彙を調べておく。」</p> <p>事後学修「毎授業後、文法事項を確認し、語彙については綴り、意味、発音の三位一体で正確に記憶する。」</p>							
評価方法（評価基準を含む）							
<p>試験（小テストを含む）50%、平常点（発表、提出物、授業参加度等）50%として総合的に評価する。</p>							
教科書							
<p>木塚晴夫・Roger Northridge『読み・書く 英語表現のポイント15章』（音羽書房鶴見書店、2021年） 本体1,800円＋税、ISBN 978-4-7553-0052-3</p>							
参考書、教材等							
<p>初回授業時、および必要な場合随時指示する。</p>							

授業科目	英語Ⅳ			実務家 教員	—	担当 教員	大橋 由紀子
科目英名	English IV						
開講期間	2年次 後期	必修科目 1単位	授業形態	演習	科目区分	教養教育 [言語・情報・スポーツ]	
到達目標							
この授業では、英語ⅡBで学んだ基本的な文法、語彙を応用し、それらを用いた英文を正確に読み、内容説明ができるようになることを目標とする。英文の中で頻出する英文法や単語の復習を行いながら、最終的には一人で英文内容のアウトプットができることが目標である。							
講義概要「英語ⅣB」							
大学の教養教育における英語学修の総仕上げとして、語彙、統語論、英語表現等のインプットを行い、アウトプットに繋がる演習を通じて発展的な技能の修得を目指す。A・Bでは自分の意見を英語で発表するための実用的な英語運用能力を身につける。C・Dでは英語運用能力の向上を目指して4技能のレベルアップを図る。E・Fではインプットとして専門的な動物関連の文献を用いて文章構成や構文を学修し、英語での表現能力を向上させるためのアウトプットに応用する。							
授業計画							
1 ガイダンス（後期授業について、および前期の復習） 2 ‘Client communication’ に関する内容を読む 3 ‘Client communication’ に関する内容を読み、ペアワーク 4 ‘Client communication’ に関する内容を読み、ディスカッション 5 Review 1（前回までの内容の復習、小テスト、および解説） 6 ‘Veterinary Staff: Roles and Responsibility’ に関する内容を読む 7 ‘Veterinary Staff: Roles and Responsibility’ に関する内容を読み、ペアワーク 8 ‘Veterinary Staff: Roles and Responsibility’ に関する内容を読み、ディスカッション 9 Review 2（前回までの内容の復習、小テスト、および解説） 10 英文読解 1 英語で書かれた論文要旨を読み、解説する 11 英文読解 2 英語で書かれた論文要旨を読み、解説する（グループ活動を含む） 12 動物看護英語 1（語彙と表現の修得、ペアワーク、quiz 1） 13 動物看護英語 2（語彙と表現の修得、ペアワーク、quiz 2） 14 動物看護英語 3（ディスカッションおよびプレゼンテーション、quiz 3） 15 総復習とテスト							
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
フィードバックとして、テストを行った場合は返却後、解説する。 課題提出に関しては、提出後コメントを記載して返却する。							
履修上の注意							
前期の成績に応じてクラスの変更が生じる場合がある。詳細はガイダンス時に説明するので、ガイダンスには必ず出席すること。							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
事前学習として、テキスト（該当箇所は教場で指示）を予習すること。 事後学習として、テキストを含め、授業で扱った内容を復習すること。							
評価方法（評価基準を含む）							
試験（60%）、発言など授業への参加度（40%）から総合的に評価する。							
教科書							
指定なし。							
参考書、教材等							
教場で指導する。							

授業科目	英語Ⅳ			実務家 教員	—	担当 教員	阿部 敬子
科目英名	EnglishⅣ						
開講期間	2年次 後期	必修科目 1単位	授業形態	演習	科目区分	教養教育 [言語・情報・スポーツ]	
到達目標							
<p>前期に学んだ知識を基にして、より実用的な英語運用能力の習得を目標とする。動物に関する様々な英文を読んで語彙と文法を学び、内容を正確に把握する力及び速読力を養う。さらに、視聴覚教材に取り組む事により、リスニング力を鍛える。</p>							
講義概要「英語ⅣC」							
<p>大学の教養教育における英語学修の総仕上げとして、語彙、統語論、英語表現等のインプットを行い、アウトプットに繋がる演習を通じて発展的な技能の修得を目指す。A・Bでは自分の意見を英語で発表するための実用的な英語運用能力を身につける。C・Dでは英語運用能力の向上を目指して4技能のレベルアップを図る。E・Fではインプットとして専門的な動物関連の文献を用いて文章構成や構文を学修し、英語での表現能力を向上させるためのアウトプットに応用する。</p>							
授業計画							
<p>1 Introduction ガイダンス・問題演習 2 Chimpanzees 1 速読・精読・リスニング 3 Chimpanzees 2 小テスト・速読・精読・リスニング 4 Chimpanzees 3 小テスト・速読・精読・リスニング 5 Beetle Camera 1 小テスト・速読・精読・リスニング 6 Beetle Camera 2 小テスト・速読・精読・リスニング 7 Beetle Camera 3 小テスト・速読・精読・リスニング 8 Review 1 復習試験・解説 9 Dog Years 1 小テスト・速読・精読・リスニング 10 Dog Years 2 小テスト・速読・精読・リスニング 11 Dog Years 3 小テスト・速読・精読・リスニング 12 Conservation 1 小テスト・速読・精読・リスニング 13 Conservation 2 小テスト・速読・精読・リスニング 14 Conservation 3 小テスト・速読・精読・リスニング 15 Review 2 復習試験・解説</p>							
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
小テスト及び復習試験実施後、教場で解説を行う。							
履修上の注意							
前期の成績に応じてクラスの変更が生じる場合がある。詳細はガイダンス時に説明するので、ガイダンスには必ず出席する事。							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
事前学修 → 次回の授業内容は教場もしくは Moodle で指示するので、予習する事。							
事後学修 → 小テスト及び復習試験に向けて、授業で学習した内容を復習する事。							
評価方法（評価基準を含む）							
平常点（小テスト、授業への参加度等） 70%							
復習試験 30%							
教科書							
使用しない。							
参考書、教材等							
適宜、印刷教材や視聴覚教材を使用する。英和辞典を持参する事。							

授業科目	英語Ⅳ			実務家 教員	—	担当 教員	阿部 敬子
科目英名	EnglishⅣ						
開講期間	2年次 後期	必修科目 1単位	授業形態	演習	科目区分	教養教育 [言語・情報・スポーツ]	
到達目標							
前期に学んだ知識を基にして、より実用的な英語運用能力の習得を目標とする。動物に関する様々な英文を読んで語彙と文法を学び、内容を正確に把握する力及び速読力を養う。さらに、視聴覚教材に取り組む事により、リスニング力を鍛える。							
講義概要「英語ⅣD」							
大学の教養教育における英語学修の総仕上げとして、語彙、統語論、英語表現等のインプットを行い、アウトプットに繋がる演習を通じて発展的な技能の修得を目指す。A・Bでは自分の意見を英語で発表するための実用的な英語運用能力を身につける。C・Dでは英語運用能力の向上を目指して4技能のレベルアップを図る。E・Fではインプットとして専門的な動物関連の文献を用いて文章構成や構文を学修し、英語での表現能力を向上させるためのアウトプットに応用する。							
授業計画							
1 Introduction ガイダンス・問題演習							
2 Chimpanzees 1 速読・精読・リスニング							
3 Chimpanzees 2 小テスト・速読・精読・リスニング							
4 Chimpanzees 3 小テスト・速読・精読・リスニング							
5 Beetle Camera 1 小テスト・速読・精読・リスニング							
6 Beetle Camera 2 小テスト・速読・精読・リスニング							
7 Beetle Camera 3 小テスト・速読・精読・リスニング							
8 Review 1 復習試験・解説							
9 Dog Years 1 小テスト・速読・精読・リスニング							
10 Dog Years 2 小テスト・速読・精読・リスニング							
11 Dog Years 3 小テスト・速読・精読・リスニング							
12 Conservation 1 小テスト・速読・精読・リスニング							
13 Conservation 2 小テスト・速読・精読・リスニング							
14 Conservation 3 小テスト・速読・精読・リスニング							
15 Review 2 復習試験・解説							
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
小テスト及び復習試験実施後、教場で解説を行う。							
履修上の注意							
前期の成績に応じてクラスの変更が生じる場合がある。詳細はガイダンス時に説明するので、ガイダンスには必ず出席する事。							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
事前学修 → 次回の授業内容は教場もしくは Moodle で指示するので、予習する事。							
事後学修 → 小テスト及び復習試験に向けて、授業で学習した内容を復習する事。							
評価方法（評価基準を含む）							
平常点（小テスト、授業への参加度等）70%							
復習試験 30%							
教科書							
使用しない。							
参考書、教材等							
適宜、印刷教材や視聴覚教材を使用する。英和辞典を持参する事。							

授業科目	英語Ⅳ			実務家教員	—	担当教員	大橋 由紀子
科目英名	English IV						
開講期間	2年次 後期	必修科目 1単位	授業形態	演習	科目区分	教養教育 [言語・情報・スポーツ]	
到達目標							
この授業では、インプットとして与えられた英語知識を応用し、自ら文章化できることを目的とする。テーマに基づいた映像を使用し、語彙、表現、構文を解説後、状況に応じて自ら適切な表現や語彙を選択しながら話し、書けるようになることを目指す。最終的には、学んだ知識から、自ら適切な語彙や表現を選び、自由にアウトプットできるようになることが目標である。							
講義概要「英語ⅣE」							
大学の教養教育における英語学修の総仕上げとして、語彙、統語論、英語表現等のインプットを行い、アウトプットに繋がる演習を通じて発展的な技能の修得を目指す。A・Bでは自分の意見を英語で発表するための実用的な英語運用能力を身につける。C・Dでは英語運用能力の向上を目指して4技能のレベルアップを図る。E・Fではインプットとして専門的な動物関連の文献を用いて文章構成や構文を学修し、英語での表現能力を向上させるためのアウトプットに応用する。							
授業計画							
<ol style="list-style-type: none"> 1 'Beagle Patrol' part 1 (読解後、内容確認等解説) 2 'Beagle Patrol' part 2 (読解後、内容確認等解説後、グループワーク) 3 Beagle に関する映像から、内容確認後、基本構文、表現を学ぶ 4 'Polar Bears in Trouble' part 1 (読解後、内容確認等解説) 5 'Polar Bears in Trouble' part 2 (読解後、内容確認等解説後、グループワーク) 6 Polar bear に関する映像から、内容理解後、発表を行う 7 'Aquarium on Wheels' part 1 (読解後、内容確認等解説) 8 'Aquarium on Wheels' part 2 (読解後、内容確認等解説後、グループワーク) 9 Aquarium に関する映像をみて、ディスカッション、発表を行う 10 英文構成1 (英文作成基礎。表現、構成を学ぶ) 11 英文構成2 (英文作成応用。表現力を磨く) 12 英文構成3 (英文記事を読み、その内容について要約し、感想を英語で書く) 13 英文構成4 (動物看護に関する簡単な論文要旨を読む) 14 英文構成5 (動物看護に関する記事を読み、要約を書く) 15 総復習 (小テスト、および解説) 							
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック							
フィードバックとして、テストを行った場合は返却後、解説する。 課題提出に関しては、提出後コメントを記載して返却する。							
履修上の注意							
進度に従い、小テストなどを行う予定である。前期の成績に応じてクラスの変更が生じる場合がある。詳細はガイダンス時に説明するので、ガイダンスには必ず出席すること。							
事前・事後学修 (予習・復習) の内容							
事前学習として、テキスト (該当箇所は教場で指示) を予習すること。 事後学習として、テキストを含め、授業で扱った内容を復習すること。							
評価方法 (評価基準を含む)							
試験 (60%)、授業への参加度 (40%) から総合的に評価する。							
教科書							
<i>Snapshots from the Globe</i> (CENGAGE Learning)							
参考書、教材等							
教場で指導する。							

授業科目	英語Ⅳ			実務家教員	—	担当教員	植月 恵一郎
科目英名	EnglishⅣ						
開講期間	2年次 後期	必修科目 1単位	授業形態	演習	科目区分	教養教育 [言語・情報・スポーツ]	
到達目標							
より高度な英語運用力を身に着ける。とくに英文読解力向上を目指す。「文法が骨、語彙が血肉」であることを理解し、語彙力を増強し正確な文法を把握する。parsing（文の分析・解剖）を徹底する。語学辞書のみならず、英語事典の参照力を磨く。将来専門的な英文を読んだり、書いたりする際の基礎・基盤を形成する。TOEIC 換算で 600 点近傍を目標とする。							
講義概要「英語ⅣF」							
大学の教養教育における英語学修の総仕上げとして、語彙、統語論、英語表現等のインプットを行い、アウトプットに繋がる演習を通じて発展的な技能の修得を目指す。A・B では自分の意見を英語で発表するための実用的な英語運用能力を身につける。C・D では英語運用能力の向上を目指して4技能のレベルアップを図る。E・F ではインプットとして専門的な動物関連の文献を用いて文章構成や構文を学修し、英語での表現能力を向上させるためのアウトプットに応用する。							
授業計画							
<ol style="list-style-type: none"> 1 前期ガイダンス：英語の読み方を理解する 2 Unit 7 Solo Free Climbing: Doing What's Impossible 3 Unit 7 の応用 4 Unit 8 Fair Trade: Helping People in Developing Countries 5 Unit 8 の応用 6 Unit 9 Caber Tossing: A Macho Sport 7 Unit 9 の応用 8 Unit 10 Bacteria: Small Things Doing a Big Job 9 Unit 10 の応用 10 Unit 11 Around the World in 518 Days: A Tale of Determination 11 Unit 11 の応用 12 Unit 12 Kodak and Apple: A Tale of Two Companies 13 Unit 12 の応用 14 応用練習：映画《幸せのキセキ》(We Bought a Zoo) の台詞を確認後、映画を楽しむ 15 復習試験と解説 							
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
試験・小テスト等は、正解に至る過程を懇切丁寧に解説する。レポート等については、解答例を示し、上位のレポートを紹介するなどして総評を行う。							
履修上の注意							
前年度の成績に応じてクラスの変更が生じる場合がある。また、条件を満たした者は変更希望も受け付ける。詳細はガイダンス時に説明するので、ガイダンスには必ず出席すること。事前・事後の学修は必須である。授業へは積極的に参加しなければならない。							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
事前学修「各ユニットのタイトルを示した回では、First Reading の部分を読み、分からない語彙・表現をチェックしておくこと。「応用」となっている回では、練習問題を事前に解いてみること。」							
事後学修「新出語彙に関しては、綴り・意味・発音の三位一体を正確に記憶すること。練習問題では誤答箇所を再度解答を試みること。」							
評価方法（評価基準を含む）							
平常点（毎回授業時の発表等） 50%、試験（小テスト等含む） 50%として総合的に評価する。							
教科書							
原田祐貨ほか編 <i>A New Look at the World : Easy to Read Contemporary Topics</i> （金星堂、2020年）ISBN 978-4-7647-4104-1、本体 1,900 円（税別）							
参考書、教材等							
授業初回時、および随時指示する。							

授業科目	フランス語入門			実務家 教員	—	担当 教員	白川 理恵
科目英名	French Basic Course						
開講期間	1年次 後期	選択科目 2単位	授業形態	講義	科目区分	教養教育 [言語・情報・スポーツ]	
到達目標							
<p>初歩的な日常表現のフランス語を理解し、読み、書き、聞くことができることを目標とする。具体的には、挨拶の言葉や初歩的な会話表現のための文法が理解でき、ごく簡単な応答ができる力を身につける。</p> <p>また、フランスの文化や習慣に親しみ、異文化コミュニケーションについて学ぶきっかけとする。</p>							
講義概要							
<p>基礎的フランス語の能力（「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」）の修得を目指す。発音練習を繰り返し、「フランス語特有の音」に慣れ親しむ。また、「語彙」や「フランス文法」の基本的知識を学び、文の構造を理解する。さらに、「フランス語の表現・成句」を通して、様々なシチュエーションを想定した実践的なフランス語運用能力を身につけ、フランス語の楽しさを実感させる。</p> <p>時に、フランス文化を紹介し、西洋文化の中心であるフランスの「エッセンス」(essence)にも触れることとする。</p>							
授業計画							
<ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに（授業ガイダンス、フランス語のあいさつ・アルファベ） 2 「名前を言う」（主語人称代名詞・第1群規則動詞（-er 動詞）） 3 「国籍を言う」（名詞の性と数・動詞 être） 4 発音に親しむ（フランス語の読み方、綴り字記号・リエゾン・アンシェヌマン・エリズィオン） 5 「職業を言う」（形容詞の性と数の一致・形容詞の位置） 6 「持ち物を尋ねる」（提示の表現 c'est ～・冠詞・動詞 avoir） 7 「趣味を語る」（疑問文・疑問文に対する答え・疑問形容詞） 8 「誰か尋ねる」（否定文・否定疑問文・否定疑問文に対する答え） 9 「したいことを尋ねる」（前置詞と定冠詞の縮約・指示形容詞） 10 中間のまとめ（ここまでの復習およびフィードバック、フランス文化について） 11 「場所を示す」（提示の表現 il y a ～・場所を表す前置詞） 12 「住んでいるところを言う」（人称代名詞の強勢形・所有形容詞・動詞 connaître） 13 「何をしているか尋ねる」（疑問代名詞・動詞 faire） 14 「年齢を言う」（疑問副詞・数詞） 15 期末のまとめ（総復習およびフィードバック、期末試験について） 							
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
中間と期末に課題の達成度を点検し、フィードバックと解説を行う。							
履修上の注意							
<p>遅刻や欠席は評価の対象とするので十分注意すること。</p> <p>予習と復習を怠らないこと。</p> <p>予習と復習に必要なため「仏和辞典」を用意すること。</p>							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
<p>事前学修：授業で示された教科書の練習問題を解き、授業に臨むこと。</p> <p>事後学修：授業で学んだことを復習し、単語や動詞の活用を覚えること。</p>							
評価方法（評価基準を含む）							
<p>授業への参加度（30%）・中間と期末の課題の達成度（20%）・期末試験（50%）</p> <p>上記を総合的に勘案し評価を行う。</p>							
教科書							
『パスカル・オ・ジャポン』白水社、藤田裕二著							
参考書、教材等							
<p>仏和辞典については、初回授業のガイダンスで説明を行う。</p> <p>例えば、Casio EX-word（電子辞書）、ワイルド仏和中辞典（旺文社）、クワン仏和辞典（三省堂）、など。</p>							

授業科目	情報リテラシー（基礎）			実務家 教員	—	担当 教員	若林 義啓
科目英名	Information Literacy (Basic)						
開講期間	1年次 前期	必修科目 1単位	授業形態	演習	科目区分	教養教育 [言語・情報・スポーツ]	
到達目標							
現代の情報社会では、コンピューターは社会人に必須のツールであり、あらゆる職業でコンピューターを活用する能力が求められているため、大学の学修と卒業後に必要となるコンピューターの基礎的な知識と使い方を身につける。ネット社会の危険やメールのマナー、レポート作成方法について学び、必要な場面で適切に活用できるようになることを目指す。							
講義概要							
大学生活で必要となるコンピューターとメールの使い方や情報社会で守るべき法律やと危険への対処法を学び、情報機器の活用力と情報社会への関わり方を身に付ける。コンピューターの基礎操作としてタッチタイピングを毎回の授業で練習し、実技テストも行う。また Microsoft Word によるレポート作成技術と Microsoft Excel による表計算の基礎を演習を通して学ぶ。							
授業計画							
<ol style="list-style-type: none"> 1 情報リテラシーとは、大学でのコンピューター利用 2 タッチタイピング、メールの設定 3 インターネットとは、メールのマナー 4 情報機器、ネットモラル 5 ファイルとフォルダ、フリーソフト 6 メールのエラー、日本語変換ソフト 7 Microsoft Word 基本操作 8 レポートの書き方① 図表の挿入とキャプション 9 レポートの書き方② 書式、段組み、印刷 10 レポートの書き方③ PDF ファイル、見出しスタイル、数式 11 レポートの書き方④ レポートの構成 12 Microsoft Excel の特長、オートフィル 13 相対参照と絶対参照、基本的な関数 14 応用的な関数 15 まとめ (Word、Excel の理解度・活用力の確認) 							
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
課題は次の回に解説を行う。							
履修上の注意							
演習時や課題など主体的に授業に取り組むこと。初回に授業に対する姿勢、確認テスト等の成績評価について説明する。							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
教科書を予習し、授業後は配布資料と共に復習し理解を深めておくこと。課題はその回に学んだことの復習であることからすべて完成させておくこと。タッチタイピングは授業内の練習だけでなく、授業時間外にも練習をしておくこと。							
評価方法（評価基準を含む）							
課題（30%）、授業内のテスト（50%）、主体的に学修に取り組む態度（20%）の総合評価とする。							
教科書							
情報リテラシー Windows10/Office2019 対応、富士通エフ・オー・エム株式会社、FOM 出版							
参考書、教材等							
特になし							

授業科目	情報リテラシー（応用）			実務家 教員	—	担当 教員	若林 義啓
科目英名	Information Literacy (Applied)						
開講期間	1年次 後期	必修科目 1単位	授業形態	演習	科目区分	教養教育 [言語・情報・スポーツ]	
到達目標	<p>現代の情報社会では、あらゆる職業でコンピューターを使った情報の分析、加工、伝達能力が求められている。本科目では情報処理と情報デザインの技術を学び、コンピューターの応用的な活用法を学ぶ。表計算の技術やデジタル画像の加工、コンピューターを使ったものづくりを通して、学業や仕事だけでなく、普段の生活中でもコンピューターを様々な場面に応用し、積極的に活用できるようになることを目指す。</p>						
講義概要	<p>情報リテラシ（基礎）で学んだ Excel の基礎に続き、応用的な機能の活用と学術研究用のグラフの作成方法を学ぶ。PowerPoint によるプレゼンテーションでは、デザインの原則と情報の伝え方について学び、スライド作成とプレゼンテーションを行う。コンピューターの応用的な活用としてフリーソフトを使った合成画像制作でデジタル画像の知識と加工技術を学び、PowerPoint と連携して缶バッジ制作を行い、知識と技術やソフトウェアの連携を学ぶ。</p>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 Microsoft Excel 関数のネスト 2 条件付き書式、フィルター 3 グラフの特長と学術研究用のグラフ 4 プレゼンテーション① プレゼンテーションとは、Microsoft PowerPoint の特長 5 プレゼンテーション② PowerPoint の基本操作 6 プレゼンテーション③ デザインの原則、効果的なスライド 7 プレゼンテーション④ スライド作成演習 1 情報をまとめる 8 プレゼンテーション⑤ スライド作成演習 2 情報の表現 9 まとめ (Excel、PowerPoint の理解度・応用力の確認) 10 デジタル画像の加工① デジタル画像の基礎 11 デジタル画像の加工② 画像修正 12 デジタル画像の加工③ 合成画像の制作 13 デジタル画像の加工④ 合成画像品評会 14 コンピューターの活用① 缶バッジのデザイン、ソフトウェアの連携 15 コンピューターの活用② 缶バッジの制作 						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック	<p>制作課題について品評会で評価を行う。</p>						
履修上の注意	<p>前期「情報リテラシー（基礎）」の内容を理解し、身に付けていること。制作課題、グループ活動などすべてにおいて主体的な取り組みが必要である。この科目では、授業内での説明に基づく授業時間外での活動が必須となるため、授業を欠席すると何もできなくなるので注意すること。</p>						
事前・事後学修（予習・復習）の内容	<p>各コンテンツで学んだ知識・技術を復習し、次回授業の準備をしておくこと。制作課題は授業前までに準備・制作作業を行い、到達目標まで進めておくこと。</p>						
評価方法（評価基準を含む）	<p>課題（40%）、授業内のテスト（30%）、主体的に学修に取り組む態度（30%）の総合評価とする。</p>						
教科書	<p>情報リテラシー Windows10/Office2019 対応、富士通エフ・オー・エム株式会社、FOM 出版</p>						
参考書、教材等	<p>特になし</p>						

授業科目	健康とスポーツ（実技を含む）			実務家 教員	—	担当 教員	中山 多美
科目英名	Wellness & Physical activity						
開講期間	2年次 前期	選択科目 2単位	授業形態	講義	科目区分	教養教育 [言語・情報・スポーツ]	
到達目標							
スポーツを続け、健康な体と心を育てていく事の大切さを学び、健康で一生を送るために有用な知識や情報を学び、自身の健康を見直せるようになることを目標とする。							
講義概要							
<p>ウェルネス（WHOの保健憲章前文を発展的に解釈した）の概念を基礎とした生活の質（QOL）の追求のために、運動の方法、健康な身体を手に入れるための方法、疾病予防法について学び、各自の健康管理に対する認識を深める。</p> <p>また、健康とすべての運動の基礎となる正しい姿勢や歩き方やグループエクササイズ等の実践を通して、各自の体力に合わせて運動し、安全かつ効果的なエクササイズの仕方を体得し、自分自身の健康管理に対する認識を深める。</p>							
授業計画							
<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 人体、骨、筋肉の仕組み 3 花粉症対策 4 熱中症対策 5 紫外線対策 6 体幹トレーニング 7 免疫力を高める食と運動 8 冷え性対策 9 リンパマッサージ 10 救命救急処置 11 ねんどの処置、対策 12 肩甲骨はがし 13 拒食症 14 試験 15 出産について 							
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
フィードバックとして、授業後、解答の解説を行う。							
履修上の注意							
履修方法についてはオリエンテーション時の説明をよく聞くこと。 基本的に、他人に迷惑のかかる行為や大学生としてふさわしくない行為は慎むこと。							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
事後学修「毎授業のレビューを聞き、ノートを整理・作成すること。」							
評価方法（評価基準を含む）							
授業への参加度及び授業態度（70%）とレポート試験（30%）の総合評価							
教科書							
適宜プリントを配布							
参考書、教材等							
なし							

授業科目	生命科学概論			実務家 教員	—	担当 教員	◎小黒 美枝子・石川 牧子 茂木 千恵
科目英名	Introduction to Life Science						
開講期間	2年次 前期	必修科目 2単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門基礎]	
到達目標							
現代は日常生活のさまざまな面に生命科学に関する知識や情報が影響を与える時代であるため、生命科学の現状やそれに関わる諸問題を理解するための基礎的知識と、科学的考え方を身につけることを到達目標とする。							
講義概要							
本概論では、生命のしくみを理解することにより、生命の神秘と尊厳について学修する。また、生命科学の発展と生命倫理について解説する。(オムニバス方式/全15回)							
(小黒 美枝子/5回)							
生命科学と、現代社会のかかわり、生命はどのように設計されているか、ゲノム情報はどのように発現するか。複雑な体はどのようにしてつくられるかを解説する。							
(石川 牧子/5回)							
環境と生物はどのようにかかわるか、生命科学技術はここまで進んだ、生命倫理はどこに向かいつつあるか、生命や生物の不思議をどのように理解するかについて解説する。							
(茂木 千恵/5回)							
脳はどこまでわかったか、がんとはどのような現象か、私たちの食と健康の関係、ヒトは病原体にどのようにそなえるについて解説する。							
授業計画							担当教員
1 生命科学と現代社会のかかわり							小黒
2 生命はどのように設計されているか							小黒
3 ゲノム情報はどのように発現するか							小黒
4 複雑な体はどのようにしてつくられるか							小黒
5 現代生命科学の基礎に関するまとめ、テスト							小黒
6 脳はどこまでわかったか							茂木
7 がんとはどのような現象か							茂木
8 私たちの食と健康の関係							茂木
9 ヒトは病原体にどのように備えるか							茂木
10 生命科学研究で明らかになった生命のしくみに関するまとめ、テスト							茂木
11 環境と生物はどのようにかかわるか							石川
12 生命科学技術はここまで進んだ							石川
13 生命科学に関する倫理的・法的規制はどのようになっているか							石川
14 生命科学の新たな展開							石川
15 生命科学技術の進歩と社会との関係に関するまとめ、テスト							石川
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
レポート課題や質問は、各教員が実施する5回目の授業において、フィードバックする。Moodleを利用して掲示、授業参考資料などを配布するので、注意を怠らないこと。							
履修上の注意							
本学図書館等を利用して、日々進展する生命科学に関するトピックスなどに積極的に触れて欲しい。							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
事前学修 「各授業回の内容に関連する教科書のページを読んでおくこと」							
事後学修 「5回目、10回目、15回目の授業後、指定された期限内に課題レポートを提出すること」							
評価方法（評価基準を含む）							
授業内テスト（75%）および授業への参加度（25%）から総合的に評価する。							
教科書							
現代生命科学 第2版 東京大学生命科学教科書編集委員会編 羊土社							
参考書、教材等							
講義中に適宜紹介する。							

授業科目	バイオテクノロジー			実務家 教員	—	担当 教員	小黑 美枝子
科目英名	Biotechnology						
開講期間	3年次 後期	選択科目 2単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門基礎]	
到達目標							
<p>生物がどのようなシステムで動くかを調べることは、バイオサイエンスと呼ばれている。そのシステムが解明されれば、そのシステムの修理、補助、作成ができる。バイオテクノロジー（遺伝子工学）は、その技術であり、生物を分子の集合体として理解し、化学の知識、技術を応用したバイオサイエンスと深い関係がある。将来、動物看護学や動物人間関係学の専門分野や、実生活において、膨大なバイオテクノロジーが利用され、バイオの問題に直面あるいは、判断を迫られる状況が増えるだろう。このような場面に的確に対応できる基礎的バイオテクノロジー知識を修得することを到達目標とする</p>							
講義概要							
<p>生物がどのようなシステムで動くのかを調べることは、バイオサイエンスと呼ばれている。そのシステムが解明されれば、そのシステムの修理、補助、作成ができる。バイオテクノロジーは、その技術であり、生物を分子の集合体として理解し、化学の知識、技術を応用したバイオサイエンスと深い関係がある。将来、動物看護の専門分野や動物と人間の相互関係の対応において、莫大なバイオテクノロジー技術が生まれ、バイオの問題に直面、あるいは、判断を迫られる状況が増えるだろう。本科目では、このような場面に的確に対応できる能力を養うことを目的とする。本講義では、このような時代に生きるに不可欠なバイオの基礎知識を、生物に関する基礎知識を踏まえながら講義する。</p>							
授業計画							
<ol style="list-style-type: none"> 1 バイオテクノロジー科目の紹介、遺伝子の不思議 2 ゲノム・遺伝子とは何か。 3 ヒトのゲノム、さまざまな動物のゲノム 4 遺伝子情報からタンパク質をつくる仕組み 5 遺伝子組み換え技術の基礎 6 PCR 法 7 遺伝子診断 8 DNA 鑑定 9 遺伝子組み換え作物 10 クローン動物 11 毛色を決める遺伝子 12 毛質を決める遺伝子 13 体の大きさを決める遺伝子 14 バイオテクノロジーが社会にもたらすこと 15 まとめと確認テスト 							
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
試験や課題の解説を授業中に行い、フィードバックする。							
履修上の注意							
<p>バイオテクノロジー技術、その応用利用が新聞、テレビ等にニュースとして取り上げられる。日常生活にどのように密接に関わっているのかについて、興味をもってほしい。Moodle を利用して掲示、授業参考資料などを配布するので、注意を怠らないこと。</p>							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
<p>事前学修： 第 2～第 14 回目の授業については、事前にレジメを配布するので、事前に目を通し、参考書やインターネットで理解を深めておくこと。</p> <p>事後学修： レジメ、板書を活用して講義内容を講義ノートとしてまとめる。疑問点については、授業中の提出小テストなどを利用して質問する。</p>							
評価方法（評価基準を含む）							
<p>定期試験、授業中に実施する小テスト（授業への参加度含む）により、総合的に評価する。</p> <p>評価基準は、それぞれ、60%、40%の割合とする。</p>							
教科書							
配布プリント							
参考書、教材等							
<p>DNA ジェームス・ワトソン 講談社、ポピュラーサイエンス DNA 鑑定のはなし 裳華房、 分子生物学講義中継 羊土社、コア講義、 分子生物学 田村隆明著、遺伝子工学第 2 版 講談社</p>							

授業科目	動物看護学概論			実務家教員	—	担当教員	◎内田 明彦・岡崎 登志夫 今村 伸一郎・梅村 隆志 櫻井 富士朗
科目英名	Veterinary Technology Outline						
開講期間	1年次 前期	必修科目 2単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門基礎]	
到達目標							
<p>学生は看護の基にある動物の病気を理解するとともに、患者を看護するために必要な知識を理論的に説明し、さらに、その具体的方法論について実施できる。特に、動物看護学を実践的学問と位置付け、患者と飼主、さらに獣医師との関係から、社会における動物看護師の位置を明確にすると共に、動物看護師による動物看護の必要性を理解できる。また、動物看護看護に伴う社会的責任について、倫理的および法的根拠を基に動物看護師の立場についても理解することを到達目標とする。</p>							
講義概要							
<p>本概論は動物看護学の核となる講義であることから、学生には、動物の病気を理解させると同時に、動物看護における対象動物を看護するために必要な知識を理論的に解説し、さらに、その具体的方法論について講義する。特に、動物看護学を実践的学問と位置付け、動物看護における対象動物と飼主、さらに獣医師との関係から、社会における看護師の位置を明確にすると共に、看護師による動物看護の必要性を教授する。また、看護に伴う社会的責任について、倫理的及び法的根拠を基に動物看護の立場を解説する。</p>							
授業計画							授業計画
1 獣医療の歴史と概念 2 動物看護の歴史と動物看護師の必要性と社会的認知（山川伊津子） 3 動物看護の基本となる概念（1） 4 動物看護の基本となる概念（2） 5 動物看護学の成立と特徴 6 動物看護学の教育と愛玩動物看護師国家試験、動物看護師統一認定試験 7 動物看護における飼主支援・ペットロスを中心として（山川伊津子） 8 動物看護師の役割 9 専門職団体の活動 10 動物の終末期看護 11 さまざまな動物観と環境要因 12 動物福祉の概念 13 動物福祉と社会 14 伴侶動物の福祉 15 展示動物および使役動物の福祉							櫻井 富士朗 内田 明彦 内田 明彦 内田 明彦 今村 伸一郎 今村 伸一郎 内田 明彦 岡崎 登志夫 岡崎 登志夫 櫻井 富士朗 櫻井 富士朗 梅村 隆志 梅村 隆志 櫻井 富士朗 櫻井 富士朗
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
フィードバックとして、提出されたレポートの内容について解説をします。							
履修上の注意							
これから学修する動物看護の原点を司る授業であることから、内容は多岐にわたる。従って、毎回の授業をまとめて、整理しておく必要がある。							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
事前学修「各授業回の内容に関連する教科書のページを読んでおくこと」 事後学修「毎授業後、講義資料の内容を復習し、興味ある点を自習により補足すること」							
評価方法（評価基準を含む）							
授業への参加度とレポート提出（50%）および試験（50%）によって評価を行う。							
教科書							
「動物看護学教育標準カリキュラム準拠 応用動物看護学①（動物看護学概論、人間動物関係学、動物福祉・倫理）動物保健看護系大学協会 カリキュラム検討委員会編、インターズー							
参考書、教材等							
1. 獣医看護学 上下巻、山村穂積訳、チクサン出版 2. 動物看護学 各論・総論、日本動物看護学会教科書編集委員会編、インターズー							

授業科目	動物人間関係学概論			実務家 教員	—	担当 教員	◎植田 富貴子・小黒 美枝子 奥野 卓司・島森 尚子
科目英名	Introduction to Animal-Human Relationship Studies						
開講期間	1年次 後期	必修科目 2単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門基礎]	
到達目標							
本講義では、人と動物の調和にどのような分野がかかわるかを学び、それらの分野が社会のニーズとどのように連動しているかを修得して、視野を広げるとともに、在学中、明確な目標をもって学べるようになることを到達目標とする。							
講義概要							
本科目では、動物と人との関係を複数の専門分野の視点から学修し、視野を広げることを目的とする。4名の教員がオムニバス方式で解説する。							
授業計画							担当教員
1 ガイダンス、動物人間関係学について・研究分野とその特徴 2 使役動物と動物介在療法・動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育・補助犬 3 動物虐待（定義、法規制、対処） 4 動物と人間の境界を考えるーアニマルスタディーズの視座からー 5 伴侶動物（犬、猫）と人間ー近世イギリスのペット事情ー 6 伴侶動物（飼い鳥）と人間ー「炭鉱のカナリア」とは何だったのかー 7 伴侶動物（飼い鳥）の受容と人間の感受性の変化 8 伴侶動物のバイオテクノロジー～犬のルーツはオオカミ 9 伴侶動物のバイオテクノロジー～西洋犬 10 伴侶動物のバイオテクノロジー～日本犬 11 伴侶動物のバイオテクノロジー～秋田犬 12 動物から見た文化人類学 13 日本人の動物観 14 様々な民族の動物観 15 ペット産業の現状と総括							植田 植田 植田 島森 島森 島森 島森 小黒 小黒 小黒 小黒 奥野 奥野 奥野 植田
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
レポートや質問について「総括」においてフィードバックする。							
履修上の注意							
本学図書館は当該分野の書籍だけでなく視聴覚教材も多数所蔵している。これらを利用して積極的に多くの知識を吸収し、講義と並行しながら自己の将来への明確な勉学方針を把握すること。参考資料などはMoodleを利用して配布する。							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
事前学習：授業計画に沿って、本や資料を読んでおく。							
事後学習：授業で配布されて資料等を復習し、指定された期間内にレポートを提出する。							
評価方法（評価基準を含む）							
授業参加度 50%、レポート 50%として総合的に評価する。							
教科書							
特に指定しない。							
参考書、教材等							
教材としてプリント、スライド等を随時使用する。							

授業科目	動物機能形態学			実務家 教員	—	担当 教員	今村 伸一郎
科目英名	Veterinary Functional Anatomy						
開講期間	1年次 前期	必修科目 2単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門基礎]	
到達目標							
<p>体の仕組みや働きを充分理解することは、動物の病気の理解や病気の予防および看護にきわめて重要なことである。そうしたことから形態学は動物看護学における重要な基礎科目の一つとなっている。本講義の到達目標は、動物の体の正常な構造と機能を関連づけて説明できるようになることである。</p>							
講義概要							
<p>動物の体は無数の細胞が集まって組織を作り、その組織が集合して器官を構成している。それぞれの器官は動物の体を構成し連携して生命活動を行っている。本講義では、骨格、筋肉、消化器、呼吸器、循環器等の構造や機能を系統的に解説する。特に、動物看護の実際に役立つようにイヌ及びネコの機能形態学や臨床解剖学に重点を置いて解説する。</p>							
授業計画							
<ol style="list-style-type: none"> 1 形態学とは 細胞、組織、器官とは 2 骨格系（骨の基本構造、骨組織、造血組織、体幹骨） 3 骨格系（体肢骨、関節） 4 骨格系（骨格筋：筋組織、頭部、頸部、胸部、腰部、腹部） 5 骨格系（骨格筋：前肢、後肢） 6 呼吸器系、＜冒頭小テスト＞ 7 循環器系 8 消化器系（口腔、咽頭、食道、胃） 9 消化器系（小腸、大腸、肝臓、膵臓） 10 泌尿器系 11 生殖器系、＜冒頭小テスト＞ 12 脳神経系 13 特殊感覚器系 14 外皮系、皮膚感覚器系 15 臨床解剖学、＜冒頭小テスト＞ 							
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
<p>授業内で行なう小テストについて、テスト終了後に模範解答を配布するので、正解を確認し、復習に役立ててほしい。</p>							
履修上の注意							
<p>毎回出席をとる。覚える内容が膨大なので日頃から少しずつ整理しておくように。また解剖学用語は正確に覚えるよう心がけてほしい。できるだけ漢字で表記できるようにする。 カラーリングアトラスは自己学修で色付けをし、予習、復習に役立てる。2年次の実習時に役立つ。</p>							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
<p>授業は基本的にシラバス通りの順で行なうので、指定された教科書のその単元部分について目を通してること。授業後は配付された資料を基に、授業中とったノートとの付け合わせを行なってほしい。</p>							
評価方法（評価基準を含む）							
<p>授業への参加度（20%）、小テスト（3回・30%）、定期試験（50%）の総合判定で評価する。</p>							
教科書							
<ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎動物看護学Ⅰ 動物形態機能学・動物繁殖学、全国動物保健看護系大学協会カリキュラム委員会編、インターズー 2. 犬の解剖カラーリングアトラス、日本獣医解剖学会監修、学窓社 <p>必要に応じて資料を配布する。</p>							
参考書、教材等							
<ol style="list-style-type: none"> 1. Color Atlas of Veterinary Anatomy、浅利昌男監訳、インターズー 2. 獣医看護学 上下巻、山村穂積訳、チクサン出版 3. カラーアトラス 獣医解剖学 上下巻、カラーアトラス獣医解剖学編集委員会監訳、インターズー 4. 家畜比較解剖図説 上下巻、加藤嘉太郎著、養賢堂 							

授業科目	動物生理学			実務家 教員	—	担当 教員	今村 伸一郎
科目英名	Animal Physiology						
開講期間	1年次 後期	必修科目 2単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門基礎]	
到達目標							
動物は、体を構成している様々な細胞や基幹系を精巧に連携させ、また調節、統合させながら複雑な生命活動を営んでいる。この様な生命現象を理解するために、その基本となる様々な器官や組織とそれらの機能についての基礎知識が必要である。本講義の到達目標は、動物の体の正常な“しくみ”について理解し、説明できるようになることである。							
講義概要							
生命科学の著しい進歩にともない、動物生理学の内容はますます豊富さを増し、難解になっている。そこで、動物看護学を学ぶにあたり修得しておくべき内容に焦点をあて、できるだけ凡例を示しながら解説する。また、生理学を通じて生命の仕組みの全体像を理解するために、できる限り個々の関連性についても解説する。							
授業計画							
1 生理学とは 細胞の構造と機能、遺伝子 2 体液と電解質 3 体液調節と尿の生成 4 血液（造血器、免疫機能含む） 5 呼吸とその調節 6 心臓と血液循環（心臓、心筋特性、心筋の興奮、心周期）、＜冒頭小テスト＞ 7 心臓と血液循環（心機能調節、血液循環の原理、循環の調節、血管の特性） 8 消化と吸収（機械的消化活動、胃腸の化学的消化、消化ホルモン） 9 消化と吸収（膵臓機能、肝臓機能、栄養素の吸収、鳥類・反芻獣の消化機能） 10 生殖機能、生殖系ホルモン、性周期 11 内分泌系機能、各種ホルモンの働き、＜冒頭小テスト＞ 12 神経系（活動電位、興奮の伝導と伝達、シナプス） 13 神経系（中枢神経機能、末梢神経機能（自律神経機能含む）） 14 感覚の一般、体性感覚、特殊感覚 15 骨格筋の構造と特性、反射運動、＜冒頭小テスト＞							
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
授業内で行なう小テストについて、テスト終了後に模範解答を配布するので、正解を確認し、復習に役立ててほしい。							
履修上の注意							
毎回出席をとる。授業をよく聞き、ノートを積極的にとるよう取り組むこと。講義内容を自分の身体に当てはめ、“実感する”ことを行ってほしい。							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
授業は基本的にシラバス通りの順で行なうので、指定された教科書のその単元部分について目を通してること。授業後は、授業中にとったノート整理を行なうこと。							
評価方法（評価基準を含む）							
授業への参加度（20%）、小テスト（3回・30%）、定期試験（50%）からの総合判定で評価する。							
教科書							
基礎動物看護学1 動物形態機能学・動物繁殖学、全国動物保健看護系大学協会カリキュラム委員会編、インターズー 必要に応じて資料を配布する。							
参考書、教材等							
基礎動物生理学、東條英昭著、アドスリー 生理学、真島英信、文光堂 医科生理学展望、星猛ら、丸善 わかりやすい獣医解剖生理学 浅利昌男 監訳 文永堂							

授業科目	動物形態機能学実習				実務家教員	—	担当教員	今村 伸一郎
科目英名	Practice for Veterinary Functional Anatomy							
開講期間	2年次 前期	動物看護学科 必修科目2単位	動物人間関係学科 選択科目2単位	授業形態	実習	科目区分	専門教育 [専門基礎]	
到達目標								
講義で得た組織、器官および体の構造や機能に関する知識を、観察と実験を通じて具体的に体現し、理解が定着することを目標とする。								
講義概要								
動物形態機能学実習の解剖学的要素として、イヌを中心として、骨格、骨格筋、腹腔臓器、胸腔臓器、泌尿生殖器、脳神経系の構造を学ぶ。 生理学的要素として、バイタルサインの変化、心電図・血圧測定とその意義、感覚に関する実測、腎機能にかかわる腎小体計量等を行い、生理的機能の意味を理解する。								
授業計画								
実習全体のオリエンテーション、 1 骨格に関する実習 (イヌ) (頭骨、椎骨、胸郭の観察スケッチ) 2 骨格に関する実習 (イヌ) (前肢骨、後肢骨の観察スケッチ) 3 筋肉に関する実習 (イヌ) (頭部、体幹の筋肉の観察、粘土で骨格筋再現) 4 筋肉に関する実習 (イヌ) (頸部、前肢の筋肉の観察、粘土で骨格筋再現) 5 筋肉に関する実習 (イヌ) (後肢、全身の筋肉の観察、粘土で骨格筋再現) 6 内臓に関する実習 (イヌ) (腹腔臓器、骨盤臓器の観察スケッチ、ブタ腎臓の外・内観スケッチ) 7 内臓に関する実習 (イヌ) (胸腔臓器、脳の観察スケッチ、ブタ心臓の内観スケッチ) 8 組織に関する実習 (舌、小腸、脾臓、肝臓、腎臓の観察スケッチ) 9 組織に関する実習 (肺、心筋、骨格筋、動・静脈、皮膚、骨の観察スケッチ) 10 体表の解剖学 (イヌ生体を用いた観察とスケッチ) 11 循環器系に関する実習 (自分自身の心電図の計測および波形の解釈、血圧の測定および値の解釈) 12 循環器系・呼吸器系・体温の調節に関する実習 (イヌを用いて安静時、運動後の TPR の測定) 13 感覚器系に関する実習 (視野の測定、2点弁別閾の測定、温冷覚の測定) 1 14 感覚器系に関する実習 (視野の測定、2点弁別閾の測定、温冷覚の測定) 2 15 腎機能に関する実習 (ブタ腎臓を用いた腎小体の観察および定量)								
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック								
スケッチ等はすべて返却するので、廃棄することをしないで、今後開講される応用科目等に役立てるようにしてほしい。								
履修上の注意								
解剖実習では実際の標本や解剖模型をスケッチしたり解剖図を模写したりするので、カラーリングアトラス、スケッチブック、色鉛筆を必ず持参すること。また講義で配布したプリントなども毎回持参すること。生理実習では、実習前に掲示指示されたものを忘れずに持参すること。								
事前・事後学修 (予習・復習) の内容								
実習の詳細は毎回資料を渡してそれに基づいて展開するが、事前に、1年次に勉強した形態学、生理学について復習してくることを心がけてほしい。これは予習であり、復習にもなる。								
評価方法 (評価基準を含む)								
授業への参加度 (70%) と試験・課題・レポート (30%) を総合的に判断する。								
教科書								
解剖学実習：犬の解剖カラーリングアトラス 日本獣医解剖学会 監修 学窓社 (1年次購入のもの) 解剖学実習および生理学実習：毎回資料を配付する。								
参考書、教材等								
家畜比較解剖図説、加藤嘉太郎著、養賢堂 基礎動物生理学、東條英昭著、アドスリー 基礎動物看護学1 動物形態機能学・繁殖学、インターズー 生理学、真島英信、文光堂 医科生理学展望、星猛ら、丸善 わかりやすい獣医解剖生理学 浅利昌男 監訳 文永堂								

授業科目	動物生態学				実務家教員	—	担当教員	茂木 千恵
科目英名	Animal Ecology							
開講期間	2年次 前期	動物看護学科 必修科目2単位	動物人間関係学科 選択科目2単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門基礎]	
到達目標								
動物の生態は生息環境に適応した形質を持つよう進化してきた。本講義では、動物生態学の基礎概念である二つの要因、すなわち個体の発達と機能という至近要因の理解と、自然選択による群内の維持戦略、生殖システム、社会コミュニケーションシステムの進化という究極要因の理解を目指す。次に家畜や伴侶動物の生態を解説し、学生が動物生態学の基礎概念に基づいた動物たちが持つ種に特有の習性を理解することを目指す。								
講義概要								
本講義では、生態学の基本概念、生態の進化、草食動物及び肉食動物の生活史、個体の発達と動機づけ、群内の維持戦略、生殖システム、社会コミュニケーションシステムについて解説する。さらに、家畜動物の生態、伴侶動物の生態を解説し、応用的分野として、アニマルウェルフェアに配慮した飼養管理技術や動物生態学的研究法の内容を取り扱う。								
授業計画								
<ol style="list-style-type: none"> 動物生態学の基本概念（至近要因と究極要因について） 野生動物の生態（肉食動物） 野生動物の生態（草食動物） 生態の進化（自然選択説） 個体の発達と群内序列の発達 周期性（概日リズム、年周期、概月リズム） 季節繁殖（長日繁殖と短日繁殖） 季節繁殖（季節の推移を知覚する脳内機構；メラトニン） 個体間コミュニケーション（視覚を用いたコミュニケーション） 個体間コミュニケーション（聴覚・嗅覚を用いたコミュニケーション） 哺乳類の生殖戦略（一夫一婦制、一夫多妻制、一妻多夫制、多夫多妻制） 社会システムと群れの意義（単独性動物との相違、群れることの意義） 摂食と排泄（食性の違いによる摂食様式の相違、排泄パターンの相違） 動物生態学的研究の基礎的手法（研究目標の設定方法、具体的調査研究法の紹介） まとめ（14回までの授業内容から特に重要な部分を再解説する） 								
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
毎講義終了時に授業内容の小テストを実施する。講義内容に関する質問も毎回講義終了後に受け付け、次回以降の講義時に解説する。								
履修上の注意								
<p>授業は配布資料、パワーポイントおよび板書をもとに進めていく。重要事項を積極的にノートに書きとるようにし、自筆ノートの作成と記憶の定着を心がけること。配布資料は忘れず持参すること。</p> <p>*欠席した場合は、次の授業までに、理由を明記した欠席届を提出あるいはメールを送ること。</p> <p>Moodleを利用した掲示、授業参考資料の配布などをするので、各講義前には確認を怠らないこと。</p>								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
<p>事前学修：次回の授業範囲の資料を精読し、専門用語の意味等を理解しておくこと。</p> <p>事後学修：各授業回の重要内容に該当する部分をノートにまとめること。配布資料を再度読んでおくこと。</p>								
評価方法（評価基準を含む）								
<p>学期末試験（60%）、授業への参加度（40%）から総合的に評価する。</p> <p>なお、授業への参加度は毎講義終了時に提出する出席回答と授業内容小テストを併せて評価する。</p>								
教科書								
<p>認定動物看護師教育コアカリキュラム 2019 準拠 応用動物看護学 3 《10004079》動物行動学／伴侶動物学／産業動物学／実験動物学／野生動物学</p>								
参考書、教材等								
参考書は講義の中で紹介する。								

授業科目	動物行動学			実務家教員	—	担当教員	茂木 千恵
科目英名	Ethology						
開講期間	2年次 後期	必修科目 2単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門基礎]	
到達目標							
<p>本講義では、臨床動物行動学の基本的な概念および伴侶動物にみられる問題行動の定義、診断、治療法を解説し、動物行動学的観点から伴侶動物の合理的かつ福祉的なハンドリングに応用できる知識を修得することを目標とする。講義修了時には、伴侶動物に関わる機会において、その個体の行動傾向を客観的に把握し、個体にとって最適なハンドリングを行う指針を独自で立てられるようになることが目標である。</p>							
講義概要							
<p>本講義では、まず動物行動学の基本概念、行動の進化・発達・動機づけ、個体間のコミュニケーション行動、生殖行動、社会行動を解説する。次に動物の学習理論、動物行動学研究の基礎的手法を解説するとともに、動物看護学が対象とする動物種、すなわち、イヌ、ネコ、コンパニオンバード、小型齧歯類、家畜動物、展示動物などにみられる問題行動の定義、発症要因、診断・治療法についても取り扱い、最後に、応用的内容として動物行動学的観点からの合理的かつ福祉的な動物のハンドリングについて学ぶ。</p>							
授業計画							
<ol style="list-style-type: none"> 1 動物行動学の基本概念（至近要因と究極要因） 2 行動の進化（自然選択説と包括適応度） 3 行動の動機づけ（生得的行動の探索行動と完了行動） 4 行動の発達と維持行動（新生子期、社会化期、若年期、成年期、および高齢期） 5 個体間コミュニケーション（五感を用いたコミュニケーション） 6 行動の学習（古典的条件付けとオペラント条件付け） 7 行動の修正方法（系統的脱感作、拮抗条件付け、高次条件付けなど） 8 問題行動の定義と要因（先天的要因と後天的要因） 9 行動診療の手順（カウンセリングとコンサルテーション） 10 犬における問題行動（攻撃性、恐怖性、ストレスによるものなど） 11 猫における問題行動（排泄に関するもの、攻撃性に関するもの） 12 犬、猫以外の伴侶動物における問題行動（鳥類、ウサギ、フェレット） 13 産業動物における問題行動（家畜および展示動物） 14 問題行動の予防（飼育前コンサルテーション、子犬教室、適切なハンドリング法など） 15 まとめ（14回までの授業内容から特に重要な部分を再解説する） 							
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
<p>毎講義終了時に授業内容の小テストを実施する。講義内容に関する質問も毎回講義終了後に受け付け、次回以降の講義時に解説する。</p>							
履修上の注意							
<p>授業は配布資料、パワーポイントおよび板書をもとに進めていく。重要事項を積極的にノートに書きとるようにし、自筆ノートの作成と記憶の定着を心がけること。配布資料は忘れず持参すること。 *欠席した場合は、次の授業までに、理由を明記した欠席届を提出あるいはメールを送ること。 Moodle を利用した掲示、授業参考資料の配布などをするので、各講義前には確認を怠らないこと。</p>							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
<p>事前学修：次回の授業範囲の資料を精読し、専門用語の意味等を理解しておくこと。 事後学修：各授業回の重要内容に該当する部分をノートにまとめること。</p>							
評価方法（評価基準を含む）							
<p>学期末試験（60%）、授業への参加度（40%）から総合的に評価する。 なお、授業への参加度は毎講義終了時に提出する出席回答と授業内容小テストを併せて評価する。</p>							
教科書							
<p>認定動物看護師教育コアカリキュラム 2019 準拠 応用動物看護学 3 《10004079》動物行動学／伴侶動物学／産業動物学／実験動物学／野生動物学</p>							
参考書、教材等							
<p>獣医学教育モデル・コア・カリキュラム準拠 臨床行動学（森裕司、他著）インターズー</p>							

授業科目	動物遺伝学			実務家 教員	—	担当教員	石川 牧子
科目英名	Animal Genetics						
開講期間	1 年次 後期	必修科目 2 単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門基礎]	
到達目標							
<p>ヒトを始め、ヒトとの関連が深い動物等を例にとり、メンデル遺伝学を中心とする従来の遺伝学、分子遺伝学を中心とする新たな遺伝学、さらに実際に活用されている応用遺伝学に至るまでを体系的に学修し、動物看護学並びに動物人間関係学の両専攻において必要となる動物遺伝学の基礎知識の修得を到達目標とする。</p>							
講義概要							
<p>遺伝学は、現在、生命科学全体の中で中心的な法則を構成する存在となっている。遺伝学の概念は、それまでの古典的な経験法則の累積から、近年の分子遺伝学や集団遺伝学の著しい進歩により理論的構成をもつ学問へと確立されてきた。本講義ではメンデル遺伝学を中心とする遺伝学の基本的概念を解説する。また、従来のメンデル遺伝学と分子遺伝学との関連、さらに、これらが実験動物、産業動物や伴侶動物においてどのように利用されているかを紹介し、遺伝学が生殖学や発生工学とどのように関連しているかを解説する。</p>							
授業計画							
<ol style="list-style-type: none"> 1 身近な遺伝学 2 遺伝の基本法則 (1) メンデルの法則 3 遺伝の基本法則 (2) メンデルの法則の拡張 4 遺伝子の構造と機能 (1) DNA の構造 5 遺伝子の構造と機能 (2) 遺伝子の複製と情報伝達 6 染色体 7 連鎖 8 遺伝地図の作成 9 突然変異 10 性の遺伝 11 集団の遺伝 12 量的形質の遺伝 13 遺伝と進化 14 遺伝子からみた日本人 15 授業の総括 							
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック							
<p>授業ごとに小テストを行い、その解説と質問・意見への対応を示す。</p>							
履修上の注意							
<p>基礎生物学を受講しておくことが望ましい。</p>							
事前・事後学修 (予習・復習) の内容							
<p>授業で配付した資料を復習して理解を深め、次回授業の予習とする。</p>							
評価方法 (評価基準を含む)							
<p>授業ごとの小テスト(40%)、節目ごとの試験(レポートを含む、60%)により総合的に評価する。</p>							
教科書							
<p>教科書は特に指定しない。講義時に資料を配布する。</p>							
参考書、教材等							
<p>カラー図解 進化の教科書 第2巻 進化の理論, 2017年, カール・ジンマー, ダグラス.J・エムレン著, 更科功, 石川牧子, 国友 良樹訳 その他の参考書は、講義内で指示する。</p>							

授業科目	動物繁殖学			実務家 教員	—	担当 教員	◎長島 孝行・加田 日出美
科目英名	Theriogenology						
開講期間	3年次 後期	必修科目 2単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門基礎]	
到達目標							
繁殖が順調に行われなければ、動物の種あるいは品種は維持できない。繁殖は生命にとって根幹な事象である。動物繁殖学では繁殖の基礎的部分と、繁殖の実際や繁殖の病的な状態について総合的に理解を深めることを目標とする。							
講義概要							
動物看護の分野において、動物の生殖の仕組みや生殖現象を理解し、飼養管理や臨床面の問題に対処、応用できるようにする。 本科目では、生殖器の構造、機能と生殖系、生殖機能のホルモン支配、性成熟と性周期、家畜繁殖の人為的支配、受精着床妊娠及び分娩を学修する。							
授業計画							担当教員
1 雌性・雄性生殖器の構造と機能							加田
2 卵子と精子の構造 受精							加田
3 繁殖に関与する内分泌							加田
4 性成熟・性周期							加田
5 妊娠・発生・胎盤							加田
6 分娩・性決定・性行動 鳥類の生殖							加田
7 乳腺と泌乳							加田
8 人工授精と受精卵移植							加田
9 避妊、去勢手術について							加田
10 雄性生殖器の疾患							加田
11 雌性生殖器の疾患							加田
12 イヌとネコの繁殖の実際 1)							長島
13 イヌとネコの繁殖の実際 2)							長島
14 イヌとネコの繁殖の実際 3)							長島
15 繁殖の課題とまとめ							長島
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
試験終了後に正解を公開する。							
履修上の注意							
3年次前期までの諸授業の中に登場する動物の繁殖に関わる事項を理解しておいてほしい。また授業に意欲をもって臨んでほしい。							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
各回のおおよその講義内容を示してあるので、事前には、これまで学んだ関連学科目のところから復習を行うこと。事後には授業時の資料を丹念に読み返すこと。							
評価方法（評価基準を含む）							
授業への参加度（40%）と定期試験（60%）により評価する。							
教科書							
基礎動物看護学① 動物形態機能学・動物繁殖学（「動物形態機能学」の科目でも使用）							
参考書、教材等							
必要に応じて、授業時に資料を配付する。							

授業科目	動物薬理学			実務家教員	—	担当教員	◎富田 幸子・近藤 昌弘 藤村 響男
科目英名	Animal Pharmacology						
開講期間	2 年次 前期	動物看護学科 必修科目 2 単位	動物人間関係学科 選択科目 2 単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門科目]
到達目標							
動物診療に携わる動物看護師が、看護活動の際に必要な薬を正しく保管し、また安全に取り扱えるようにする。さらに薬の投与や投与後の動物の管理、観察を主体的かつ的確に行なえるように、生体と薬の関わり合いについて基礎的な知識を修得することを到達目標とする。							
講義概要							
動物診療に携わる動物看護師が、看護活動の際に必要な薬を正しく保管し、また安全に取り扱えるようにする。さらに薬の投与や投与後の動物の管理、観察を主体的かつ的確に行なえるように、生体と薬の関わり合いについて基礎的な知識を修得する。講義の第 1 回から第 4 回では薬の取り扱いと動物薬理学の基礎（総論）を講義する。第 5 回以降の各論では臨床で使用される代表的な薬を取り上げ、対象となる疾患の成因や病態を理解しながら、その薬効メカニズムや効果、また副作用についても説明する。							
授業計画							担当教員
1 薬の取り扱いについて 2 薬の作用機序 3 薬の体内動態 4 薬物療法を左右する因子、薬の半減期と耐性について 5 神経に作用する薬 6 呼吸器に作用する薬 7 循環器・泌尿器に作用する薬 8 消化器に作用する薬 9 オータコイド関連薬(抗炎症薬) 10 化学療法薬 1 (抗菌薬、消毒薬) ゲストスピーカー 11 化学療法薬 2 (寄生虫駆除薬) ゲストスピーカー 12 化学療法薬 3 (抗腫瘍薬) ゲストスピーカー 13 薬の副作用と薬物相互作用、薬の添付文書について 14 代謝・内分泌系の薬 15 血液・免疫系に作用する薬							藤村 響男 藤村 響男 藤村 響男 藤村 響男 藤村 響男 藤村 響男 近藤 昌弘 近藤 昌弘 近藤 昌弘 近藤 昌弘 近藤 昌弘 近藤 昌弘 富田 幸子 富田 幸子
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
確認テストは授業の中で解答の解説を行う。							
履修上の注意							
各講義後に moodle での小テスト（確認テスト）を実施する。結果は評価に入るので必ずうけること。							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
事前学修：講義前に各回のテーマについて教科書等を使用して可能な限り予習をする。 事後学修：授業で示されたポイント事項及び実施された確認テストについては、配布資料、教科書等をもとに復習を行い、知識を確実なものにする。							
評価方法（評価基準を含む）							
授業への参加度 20%（レポート提出を含む）と筆記試験 80%（定期試験 50%、小テスト 30%）の結果等を踏まえ総合的に評価する。							
教科書							
認定動物看護師教育コアカリキュラム 2019 準拠 基礎動物看護学 2 動物病理学/動物薬理学(日本動物保健看護系大学協会 カリキュラム委員会編) インターズー							
参考書、教材等							
参考書については講義の中で紹介する。							

授業科目	動物病理学				実務家教員	—	担当教員	梅村 隆志
科目英名	Animal Pathology							
開講期間	2年次 前期	動物看護学科 必修科目2単位	動物人間関係学科 選択科目2単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育〔専門基礎〕	
到達目標								
病理学は動物の健康状態や疾病を理解する上で基礎となる極めて重要な科目である。様々な疾病がどのような原因で生じ、体内でどのような生体変化が起き、どのような経過をたどるのかという疾患概念について学修し、病気について総合的に把握することで臨床現場における種々の動物看護行為の学問的背景を理解することを目的とする。								
講義概要								
病理学は動物の健康状態や疾病を理解する上で基礎となる極めて重要な科目である。様々な疾病がどのような原因で生じ、体内でどのような生体変化がおき、どのような経過をたどるのかという疾患概念についての基礎知識を学習し、病気について総合的に理解する。								
授業計画								
<ol style="list-style-type: none"> 1 病理学分野に関する概論 2 恒常性の維持（ホメオスタシス、フィードバック機構） 3 退行性病変（変性、壊死、アポトーシス、萎縮） 4 進行性病変（再生、過形成、化生、創傷治癒） 5 循環障害（局所性循環障害、全身性循環障害） 6 炎症（炎症の定義、原因、転帰） 7 急性炎症と慢性炎症（化学伝達物質、サイトカイン） 8 免疫（免疫の基礎、液性免疫、細胞性免疫） 9 免疫異常（自己免疫疾患、アレルギー、免疫不全） 10 腫瘍1（概念、分類） 11 腫瘍2（遺伝子損傷、がん（抑制）遺伝子） 12 血液（血液について、造血組織、血液疾患） 13 遺伝と先天異常（病因、遺伝病、染色体異常、発生様式、奇形の分類） 14 代謝異常（糖質・タンパク質・核酸・脂質・無機質・色素代謝の障害） 15 老化とまとめ 								
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
提出されたレポートに関して、後日、評価基準の説明を行う予定である。								
履修上の注意								
動物解剖学、生化学、生理学等の基礎科目をきちんと理解しておく必要がある。また、病理学で用いられる用語について修得して欲しい。								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
シラバスを参考に事前に基礎知識の収集に努めること。授業中に示された資料に基づきノートをまとめ、教科書を用いて復習し、図書館等を利用して知識の上積みに努めること。								
評価方法（評価基準を含む）								
授業への参加度（20%）、レポート（20%）、定期試験（60%）での総合評価								
教科書								
動物看護師教育コアカリキュラム 2019 準拠 基礎動物看護学② 動物病理学・動物薬理学（インターズー）								
参考書、教材等								
シンプル病理学（南江堂）								

授業科目	動物臨床看護学（基礎）			実務家 教員	—	担当 教員	◎富田 幸子・鈴木 友子
科目英名	Veterinary Technology-Basic						
開講期間	1年次 前期	必修科目 2単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門科目]	
到達目標							
動物臨床看護学の導入となる根幹科目で、これからの動物の臨床看護を学ぶ上で必要な基本的な知識と技術理論を総括的に学修する。動物の命を扱う動物看護師としての職業意識を自覚、発展させる。							
講義概要							
本科目は動物臨床看護学の導入となる根幹科目であり、これから動物臨床看護学を学ぶ上で必要なマナー、基本的な知識と技術理論を総括的に学修する。その結果として動物の命を扱う動物看護師としての職業意識を自覚、発展させることが到達目標である。また、動物臨床看護学（基礎）実習と合わせて、イヌ・ネコの観察、扱い方等を学びながら、臨床で要求される保定法やバイタルサインのチェック、投薬補助、入院・診察時の看護補助等の基礎的な知識を修得する。							
授業計画							担当教員
1 オリエンテーション、動物看護師とは							富田 幸子
2 動物看護師としてのマナー、挨拶、コミュニケーション							富田 幸子
3 動物臨床看護学を学ぶ上で必要な基礎知識（チーム動物医療、QOL）							富田 幸子
4 動物看護過程（アセスメント、看護診断、看護計画、看護実践、看護評価）							富田 幸子
5 動物診療記録と動物看護記録（POS、POMR、SOAP）							富田 幸子
6 経過に基づく動物看護（健康期、急性期、回復期、慢性期、終末期）							富田 幸子
7 動物の健康保持（日常管理、入院看護）							富田 幸子
8 衛生・安全管理と環境整備（予防、検疫と隔離、安全対策）							富田 幸子
9 対動物関係の技術（動物へのアプローチ、散歩・運動技術、ハンドリングと保定）							鈴木 友子
10 動物の生活を援助するための技術（栄養管理、摂食・排泄のアセスメント）							鈴木 友子
11 診察時に必要な補助（動物看護師の役割、動物・飼い主の心理、器具準備と管理）							鈴木 友子
12 侵襲的処置の介助技術（穿刺、カテーテル挿入留置）							鈴木 友子
13 投薬の援助技術（投薬法、剤形の種類、薬剤の保存）							鈴木 友子
14 輸液・輸血に関わる技術（輸液・輸血時の看護師の役割）							鈴木 友子
15 ノミ・フィラリアの感染と予防/消毒薬（濃度計算・単位換算の復習）							鈴木 友子
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
レポート等にコメントを返す。							
履修上の注意							
学ぶ事柄が広範で基本的な項目が多いので、段階的に学ぶ専門科目の教科書や参考書に目を通して、専門用語を調べるなどして、その科目に馴染んでおくことを勧める。							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
事前学習：授業の内容に関する教科書等を読み、実習とも関連づける。							
事後学習：授業および実習の資料等を見返し、ノート等にまとめる。							
評価方法（評価基準を含む）							
授業への参加度及びレポート課題（50%）、定期試験等（50%）の総合評価							
教科書							
1) 臨床動物看護学 1 動物内科看護学 動物外科看護学 動物医療コミュニケーション 日本動物保健看護系大学協会カリキュラム委員会編（インターズー）							
参考書、教材等							
講義で随時紹介する。							

授業科目	動物臨床看護学（基礎）実習			実務家教員	—	担当教員	◎富田 幸子・三井 香奈 荒川 真希・秋山 蘭 友野 悠
科目英名	Veterinary Technology-Basic						
開講期間	1年次 後期	必修科目 2単位	授業形態	実習	科目区分	専門教育 [専門科目]	
到達目標							
動物臨床看護学の導入となる根幹科目で、これからの動物の臨床看護を学ぶ上で必要な基本的な知識と技術理論を総括的に学修する。動物の命を扱う動物看護師としての職業意識を自覚、発展させる。							
講義概要							
動物臨床看護学（基礎）の講義を受け、動物看護師としての知識と技術を兼ね備えるために、犬を使用して実践的な実習を展開する。 立位・座位・横臥位等検査部位で変わる保定法について講義する。その上で犬を用いて一般身体検査、採血、投薬、輸液に使用される静脈、心電図検査、心音肺音の聴診等の知識について実習を行う。また、血液検査に用いる器具の取り扱い、薬液量の計算、糞便検査、輸液の種類及び輸液のセット方法や投薬方法等動物臨床看護に直結する実務的な基礎実習を行う。							
授業計画							
<ol style="list-style-type: none"> 動物看護学の基礎知識：動物臨床看護学実習における諸注意、消毒法 イヌの扱い方：ボディランゲージ観察、リーシュの掛け方、ケージからの出し方 保定法 I：保定法の基礎 保定法 II：処置・検査時の保定 ネコの扱い方：扱い方と保定法 身体検査 I：フィジカルアセスメント、バイタルサイン 身体検査 II：頭部、体幹、四肢、尾 身体検査 III：体表リンパ節、身体検査まとめ 調剤と薬用量計算：剤型と調剤器具の使用法 投薬法：投薬方法と飼い主への説明 注射器と薬液の取り扱い：薬液量の計算、バイアル・アンプルからの吸引 ワクチン：ワクチンの種類と証明書の記入方法、接種前後の注意点 保定法復習：横臥位を含む保定法 総まとめ：実習で修得した技術の復習 実技チェック：実習で修得した技術のチェック 							
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
レポート等にコメントを返す。							
履修上の注意							
学ぶ事柄が広範で基本的な項目が多いので、段階的に学ぶ専門科目の教科書や参考書に目を通して、専門用語を調べるなどして、その科目に馴染んでおくことを勧める。							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
事前学習：授業の内容に関する教科書等を読み、実習とも関連づける。 事後学習：授業および実習の資料等を見返し、ノート等にまとめる。							
評価方法（評価基準を含む）							
授業への参加度及び課題レポート（60%）、定期試験（実技及び筆記試験）等（40%）の総合評価							
教科書							
1) 臨床動物看護学1 動物内科看護学 動物外科看護学 動物医療コミュニケーション 日本動物保健看護系大学協会カリキュラム委員会編（インターズー）							
参考書、教材等							
1) よく診る犬の疾患・猫の疾患 50（鈴木立雄、interzoo） 2) 動物看護学テキスト（改訂第2版）、谷口明子著、ファームプレス 3) 動物看護の実践（第2版）ファームプレス							

授業科目	動物臨床看護学（内科）				実務家 教員	—	担当 教員	◎谷口 明子・櫻井 富士朗
科目英名	Veterinary Technology-Internal Medicine							
開講期間	2 年次 後期	動物看護学科 必修科目 2 単位	動物人間関係学科 選択科目 2 単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門科目]	
到達目標								
臨床で遭遇する頻度の高い主要内科疾患の病因や病態を理解し、必要な看護を構築できる。								
講義概要								
主要な内科疾患に関してその病因、病態、治療法と看護の注意点について講義する。								
授業計画								担当教員
1 呼吸器疾患の看護 1： 代表的な呼吸器疾患について 2 呼吸器疾患の看護 2： 呼吸器疾患に対する看護について 3 感染症疾患の看護 1： 代表的な感染症について 4 感染症疾患の看護 2： 感染症の検査と看護について 5 免疫疾患の看護： 代表的なアレルギー疾患・自己免疫性疾患と看護について 6 消化器疾患の看護 1： 代表的な消化器疾患について 7 消化器疾患の看護 2： 消化器疾患に対する看護について 8 神経疾患の看護： 代表的な神経疾患と看護について 9 腫瘍疾患の看護： 腫瘍疾患と看護について 10 内分泌疾患の看護： 内分泌疾患と糖尿病 11 循環器疾患の看護： 心臓疾患と看護について 12 皮膚疾患の看護： 皮膚疾患とかゆみの看護 13 感覚器疾患の看護： 感覚器(目と耳)の疾患と看護 14 泌尿器疾患の看護： 泌尿器疾患の看護について 15 生殖器疾患の看護： 生殖器疾患の看護診断								谷口 谷口 谷口 谷口 谷口 谷口 谷口 谷口 谷口 櫻井 櫻井 櫻井 櫻井 櫻井 櫻井
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
授業内に小テストを行った場合は、授業内で解説を行なうあるいは資料を配布。レポートは原則返却しないが、総評を行なう。								
履修上の注意								
毎回の講義に対して十分な予習と復習を行うことを希望する。								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
教科書等の該当部分に事前事後に目を通す、ノートにまとめるなど必要に応じて自習する。質問は随時受け付ける。								
評価方法（評価基準を含む）								
学期末定期試験（60%）、レポートまたは小テスト（20%）、授業への参加度（20%）を考慮して総合的に評価する。								
教科書								
1) 認定動物看護師教育コアカリキュラム 2019 準拠 臨床動物看護学 3 動物臨床看護学総論/動物臨床看護学各論（日本動物保健看護系大学協会 カリキュラム委員会編）インターズー 2) 動物臨床に役立つやさしい免疫学 ファームプレス 2) 講義内容に沿ったプリントを配布する。								
参考書、教材等								
1) ビジュアルで学ぶ動物看護学（第 2 版）緑書房 2) 疾患別 動物看護学ハンドブック（日本獣医生命科学大学獣医保健看護学科 臨床部門編）インターズー 3) 「よく診る犬の疾患・猫の疾患 60」（鈴木立雄著）インターズー								

授業科目	動物臨床看護学（内科）実習			実務家教員	—	担当教員	◎谷口 明子・荒川 真希 三井 香奈・友野 悠 藤井 聖久
科目英名	Veterinary Technology-Internal Medicine, Student Laboratory						
開講期間	2年次 後期	動物看護学科 必修科目 2 単位	動物人間関係学科 選択科目 2 単位	授業形態	実習	科目区分	専門教育 [専門科目]
到達目標	動物臨床看護学（内科）講義で学んだ内科疾患の知識をもとに、疾患別に必要とされる看護の実践的な知識・技術を修得することを目的とする。						
講義概要	動物臨床看護学（基礎）実習で学んだ保定法、一般身体検査、輸液方法等を基盤に、投薬、医療器具による治療、幼齢・高齢動物の看護、疾病動物（飼い鳥を含む）の栄養や給餌方法等を実践する。さらに、代表的な疾患の症状・所見についての病態の理解と看護の観点からの対処方法を実習する。						
授業計画							担当教員
1 妊娠動物の看護							荒川・三井
2 高齢動物の看護							荒川・藤井
3 皮膚に異常を認める動物の看護							三井・藤井
4 入院動物の看護（留置）							友野・谷口
5 入院動物の看護（輸液）							友野・谷口
6 疾病動物の栄養管理と給餌法							荒川・藤井
7 呼吸・心拍に異常を認める動物の看護							友野・藤井
8 鳥の看護（招聘講師）							荒川
9 感染症の動物の看護							荒川・藤井
10 保定法および身体検査総合							谷口・藤井
11 神経症状を示す動物の看護							友野・藤井
12 感覚器に異常を示す動物の看護							荒川・藤井
13 侵襲的処置の介助技術							三井・谷口
14 まとめ							谷口・藤井
15 実技試験							谷口・藤井
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック	レポートはコメントして返却、あるいは返却しない場合は総評を行なう。質問は随時受け付ける。						
履修上の注意	実習は順序を変更することがある。						
事前・事後学修（予習・復習）の内容	1 年次動物臨床看護学(基礎)実習配布物を含め、教科書等の該当部分に事前事後に目を通す、ノートにまとめる、など必要に応じて指導する。						
評価方法（評価基準を含む）	授業への参加度(60%)、レポート(10%)、実技試験、筆記試験(30%)結果を総合的に判断して評価する。						
教科書	動物看護学テキスト（第2版）谷口明子著 ファームプレス、配布プリント						
参考書、教材等	1) 写真でわかる基礎の動物看護技術ガイド、誠文堂新光社。 2) 臨床動物看護学 1、インターズー						

授業科目	動物臨床看護学（外科）				実務家教員	—	担当教員	◎武藤 眞・宮田 拓馬
科目英名	Veterinary Technology - Surgery							
開講期間	3 年次 前期	動物看護学科 必修科目 2 単位	動物人間関係学科 選択科目 2 単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門科目]	
到達目標								
外科看護に必要な犬や猫が罹患する外科疾患について解説すると同時に、これらの疾患に対してどのような看護が必要となるのかを理解し、実践的な内容を理解することが到達目標である。								
講義概要								
犬と猫の外科疾患の原因と受傷部位及びその症状を示すとともに、必要な検査方法ならびに外科的治療法について解説する。本科目では、器官別に重要な疾患を取り上げ、それぞれの疾患を概説するとともに、病態に基づく看護の知識と実践について学修する。								
授業計画								担当教員
1 小動物外科、犬と猫（骨格系と内臓系、犬と猫の身体的相違点について解説）								武藤 眞
2 滅菌と消毒、術前準備（手術器具の滅菌法、術野の消毒法、手術前の手洗いについて解説）								武藤 眞
3 手術器具と手術補助、手術室管理（手術器具の名称と使い方、手術時の補助について解説）								武藤 眞
4 周術期の管理、創傷管理、包帯法（術前・術中・術後の管理と創傷の管理について解説）								武藤 眞
5 循環器、呼吸器の疾患（動脈管開存症、僧帽弁閉鎖不全症、気管虚脱、横隔膜ヘルニアなどについて解説）								武藤 眞
6 消化器、泌尿生殖器の疾患（巨大食道、胃捻転、腸閉塞、尿路結石、子宮蓄膿症などについて解説）								武藤 眞
7 脳神経疾患、ショック、救急救命法（てんかん、椎間板ヘルニアなどについて、ショックの病態と処置法、救急救命法について解説）								武藤 眞
8 耳と目の疾患（外耳炎、耳血腫、角膜損傷、白内障などについて解説）								宮田 拓馬
9 整形疾患とリハビリテーション 1（骨折と脱臼の診断と治療法について解説）								宮田 拓馬
10 整形疾患とリハビリテーション 2（股関節や肘関節の形成不全、リハビリテーション、理学療法の方法について解説）								宮田 拓馬
11 腫瘍 1（腫瘍の概要、診断方法について解説）								宮田 拓馬
12 腫瘍 2（外科や放射線療法などの治療法、末期がん患者の看護援助について解説）								宮田 拓馬
13 麻酔と鎮静 1（犬と猫の麻酔法と鎮静法と鎮痛法について解説）								宮田 拓馬
14 麻酔と鎮静 2、モニタリング（麻酔事故の予防と麻酔中のモニタリングについて解説）								宮田 拓馬
15 抗生物質、総合（抗生物質の種類と使用法、CT および MRI について解説）								宮田 拓馬
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
試験の模範解答を示したり、質問があった場合は丁寧に対応する。								
履修上の注意								
外科看護学を修得する上で、解剖学や生理学等の基礎的知識とともに、内科学や病理学を中心とした疾患の基礎知識を有することが必要不可欠となる。これらの科目について、十分に復習してくることと、それを基本として、新しく学んだ外科学的知識をしっかりと定着させることを心がけてほしい。								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
事前学修：各回授業内容に関連する当該教科書の内容について、予習しておくこと								
事後学修：毎回授業後、講義資料と教科書の該当箇所を突き合わせ、ノート整理を行うこと								
評価方法（評価基準を含む）								
定期試験（70%）と授業への参加度（30%）を総合的に評価する								
教科書								
認定動物看護師教育コアカリキュラム 2019 準拠 臨床動物看護学 1、3 インターズー 毎回、資料を配布する								
参考書、教材等								
その都度、お知らせする。								

授業科目	動物臨床看護学（外科）実習			実務家 教員	—	担当 教員	◎秋山 蘭・尾崎 明恵 浴本 涼子
科目英名	Veterinary Technology-Surgery, Student Laboratory						
開講期間	3年次 前期	動物看護学科 必修科目2単位	動物人間関係学科 選択科目2単位	授業形態	実習	科目区分	専門教育〔専門科目〕
到達目標							
小動物の外科診断および、治療における基本事項、特に器具、機材、消毒法、滅菌法の手技について実際的な技術が修得できるようにすることである。また、術前～術後管理まで、麻酔、鎮静、鎮痛に関する知識および看護技術を修得する。							
講義概要							
犬と猫の外科診断及び基本事項、特に器具、機材、消毒法、滅菌法、術前から術後管理、麻酔、鎮静、鎮痛に関する手技について実際的な技術が修得できるように、より実践的な内容で実習を行う。 (秋山 蘭・尾崎 明恵・浴本 涼子/10回) (共同) 外科手術の術前準備、術後管理、X線防護と実務、特殊レントゲン、超音波診断装置の取扱い、内視鏡装置の取扱い、剖検、救急救命対応、特殊外科疾患、病院受付業務、入院動物の管理について実習を行う。 (秋山 蘭・尾崎 明恵/5回) (共同) 外科手術の術前準備、手術の補佐と器具渡し、包帯法、輸液装置の準備、小動物歯科の実習を行う。							
授業計画							担当教員
1 外科手術の術前準備 1(術者の手洗い消毒、ドレープ準備)							秋山
2 外科手術の術前準備 2(外科手術用リネンの取扱い)							尾崎
3 外科手術の術前準備 3(キャップ、マスク、手洗い、ガウン、グローブ装着)							秋山
4 外科手術の術前準備 4(術野および器械台の消毒法、ドレーピング、小動物一般外科器具)							尾崎
5 外科手術の術前準備 5(麻酔薬、麻酔器、小動物一般外科器具の取扱い、縫合補助)							尾崎
6 外科手術の術前準備 6(気道確保、気管挿管に関する保定、準備)							秋山
7 医療機器関連の取扱い(生体モニター、電気メス、内視鏡装置、超音波診断装置など)							秋山
8 救命救急対応(心臓マッサージ)/終末期医療							浴本
9 X線の防護および実務 1(フィルム管理、撮影時のポジショニング)							浴本
10 X線の防護および実務 2(現像、正常像と異常像の読影)							浴本
11 外科手術後管理(ドレッシング材、包帯材、包帯法、外用薬の調剤)							秋山
12 小動物歯科(チャーターリング、歯科器具)							浴本
13 特殊外科疾患(整形外科疾患、リハビリテーション)							秋山
14 個人防護具の取扱(抗がん薬の取扱い、個人防護具)/総復習							尾崎
15 外科総合							秋山
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
小テストを実施後、解答の解説を行うこととする。レポートはコメントして返却する。							
履修上の注意							
服装および、衛生面に注意すること。連絡事項に注意すること。							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
事前学修「各授業回の内容に関連する教科書のページを読んでおくこと」 事後学修「毎授業後、実習資料の内容および実技について復習をしておくこと」							
評価方法（評価基準を含む）							
授業への参加度（50%）、課題レポート（10%）、実技試験（20%）、筆記試験（20%）で総合的に評価。							
教科書							
臨床動物看護学1 全国動物保健看護系大学協会カリキュラム検討委員会、インターズー							
参考書、教材等							
授業内で必要に応じて参考書等を提示する。							

授業科目	動物臨床看護学（総合）			実務家 教員	—	担当 教員	◎富田 幸子・谷口 明子 本田 三緒子・小方 宗次
科目英名	Veterinary Technology-Basic						
開講期間	3年次 後期	動物看護学科 選択科目 2単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門科目]	
到達目標							
本講義は、3年次までに個々に教授されてきた動物臨床看護関連科目を1つにまとめ、実際の動物看護に必要な知識や考え方を総合的に理解できることを目標とする。							
講義概要							
3年次までに教授された内容を土台に、より専門的に病態、臨床病理、診断、治療、看護を相互に関連づけて総合的に概説する。							
授業計画							担当教員
1 発病の病態生理 2 動物看護過程の展開と看護 3 外傷性疾患と看護 4 若齢および新生仔の看護 5 感覚器疾患を示す疾患の特徴と看護 6 皮膚疾患に対する看護 7 口腔疾患に対する看護 8 内分泌疾患に対する看護 9 循環器疾患に対する看護 10 神経疾患症例に対する看護 11 消化器症状を示す疾患の特徴と看護 12 泌尿器疾患およびワクチンの特徴と看護 13 貧血を示す疾患の特徴と看護 14 終末動物医療と看護師の役割 15 運動器疾患の特徴と看護							富田 幸子 富田 幸子 本田 三緒子 富田 幸子 小方 宗次 小方 宗次 本田 三緒子 富田 幸子 富田 幸子 谷口 明子 谷口 明子 富田 幸子 小方 宗次 小方 宗次 本田 三緒子
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
要望やメッセージに対しては、その都度回答する。							
履修上の注意							
都合により順序を変更することがある。動物臨床看護学・基礎・内科・外科について十分な理解をもっており、講義の進行状況により前の時間に配付した資料を必要とすることがあるため持参すること							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
事前学修「各授業回の内容に関連する教科書のページを読んでおくこと」 事後学修「毎授業後、講義資料を復習し、興味ある点を自習により補足すること」							
評価方法（評価基準を含む）							
授業への参加度および課題レポート（40%）と学期末試験結果（60%）を総合して評価する。							
教科書							
1) 臨床看護学3 動物臨床看護学総論 動物臨床看護学各論 日本動物保健看護系大学協会 カリキュラム委員会編（インターズー） 2) 疾患別動物看護学ハンドブック：日本獣医生命科学大学獣医保健看護学科編・緑書房							
参考書、教材等							
1) よく診る犬の疾患・猫の疾患（鈴木立雄、interzoo）、2) 獣医内科学・小動物編（日本獣医内科学アカデミー、文永堂出版）、3) 獣医看護学・上、下巻（山村穂積監訳、チクサン出版社）、小動物の臨床病理学マニュアル（日本獣医臨床病理学会、学窓社）、4) Clinical Textbook for Veterinary Technicians (J. M. Bassert, et. al, Saunders)							

授業科目	動物臨床看護学（総合）実習			実務家 教員	—	担当 教員	◎富田 幸子・谷口 明子 本田 三緒子・小方 宗次
科目英名	Veterinary Technology-Comprehensive,Student Laboratory						
開講期間	3年次 後期	動物看護学科 選択科目 2単位	授業形態	実習	科目区分	専門教育 [専門科目]	
到達目標							
本講義は、3年次までに個々に教授された動物看護科目を1つにまとめ、実際の動物看護に必要な知識を総合的に応用し、実践できることを到達目標とする。							
講義概要							
看護に必要な事項を生体の生理機能から解説し、疾病に移行する過程、さらにその患者を内科的あるいは外科的に看護する一つの流れを理解させると同時に、看護の実践に関わる関連項目の必要性について認識させる。							
授業計画							担当教員
1 動物看護過程の展開 2 内科疾患症例に対する看護－特定疾患症例に対する看護 3 外科疾患症例に対する看護－特定疾患症例に対する看護 4 新生仔の看護 5 感覚器疾患症例に対する看護 6 皮膚疾患に対する看護 7 口腔内疾患に対する看護 8 老齢動物の看護 9 循環器疾患に対する看護 10 神経疾患症例に対する看護 11 消化器疾患に対する看護 12 泌尿器疾患に対する動物看護 13 各種モニターに対する看護師の役割 14 ターミナルケアと動物看護 15 リハビリテーションと看護							富田 幸子 小方 宗次 本田 三緒子 富田 幸子 小方 宗次 小方 宗次 本田 三緒子 富田 幸子 富田 幸子 谷口 明子 谷口 明子 富田 幸子 本田 三緒子 小方 宗次 本田 三緒子
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
要望やメッセージに対して、速やかに回答する。							
履修上の注意							
動物臨床看護学・基礎・内科・外科について十分な理解をもっていること。これまでの動物看護に関わる講義の総集としての意味を良く理解すること							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
事前学修「各授業回の内容に関連する教科書のページを読んでおくこと」 事後学修「毎授業後、実習資料の内容と実技について復習をしておくこと」							
評価方法（評価基準を含む）							
授業への参加度、課題レポート（50%）と学期末筆記試験（50%）により評価する。							
教科書							
1) 臨床動物看護学3 動物臨床看護学総論 動物臨床看護学各論 日本動物保健看護系大学協会 カリキュラム委員会編(インターズー) 2) 疾患別動物看護学ハンドブック：日本獣医生命科学大学獣医保健看護学科編・緑書房							
参考書、教材等							
1) 山村穂積監修、動物看護学（上・下）、チクサン出版社 2) 日本動物看護学会（編）、動物看護学（総論・各論）、日本動物看護学会							

授業科目	動物臨床検査学				実務家 教員	○	担当 教員	◎岡崎 登志夫 宮井 紗弥香
科目英名	Animal Clinical Examination Study							
開講期間	2年次 前期	動物看護学科 必修科目2単位	動物人間関係学科 選択科目2単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門科目]	
到達目標								
各種検査項目の方法や臨床的意義などの基礎的事項を理解し、検査の目的を知った上で検査を実行し、得られたデータが適切なものであるかどうか、自ら判断し診断に必要な検査データが何であるか、自ら考えながら検査に取り組むことができる。								
講義概要								
動物病院では動物の病気を診断したり、治療したりするために様々な検査が実施される。また最近では、老化やストレスに伴う病気の予防のために動物の健康診断を希望する飼い主も増えている。検査の原理や検査データの見方、考え方について解説し、動物臨床検査の重要性を実感させる。								
授業計画								担当教員
1 動物臨床検査の進歩と現状 2 血液の分離と成分（電解質） 3 血球と溶血検査 4 生化学検査（タンパク質） 5 生化学検査（酵素） 6 電気泳動 7 凝固・線溶検査 8 血液型、輸血検査 9 尿検査（生化学） 10 尿検査（形態学） 11 糞便検査 12 微生物検査（細菌） 13 微生物検査（真菌、ウイルス） 14 皮膚、耳垢検査 15 遺伝子検査、総まとめ								岡崎 登志夫 岡崎 登志夫 岡崎 登志夫 岡崎 登志夫 岡崎 登志夫 岡崎 登志夫 岡崎 登志夫 岡崎 登志夫 宮井 紗弥香 宮井 紗弥香 宮井 紗弥香 宮井 紗弥香 宮井 紗弥香 宮井 紗弥香 宮井 紗弥香
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
毎回、前回の授業内容について小テストを実施し、その答について各自で採点し、到達度を自己評価できるようにする。また、解答用紙を回収し、次回、全体の到達度をフィードバックする。								
履修上の注意								
動物生理学や生化学等の基礎科目をきちんと理解しておく。								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
各授業回の内容に関連する参考書を事前に読んでおく。 小テストの結果に基づいて、理解不足の部分について配布プリントを再度見直し、理解を深める。								
評価方法（評価基準を含む）								
試験あるいはレポート、授業への参加度（小テストを含む）から総合的に評価する。それらの割合は、試験あるいはレポート 80%、授業への参加度（小テストを含む） 20%とする。								
教科書								
なし（プリント使用）。								
参考書、教材等								
・動物看護学教育標準カリキュラム準拠「動物臨床検査学」、インターズー ・臨床検査学講座（血液検査学、臨床化学検査学、免疫検査学、微生物学/臨床微生物学、臨床検査総論）、医歯薬出版								

授業科目	動物臨床検査学実習				実務家教員	○	担当教員	◎岡崎 登志夫 宮井 紗弥香・荒川 真希
科目英名	Animal Clinical Examination Study-Student Laboratory							
開講期間	2年次 前期	動物看護学科 必修科目2単位	動物人間関係学科 選択科目2単位	授業形態	実習	科目区分	専門教育 [専門科目]	
到達目標								
動物臨床検査学講義で学習したさまざまな検査項目に関する臨床的意義や検査原理を理解した上で、実習を通して、これらの実践的検査技術を身につける。同時に、感染防止についても高い意識を持って実践できる。								
講義概要								
血液、尿、糞便、骨髄、皮膚、耳垢、臍垢、貯留液等、様々な材料の採取方法や保存法、試料作製方法、検査法について実習するとともに、得られた検査結果を参考値と比較しながら臨床的意義について解説する。								
授業計画							担当教員	
1 動物臨床検査について、機器と器具の基本操作 2 血液形態学的検査（塗抹と染色） 3 血液形態学的検査（血球観察と白血球分類） 4 血液形態学的検査（血球計算盤による血球算定） 5 血漿分離と血色素濃度検査 6 血漿タンパク質濃度と脂質濃度検査 7 血漿タンパク質分画とリポタンパク質分画 8 尿と糞便の形態学的検査 9 尿と糞便の生化学的検査 10 皮膚と耳垢の検査 11 DNA抽出と染色体検査 12 DNAの電気泳動と免疫学的検査（二重拡散法） 13 免疫学的検査（二重拡散法とELISA法） 14 免疫学的検査（ELISA検査、キット検査、血液型、クロスマッチ） 15 臨床におけるCBC検査と生化学検査							岡崎・宮井・荒川 岡崎・宮井 岡崎・宮井 岡崎・宮井 岡崎・宮井 岡崎・宮井 岡崎・宮井 岡崎・宮井 岡崎・宮井・荒川 岡崎・宮井・荒川 岡崎・宮井 岡崎・宮井 岡崎・宮井 岡崎・宮井 岡崎・宮井	
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
フィードバックとして、毎回課題レポートを課し、完成度をチェックするとともに、単元終了後に回収し、実習担当者がチェックする。								
履修上の注意								
予め、各検査の臨床的意義や手技について確認をしてから実習に臨むこと。								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
毎回、予め実習書の手順を熟読理解しておくこと。 毎回、実習に関連する課題レポートを課し、完成させて次週に提出すること。								
評価方法（評価基準を含む）								
実習への出席は原則であり、実習への参加度（50%）、実習レポート（25%）、筆記試験（25%）で総合的に評価する。								
教科書								
なし（プリント使用）。								
参考書、教材等								
・動物看護学教育標準カリキュラム準拠 専門分野「動物臨床検査学」、インターズー ・臨床検査学講座（血液検査学、臨床化学検査学、免疫検査学、微生物学/臨床微生物学、臨床検査総論）、医歯薬出版								

授業科目	特殊検査			実務家教員	—	担当教員	◎岡崎 登志夫・谷口 明子 宮井 紗耶香
科目英名	Specific Examination						
開講期間	4年次 後期	動物看護学科 選択科目 2単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門科目]	
到達目標							
高度医療、特に高齢動物医療に関連して、さまざまな特殊検査が動物医療現場に導入されており、動物看護領域の専門家にふさわしい特殊検査に関する現状を理解し、その方法や原理、サンプルの取り扱い方、特殊検査機器の構造や操作法、特殊検査データの解釈の仕方など専門的知識を身につける。							
講義概要							
近年、動物医療に導入されつつある特殊検査に関して、その種類や原理、方法について学修する。特殊検査の多くは、難病の診断や治療のために、一般検査のあとになされるものであるため、一般検査データと特殊検査データとの関連や検査の流れを理解する事が重要である。さらに、難病の診断治療には、将来さらに新しい特殊検査が導入されることが予想されるため、現在の特殊検査の臨床的意義やその測定原理を学習すると同時に、動物看護師としていかに高度医療に貢献していくか考えさせる。最後に、特に核医学検査の基礎と実践応用に関しても学修する。							
授業計画							担当教員
1 異常データの見つけ方と対処法 一般検査から特殊検査へ							岡崎 登志夫
2 電気泳動法による異常タンパク質の発見と解析法							岡崎 登志夫
3 クロマトグラフィーによる特殊検査							岡崎 登志夫
4 酵素活性異常の臨床病理							岡崎 登志夫
5 異常データの病態解析と特殊検査							岡崎 登志夫
6 生化学検査							宮井 紗弥香
7 遺伝子解析による微生物同定							宮井 紗弥香
8 遺伝病と遺伝子検査							宮井 紗弥香
9 貯留液や腔スミアの細胞診検査							宮井 紗弥香
10 特殊染色による病理組織検査							宮井 紗弥香
11 内視鏡による画像検査について							谷口 明子
12 糖尿病の確定診断に必要なグルコース負荷試験について							谷口 明子
13 クッシング症候群の確定診断に必要な ACTH 刺激試験について							谷口 明子
14 核医学検査Ⅰ：核医学検査の歴史と検査に関する基礎知識について							谷口 明子
15 核医学検査Ⅱ：看護の基礎知識について							谷口 明子
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
毎回、前回の授業内容について小テストを実施し、その答について教員または各自で採点し、到達度を自己評価できるようにする。また、解答用紙を回収し、次回、全体の到達度をフィードバックする。							
履修上の注意							
これまで学修した一般検査の概要を理解し講義に臨むこと。							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
各授業回の内容に関連する参考書を事前に読んでおく。 理解不足の部分について配布プリントを再度見直し、理解を深める。							
評価方法（評価基準を含む）							
動物臨床検査の各特殊検査項目の測定原理や臨床的意義、および各検査データの変動と病態との関連に関する理解度を設問型試験（70%）およびレポート（30%）で評価する。							
教科書							
なし（プリント使用）。							
参考書、教材等							

授業科目	動物医療機器			実務家教員	—	担当教員	鈴木 友子
科目英名	Equipment Theory for Veterinary Medicine						
開講期間	3年次 前期	動物看護学科 必修科目 2単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門科目]	
到達目標							
<p>診断、検査、治療および予防に利用される動物医療機器はますます高度化しており、動物医療従事者である動物看護師が様々な医療機器に対して、原理や仕組みを理解し、使用方法を身につけておく必要があり、複雑かつ精密な機器類の点検管理を実行することも要求されている。これらを踏まえ、法令遵守のもと適性かつ安全に、種々の動物医療機器を取り扱えるようになる。</p>							
講義概要							
<p>実際に動物医療の現場で使用されている主な機器類を紹介するだけでなく、具体的に学内の機器類を例に挙げ、使用前の準備から基本的な操作方法および使用後の片付け等一連の作業も学ぶとともに、他の授業や実習とも関連付けながら、動物医療機器の取り扱いにおける動物看護師の役割も考える。</p>							
授業計画							
<ol style="list-style-type: none"> 1 総論（医療機器と医療安全について） 2 滅菌・消毒に関する機器類について 3 体温計・血圧計について 4 循環器に関する機器類について 5 呼吸器に関する機器類について 6 モニター機器について 7 麻酔機器について 8 手術用機器について 9 電気メス・レーザーについて 10 超音波診断装置について 11 内視鏡について 12 歯科機器について 13 眼科機器について 14 医療廃棄物の取り扱いについて 15 まとめ 							
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
課題等にコメントを返す。							
履修上の注意							
医療機器の取り扱いには注意事項等を守り、丁寧に扱うこと。							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
事前学修：授業内容に関する教科書等を読む。							
事後学修：授業資料等を見返し、ノートにまとめる。							
評価方法（評価基準を含む）							
授業への参加度（30%）、定期試験等（70%）の総合評価							
教科書							
医療機器と検査・治療のしくみ 八幡勝也、木村憲洋 日本実業出版社 基礎と臨床がつながるバイタルサイン 藤野智子 学研							
参考書、教材等							
プリント、ポイントノート							

授業科目	動物口腔ケア論			実務家教員	—	担当教員	鈴木 友子
科目英名	Veterinary Oral Care						
開講期間	3年次 後期	動物看護学科 選択科目 2単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門科目]	
到達目標							
動物における予防歯科学的観点から、動物医療において行われる口腔ケアの知識を修得する。							
講義概要							
動物の口腔の形態や機能を学んだうえで、主に犬猫の口腔疾患について解説するとともに、歯周病の治療法や予防法に関わる器具や機材の種類や準備、使用方法等、動物医療における口腔ケアの方法について講義する。 また、動物の口腔ケアにおける動物看護師の役割も考える。							
授業計画							
<ol style="list-style-type: none"> 1 動物口腔ケアにおける動物看護師の役割 2 動物の口腔および歯の形態と機能 3 歯の組織構造 4 歯周組織 5 動物とヒトの比較歯科医学 6 動物に認められる歯および口腔の疾患 7 動物の歯科治療および歯科予防処置 8 動物の歯科治療と歯科生体材料 9 歯周病（歯肉炎および歯周炎） 10 動物口腔ケアの種類と方法 11 スケーリングに使用する器具・機材 12 スケーリングの手技と手順 13 歯ブラシと歯みがき（ブラッシング） 14 動物口腔ケアの問題点 15 まとめ 							
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
課題等にコメントを返す。							
履修上の注意							
口腔の構造（形態学、組織学）や機能（生理学）を十分に理解したうえで受講すること。							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
事前学習：授業内容に関する資料を読む。 事後学習：授業資料等を見返し、ノートにまとめる。							
評価方法（評価基準を含む）							
授業への参加度（30%）、定期試験等（70%）の総合評価							
教科書							
なし							
参考書、教材等							
プリント							

授業科目	動物口腔ケア実習			実務家教員	—	担当教員	鈴木 友子
科目英名	Practice of Veterinary Oral Care						
開講期間	3年次 後期	動物看護学科 選択科目 2単位	授業形態	実習	科目区分	専門教育 [専門科目]	
到達目標							
動物における予防歯科学的観点から、動物医療において行われる口腔ケアの知識および実技を修得する。							
講義概要							
<p>「動物口腔ケア論」に基づき、動物の口腔の形態や機能について、標本の観察等で知識を深め、主に犬猫の歯周病の治療法や予防法に関わる器具や器材機材の準備から使用方法、片付けおよびメンテナンスまで、実際の手技や手順も学びながら、動物医療における口腔ケアについて実習する。</p> <p>また、口腔ケアの飼い主指導も考える。</p>							
授業計画							
<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 犬・猫の歯列および顎骨の観察 3 動物口腔ケアの種類と方法 4 歯ブラシと歯みがき（ブラッシング） 5 スタディモデルの作製（石膏円柱） 6 歯の印象採得、スタディモデルの作製（歯型） 7 歯周病予防に使用する器具・機材および使用方法 8 マニュアルスケーラーの構造および使用方法 9 超音波スケーラーの構造および使用方法 10 歯周病予防に使用する器具・機材 11 歯周病予防の手技、手順 12 Professional Mechanical Tooth Cleaning (PMTTC) 13 歯科治療に使用される器具・機材 14 歯科生体材料の使用法 15 総合実習（まとめ） 							
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
実習ノート等にコメントを返す。							
履修上の注意							
実習は授業で学んだことを実際に体得する教科である。理論に基づいて、実技・演習を行い実際に経験することにより理解度を深めることが重要である。							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
事前学習：次の実習内容に関し、「動物口腔ケア論」を復習する。							
事後学習：実習内容を実習ノートにまとめる。							
評価方法（評価基準を含む）							
実習への参加度（50%）、実習試験（50%）の総合評価							
教科書							
なし							
参考書、教材等							
各自、実習ノート（A4・無地）を用意する。							

授業科目	ヒトと動物の共通感染症			実務家教員	—	担当教員	内田 明彦
科目英名	Zoonosis						
開講期間	3年次 後期	必修科目 2単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門科目]	
到達目標							
<p>人獣共通感染症は、人類の歴史とともに古くから存在していると思われるが、特に近年産業動物、伴侶動物、野生動物とのかかわりが深くなり、それに伴い動物の持つ病原体と接触する機会も増加している。ヒトと動物の共通感染症はウイルス、細菌、真菌、寄生虫、プリオンまで多岐にわたり、それぞれの病因、疫学、診断、治療及び予防について理解し、発生時に対処できるように理解を深めることを目標にする。</p>							
講義概要							
<p>総論ではヒトと動物の共通感染症の定義、種類と疫学などを学ぶと共に、環境の変化やグローバル化に伴って危惧されている新興・再興感染症についても解説する。各論ではウイルス、リケチア、細菌、真菌、寄生虫（原虫、蠕虫、衛生害虫）、プリオンによるヒトと動物の共通感染症について、病因、感染様式、疫学、診断、治療及び予防について講義を展開する。また、動物だけではなくヒトの症状や予防などについても医学的見地から講義を進めていく。</p>							
授業計画							
<ol style="list-style-type: none"> 1 総論：ヒトと動物の共通感染症の定義、種類及び新興・再興感染症について 2 ウイルス：狂犬病（ビデオ）、ハンタウイルス感染症、Bウイルス感染症など 3 ウイルス：日本脳炎、黄熱、動物由来インフルエンザ、ウエストナイル熱など 4 ウイルス：エボラ出血熱（ビデオ）、E型肝炎ウイルスなど 5 ウイルス：マールブルグ病、ラッサ熱、SARS、MERS、プリオン病など 6 細菌：炭疽、ペスト、結核、パスツレラ症、サルモネラ症など 7 細菌：カンピロバクター症、レプトスピラ症、ライム病、豚丹毒など 8 細菌：鼠咬症、野兎病、ブルセラ症など 9 真菌、リケッチャなど：恙虫病、オウム病、猫ひっかき病、クリプトコックス症、アスペルギルス症など 10 寄生原虫類：トキソプラズマ症、トリパノソーマ症、リーシュマニア症など 11 線虫類：トキソカラ症、広東住血線虫症、犬糸状虫症など 12 吸虫類：肺吸虫症、横川吸虫症、住血吸虫症など 13 条虫類：包虫症（エキノコックス症）、有・無鉤条虫症、マンソン孤虫症など 14 ヒトと動物の共通感染症を媒介する衛生動物：蚊、ノミ、ダニ類など 15 ヒトと動物の共通感染症の防疫、検査及び発生したときの対策と届け出 							
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
<p>試験の答案用紙は原則返却しないが、質問には応じる。また、レポートについても答案用紙と同様の扱いとするが、必要に応じて返却をする。</p>							
履修上の注意							
<p>寄生虫学、微生物学を履修しておくとう理解しやすい。</p>							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
<p>基本的に講義の数日前に授業に係る資料（プリント等）を開示するので予習を行い、復習は当該資料と教科書とで必ずノートを作成すること。</p>							
評価方法（評価基準を含む）							
<p>授業への参加度（30%）レポート提出（20%）と期末試験（50%）で評価する。</p>							
教科書							
<p>専門基礎分野 動物微生物学・動物感染症学、必要に応じて資料を配布する。</p>							
参考書、教材等							
<p>神山著 これだけは知っておきたい人獣共通感染 地人書館 岡部著 感染症から身を守る本 KAWADE夢新書</p>							

授業科目	公衆衛生学			実務家教員	—	担当教員	植田 富貴子
科目英名	Public Health						
開講期間	2年次 後期	必修科目 2単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門科目]	
到達目標							
<p>公衆衛生学とは人の疾病を予防し、身体的、精神的機能の増進をはかるための学問であり、動物衛生学とは異なる。しかし動物の健康と人の健康との間には密接な関係が存在する場合が少なくない。動物看護師は動物、飼い主、獣医師の三者を繋ぐ役割を果たしている。従って、動物看護の公衆衛生では動物と共存する人の健康を保持するために、動物の疾病と人の疾病との関連性を学び修得することを到達目標とする。</p>							
講義概要							
<p>伴侶動物との生活が密接さを増す時代、「人と動物の共生を目指す」公衆衛生学的アプローチとして、集団の抱える問題や問題発生予防について、観察、推量する能力を求める。我が国を取り巻く物流や市場の急速なグローバル化は人のみならず伴侶動物の飼育環境にも大きく影響しているため、最新のデータをもとに、人と動物が安心して生活できる知識を学修する。</p>							
授業計画							
<ol style="list-style-type: none"> 1 公衆衛生概論（食品衛生・人獣共通感染症・環境衛生における歴史、国民衛生の動向） 2 動物衛生概論（公衆衛生と動物衛生の違い、動物衛生の歴史と現状） 3 公衆衛生学と動物との関わり合いの歴史（疾病、動物愛護、動物福祉、動物介在療法） 4 疫学と疾病予防Ⅰ（疫学の分類、疫学特性；発生頻度、分布、関連情報など） 5 疫学と疾病予防Ⅱ（流行と予防、感染症と非感染症、サーベイランス） 6 食品の衛生（HACCP、危害要因、食品添加物と安全性、衛生害虫、衛生動物） 7 食品由来の疾病Ⅰ（食中毒、食品・水媒介感染症、アレルギー） 8 食品由来の疾病Ⅱ（化学物質による中毒；意図的混入と非意図的混入） 9 食品の衛生Ⅳ（農薬の残留、飼料添加物・治療薬の残留、ポジティブリスト制度） 10 環境衛生Ⅰ（地球環境問題の歴史と現状） 11 環境衛生Ⅱ（地域環境問題（公害）の歴史と現状、典型7公害） 12 環境衛生Ⅲ（上水・下水の衛生、大気・土壌の汚染） 13 環境衛生Ⅳ（廃棄物、放射性物質による汚染、その他の問題） 14 関連法規Ⅰ（獣医事・公衆衛生・家畜衛生・薬事・環境に係わる行政法規） 15 公衆衛生の最近の動向と問題（薬剤耐性菌など） 							
* カッコ内キーワード							
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
採点内容をまとめて問題点を伝える。							
履修上の注意							
講義のポイント、注意点をノートなどに自ら手書きすること							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
講義前にキーワードで内容の概要を予習し、講義後ポイントを整理すること。							
評価方法（評価基準を含む）							
定期試験 50%、授業への参加度 50%により評価する。							
教科書							
「認定動物看護師教育コアカリキュラム 2019 準拠 応用動物看護学 2 公衆衛生学 動物医療関連法規 一般社団法人 日本動物保険看護系大学協会 カリキュラム委員会編 interzoo 社							
参考書、教材等							
「動物公衆衛生学」全国動物保健看護系大学協会編、株式会社インターズー							

授業科目	動物生化学			実務家 教員	—	担当 教員	小黑 美枝子
科目英名	Animal Biochemistry						
開講期間	3年次 前期	動物看護学科 選択科目 2単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門科目]	
到達目標							
<p>生化学は化学、栄養学、生理学などと大きく関連しており、生命現象を化学の側面から学ぶ学問である。動物の生体はさまざまな物質から構成され、各々の物質が独自にあるいは相互に作用しながら生理機能を営んでいる。動物の生体物質の構造と機能を理解するのは重要なことである。動物看護学科における生化学は、生命現象の普遍的な法則性を組織、細胞、さらには分子のレベルで理解する知識を修得することを到達目標とする。また、他の教科の生化学的理解を助けることができるような知識を修得することを到達目標とする。</p>							
講義概要							
<p>生物や基本単位の細胞を動かしているさまざまな生体システムを理解する必要がある。動物細胞におけるさまざまな代謝、つまり、細胞内における合成と分解反応である。本講義では、糖質代謝、脂質代謝、蛋白質アミノ酸代謝、核酸の代謝を中心に物質およびエネルギーの代謝、代謝を円滑に行うための生体触媒である酵素の性質を学ぶ。また、遺伝情報に基づいて合成されるペプチドや蛋白質、従って、核酸の構造とその生物学的機能についても学ぶ。</p>							
授業計画							
<ol style="list-style-type: none"> 1 生化学の概説、生化学の目的および、生命科学や動物看護学における位置付け 2 細胞成分の構造、細胞膜、細胞核、ミトコンドリア、小胞体、細胞骨格などの構造と機能 3 身体の構成材料と消化 4 アミノ酸、蛋白質の化学 アミノ酸、蛋白質の構造 5 アミノ酸、蛋白質の代謝 蛋白質の消化と吸収、アミノ酸の出入り、蛋白質の動的平衡 6 アミノ酸、蛋白質代謝 アミノ酸の代謝と合成される生理活性物質、アミノ酸から含窒素化合物の合成 7 酵素の性質、酵素の特性 8 酵素の性質、酵素の反応速度、補酵素とビタミン 9 糖質の化学 糖質の構造 10 糖質の代謝 糖質の消化と吸収、血糖、糖代謝 11 クエン酸回路と電子伝達酸化的リン酸化系 エネルギー代謝をクエン酸回路、電子伝達酸化的リン酸化系 12 脂質の化学 多様な脂質の構造、脂肪酸 13 脂質の代謝 脂質の消化と吸収、血液による脂質の運搬、トリアシルグリセロール代謝 14 核酸の構造 (ヌクレオチド、DNA と RNA) 遺伝情報の流れ DNA 複製、RNA、蛋白質の生合成 15 まとめ、確認テスト 							
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック							
試験や小テスト、質問の解説を授業内で行いフィードバックする。							
履修上の注意							
<p>化学、生物の基礎的知識を復習しておいてもらいたい。 基礎生化学 (1年次) を選択することが望ましい。Moodle を利用して掲示、授業参考資料などを配布するので、注意を怠らないこと。</p>							
事前・事後学修 (予習・復習) の内容							
<p>事前学修 「事前に、教科書の関連する項目内容を読んで理解を深めておくこと。」 事後学修 「講義内容を講義ノートにまとめ、疑問点については講義中の提出課題などを利用して質問する。」</p>							
評価方法 (評価基準を含む)							
定期試験 (60%)、および授業時間中に実施する小テスト、授業への参加度 (40%) に基づいて総合的に評価する。							
教科書							
栄養科学 イラストレイテッド生化学 羊土社							
参考書、教材等							
獣医生化学 文永堂出版、大学生物学の教科書 第1巻 Blue Backs、 ビギナーのための生物化学 三共出版							

授業科目	微生物学			実務家 教員	—	担当 教員	梅村 隆志
科目英名	Microbiology						
開講期間	3年次 後期	動物看護学科 必修科目 2単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門科目]	
到達目標							
微生物とは何か、細菌、真菌、ウイルスなどの特徴を知るだけでなく、衛生学にもつなげるべく、病原微生物による感染の成り立ちを把握し、様々な感染症を予防するためにどのような対策が実際になされているのかを知り、また、臨床において重要な消毒や滅菌方法も学び、微生物コントロールに対する動物看護師の役割も考えることができるようになる。							
講義概要							
微生物学は、動物看護の様々な臨床場面における医療行為の科学的根拠を理解するために必要な学問領域である。本講義では、細菌・真菌・原虫・ウイルスについて、その基本的な特性を解説し、感染とは何かの理解を深める。また、それを予防するための免疫療法や消毒・滅菌方法について解説する。授業は、教科書を中心に必要に応じて参考書の内容を加えながら進める。							
授業計画							
<ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに 2 微生物とは（微生物の生物界における位置・病原微生物とは） 3 感染と発症（感染症の経過・感染症の種類） 4 感染の成り立ち（感染源・感染経路・感染防御能） 5 細菌① 細菌の性状・構造（細菌の大きさ・細菌の基本構造・細菌の特殊構造） 6 細菌② 細菌の観察・増殖（染色法・細菌の栄養素・細菌の培養） 7 細菌③ 細菌の分類（グラム陽性球菌・桿菌、グラム陰性球菌・桿菌、その他） 8 真菌（真菌の形態・真菌の増殖様式・真菌の分類） 9 原虫（原虫の形態・原虫の分類） 10 ウイルス① ウイルスの性状（ウイルスの形態と構造・ウイルスの分類・ウイルスの増殖） 11 ウイルス② ウイルス感染の予防法（ワクチン） 12 化学療法・各種動物の感染症（抗菌剤・薬剤耐性、犬猫鳥兎猿の感染症） 13 洗浄、消毒、滅菌（消毒方法・消毒剤の種類と特徴・滅菌方法・院内感染とその対策） 14 感染症の診断（病原微生物の分離と同定・血清免疫学診断） 15 感染症の予防と防疫 							
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
提出されたレポートに関して、後日、評価基準の説明を行う予定である。							
履修上の注意							
微生物学の講義の前に、細菌・ウイルスの生物界での位置づけ、生態、形態学的な特徴を理解しておくこと。また、微生物学は生物学、生理・生化学および免疫学などがベースとなるので、2年生までの授業を履修しておくこと。							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
シラバスを参考に事前に基礎知識の収集に努めること。授業中に示された資料に基づきノートをまとめ、図書館等を利用して知識の上積みに努めること。							
評価方法（評価基準を含む）							
授業への参加度（20%）、定期試験（60%）、レポート提出（20%）での総合評価							
教科書							
動物看護学教育標準カリキュラム準拠 専門分野 動物微生物学・動物感染症学 エデュワードプレス							
参考書、教材等							
獣医微生物学 第2版 監修/見上彪 文永堂出版							

授業科目	血液学			実務家 教員	—	担当 教員	岡崎 登志夫
科目英名	Hematology						
開講期間	3年次 後期	動物看護学科 選択科目 2単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門科目]	
到達目標							
動物血液の成分や血球の特徴、その機能や役割を学修し、血液データと疾病とのかかわり、血液データ変動の臨床的意義などについて理解を深め、これら血液に関する科学的知識を基礎として適切な動物看護の意義、役割が理解できる。							
講義概要							
血液に対する人々の認識の歴史の変遷や動物血液の起源やその特徴について学修し、血液を構成する血漿成分や血球の種類と役割、血液凝固と線溶などの果たす役割やそのメカニズムを理解する。これら血液に関する基礎的理解のうえに、疾患と血液データ変動の関係について学修し、診断の根拠について明らかにする。							
授業計画							
<ol style="list-style-type: none"> 1 血液に関する認識の歴史の変遷やさまざまな動物の血液の起源と特徴 2 血液の循環 3 血液の成分：血漿蛋白質成分の種類と役割 4 血液の成分：血液細胞の種類と役割 5 赤血球形態の特徴と赤血球の成熟過程 6 赤血球成分・ヘモグロビンの構造、代謝、機能 7 白血球形態の特徴と白血球の成熟過程 8 白血球の機能、白血球の血管壁への接着機構・セレクチンとセレクチンリガンド 9 白血球の免疫機能 10 血小板形態の特徴と血小板の成熟過程 11 血栓形成と血液凝固、線溶のメカニズム 12 血液疾患と血液学の進歩 13 貧血の原因と診断 14 白血病の原因と診断 15 血小板異常と凝固異常 							
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
毎回、前回の授業内容について小テストを実施し、その答について各自で採点し、到達度を自己評価できるようにする。また、解答用紙を回収し、次回、全体の到達度をフィードバックする。							
履修上の注意							
血液は各臓器や組織を結びつけるターミナルの役割を担っており、生理学や解剖学や検査学などの基礎的知識が必要である。							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
各授業回の内容に関連する参考書を事前に読んでおく。 小テストの結果に基づいて、理解不足の部分について配布プリントを再度見直し、理解を深める。							
評価方法（評価基準を含む）							
試験あるいはレポート（80%）、授業への参加度（20%）から総合的に評価する。							
教科書							
なし。教材は講義ごとにプリントを配布する。							
参考書、教材等							
<ul style="list-style-type: none"> ・動物看護学教育標準カリキュラム準拠 専門分野「動物臨床検査学」、インターズー ・臨床検査学講座（血液検査学、臨床化学検査学、免疫検査学、微生物学/臨床微生物学、臨床検査総論）、医歯薬出版 							

授業科目	寄生虫学			実務家教員	—	担当教員	内田 明彦
科目英名	Parasitology						
開講期間	2年次 前期	必修科目 2単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門科目]	
到達目標							
身近なコンパニオンアニマルの寄生虫学および衛生動物学で扱われる生物を中心に、その形態、生態、発育環、症状、診断（検査法）、治療、予防、さらに疾病の発生機序などについて修得し、寄生虫学や衛生動物の知識や技術を身につけ、動物看護の分野で適切な対策を提言・実践できる人材となることを教育目標にする。							
講義概要							
動物看護学における寄生虫学は、愛玩動物（伴侶動物）の健康に関わる寄生虫や衛生動物を扱い、それらが関与する疾病の発生機序を明らかにすることを目的とした学問である。原虫や蠕虫とその中間宿主、ベクター、有害動物等を取り扱い、免疫学等医学的ベースをもとに講義を展開していく。また、予防や診断治療等にも言及し、実践に役立つように解説する。							
授業計画							
<ol style="list-style-type: none"> 1 総論（1）（寄生虫とは、寄生虫と宿主の関係、寄生虫の生活史） 2 総論（2）（寄生虫の感染経路、寄生部位と病害作用、寄生虫と免疫） 3 原虫類の概要 4 原虫（トリパノソーマ、トキソプラズマ、ランブル鞭毛虫、アメーバ、トリコモナス等） 5 蠕虫類の概要 6 吸虫（総説、肝吸虫、肺吸虫、住血吸虫等） 7 条虫（総説、裂頭条虫、包虫、囊虫等） 8 線虫（総説、回虫、鞭虫、鉤虫、糸状虫等） 9 イヌ、ネコの寄生虫（バベシア、イヌネコ回虫、瓜実条虫、イヌ糸状虫等） 10 ウサギ等ペットおよびエキゾチックアニマルの寄生虫 11 人獣共通寄生虫症（クリプトスポリジウム、アメーバ赤痢、幼虫移行症、有鉤条虫、疥癬等） 12 衛生動物（蚊、ハエ、ノミ、シラミ等） 13 衛生動物（ダニ、ネズミ） 14 寄生虫検査法 15 寄生虫症の疫学と予防 							
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
試験の答案用紙は原則返却しないが、質問には応じる。またレポートについても答案用紙と同様の扱いとするが、必要に応じて返却をする。							
履修上の注意							
基礎的な内容があるので生物学、生化学、免疫学などの勉強をしておく講義が理解しやすい。							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
シラバスに当日の講義内容が示されているので予習をすること、また復習についても必ず講義の後まとめたノート作りをする。							
評価方法（評価基準を含む）							
レポート・授業への参加度での評価（30%）と、学期末の定期試験の成績（70%）により評価する。							
教科書							
日本動物保健看護系大学協会カリキュラム委員会 編 小野文子 監修 動物感染学 インターズー							
参考書、教材等							
内田明彦・黄鴻堅 図説獣医寄生虫学 改訂第3版（Mac/Win 対応 CD-ROM）メディカグローブ							

授業科目	小動物放射線学			実務家 教員	—	担当 教員	谷口 明子
科目英名	Animal Geriatrics Technology						
開講期間	3年次 前期	動物看護学科 必修科目 2単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門科目]	
到達目標							
放射線の一種であるエックス線を用いたレントゲン撮影やCT検査は、獣医療分野においても有用な検査手段となっている。動物看護師は、獣医師の補助という形で撮影現場に立ち会う機会が多く、正確に、また安全に作業を行うためには放射線の特徴を理解する必要がある。本講義では、エックス線についての基本的な知識と獣医療の現場で多用される検査技術について理解することを目的に教授する。							
講義概要							
放射線についての基本的な性質を学び、診断に適したレントゲン写真を撮影するため、その原理や、諸条件が写真に及ぼす影響について学ぶ。同時に、放射線取扱者として安全に作業するため、放射線が生体に及ぼす影響、また効果的な被ばく量減少の方法について学ぶ。さらに多様化している放射線を使用した診断・治療の特性と注意点を学ぶ。学生の興味の持続・学ぶ目的の明確化をはかるため、実症例を交えて学ぶ。							
授業計画							
<ol style="list-style-type: none"> 1 レントゲン写真の原理Ⅰ：獣医医療における放射線と一般的な性質 2 レントゲン写真の原理Ⅱ：放射線照射により被写体が可視像になる理由 3 レントゲン写真の原理Ⅲ：良いレントゲン写真（診断に適した）の条件 4 レントゲン写真の原理Ⅳ：撮影条件がレントゲン写真に及ぼす影響 5 撮影技術Ⅰ：撮影に用いる用具の基本構造と機能・取り扱い上の注意点Ⅰ 6 撮影技術Ⅱ：撮影に用いる用具の基本構造と機能・取り扱い上の注意点Ⅱ 7 撮影技術Ⅲ：専門用語と保定法 8 撮影技術Ⅳ：造影法—造影の基本知識 9 撮影技術Ⅴ：造影法—具体的な造影方法 10 生体に及ぼす影響Ⅰ：放射線従事者の安全管理、関連法規 11 生体に及ぼす影響Ⅱ：放射線生物学（放射線防護、被ばくについて）Ⅰ 12 生体に及ぼす影響Ⅲ：放射線生物学（放射線防護、被ばくについて）Ⅱ 13 生体に及ぼす影響Ⅳ：放射線生物学（臓器における感受性の違い） 14 CT検査の基礎と実際 15 腫瘍に対する放射線治療 							
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
授業内に小テストを行った場合は、授業内で解説を行なうあるいは資料を配布。レポートは原則返却しないが、総評を行なう。							
履修上の注意							
毎回の講義に対して十分な予習と復習を行うこと							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
配布物等含等の該当部分に事前事後に目を通す・ノートにまとめるなど、必要に応じて指導する。							
評価方法（評価基準を含む）							
授業への参加の程度（20%）、課題レポートおよび定期試験（80%）により総合的に評価する。							
教科書							
配布プリント							
参考書、教材等							
獣医臨床X線と超音波の撮影技術マニュアル（インターズー） 実症例のレントゲン写真や作業手順の動画を多数使用							

授業科目	小動物栄養学			実務家 教員	○	担当 教員	◎大島 誠之助・荒川 真希
科目英名	Small Animal Nutrition						
開講期間	2年次 前期	必修科目 2単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門科目]	
到達目標							
<p>本講義では主に犬と猫の栄養について講義する。犬と猫は同じ食肉目に属するが、犬は長い進化の過程および人間との共生によって雑食化は多面的に進んだ。一方、家畜化の歴史が浅い猫は、今に至るまで厳格な肉食性を維持している。したがって、犬と猫の栄養を学ぶことは雑食動物と肉食動物の栄養を学ぶことでもあるが、伴侶動物には兎やハムスターのような草食動物もいる。そこで、本講義では単に犬や猫に留まらず、あらゆる食性の動物に共通する普遍的知識を修得することを到達目標とする。</p>							
講義概要							
<p>栄養とは新陳代謝、即ち古いものと新しいものを置き換える営みである。古いものとは老廃物、新しいものとは栄養素であるが、本講義では栄養素に関する基本的な問題と、犬・猫に栄養素を供給する食餌について勉強する。更に、水やエネルギーは栄養素ではないが、栄養素以上に重要といえる。そこで、前半では五大栄養素について解説し、後半は水とエネルギーの重要性、およびペットフードの栄養価や安全性に関する問題について講義していく。その中で、エネルギー要求量は、過少、過剰は削瘦や肥満と関係するので、ボディコンディションスコア、強制給餌法、経管・経静脈栄養法なども触れる予定。</p>							
授業計画							担当教員
1 栄養学の歴史							大島
2 栄養素とその働き：炭水化物（単糖類、少糖類、多糖類、食物繊維、動物性多糖）							荒川
3 栄養素とその働き：脂肪と脂肪酸（飽和脂肪酸、不飽和脂肪酸、必須脂肪酸）							大島
4 栄養素とその働き：機能性脂質（複合脂質、エイコサノイド、ステロイド、プロビタミン）							大島
5 栄養素とその働き：アミノ酸（種類と分類、必須アミノ酸、準必須アミノ酸、生体アミン）							大島
6 栄養素とその働き：タンパク質（構造と機能、合成と分解）							大島
7 栄養素とその働き：脂溶性ビタミン（ビタミンA, D, E, Kの生理作用、欠乏症と過剰症）							荒川
8 栄養素とその働き：水溶性ビタミン（ビタミンB群と補酵素、欠乏症と過剰症）							大島
9 栄養素とその働き：ミネラル（主要ミネラルと微量ミネラルの生理機能、欠乏症と過剰症）							荒川
10 水とエネルギーの必要性（体水分、水分出納、動物体内におけるエネルギーの分配）							大島
11 エネルギー評価法：（総エネルギー、可消化エネルギー、代謝エネルギー、正味エネルギー）							大島
12 エネルギー要求量：（食餌のME含量推定法、犬・猫のME要求量推定法、削瘦、ボディコンディションスコア、強制給餌法、経管・経静脈栄養法）							荒川
13 ペットフード：歴史・種類・製法、家庭用食材の注意点							大島
14 ペットフード：栄養価および安全性の保証制度(米国)							大島
15 ペットフード：栄養価および安全性の保証制度(日本)							大島
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
<p>試験は定期試験時に筆記試験で行う。学生へのフィードバックは直接的には、試験結果の報告によって行う。所定の成績に到達不可の場合は再試験（レポート方式）で理解不足の再勉強を求める。</p>							
履修上の注意							
<p>栄養学は基礎を生化学に置いているが、本講義の理解に生化学や大学受験レベルの化学は必要ない。しかし、3年次に開講する「動物生化学（2単位選択）」を受講する方が解りやすいであろう（動物人間関係学科では「動物生化学」はあいにくカリキュラムに入っていないが、本講義だけでも十分理解はできる水準である）。</p>							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
<p>事前学修：次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと。 事後学修：毎回授業の最初に出席票兼用の前回授業内容の小テスト用紙を配布する。復習しておいた前回授業内容を記載し、授業終了時に提出する形で小テストとする。小テストの結果は評価対象とする。</p>							
評価方法（評価基準を含む）							
<p>対面授業の場合には、試験（70%）、授業参加度（30%）を基に総合的評価をする。オンライン授業が混じる場合には、教場試験に小テストによる出欠、その成績などを加味して割合を決め、評価する。</p>							
教科書							
「ベーシック 小動物栄養学」 阿部又信・大島誠之助著 ファームプレス(2019) 978-4-86382-105-7							
参考書、教材等							
<p>参考書；ペット栄養学事典、日本ペット栄養学会、(株)ファームプレス (2011) 978-4-86382-035-7 教材；主にスライドを随時使用する。講義に際しては、スライドのコピーを当日配布する。</p>							

授業科目	小動物臨床栄養学			実務家教員	—	担当教員	◎大島 誠之助・荒川 真希
科目英名	Small Animal Clinical Nutrition						
開講期間	2年次 後期	動物看護学科 必修科目 2単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門科目]	
到達目標							
<p>学生が、本講義は2年次前期の「小動物栄養学」のば続編と理解できるよう工夫する。臨床栄養学とは病気の予防と治療を目的とした栄養学であるが、ここでは対象を犬と猫に限定する。人医学の背後には栄養士や保健士などの幅広いパラメディカル分野が控えているが、獣医学では動物看護師がその役目を一手に引き受けることになる。本講義だけでは臨床栄養学の全体をカバーし切れないが、学生が本講義受講を以て将来における自助努力の基盤となるよう知識を涵養することを到達目標とする。</p>							
講義概要							
<p>本講義は2年次前期科目の「小動物栄養学」の、いわば続編として実施する。前半6回の講義は犬と猫の食性、消化管構造、捕食行動、採食パターン等の違いや、犬・猫それぞれのライフステージ（妊娠期、泌乳期、成長期、維持期、老齢期）別の栄養と養分要求量についての学修に当てる。その後の9回分で各種疾病や不健康状態（過栄養性肥満、消瘦、糖尿病、心不全、栄養不均衡性皮膚病、食物アレルギーまたは過敏症、消化器疾患、肝臓疾患、腎疾患、尿石症、歯周病など）と栄養との関連、および食事療法や強制給餌法、経管・経静脈栄養法等について講義する。</p>							
授業計画							担当教員
<ol style="list-style-type: none"> 1 犬と猫の違い：食性など 2 犬と猫の違い：嗜好と嗜好性 3 犬と猫の違い：代謝と養分要求量 4 ライフステージと栄養：母犬・母猫 5 ライフステージと栄養：子犬・子猫 6 ライフステージと栄養：成犬・成猫および老犬・老猫 7 疾病と栄養：ボディコンディションスコアと過栄養性肥満と消瘦。それらの予防と減・増量法および給餌計算 8 疾病と栄養：肥満関連の疾患 9 疾病と栄養：アレルギー反応と栄養不均衡性皮膚疾患 10 疾患と栄養：食物アレルギー（食物過敏症）と食事管理 11 疾患と栄養：消化器疾患と強制給餌法、経管・経静脈栄養法 12 疾患と栄養：肝臓疾患と食事管理 13 疾患と栄養：腎疾患と食事管理 14 疾患と栄養：尿石症と食事管理 15 疾患と栄養：歯周疾患ほか 							大島 大島 大島 大島 大島 大島 荒川 荒川 大島 大島 大島 大島 荒川 荒川 大島
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
<p>試験は定期試験時に筆記試験で行う。学生へのフィードバックは直接的には、試験結果の報告によって行う。所定の成績に到達不可の場合は再試験（レポート方式）で理解不足の再勉強を求める。</p>							
履修上の注意							
<p>本講義を理解するには栄養学についての基本的知識が必要である。したがって、本科目を履修する者は全員が2年次前期配当の必修科目「小動物栄養学」の単位を修得することが望ましい。</p>							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
<p>予習より復習に重点を置いて指導する。具体的には、様子を見て小テストを実施したい、と考えている。</p>							
評価方法（評価基準を含む）							
<p>対面授業の場合には、試験（70%）、授業参加度（30%）を基に総合的評価をする。オンライン授業が混じる場合には、教場試験に小テストによる出欠、その成績などを加味して割合を決め、評価する。</p>							
教科書							
<p>認定動物看護師教育コアカリキュラム 2019 準拠 臨床動物看護学2 動物臨床栄養学/動物臨床検査学、著者；大島誠之助、大辻一也他5名、株式会社インターズー（2019）978-4-86671-091-4</p>							
参考書、教材等							
<p>参考書；①ベーシック 小動物栄養学、阿部又信・大島誠之助著、(株)ファームプレス（2019） ②ペット栄養学事典、日本ペット栄養学会、(株)ファームプレス（2011）978-4-86382-035-7</p> <p>教材；主にスライドを随時使用する。講義に際しては、スライドのコピーを当日配布する予定。</p>							

授業科目	エキゾチックアニマル看護学			実務家 教員	—	担当 教員	霍野 晋吉
科目英名	Veterinary Nursing of Exotic Animals						
開講期間	4年次 前期	動物看護学科 必修科目 2単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門科目]	
到達目標							
動物看護師としてエキゾチックアニマル(哺乳類、鳥類、爬虫類)についての生態と特徴、疾病など知識を幅広く修得することを到達目標とする。知識を備えた上で初めて実践の看護ができるようになる。							
講義概要							
エキゾチックアニマルの看護において必要な生態・特徴・疾病について解説する。犬や猫とは異なる各動物の生態と特徴を習得した上でないと行えない。動物特有の病気の知識も把握し、実際の現場で看護が実践できるよう説明する。							
授業計画							
1 エキゾチックアニマル総論 2 ハムスター学 3 フェレット学 4 ウサギ学①(JCRA 認定ウサギマスター検定 3 級講習兼) 5 ウサギ学②(JCRA 認定ウサギマスター検定 3 級講習兼) 6 モルモット学 7 チンチラ学 8 ハリネズミ学 9 鳥類学①(解剖と生理) 10 鳥類学②(種類と特徴) 11 鳥類学③(飼育と疾病) 12 カメ学 13 トカゲ学 14 ウサギ学③(JCRA 認定ウサギマスター検定 2 級講習兼) 15 ウサギ学④(JCRA 認定ウサギマスター検定 2 級講習兼)							
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック							
メールによる質疑応答							
履修上の注意							
特になし。							
事前・事後学修 (予習・復習) の内容							
事前学修：次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと。 事後学修：各授業回の無いように該当する教科書を読んでおくこと。							
評価方法 (評価基準を含む)							
定期試験 50%、授業への参加度 50%							
教科書							
●カラーアトラスエキゾチックアニマル 哺乳類編 増補改訂版 —種類・生態・飼育・疾病— (著者：霍野晋吉、横須賀誠)、(出版社：緑書房)							
参考書、教材等							
●カラーアトラスエキゾチックアニマル 鳥類編 —種類・生態・飼育・疾病— (著者：霍野晋吉)、(出版社：緑書房)							
●カラーアトラスエキゾチックアニマル 爬虫類・両生類編 —種類・生態・飼育・疾病— (著者：霍野晋吉、中田友明)、(出版社：緑書房)							
●ウサギの基本 JCRA Book Kindle 版 (著者：霍野晋吉)、(出版社：YIL 出版)							
●ウサギの医学 (著者：霍野晋吉)、(出版社：緑書房)							

授業科目	ヒトと動物の関係学			実務家 教員	—	担当 教員	安藤 孝敏
科目英名	Human-Animal Interaction						
開講期間	2年次 後期	動物人間関係学科 必修科目 2単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門科目]	
到達目標							
変化しつつある「ヒトと動物の関係」を多面的・総合的に捉え、人間と動物の望ましい関係を構想して、提案・説明できるようになることがこの授業の目標である。具体的には、①人間と動物のかかわりを説明することができる、②人間と動物の望ましい関係について討議できるようになる、③人間が動物に対して持つべき社会的責任・倫理観について説明できる、ということである。							
講義概要							
近年の「ペットブーム」のなか、犬や猫などの動物たちに対する見方も、従来の「ペット（愛玩動物）」から家族の大切な一員である「コンパニオンアニマル（伴侶動物）」へ変化してきている。本科目では、動物とのかかわりが人間の生活の質にどのような影響を及ぼすのかを深く理解し、ヒトと動物の望ましい関係について構想できるようになることを目標に、人間と動物の関係に関する重要かつ最新のテーマを取りあげて講義を行う。							
授業計画							
<ol style="list-style-type: none"> 1 「ヒトと動物の関係学」とは？ 2 社会の中のペット：ペット飼育状況 3 高齢者と動物のかかわり【ミニ課題1の告知】 4 子どもと動物のかかわり 5 動物を介した教育の試み 6 身体障害者補助犬（1）：盲導犬【ミニ課題2の告知】 7 動物園の新しい取り組み：行動展示 8 ペットの飼育費用 9 ペットと暮らす住宅：集合住宅の場合【ミニ課題3の告知】 10 地域猫の取り組み 11 身体障害者補助犬（2）：介助犬と聴導犬【学期末レポートの告知】 12 ペットロスとその対処法 13 日本人の動物観 14 「ヒトと動物の関係学」の研究動向 15 まとめ 							
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
授業内容などに関する質問に対して、次回授業時に回答する。							
履修上の注意							
さまざまな資料や映像素材を用いて授業を行う。受講者には毎回、講義や資料などに関するコメント・質問の提出を求める。							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
事前に教科書の該当部分や関係する Web サイトを見て、授業のテーマについて理解しておくこと。授業で説明された重要なキーワードについて、各自が調べて、追加の情報を含めて整理すること。							
評価方法（評価基準を含む）							
成績は、毎回提出するコメント・質問 50%、ミニ課題 30%、学期末レポート 20%の配分で評価する。							
教科書							
安藤・種市・金児（訳）『ペットと生きる－ペットと人の心理学－』（北大路書房）							
参考書、教材等							
桜井富士朗・長田久雄（編）『「人と動物の関係」の学び方』インターズー（2003） 中村禎里『日本人の動物観－変身譚の歴史』ビーイングネットプレス（2006） 森 裕司・奥野卓司（編）『ヒトと動物の関係学〈第3巻〉ペットと社会』岩波書店（2008）							

授業科目	社会福祉			実務家 教員	—	担当 教員	山川 伊津子
科目英名	Social Welfare						
開講期間	3年次 前期	動物人間関係学科 選択科目 2単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門科目]	
到達目標							
<p>現代社会における多様なニーズを知り、我々の日々の生活は社会福祉とどのように関わっているのかを理解する。少子高齢社会において、人と動物の関係が密接となり、コンパニオンアニマルから様々な利益を受ける一方で、人と動物の双方に関わる問題が社会の色々な場面で頻発している。それらの問題を Veterinary Social Work (動物医療ソーシャルワーク) という視点からとらえ、問題解決と人と動物の共生社会・One Welfare を目指すには何が必要か理解することを目標とする。</p>							
講義概要							
<p>社会福祉の理念や歴史、基礎概念を踏まえ、我々の日常生活が社会福祉とどのようにつながりを持つかを理解する。少子高齢の現代社会において、人のライフステージにおける動物の果たす役割や福祉の側面から動物の働きを考える。人の福祉と動物福祉が共存する、人と動物の共生社会構築のために必要なことを学修する。</p>							
授業計画							
<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション：授業概要他、社会福祉とは 2 社会福祉の基礎概念と社会保障 3 子ども家庭福祉と背景 4 子ども家庭福祉と課題 5 高齢者福祉と背景 6 高齢者福祉と課題 7 障害者福祉と背景 8 障害者福祉と課題 9 ソーシャルワークと Veterinary Social Work (動物医療ソーシャルワーク) 10 動物医療ソーシャルワーク① Animal Assisted Intervention (アニマルセラピー) 11 動物医療ソーシャルワーク② Animal Related Grief and Bereavement (ペットロス) 12 動物医療ソーシャルワーク③ The Link between Human and Animal Violence (対人暴力と動物虐待の関連) 13 動物医療ソーシャルワーク④ Compassion Fatigue and Conflict Management (対人援助職の共感疲労と葛藤のマネジメント) 14 動物医療ソーシャルワーク⑤ Animal Hoarding (多頭飼育崩壊)、補助犬使用者の社会的受け入れ 15 授業総括：ヒトと動物の共生社会・One Welfare、まとめテスト 							
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック							
フィードバックとして、授業内でのリアクションペーパーやレポートについてコメントする。							
履修上の注意							
ディスカッションを含め、授業への積極的な参加を希望する。また毎回の授業においてリアクションペーパーを実施するので、授業内容についての自分の意見を文章で述べられるようにすること。							
事前・事後学修 (予習・復習) の内容							
事前授業として、各授業のテーマについての情報を集める。 事後授業としては、授業毎にリアクションペーパーまたはレポートを提出する。							
評価方法 (評価基準を含む)							
授業への参加度 (40%)、授業内課題 (30%)、まとめテスト (30%) による総合評価。							
教科書							
特になし							
参考書、教材等							
『よくわかる社会福祉第 11 版』ミネルヴァ書房							

授業科目	臨床心理学			実務家 教員	○	担当 教員	加藤 理絵
科目英名	Clinical Psychology						
開講期間	3年次 前期	動物人間関係学科 選択科目 2単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門科目]	
到達目標							
<p>本科目では、代表的な精神病理、現代の青年期の心理的問題として鬱、不安障害、引きこもり、摂食障害等を取り上げ、人間が生きていく中で経験する様々な心の問題について学修する。さらに、そのような時、人はどのようにして問題を解決していけば良いのか、どのようなケアが必要となるかについて理解を深め、自分自身、そして身近な他者の心を大切にすることに必要な態度、ストレスに対し効果的に取り組むことができるような知識の修得を目的とする。</p>							
講義概要							
<p>本科目では、代表的な精神病理、現代の青年期の心理的問題として鬱、不安障害、引きこもり、摂食障害等を取り上げ、人間が生きていく中で経験する様々な心の問題について学修する。さらに、そのような時、人はどのようにして問題を解決していけば良いのか、どのようなケアが必要となるかについて理解を深め、自分自身、そして身近な他者の心を大切にすることに必要な態度、ストレスに対し効果的に取り組むことができるような知識の修得を目的とする。</p>							
授業計画							
<ol style="list-style-type: none"> 1 人の心を支える—臨床心理学とは何か 2 メンタルヘルス・異常と正常とは 3 心の課題・病理について発表およびディスカッションⅠ：発達障害 4 心の課題・病理について発表およびディスカッションⅡ：気分障害 5 心の課題・病理について発表およびディスカッションⅢ：危機介入 6 心の課題・病理：思春期・青年期におけるパーソナリティ障害の世界観Ⅰ 7 心の課題・病理：思春期・青年期におけるパーソナリティ障害の世界観Ⅱ 8 心の課題・病理について発表およびディスカッションⅣ：様々なパーソナリティ障害 9 心の課題・病理について発表およびディスカッションⅤ：統合失調症 10 心の課題・病理：統合失調症における世界観Ⅰ 11 心の課題・病理：統合失調症における世界観Ⅱ 12 心の課題・病理について発表およびディスカッションⅥ：神経症 13 より自分らしく、より良い人間関係へ 14 援助者としての姿勢 現場での人間関係 15 まとめ 							
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
フィードバックとして発表やレポート、課題に対するコメントを口頭にて行う							
履修上の注意							
<p>本授業は、グループによる発表を中心に行われることから、授業外において各グループにより発表の準備における作業が必要となる。その他、ワークシート作成、小レポート提出などがある。授業では、発表、発言、作業、ワークシート提出が求められる。授業に積極的に参加することが求められる。</p>							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
事前学修「各授業回の内容に関連するテーマについて調べておくこと」							
事後学修「毎授業後、配付資料の重要キーワードについて理解、整理しておくこと」							
評価方法（評価基準を含む）							
<p>評価方法 授業における発表、授業におけるディスカッション等の参加態度・意欲度 70% 学期末試験もしくは期末レポート 30%をもとに評価する。</p>							
教科書							
特になし							
参考書、教材等							
参考書は講義中に紹介する。ビデオなど視聴覚機材も用いる。							

授業科目	動物看護ソーシャルワーク			実務家 教員	—	担当 教員	◎友野 悠・山川 伊津子
科目英名	Veterinary Nursing Social Work						
開講期間	4年次 前期	動物看護学科 必修科目 1単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門科目]	
到達目標							
人と動物の関係が深まる現代社会では、両者に関わる問題も社会の中で様々噴出している。ソーシャルワークは社会福祉における対人援助であり、動物看護ソーシャルワークとは人と動物の両者に関わる問題を支援していくものである。動物看護師として、これらの問題に対応していく知識を身に付けることを目標とする。また、動物病院で必要なコミュニケーションを理解し、問題解決に向け飼い主及び院内スタッフとのコミュニケーション方法を習得することをもう一つの目標とする。							
講義概要							
動物医療/動物看護ソーシャルワークとは何か。その内容を動物介在介入、ペットロス、人と動物の暴力の関連性、共感疲労マネジメントの4つの視点から学ぶ。さらに、それらの問題に対処するために必須である飼い主等とのコミュニケーションについても知識を深める。							
授業計画							担当教員
1 オリエンテーション 動物医療/動物看護ソーシャルワークとは							友野・山川
2 Animal Assisted Interventions (動物介在介入)							山川 伊津子
3 Animal Related Grief and Breavement (動物に関わる悲嘆と死別；ペットロス)							山川 伊津子
4 The Link Human and Animal Violence (人と動物の暴力の関連性)							山川 伊津子
5 Compassion Fatigue & Conflict Manegement (共感性疲労と対立のマネジメント)							山川 伊津子
6 Animal Hoarding (多頭飼育崩壊)、高齢者と動物							山川 伊津子
7 飼い主とのコミュニケーション：獣医療面接							友野 悠
8 動物看護師と飼い主のコミュニケーション：クライアントエデュケーション							友野 悠
9 院内スタッフのコミュニケーション：ヒューマンエラー防止の対策							友野 悠
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
講義終了後に実施するリアクションペーパーについては、次の授業での冒頭にコメントする。レポートは、総評を行う。随時個別の質問を受け付ける。							
履修上の注意							
リアクションペーパーとレポートを複数回実施する為、積極的に授業に参加すること。							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
事前授業としては、授業テーマに関わる情報を集めること。 事後授業は、配布資料や講義内容をもとに振り返りを実施すること。							
評価方法（評価基準を含む）							
授業への参加度（50%）、授業内課題（25%）、授業に対する積極性（25%）の総合評価とする。							
教科書							
特になし。授業内にて、資料を配布する。							
参考書、教材等							
特になし。							

授業科目	コミュニケーション論			実務家 教員	○	担当 教員	加藤 理絵
科目英名	Communication						
開講期間	3年次 後期	動物人間関係学科 必修科目 1単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門科目]	
到達目標							
<p>コミュニケーションという言葉は、日常生活でもしばしば使われ、職場や学校、家庭などさまざまな場面でのコミュニケーションの重要性が指摘されている。また、コミュニケーションの豊富は多様化し、その範囲は世界規模に広がり、情報が伝わる速度は加速する一方である。一方、コミュニケーションが広く、速く、大量に行われるに従って、さまざまな問題も生じている。本講義では、私たちはどのようにして効果的に、適切なコミュニケーションをすることが出来るのかについて、基本から臨床場面での応用までを本講義で学び、日常生活や職場で活かせるようになることを到達目標とする。</p>							
講義概要							
<p>他者とのコミュニケーションを円滑に行うためにまず必要なことは自分自身との対話である。自己と向き合い、自己をより深く理解することが求められる。本講義では、前半において、ポジティブ心理学的アプローチを用い、自分自身と向き合い、自分の長所、強みを把握すること、自分の感情とうまく付き合う方法修得する。そして後半では、自分自身のコミュニケーションスタイルを生かし、社会に出て役立つ実践的な他者とのコミュニケーションスキルを修得する。</p>							
授業計画							
<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 Well-being について学ぶ 3 自分の強みを知る 4 自分の強みを生かすトレーニング 5 ノンバーバルコミュニケーション・表情の力について学ぶ 6 聞くと聴くの違い、傾聴について学ぶ 7 レジリエンストレーニング I (認知、思考、感情の仕組みについて知る) 8 自分、他者との総合的コミュニケーションに関するまとめ 							
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック							
<p>プレゼンテーション、課題等について適宜口頭や紙面によってフィードバックを行う。</p>							
履修上の注意							
<p>授業では、講義の他にワークを行うことが多い。積極的にワークに取り組むことを求める。ワークは、動きやすい服装と靴で参加すること。ワークでは、学生同士の接触 (手を握る、肩に手を置く、など) が生じる場合がある。また、受講者には、毎回、ワーク後のディスカッション、小レポートの提出などを求める。</p>							
事前・事後学修 (予習・復習) の内容							
<p>事前学修：毎回のテーマにそって重要なキーワードについて各自調べる 事後学修：毎回教示する課題を行う</p>							
評価方法 (評価基準を含む)							
<p>授業への参加態度、意欲度 80% 課題ノート 20%をもとに総合的に行う</p>							
教科書							
<p>特になし</p>							
参考書、教材等							
<p>参考書は講義中に紹介する。ビデオなど視聴覚機材も用いる。</p>							

授業科目	ペットロス論				実務家教員	—	担当教員	新島 典子
科目英名	Theories of Pet Loss and Bereavement							
開講期間	4年次 前期	動物看護学科 選択科目2単位	動物人間関係学科 必修科目2単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門科目]	
到達目標								
本講義ではペットロス（ペットの喪失やそれにより生じる悲嘆）に関する諸知識を社会心理学、社会福祉学等の観点から学修し、学生が動物看護の現場でよき理解者、支援者となれることを目標とする。								
講義概要								
学生が卒業後それぞれの職域においてクライアント（飼い主）に有効なペットロス支援ができるようになることを目的とする。ペットロスの定義、社会的背景、悲嘆反応、立ち直りのプロセス等を概観した後、ペット喪失前後の飼い主とペットの関係性、悲嘆の多様性、周囲の他者との関係性等、ペットロスに影響を及ぼす諸要因を学ぶ。最新の関連研究の考察も含め、ペットロスに対する予防と対処についての知識を深めてゆく。								
授業計画								
<ol style="list-style-type: none"> 1 ペットロス論とはなにか 2 ペットロスの基礎知識Ⅰ：ペットロスの定義、ヒトと動物の絆、愛着とは 3 ペットロスの基礎知識Ⅱ：心と体の変化（通常の悲嘆反応） 4 ペットロスの基礎知識Ⅲ：立ち直りのプロセス 5 ペットロスの基礎知識Ⅳ：ペットロスの背景要因 6 ペットロスの基礎知識Ⅴ：ペットロスに対する予防策と対処法 7 ペットと飼い主の関係性Ⅰ：先行研究紹介など 8 ペットと飼い主の関係性Ⅱ：時事的問題ほか 9 ペットの喪失Ⅰ：先行研究紹介など 10 ペットの喪失Ⅱ：時事的問題ほか 11 ペットの喪失に影響を及ぼす要因Ⅰ：先行研究紹介など 12 ペットの喪失に影響を及ぼす要因Ⅱ：時事的問題ほか 13 ペットの喪失への対処Ⅰ：先行研究紹介など 14 ペットの喪失への対処Ⅱ：時事的問題ほか 15 ペットロス論のまとめ 								
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
フィードバックとしてレポートを回収後、解答例の共有、解説を行います。								
履修上の注意								
履修予定者は「生活と社会」を履修しておくことが好ましい。授業計画の各回の内容や順番は、前後する場合がある。								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
事前学修「各授業回の内容に関連する個人的経験などを振り返っておくこと」 事後学修「授業で扱ったテーマを、読書やウェブ検索により深化させ、定着させること」								
評価方法（評価基準を含む）								
授業への参加度 35%、課題レポート 25%、試験 40%を総合的に評価。								
教科書								
講義内で適宜紹介する。必要ときにはプリントを配布する。								
参考書、教材等								
<ul style="list-style-type: none"> ・ Lagoni, Butler 他著,1994.<i>The Human-Animal Bond and Grief</i>, W.B.Saunders Company.=2000. 鷺巣月美監訳・山崎恵子（訳）『ペットロスと獣医療』チクサン出版社。 ・ Stewart, Mary F.著,1999.<i>Companion Animal Death: A Practical and Comprehensive Guide for Veterinary Practice</i>, Butterworth Heinemann.=2000.永田正訳『コンパニオンアニマルの死：獣医療のための実際的、包括的ガイド』学窓社。 ・ その他講義内で適宜紹介する。必要ときにはプリントを配布する。 								

授業科目	リハビリテーション論			実務家 教員	—	担当 教員	手塚 潤一
科目英名	An Introduction to Medical Rehabilitation						
開講期間	3年次 前期	動物看護学科 選択科目 2単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門科目]	
到達目標							
リハビリテーションの概念、内容と方法（医学的、社会的、職業的、教育的）、リハビリテーション関連法、リハビリテーション関連職種、チーム医療、リハビリテーションの流れ、地域保健と福祉などについて基本的な概念を修得する。							
講義概要							
本講義では、リハビリテーションの理念と目的を理解し、障害の理解とリハビリテーションの各アプローチの方法について学ぶことを目標とする。障害者や高齢者の方々に対し「全人間的復権」を目指したケアが提供できるように、障害（加齢に伴う障害を含む）の理解および障害の評価を学ぶとともに、理学療法や作業療法を中心としたリハビリテーションの理論と実際について学修する。さらに動物に通じる人体の仕組みや動作の特徴、障害の起こり方についても学ぶ。							
授業計画							
<ol style="list-style-type: none"> 1 リハビリテーションの概念・歴史 2 リハビリテーションの対象、リハビリテーションの諸段階 3 障害論（障害とは、国際疾病分類、国際障害分類、国際生活機能分類、等） 4 障害論（廃用症候群、誤用症候群、過用症候群、等） 5 障害者と心理（障害者心理、防衛機制、障害受容の過程） 6 ADLとQOL（分類、評価とアウトカム） 7 リハビリテーション関連職種とチーム医療 8 医学的リハビリテーション(1) 理学療法・作業療法・言語療法、他 9 医学的リハビリテーション(2) 義肢・装具、車いす、歩行補助具、リハビリテーション機器 10 教育的・職業的・社会的リハビリテーション 11 人体の仕組みとリハビリテーション（骨格、筋肉） 12 人体の仕組みとリハビリテーション（歩行と走行） 13 人体の仕組みとリハビリテーション（スポーツ動作） 14 人体の仕組みとリハビリテーション（肩こり、スポーツ障害） 15 まとめ 							
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
メールによる質疑応答及び補充解説							
履修上の注意							
予備知識がなくとも受講は可能であるが、できるだけ興味を持って臨んでいただきたい。自分なりのリハビリテーション観を持てるよう主体的な学修を期待する。							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
リハビリテーションや保健福祉に関する内容は、社会情勢と密接に関係するため、ニュース、新聞などで常に情報収集を心掛ける必要がある。							
評価方法（評価基準を含む）							
授業への参加度と貢献度 20点、定期試験 80点							
教科書							
特に定めない（適宜プリントを配布する）。							
参考書、教材等							
講義中に適宜紹介する。							

授業科目	動物リハビリテーション			実務家 教員	—	担当 教員	井上 留美
科目英名	Veterinary Rehabilitation and Physical Therapy						
開講期間	4年次 前期	動物看護学科 選択科目 2単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門科目]	
到達目標							
<p>動物リハビリテーションは動物医療において、近年、関心が高まっており、その施術者として動物看護師の役割へ期待が集まっている。また、家庭動物の高齢化を背景に、動物の QOL (生活の質) の向上が重要視されている。今後の臨床現場で需要が見込まれる動物理学療法、基本的な技術と理論の理解を深めることは、良質な動物看護を提供するために必須である。</p> <p>動物リハビリテーションの要である解剖学や神経学を基盤として学び、実際の動物リハビリテーション療法治療プログラムへの理解を深め、さらに治療計画が立案できることを目標とする。</p>							
講義概要							
<p>リハビリテーションにおける動物の正しい扱いや、機能回復に有効とされるさまざまな運動器具の使用方法を修得し、小動物臨床でのリハビリテーションにおける動物看護師の役割の多様性について可能性を探り発展させていく。</p>							
授業計画							
<ol style="list-style-type: none"> 1 動物リハビリテーション概論 2 評価① (検査各種) 3 評価② (可動域測定法、等) 4 徒手療法 (マッサージ、ストレッチ、等) 5 運動療法 6 物理療法 7 水治療法 (UWT、等) 8 電気療法 9 補完療法 10 理学療法の適用① (補装具、パフォーマンスの最適化、等) 11 理学療法の適用② (肥満、老齢、等) 12 理学療法の適用③ (痛み、関節炎、等) 13 治療計画の作成 14 動物リハビリテーションの実際 15 まとめと復習 							
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック							
小テストの解答と解説を行う。							
履修上の注意							
毎回出席をとる。							
事前・事後学修 (予習・復習) の内容							
<p>事後学習：各授業回の内容に関する文献紹介。</p> <p>事後学習：各授業に於いて前回授業を復習する。</p>							
評価方法 (評価基準を含む)							
授業への参加度 (50%) と試験、レポート等 (50%) による総合評価とする。							
教科書							
Canine Rehabilitation」 -BASIC LEVEL- HELEN NICHOLSON (株)教育サポート							
参考書、教材等							
犬のリハビリテーション Darry L. Millis 他著 インターズー							

授業科目	動物病院実習			実務家 教員	—	担当 教員	◎今村 伸一郎・茂木 千恵 荒川 真希・友野 悠
科目英名	Animal Hospital Practice						
開講期間	3年次 通年	動物看護学科 必修科目 2単位	授業形態	実習	科目区分	専門教育 [専門科目]	
到達目標							
動物病院実習では、小動物臨床現場において、学内で学んだ動物看護の知識・基礎技術をもとに、実務を通して様々なケースに対応できる実践的能力を身に付けることを目標とする。							
講義概要							
<p>講義を通じて学んだ基礎知識をもとに、学外の動物病院で臨床現場を体験する。</p> <p>動物病院の仕事を、病院受付業務補助（来院対応、問合せ、カルテ取り扱い）、診療関係業務補助（保定、一般身体検査補助、記録）、臨床検査（検体の取り扱い、準備、後片付け、記録）、入院動物や預かり動物の看護補助（バイタルサインの観察、日常管理）、院内外管理（清掃・消毒）、クライアントエデュケーション補助（投薬方法、療法食・処方食、一般食）などを通じ総合的に学ぶ。</p> <p>病院実習に先立ち、事前授業を行い、その中で、動物病院実習の心得、到達目標、実習内容、留意事項について説明する。また各実習施設への配置に当たっては、学生個々の希望、学生の所在地と通院手段など、総合的判断の上で決定し、効果的な実習が行えるように配慮する。</p> <p>なお、学生の中には、重度の動物アレルギーを持ち動物病院実習を課することが出来ない学生等も在籍している。こうした学生に対し、学生と協議の上、担当教員の判断で動物病院実習に替わる特別な実習を課し、単位を認定することもある。</p> <p>病院実習終了後には事後授業を実施。皆で実習現場の情報を交換し、反省を含めた総括の場とする。</p>							
授業計画							
前期	<ul style="list-style-type: none"> ・プレ実習オリエンテーション ・1日プレ実習（ヤマザキ学園コンパニオンアニマルセンター）（帰宅後の報告書作成含む） ・事前授業や本実習の流れのためのオリエンテーション（以後、事前・事後授業に対する予習、復習を含む） ・事前授業1回目：動物病院院長先生の講話 ・事前授業2回目：技術講義①（保定法・予防ワクチン・投薬法など） ・事前授業3回目：実習先動物病院の発表、選抜方法、昨年度の紹介 ・事前授業4回目：技術講義②（外科器具・X線検査・エコー検査・手術ビデオなど） ・事前授業5回目：技術講義③（臨床実習のための動物行動学） ・事前授業6回目：技術講義④（糞便検査・尿検査・血液検査・細胞学的検査など） ・事前授業7回目：履歴書の書き方 ・事前授業8回目：実習先での礼儀作法と訪問のための電話のかけ方、お礼の手紙の書き方 ・事前授業9回目：実習先で使用する書類配布と解説 						
病院実習	<ul style="list-style-type: none"> ・1週間の病院実習（外部病院）（帰宅後の報告書、課題レポート作成を含む） 						
後期	<ul style="list-style-type: none"> ・事後授業1回目：巡回担当教員を含めたグループワークショップ（10月中旬） ・事後授業2回目：ワークショップ結果の報告とまとめ（11月初旬） 						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
事後授業1回目に、各病院間で体験してきた情報交換を行ない、2回目で全体的なまとめを行ない、また、病院からのコメントも披露し、学生の今後に役立ててもらおう。							
履修上の注意							
基本的に、事前・事後授業にはすべて出席すること。 詳細な日程、時間等は逐次掲示していくので、情報確認を怠らないこと。							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
事前授業では講義テーマが決まっているので、そのテーマについて自分がそれまでに学んできたことを総復習してくること。実習期間中は帰宅後、その日の実習内容についてしっかりまとめを行なってもらう。							
評価方法（評価基準を含む）							
事前授業および事後授業への参加度 30%、動物病院実習評価表 30%、実習レポート 40%の割合で総合評価する。							
教科書							
必要に応じて資料を配布する。							
参考書、教材等							
動物看護学教育標準カリキュラム準拠 専門分野「臨床動物看護学・各論」「臨床検査学」「動物行動学」							

授業科目	アニマルアシステッドセラピー論			実務家 教員	—	担当 教員	◎山崎 薫・秋山 順子 山崎 恵子
科目英名	Theory of Animal Assisted Therapy						
開講期間	3年次 前期	動物人間関係学科 必修科目 2単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門科目]	
到達目標							
人と動物の絆を基盤とする動物介在介入（アニマルアシステッドセラピー、アクティビティ、エデュケーション）に関する基礎理論と実践について理解することを到達目標とする。具体的には、動物が人の心身の健康にもたらす明らかな効果について説明ができる。さらに、動物を介した効果的な関わり方や実践方法について説明することができる。							
講義概要							
本講義では、アニマルアシステッドセラピー（AAT）とアニマルアシステッドアクティビティ（AAA）を合わせてアニマルセラピーと呼ぶ。AATとAAA等の動物介在介入を実践するために必要な知識を理論的に解説し、具体的方法について講義する。							
授業計画							担当教員
1 人と動物の関係とアニマルアシステッドセラピーの歴史							秋山 順子
2 人とイヌ・ネコ・ウマの関係と家畜化の歴史							秋山 順子
3 動物が人の健康にもたらす影響							秋山 順子
4 さまざまな対象者に対する動物介在介入							秋山 順子
5 乗馬療法とイルカ介在療法							秋山 順子
6 医療と動物							秋山 順子
7 プログラムのデザインと実施（動物の選択、リスクマネジメント）							秋山 順子
8 プログラムのデザインと実施（ボランティア、評価方法）							秋山 順子
9 動物介在の定義、アニマルセラピーの概念							山崎 恵子
10 愛護教育と動物介在教育							山崎 恵子
11 動物介在プログラムにおける動物の福祉							山崎 恵子
12 人間の福祉とワンウェルフェアの概念							山崎 恵子
13 展示動物と学校動物							山崎 恵子
14 アニマルアシステッドセラピーにおける動物の適正な飼養							山崎 薫
15 総括・最終試験							秋山 順子
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
中間および最終授業回で全体に対するフィードバックを行う。							
履修上の注意							
本科目はオムニバス形式で実施する。講演者のスケジュール調整等で授業計画が変更になる場合があるため掲示や連絡事項等に注意すること。							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
事前：授業計画に沿って、関連書籍・資料を読んでおく。事後：授業で配布した資料、関連書籍にて復習する。							
評価方法（評価基準を含む）							
最終試験 50%、小テスト 20%、授業への参加度 30%によって総合的に評価する。							
教科書							
特に指定しない							
参考書、教材等							
『知りたい！やってみたい！アニマルセラピー』川添敏弘、堀井隆行、山川伊津子、赤羽根和恵（著）、駿河台出版社 その他書籍について授業中に指示する							

授業科目	アニマルアシステッドセラピー実習			実務家 教員	—	担当 教員	◎秋山 順子・堀井 隆行 山川 伊津子
科目英名	Practice of Animal Assisted Therapy-Student Laboratory						
開講期間	3年次 後期	動物人間関係学科 選択科目 1単位	授業形態	実習	科目区分	専門教育 [専門科目]	
到達目標							
<p>「アニマルアシステッドセラピー論」で学んだことをより深く理解し、動物を介在した活動について幅広い専門知識を応用しながら、社会で実践できる能力を身につけることを到達目標とする。具体的には、介在動物が人にもたらす効果とそれぞれの特性について実習を通して考察することにより説明ができる。動物介在介入の実践活動においてボランティアやハンドラーとして必要となる知識と技術を実習を通して習得する。</p>							
講義概要							
<p>アニマルアシステッドセラピー (AAT) とアニマルアシステッドアクティビティ (AAA) 等の動物介在介入を実践するために関わるものを知っておくべき知識と技術を修得することを目指した実習を行う。アニマルアシステッドセラピー論の講義で学んだ理論や事例についての検証を行い、実践現場でのボランティア技術や介在動物のハンドリング等実技を通して実践への理解を深められるよう実習する。</p>							
授業計画							担当教員
<ol style="list-style-type: none"> 1 授業説明、オリエンテーション、概論 2 動物介在介入 (Animal Assisted Intervention ; AAI) の解説 3 高齢者施設で必要なコミュニケーションの解説とワークショップ 4 有料老人ホームでの AAA と見学研修 5 AAT/AAA プログラム作成法① 6 AAT/AAA プログラム作成法② 7 動物がもたらす効果の評価方法① 8 動物がもたらす効果の評価方法② 9 乗馬実習 10 動物のリスクマネジメントと動物福祉 11 AAT/AAA に必要なイヌのハンドリング技術 12 AAT/AAA に必要な学習理論とイヌのトレーニング技術① 13 AAT/AAA に必要な学習理論とイヌのトレーニング技術② 14 実習課題説明、勉強会、予行練習 15 実習課題 - プレゼンテーション発表会 							秋山 堀井 山川 山川 伊津子 山川 伊津子 山川 伊津子 秋山 順子 秋山 順子 秋山 順子 秋山 順子 秋山 順子 堀井 隆行 堀井 隆行 堀井 隆行 堀井 隆行 秋山 堀井 山川 秋山 堀井 山川
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック							
フィードバックとして、授業内でのリアクションペーパーやレポートにコメントを返す。							
履修上の注意							
<p>学外における実習や時間割の変更があるため掲示や連絡事項等を確認すること 実習はオムニバス形式であるため各授業回について担当教員の指示に従うこと</p>							
事前・事後学修 (予習・復習) の内容							
<p>事前授業：各授業回の内容に関連する教科書のページを読んでおく。 事後授業：各授業回に、リアクションペーパーまたはレポートを提出する。</p>							
評価方法 (評価基準を含む)							
授業への参加度 (60%)、授業内に取り扱うレポート (20%)、最終プレゼンテーション (20%) による評価							
教科書							
『知りたい！やってみよう！アニマルセラピー』川添敏弘、堀井隆行、山川伊津子、赤羽根和恵 (著)、駿河台出版社							
参考書、教材等							
『人と動物の関係学 動物看護学教育標準カリキュラム準拠 専門基礎分野』インターズー							

授業科目	アシスタンスドッグ論			実務家 教員	—	担当 教員	◎秋山 順子・高柳 友子
科目英名	Theory of Assistance Dog						
開講期間	3年次 前期	動物人間関係学科 選択科目 2単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門科目]	
到達目標							
障がい者の自立と社会参加を促進することを目的に訓練された身体障害者補助犬（補助犬）に関する基礎知識と日本の補助犬普及の現状と課題について理解することを到達目標とする。具体的には、社会における補助犬の役割と補助犬法における補助犬の位置づけについて説明ができる。さらに、社会において補助犬を普及するために必要な取組みについて自分の考えを具体的に述べるができる。							
講義概要							
障がい者の自立と社会参加を促進することを目的に訓練された身体障害者補助犬及びアシスタンスドッグに関する基礎及び専門的知識を講義する。補助犬の歴史、身体障害者補助犬法、補助犬使用者のほか、犬と人の関係の重要性を解説する。さらに、補助犬育成団体やリハビリテーション医学の専門家による訓練や使用者との関わり等の実践例を通し、わが国における補助犬普及の問題点について解説する。							
授業計画							担当教員
1 ガイダンス							秋山 順子
2 補助犬の定義と歴史							秋山 順子
3 補助犬のわが国での実情と欧米との比較							秋山 順子
4 補助犬がもたらす恩恵と人の健康への効果							秋山 順子
5 補助犬とさまざまな使役動物							秋山 順子
6 補助犬育成の現状と課題							秋山 順子
7 障がい者の自立と社会参加の現状と課題							秋山 順子
8 身体障害者補助犬法の成り立ちと意義							高柳 友子
9 補助犬を知る（介助犬）（ゲストスピーカー）							高柳 友子
10 補助犬を知る（盲導犬）（ゲストスピーカー）							高柳 友子
11 補助犬を知る（聴導犬）（ゲストスピーカー）							高柳 友子
12 補助犬と作業療法（ゲストスピーカー）							高柳 友子
13 補助犬と理学療法（ゲストスピーカー）							高柳 友子
14 わが国における補助犬の展望							高柳 友子
15 総括・最終試験							秋山 順子
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
中間および最終授業回で全体に対するフィードバックを行う。							
履修上の注意							
本科目はオムニバス形式で実施する。講演者のスケジュール調整等で授業計画が変更になる場合があるため掲示や連絡事項等に注意すること。							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
事前：授業計画に沿って、関連書籍・資料を読んでおく。事後：授業で配布した資料、関連書籍にて復習する。							
評価方法（評価基準を含む）							
最終試験 50%、小テスト 20%、授業への参加度 30%によって総合的に評価する。							
教科書							
特に指定しない							
参考書、教材等							
「介助犬を知る」高柳哲也（編）、名古屋大学出版会 その他書籍について授業中に指示する							

授業科目	伴侶動物資源・育種学			実務家教員	—	担当教員	野村 こう
科目英名	Companion Animal Breeding and Their Resources						
開講期間	3年次 前期	動物人間関係学科 選択科目 2単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門科目]	
到達目標							
全ての伴侶動物は野生動物が家畜化されたことにより成立したことを理解し、新たな伴侶動物資源に関する知識のみならず伴侶動物のブリーダーとして必要な知識を修得することを到達目標とする。							
講義概要							
<p>本科目は、伴侶動物資源学と伴侶動物育種学の2領域から構成されている。</p> <p>まず主要伴侶動物の野生原種や近縁野生種について解説し、さらに今後新たな伴侶動物と成り得る動物資源、すなわち、ミニヤギ、ミニブタ、ポニー、ゲツ菌類、キツネ等について解説する。</p> <p>次に伴侶動物の育種の沿革と品種について詳述する。また、量的、質的形質の遺伝・育種を解説した後、育種目標、選抜方法、交配方法等の具体的育種方法につき解説し、伴侶動物の品種改良の理論と実際を学修する。</p>							
授業計画							
<ol style="list-style-type: none"> 1 伴侶動物資源学とは：講義の目的と特色、講義の進め方等のガイダンス 2 伴侶動物と成り得る動物資源 (1) ミニヤギ、野生原種と近縁野生種 3 伴侶動物と成り得る動物資源 (2) ミニブタ、野生原種と近縁野生種 4 伴侶動物と成り得る動物資源 (3) ポニー、野生原種と近縁野生種 5 伴侶動物と成り得る動物資源 (4) キツネ、タヌキ等、野生原種と近縁野生種 6 伴侶動物と成り得る動物資源 (5) その他 7 伴侶動物資源学総括 8 伴侶動物育種学とは：講義の目的と特色、講義の進め方等のガイダンス 9 家畜化と動物育種の沿革 10 質的形質と量的形質の遺伝・育種 11 伴侶動物の選抜方法 12 伴侶動物の交配方法 13 伴侶動物の品種 (1) 犬 14 伴侶動物の品種 (2) 猫、爬虫類等 15 伴侶動物の品種 (3) その他、伴侶動物育種学総括 							
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
ミニテストやレポートを実施後、速やかに正解を解説し、学生にフィードバックする。							
履修上の注意							
講義中における自筆ノートの作成や配布資料への重要説明の記入を行なうこと。							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
事前学習：毎回の授業前に、配布された資料や紹介した本を読んでおくこと。							
事後学習：毎回の授業後に、配布された資料やノートで復習し、レポート等を作成すること。							
評価方法（評価基準を含む）							
授業への参加度（40%）と授業の節目ごとに実施するミニテストやレポート（60%）により総合的に評価する。							
教科書							
特に指定しない。							
参考書、教材等							
授業中に紹介する。							

授業科目	動物飼育管理論			実務家 教員	—	担当 教員	◎堀井 隆行・島森 尚子 田向 健一・吉田 俊一
科目英名	Animal Rearing						
開講期間	1年次 前期	必修科目 2単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門科目]	
到達目標							
<p>人が飼育する動物種は、それぞれに分類学的、生態学的、行動学的、解剖学的、生理学的など様々な特徴を有するため、その飼育管理は一様ではない。それぞれの動物種（あるいは品種）が有する特徴をふまえた飼育管理は、人と動物が良好な関係性を築くための基盤であり、動物の愛護及び管理に関する法律にも定められた事項である。そのため本講義では、家庭飼育動物（イヌ・ネコについては他の科目で充填されるため除く）の特徴をふまえた適正な飼育管理について基礎的知識を学修し、理解を深めることを目標とする。</p>							
講義概要							
<p>イヌ・ネコ以外の家庭飼育動物として一般的な、小型哺乳類、小型の飼鳥、爬虫類、両生類、観賞魚（アクアリウム）、および家庭飼育動物として一般的ではないが伴侶動物として位置付けられるウマ（ポニー）、更には産業動物としては小型であり近年新しい伴侶動物になり得るのではないかと注目されるヤギ、ブタについて、分類学的・生態学的・行動学的・解剖学的・生理学的な特徴をふまえた飼育管理方法を学ぶ。</p>							
授業計画							担当教員
1 動物の飼育管理とは：概論、適正な飼育管理の在り方							堀井 隆行
2 小型哺乳類の飼育管理①：ウサギの飼育管理							堀井 隆行
3 小型哺乳類の飼育管理②：ハムスター・モルモットの飼育管理							堀井 隆行
4 小型哺乳類の飼育管理③：フェレットの飼育管理							堀井 隆行
5 飼鳥の飼育管理①：インコ目に属する小型飼鳥の分類と特徴、飼料と飼育環境							島森 尚子
6 飼鳥の飼育管理②：スズメ目に属する小型飼鳥の分類と特徴、飼料と飼育環境							島森 尚子
7 爬虫類の飼育管理①：カメの飼育管理							田向 健一
8 爬虫類の飼育管理②：トカゲ、ヘビの飼育管理							田向 健一
9 両生類の飼育管理：カエル、イモリの飼育管理							田向 健一
10 観賞魚の飼育管理①：観賞魚一般とアクアリウムの癒し効果について							吉田 俊一
11 観賞魚の飼育管理②：観賞魚の飼育管理学							吉田 俊一
12 観賞魚の飼育管理③：観賞魚の基礎魚医学							吉田 俊一
13 ウマ（ポニー）の飼育管理							堀井 隆行
14 ヤギの飼育管理							堀井 隆行
15 ブタの飼育管理							堀井 隆行
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
<p>授業内で模擬試験を行った場合には、解答の解説を行う。また、要望や質問等については都度口頭にて回答を行う。</p>							
履修上の注意							
<p>非常勤講師との調整により、各授業回の内容が前後する場合があるため、連絡事項に留意する。 Moodle を経由した授業案内や資料配布を行うため、Moodle およびメールを確認すること。</p>							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
<p>各授業回に関連する教科書の内容は事前に読んでおくこと。また、授業後には教科書および配布資料等を基に内容をまとめること。</p>							
評価方法（評価基準を含む）							
<p>定期試験（70%）・授業への参加度（30%）による総合評価。</p>							
教科書							
<p>『認定動物看護師教育コアカリキュラム 2019 準拠 応用動物看護学 3 動物行動学/伴侶動物学/産業動物学/実験動物学/野生動物学』 日本動物保健看護系大学協会 カリキュラム委員会 編 インターズー 『観賞魚飼育・管理士ハンドブック I』 日本観賞魚振興事業協同組合</p>							
参考書、教材等							
<p>必要に応じて随時紹介する。</p>							

授業科目	動物飼育管理実習			実務家教員	—	担当教員	◎堀井 隆行・島森 尚子 田向 健一・吉田 俊一 細野 茂之
科目英名	Practice of Animal Rearing						
開講期間	2年次 通年	必修科目 2単位	授業形態	実習	科目区分	専門教育 [専門科目]	
到達目標							
<p>「動物飼育管理論」で得た知識を基に動物の飼育管理を実践する。動物飼育に伴う、生命に対する責任、公衆衛生的配慮、作業上の工夫、肉体的疲労など、多くの要素を体験的に学ぶ。動物の適正な飼育管理の重要性と必要性あるいは理想と現実の違いなどを他科目とも統合的により深く理解することを目標とする。</p>							
講義概要							
<p>本実習では、グループに分かれて学内で動物の飼育管理方法（飼育環境の設定、ハンドリング、ケア作業等）について実習する。また、動物種によっては飼育管理の模擬体験や学外施設見学を行う。学内で飼育する動物に関しては、ローテーションを組んで日々の飼育管理を行い、実践的技術を体得する。</p>							
授業計画							担当教員
1 オリエンテーション							堀井 隆行
2 学内飼育動物の飼育管理実習①：ヤギの飼育環境設定、誘導・保定法など							堀井 隆行
3 学内飼育動物の飼育管理実習②：ヤギの体重測定、ブラッシング、削蹄など							堀井 隆行
4 学内飼育動物の飼育管理実習③：ウサギの飼育環境設定、抱き方・保定法など							堀井 隆行
5 学内飼育動物の飼育管理実習④：ウサギの体重測定、ケアなど							堀井 隆行
6 学内飼育動物の飼育管理実習⑤：日常の飼育管理実践							堀井 隆行
7 爬虫類・両生類の飼育管理模擬体験①：爬虫類・両生類飼育施設の見学実習							田向 健一
8 爬虫類・両生類の飼育管理模擬体験②：爬虫類・両生類飼育施設の見学実習							田向 健一
9 飼鳥の飼育管理実習①：小型の飼鳥飼育の実際							島森 尚子
10 飼鳥の飼育管理実習②：小型の飼鳥飼育の実際							島森 尚子
11 観賞魚の飼育管理模擬体験①：観賞魚水槽のデザイン計画の作成							吉田 俊一
12 観賞魚の飼育管理模擬体験②：観賞魚水槽のセッティング実技体験							吉田 俊一
13 ポニーの飼育管理実習①：給餌、清掃、グルーミング、馬具の装着など							細野 茂之
14 ポニーの飼育管理実習②：給餌、清掃、グルーミング、馬具の装着など							細野 茂之
15 まとめ							堀井 隆行
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
<p>授業内のレポートについてはコメントを返す。また、要望や質問等については都度口頭にて回答を行う。</p>							
履修上の注意							
<p>詳細なスケジュールは別途提示するが、学外での現場実習がある場合には、別途説明会を実施する場合もある。</p> <p>Moodle を経由した授業案内や資料配布を行うため、Moodle およびメールを確認すること。</p> <p>日常の飼育管理実践があるため、別途提示される自らの飼育管理担当スケジュールを十分に把握すること。</p> <p>実習時には動物を取扱うことに適した身だしなみを整えること。</p>							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
<p>各授業回に関連する動物飼育管理論で学んだ内容を確認しておくこと。また、授業後には体験した内容を記録し、まとめること。</p>							
評価方法（評価基準を含む）							
<p>課題レポート（50%）・授業への参加度（50%）による総合評価。</p>							
教科書							
<p>特になし。必要に応じて随時プリントを配布する。</p>							
参考書、教材等							
<p>『認定動物看護師教育コアカリキュラム 2019 準拠 応用動物看護学 3 動物行動学/伴侶動物学/産業動物学/実験動物学/野生動物学』</p> <p>日本動物保健看護系大学協会 カリキュラム委員会 編 インターズー</p> <p>その他、必要に応じて随時紹介する。</p>							

授業科目	コンパニオンアニマルケア(グルーミング)論			実務家教員	—	担当教員	◎福山 貴昭・荒川 真希
科目英名	Study of Companion Animal Care(Grooming)						
開講期間	1年次 前期	必修科目 2単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門科目]	
到達目標							
<p>コンパニオンアニマルのグルーミングケアを実施するために必要な専門知識の修得を到達目標とする。犬のグルーミングケアにおいては、それを実施するために必要な専門知識の修得を到達目標とする。</p> <p>ネコのグルーミングケアにおいては、ネコの皮膚被毛をはじめとする身体的特徴や生理学、習性、行動学などの基礎的な知識とグルーミングケアについて解説することで、学生がネコの適正飼養とケアを理解し、それらに必要な正しい知識を修得すること到達目標とする。</p>							
講義概要							
<p>コンパニオンアニマルのグルーミングケアを実施するために必要な専門知識の修得を到達目標とするため、修得内容はグルーミング分野における基礎知識に限定され、リスク管理に必要なアニマルハンドリング、グルーミングケア分野で使用される専門用語・専門器具知識、ケア対象となる動物の形態的特性などの知識を教授する。</p>							
授業計画							担当教員
1 グルーミングの目的と効果							福山 貴昭
2 グルーミングに必要な犬体名称 (前躯)							福山 貴昭
3 グルーミングに必要な犬体名称 (中躯)							福山 貴昭
4 グルーミングに必要な犬体名称 (後躯)							福山 貴昭
5 ネコの品種と被毛の種類							荒川 真希
6 ネコの体のメカニズムと行動							荒川 真希
7 ネコの飼養管理とグルーミングケア							荒川 真希
8 グルーミング器具							福山 貴昭
9 犬種標準書とグルーミングの関連性							福山 貴昭
10 イヌの皮膚・被毛の基礎							福山 貴昭
11 イヌの皮膚感染症							福山 貴昭
12 イヌのアトピー性皮膚炎と食物アレルギー							福山 貴昭
13 イヌの皮膚常在菌 (マイクロバイオーーム) と腸内フローラ							福山 貴昭
14 イヌのスキンケアとシャンプー療法							福山 貴昭
15 イヌのハンドリング							福山 貴昭
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック							
課題については適宜解説と講評を行う。							
履修上の注意							
授業内容により持ち物が変わる (授業内・掲示にて告知)。							
事前・事後学修 (予習・復習) の内容							
事前学修「各授業回の内容に関連する教科書及び配布資料を読んでおくこと」							
事後学修「毎授業後、授業内容を復習すること (90分)」							
評価方法 (評価基準を含む)							
課題 (試験・レポート) 75%、授業参加度 25%を基に総合的に評価。							
教科書							
『犬の解剖カラーリングアトラス』学窓社							
『全犬種標準書』ジャパンケネルクラブ							
『THE COMPLETE DOG GROOMING BASIC TECHNIAL MANUAL』							
(MAIN Vol)(SEPARATE Vol) (DVD) 教育サポートセンター							
参考書、教材等							
教場で指示する							

授業科目	コンパニオンアニマルケア(グルーミング基礎)実習			実務家 教員	—	担当 教員	◎福山 貴昭・荒川 真希 土屋 恵美・武田 侑子
科目英名	Practice of Companion Animal Care(Basic Grooming)						
開講期間	1年次 通年	必修科目 2単位	授業形態	実習	科目区分	専門教育 [専門科目]	
到達目標							
コンパニオンアニマルケア(グルーミング)論において学んだ内容を基に、犬猫の飼育管理上必要なグルーミング手技を学修する。資料映像、実際に動物を取扱う実技観察を交えながら、基本的には実際に犬(猫)を取り扱いながら実践方式で授業を展開する。総合的に取り進める中で、各作業については個々に学習できる。ケアを実施する犬猫の健康状態の観察法から始まり、ボディーランゲージの観察と解釈の仕方、保定方法、専門器具の使用法や保管方法などの技術の修得を到達目標とする。							
講義概要							
コンパニオンアニマルケア(グルーミング)論において学んだ内容を基に、家庭内飼育において健康管理上必要なグルーミング手技を実践する。ハンドリングを実施する動物の健康状態の観察法から始まり、ボディーランゲージの観察と解釈の仕方、保定方法、専門器具の保持の技術を修得する。							
授業計画							担当教員
1 キャットグルーミング。爪切り、ブラッシング、ベイジング、ドライングケア。							荒川・土屋・武田
2 グルーミング器具の確認とグルーミングケア作業準備。衛生管理方法。							福山・土屋・武田
3 イヌのボディーランゲージの観察とケージからの出し入れ、テーブル上の取り扱い。							福山・土屋・武田
4 イヌのリーシュコントロール、リーシュの結束。イヌの抱上げ法(大、小型犬)							福山・土屋・武田
5 グルーミング器具の保持と取り扱い。コーム、ブラシを使用してのブラッシングケア。							福山・土屋・武田
6 ベイジング、ドライングケア。イヌに最適な湯温度の設定。							福山・土屋・武田
7 洗浄方法とシャンプー剤の選定法。							福山・土屋・武田
8 ベイジング、ドライングケア。ブローの温度、風量の設定。							福山・土屋・武田
9 クリッピングケア。クリッパーを使用しての被毛処理。							福山・土屋・武田
10 クリッピングケア。細部の被毛処理。足底部ケア。							福山・土屋・武田
11 爪切り。足先作業の保定と爪切りの使用法。							福山・土屋・武田
12 大型犬のグルーミング。大型犬の保定、専用器具の使用法。							福山・土屋・武田
13 四肢のハンドリングと、頭部の保持。							福山・土屋・武田
14 シザーワーク。ハサミの保持と使用。							福山・土屋・武田
15 水洗を用いないドラケア。							福山・土屋・武田
16 総復習。							福山・土屋・武田
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック							
手技に対する評価を授業内において口頭で伝える。							
履修上の注意							
ユニフォーム着用し、実習器具は各自毎回持参すること。							
事前・事後学修(予習・復習)の内容							
事前学修「各授業回の作業内容をマニュアルで確認しておく」							
事後学修「毎授業後、授業内容を読んでおくこと」							
評価方法(評価基準を含む)							
実技(50%)、授業参加度(50%)を基に総合的に評価する。							
教科書							
「THE COMPLETE DOG GROOMING BASIC TECHNICAL MANUAL」 MAIN Vol.							
「THE COMPLETE DOG GROOMING BASIC TECHNICAL MANUAL」 SEPARATE Vol.							
「THE COMPLETE DOG GROOMING BASIC TECHNICAL MANUAL」(DVD)							
参考書、教材等							
『全犬種標準書』ジャパンケネルクラブ 等							

授業科目	コンパニオンアニマルケア(グルーミング応用)実習			実務家教員	—	担当教員	◎福山 貴昭・宮田 淳嗣 土屋 恵美・武田 侑子
科目英名	Practice of Companion Animal Care (Advanced Grooming)						
開講期間	2年次 通年	選択科目 2単位	授業形態	実習	科目区分	専門教育 [専門科目]	
到達目標							
基礎実習で修得した、ヒトと動物の安全を確保したグルーミングを実施するための知識・技術内容を様々な年齢、気質、サイズのイヌにも安定して実施できることを到達目標とする。毎授業にテーマとなるケア作業を設定し、修得に努める。							
講義概要							
コンパニオンアニマルケア(グルーミング基礎)実習で学んだイヌの健康と管理に加え、多様化する品種の保定法、皮膚の健康ケアの方法を実習する。 イヌのもつ多様な行動パターンへの応用力を修得するため、ハンドリングが多少困難な性質をもつイヌも使用し、イヌのライフステージ、飼育環境、飼育目的に沿ったグルーミングケア方法について実習する。							
授業計画							
<ol style="list-style-type: none"> 1 グルーミングケア。基礎復習。 2 グルーミングケア。ハサミ動鉄テスト。カンシ綿花作製。 3 グルーミングケア。毛玉ケア(特殊器具使用)。 4 グルーミングケア。上毛・下毛ケア(特殊器具使用)。 5 グルーミングケア。季節別(高温多湿環境対策)。 6 グルーミングケア。季節別(低温乾燥環境対策)。 7 グルーミングケア。作業者同士の確認方法。 8 グルーミングケア。作業評価方法。 9 グルーミングケア。飼育環境別。 10 グルーミングケア。ドライケアー(ムース)。 11 グルーミングケア。ドライケアー(パウダー)。 12 グルーミングケア。泡洗浄。 13 グルーミングケア。ライフステージ(老齢犬)。 14 グルーミングケア。大型イヌ品種ケア。 15 グルーミングケア応用総合。 							
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック							
授業内に手技に対する評価を口頭で伝える。							
履修上の注意							
ユニフォーム着用し、実習器具は各自毎回持参すること。							
事前・事後学修(予習・復習)の内容							
事前学修「各授業回の手技をマニュアルで確認しておくこと」							
事後学修「毎授業後、授業内容を読んでおくこと」							
評価方法(評価基準を含む)							
実技(75%)、授業参加度(25%)を基に総合的に評価する。							
教科書							
「THE COMPLETE DOG GROOMING BASIC TECHNICAL MANUAL」MAIN Vol. 「THE COMPLETE DOG GROOMING BASIC TECHNICAL MANUAL」SEPARATE Vol. 「THE COMPLETE DOG GROOMING BASIC TECHNICAL MANUAL」(DVD)							
参考書、教材等							
『全犬種標準書』ジャパンケネルクラブ 等							

授業科目	伴侶動物行動演習			実務家教員	-	担当教員	堀井 隆行
科目英名	Practice of Companion Animal Behavior						
開講期間	3年次 後期	動物人間関係学科 選択科目 1単位	授業形態	演習	科目区分	専門教育 [専門科目]	
到達目標							
<p>伴侶動物（主にイヌ・ネコ）の行動から様々な情報を読み取るためには、行動観察法及び行動解析法を修得する必要がある。本演習では、研究的手法よりも実践的な観察法・解析法に重点をおき、実際に伴侶動物を取り扱う場面（特に問題行動対処）においてその行動に対する正確な状況判断ができるスキルを修得することを目標とする。</p>							
講義概要							
<p>本科目では、行動観察及び解析に関する研究的手法と実現場で役立つ実践的手法について解説し、動画や生体を用いた行動観察・解析を演習する。さらに、様々な状況におけるイヌ・ネコの問題行動について周辺環境刺激や生体の状態等様々な要因から行動の意図を考察し、ディスカッションを通して、問題行動への対処について主体的・実践的に演習する。</p>							
授業計画							
<ol style="list-style-type: none"> 1 行動観察と行動研究：研究的手法と実践的手法それぞれの意義と特徴について学ぶ 2 実践的行動観察・解析法：実現場における行動観察・解析の着目点について学ぶ 3 イヌ・ネコのボディランゲージ：ボディランゲージの微細な特徴・変化について学ぶ 4 実践的行動観察・解析演習①：動画を用いてボディランゲージを観察し、考察する 5 実践的行動観察・解析演習②：生体を用いてボディランゲージを観察し、考察する 6 問題行動対処：問題行動対処の根幹、カウンセリング、コンサルテーションについて学ぶ 7 問題行動対処演習①：人との歩行に関する問題の原因と対処についてディスカッションする 8 問題行動対処演習②：異嗜・食糞の原因と対処についてディスカッションする 9 問題行動対処演習③：活動性に関する問題の原因と対処についてディスカッションする 10 生体とのコミュニケーション演習：的確なコミュニケーション方法の微細な特徴について学ぶ 11 問題行動対処演習④：“かむ”行動に関する問題の原因と対処についてディスカッションする 12 問題行動対処演習⑤：“かむ”行動に関する問題の原因と対処についてディスカッションする 13 問題行動対処演習⑥：恐怖・不安に関する問題の原因と対処についてディスカッションする 14 問題行動対処演習⑦：恐怖・不安に関する問題の原因と対処についてディスカッションする 15 問題行動対処演習⑧：排泄に関する問題の原因と対処についてディスカッションする 							
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
<p>授業内のレポートについては総括したコメントを返す。また、要望や質問等については都度口頭にて回答を行う。</p>							
履修上の注意							
<p>Moodle を経由した授業案内や資料配布を行うため、Moodle およびメールを確認すること。</p>							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
<p>各授業回に関連する教科書の内容は事前に読んでおくこと。また、授業後には教科書および配布資料等を基に内容をまとめること。</p>							
評価方法（評価基準を含む）							
<p>課題レポート（50%）・授業への参加度（50%）による総合評価。</p>							
教科書							
<p>『認定動物看護師教育コアカリキュラム 2019 準拠 応用動物看護学 3 動物行動学/伴侶動物学/産業動物学/実験動物学/野生動物学』 日本動物保健看護系大学協会 カリキュラム委員会 編 インターズー</p>							
参考書、教材等							
<p>『動物行動図説 家畜・伴侶動物・展示動物』佐藤衆介・近藤誠司・田中智夫 他 編 朝倉書店 『ドッグ・トレーナーに必要な「犬に信頼される」テクニック』、『同「子犬レッスン」テクニック』 共にヴィベケ・S・リーセ 著 藤田りか子 編 誠文堂新光社 教材には、Microsoft Power Point で作成したスライドや観察用動画・生体などを使用。</p>							

授業科目	コンパニオンドッグトレーニング論		実務家教員	○	担当教員	◎堀井 隆行・山本 央子
科目英名	Companion Dog Training Theory					
開講期間	3年次 後期	動物人間関係学科 選択科目 2単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育〔専門科目〕
到達目標						
長い歴史の中で、最も人と近い位置で暮らし続け、人の手による品種改良を繰り返し、「人工動物」と化してきた犬。しかし、人の伴侶として暮らす家庭犬も、人を傷つける鋭い犬歯を持つ動物である。人の社会に受け入れられる「理想的なコンパニオン・ドッグとは?」、そのトレーニング理論と実践能力を持つ人材を目指し、犬との適切なコミュニケーション技術から育成論を学ぶことを目標とする。						
講義概要						
コンパニオンドッグとして、人と共に暮らし、人の社会に受け入れられるイヌの育成について学ぶ。犬種別特性、家庭犬の歴史から、適切なハンドリングとコミュニケーション技術、子犬の社会化から老犬介護までを、体罰や強制的な方法を用いらず、行動の原理に基づいた科学に裏づけされた理論と技術、高い応用力の修得を目的とし解説する。						
授業計画						担当教員
1 学習と行動／行動の原理						堀井 隆行
2 犬の家畜化の歴史						堀井 隆行
3 レスポンデント（古典的）条件付け						堀井 隆之
4 オペラント条件付け／強化随伴性						堀井 隆行
5 オペラント条件づけ／弱化学習						堀井 隆行
6 弁別刺激／刺激性制御						山本 央子
7 環境と行動のエンリッチメント						山本 央子
8 行動の強化、弱化、消去～強化子の種類と使い方～誘導と報酬						山本 央子
9 子犬のトレーニング1／排泄、クレート						山本 央子
10 子犬のトレーニング2／社会化						山本 央子
11 新しい行動を教える～行動の獲得と学習						山本 央子
12 シェイピング～成功するためのトレーニング工程／行動の観察と記録						山本 央子
13 ターゲット～キャッチング						山本 央子
14 問題行動～問題行動の定義と原因の分析						山本 央子
15 老犬との暮らしを豊かに～感謝と喜びのトレーニング						山本 央子
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック						
講義中の口頭試問や質問等に対してはその都度コメントを返す						
履修上の注意						
講義内容への理解を深めるため、積極的に発言を促す目的で質疑応答時間を設ける						
事前・事後学修（予習・復習）の内容						
授業前には前回配布資料を読み、授業後には授業内容をまとめること（可能であれば実践すること） 質疑応答形式で予習・復習の状態を確認する						
評価方法（評価基準を含む）						
授業の参加度 30%、定期試験 70%						
教科書						
特定の教科書の使用は無し、随時必要に応じた最新資料の配布						
参考書、教材等						
「行動分析学入門」杉山尚子著						
「犬の博物図鑑」A.ミクローシ著						
「メイザーの学習と行動」J.E.メイザー著						
「学習の心理」実森正子、中島定彦共著						
その他						

授業科目	コンパニオンドッグトレーニング実習			実務家教員	○	担当教員	山本 央子
科目英名	Practical Training of Companion Dog						
開講期間	4年次 前期	動物人間関係学科 選択科目 2単位	授業形態	実習	科目区分	専門教育 [専門科目]	
到達目標							
人の傍で暮らすイヌの専門家として家庭犬のハンドリングに必要な技術や飼い主へのサポートに必要なコミュニケーション能力を修得することを到達目標とする。							
講義概要							
人の傍で暮らすイヌの専門家として家庭犬のハンドリングに必要な技術や飼い主へのサポートに必要なコミュニケーション能力を修得することを目標とする。 本科目では、イヌの行動の観察と記録、行動変容の技術、問題とされるイヌの行動の分析、系統的脱感作と拮抗条件付けの技術、オペラント条件付けの技術について実習する。							
授業計画							
<ol style="list-style-type: none"> 1 自発的な犬の行動の観察と種類、記録 2 トレーニングの環境設定と衝動反応の分析、制御 3 古典的条件づけの応用／拮抗条件付け 4 オペラント条件づけの応用／アイコンタクト～ルーズリード歩行 5 フードの優先順位 6 クレートトレーニングの行程／行動の強化と弱化 7 行動の消去 8 行動に合図を付ける／刺激性制御 9 クリッカーによるフリーオペラントトレーニング 10 弁別トレーニング対象物の弁別 11 限りなく完全な呼び戻し 12 教育としての犬の遊び／口に加えたものを放す 13 臭気探索作業① 14 臭気探索作業② 15 オンリードからオフリードへ 							
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
質疑応答、実習を通して実技能力への評価を個別に伝える。							
履修上の注意							
<ul style="list-style-type: none"> ・常に犬の行動の管理、環境設定に気をつける ・犬へのストレスの軽減に気をつける 							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
自主的な観察作業の奨励として課外観察や記録の提出							
評価方法（評価基準を含む）							
・授業への参加度(30%)と実技能力(70%)							
教科書							
配布教材							
参考書、教材等							
「行動分析学入門」杉山尚子著 「犬の博物図鑑」A.ミクローシ著 「メイザーの学習と行動」J.E.メイザー著 「学習の心理」実森正子、中島定彦共著 そのほか随時							

授業科目	伴侶動物学			実務家 教員	—	担当 教員	◎福山 貴昭・早田 由貴子 小嶋 篤史
科目英名	Characteristics of Companion Animals						
開講期間	3年次 前期	動物看護学科 必修科目 2単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門科目]	
到達目標							
日本において代表的な伴侶動物である犬・猫・鳥の起源・進化・分類を基礎知識として習得する。その上で伴侶動物となり、人為的に作出・固定された多様な形態と遺伝的背景も踏まえた疾患について学修する。臨床で伴侶動物を看護するに際し、必要な形態的・文化的な知識の習得を到達目標とする。							
講義概要							
講義は犬・猫・鳥の3つに分けて展開する。各動物種の起源・進化・分類の他に、形態機能や主な疾患についても解説する。また、伴侶動物の作出背景にある文化的な側面や、それを維持継続・管理するための社会的な仕組みまで解説する。							
授業計画							担当教員
1 鳥類の進化と分類							小嶋 篤史
2 鳥類の骨の解剖と疾患 その看護							小嶋 篤史
3 鳥類の消化器の解剖と疾患 その看護							小嶋 篤史
4 鳥類の呼吸器・泌尿器の解剖と疾患 その看護							小嶋 篤史
5 鳥類の生殖器の解剖と疾患 その看護							小嶋 篤史
6 猫の起源・進化・分類							早田 由貴子
7 猫の外部形態 ネコ品種 色素							早田 由貴子
8 猫の外部形態 長毛・短毛							早田 由貴子
9 猫の繁殖							早田 由貴子
10 猫の疾患							早田 由貴子
11 犬の起源と進化・分類							福山 貴昭
12 犬の毛色とサイズ							福山 貴昭
13 犬の感覚器能力と仕事							福山 貴昭
14 イヌ品種に存在する形態的特性。							福山 貴昭
15 イヌ品種と登録団体							福山 貴昭
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
課題については適宜解説と講評を行う。							
履修上の注意							
日本で飼育数の多い犬・猫。鳥の品種名については、予習を前提に授業を実施する。							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
事前学修「各授業回の内容に関連する資料を読んでおくこと」							
事後学修「毎授業後、授業内容を復習すること」							
評価方法（評価基準を含む）							
授業への参加度・学修態度(25%)、課題(75%)を基に総合的に評価する。							
教科書							
『小鳥図鑑』誠文堂新光社							
『コンパニオンバードの病気百科』誠文堂新光社							
『猫の教科書』ペットライフ社							
参考書、教材等							
教場で指示する。							

授業科目	イヌ・ネコの特徴論			実務家教員	—	担当教員	◎福山 貴昭・山崎 薫 宮田 淳嗣・早田 由貴子
科目英名	Characteristics of Domestic Dogs Domestic Cats						
開講期間	3年次 前期	動物人間関係学科 必修科目 2単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門科目]	
到達目標							
<p>本講義はイヌ品種の多種多様な形態、能力、行動特性等を総合的に学修し、イヌという生物がもつ多様性を理解することを到達目標とする。また、その特性をヒトが人間社会の中でどのように役立っているか、その特性を理解した上でイヌにとって必要な福祉的配慮についても修得することを目標とする。</p> <p>ネコの習性、特性を理解し、より良いコミュニケーションをはかる。野生の血を深く残しつつ現代社会に繁栄している愛らしい生き物を勉強することで多くの学生が猫に魅せられ、癒されることを目指す。各純血猫種のスタンダード（審査基準）を修得する。</p>							
講義概要							
イヌ・ネコの様々な品種の特性を解説し、起源と発生、品種が固定された文化圏の特徴とその動物観を示し、動物看護職にとって必要不可欠な知識を講義する。							
授業計画							担当教員
1 犬の起源・進化・分類							福山 貴昭
2 イヌ品種特性 ドッグショウと登録団体の沿革と役割。							福山 貴昭
3 イヌ品種特性 適正飼養管理。							福山 貴昭
4 頭部形状と前躯体構成の特徴と役割。							福山 貴昭
5 中躯体と後躯体構成の特徴と役割。							福山 貴昭
6 家庭犬としての適性を備えたイヌ品種及び、日本アキタとアメリカアキタの違い							山崎 薫
7 イヌの毛色とサイズ							宮田 淳嗣
8 イヌの仕事							宮田 淳嗣
9 イヌの感覚器とその能力							宮田 淳嗣
10 猫の起源・進化・分類							早田 由貴子
11 猫の外部形態 ネコ品種と体構成							早田 由貴子
12 猫の外部形態 色素と被毛							早田 由貴子
13 猫の呼吸器・循環器系の疾患							早田 由貴子
14 猫の泌尿器・内分泌系の疾患							早田 由貴子
15 猫の繁殖器・繁殖							早田 由貴子
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
課題については適宜解説と講評を行う。							
履修上の注意							
日本で登録頭数の多いイヌ・ネコの品種名については、予習を前提に授業を実施する。							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
事前学修「各授業回の内容に関連する資料を読んでおくこと」							
事後学修「毎授業後、授業内容を読んでおくこと」							
評価方法（評価基準を含む）							
授業への参加度・学修態度(25%)、課題(75%)を基に総合的に評価する。							
教科書							
『猫の教科書』 ペットライフ社							
参考書、教材等							
イラストでみる猫学 林良博 講談社 プリント							

授業科目	エキゾチックアニマル特性論			実務家教員	—	担当教員	霍野 晋吉
科目英名	Characteristical Theory of Exotic Animals						
開講期間	3年次 前期	動物人間関係学科 選択科目 2単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門科目]	
到達目標	エキゾチックアニマル(哺乳類、爬虫類、両生類)についての生態と特徴、疾病など知識を幅広く修得することを到達目標とする。それらの知識が卒業後の職場において、おおいに有益なものとなる。						
講義概要	獣医学の対象として「エキゾチックアニマル」と分類されている動物のうち、ペットとして飼育されている齧歯類（ハムスター、ウサギ）及び近年飼育数の増加している爬虫類（ヘビ、トカゲ、カメ）及び両生類（カエル）について、飼育数の多い種を中心にその特性や飼育方法、代表的な疾患とその看護等について学ぶ。講義にあつては、映像資料や音声教材等を用いて、視聴覚的にもわかりやすく解説する。さらに、いくつかの種については、繁殖等の特性についても紹介する。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 エキゾチックアニマル総論①（背景） 2 エキゾチックアニマル総論②（人獣共通感染と法律） 3 ハムスター学 4 フェレット学 5 ウサギ学①(JCRA 認定ウサギマスター検定 3 級講習兼) 6 ウサギ学②(JCRA 認定ウサギマスター検定 3 級講習兼) 7 モルモット学 8 チンチラ学 9 デグー学 10 ハリネズミ学・フクロモモンガ学 11 鳥類学①(解剖と生理) 12 鳥類学②(飼育と疾病) 13 カメ学 14 トカゲ学 15 両生類学 						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック	メールによる質疑応答						
履修上の注意	特になし。						
事前・事後学修（予習・復習）の内容	<p>事前学修：次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと。</p> <p>事後学修：各授業回の内容に該当する教科書を読んでおくこと。</p>						
評価方法（評価基準を含む）	定期試験 50%、授業への参加度 50%						
教科書	<p>●カラーアトラスエキゾチックアニマル 哺乳類編 増補改訂版 —種類・生態・飼育・疾病—（著者：霍野晋吉、横須賀誠）、（出版社：緑書房）</p>						
参考書、教材等	<p>●カラーアトラスエキゾチックアニマル 鳥類編 —種類・生態・飼育・疾病—（著者：霍野晋吉）、（出版社：緑書房）</p> <p>●カラーアトラスエキゾチックアニマル 爬虫類・両生類編 —種類・生態・飼育・疾病—（著者：霍野晋吉、中田友明）、（出版社：緑書房）</p> <p>●ウサギの基本 JCRA Book Kindle 版（著者：霍野晋吉）、（出版社：YIL 出版）</p> <p>●ウサギの医学（著者：霍野晋吉）、（出版社：緑書房）</p>						

授業科目	コンパニオンバード特性論			実務家教員	—	担当教員	◎島森 尚子・小嶋 篤史
科目英名	Characteristics of Companion Birds						
開講期間	3年次 前期	動物人間関係学科 選択科目 2単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門科目]	
到達目標							
一口に飼鳥と言ってもその種類は千差万別であり、鳥を飼う目的も様々だが、近年では、コンパニオンバードとして鳥を飼う人たちが増えてきており、同時に、病気や問題行動で悩む飼い主も増加している。本講義では、動物看護職および飼鳥に関連する職種を目指す学生が必要とするコンパニオンバードに関する知識の修得を到達目標として、2名の教員がオムニバス形式で講義する。							
講義概要							
(島森尚子) 家禽化した飼鳥を例に飼養の歴史などを学んだ後、人気の高い飼鳥の種についてその特質を学び、適正飼養について考えてゆく。講義では、映像や音声を視聴したり、実際の鳥を見たりしながら、鳥という生き物についての認識を深めてもらう。							
(小嶋篤志) 今まで勉強してきた食肉目(犬、猫)の看護学と鳥類の看護がどのように異なるのか、鳥類の分類学的位置、生物学的特性、解剖学的特徴の基礎を学び、いくつかの病気を紹介する中で理解をすすめてゆく。							
授業計画							担当教員
1 ガイダンス・コンパニオンバード概論 1 鳥類学概論							島森
2 コンパニオンバード概論 2 鳥の文化史							島森
3 コンパニオンバード概論 3 一般的飼育法							島森
4 カナリア 歴史と品種							島森
5 その他のフィンチ類							島森
6 セキセイインコ 歴史と品種、適性飼養							島森
7 オカメインコとその他の小型・中型インコ類 種の特徴と適性飼養							島森
8 大型インコ・オウム類 種の特徴と適正飼養							島森
9 小型の飼鳥の巣引きと育雛							島森
10 人間と鳥の関係							島森
11 鳥類の進化と分類							小嶋
12 鳥類の骨の解剖と疾患、その看護							小嶋
13 鳥類の消化器の解剖と疾患、その看護							小嶋
14 鳥類の生殖器の解剖と疾患、その看護							小嶋
15 まとめと復習							島森
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック							
課題・小テストについては適宜解説と講評を行う。							
履修上の注意							
やむを得ない事情により、講義の順序を変更する場合がある。その場合、掲示およびガイダンス等で案内する。							
事前・事後学修(予習・復習)の内容							
指定された教科書、および配布教材等を用い、毎回シラバスに従って予習・復習を行うこと。							
評価方法(評価基準を含む)							
平常点(小課題など)30%、試験70%として総合的に評価する。							
教科書							
『小鳥図鑑』誠文堂新光社							
『コンパニオンバードの病気百科』誠文堂新光社							
参考書、教材等							
教場・Moodleで指示または配布する。							

授業科目	ジェロントロジーとドッグウォーキング			実務家教員	—	担当教員	秋山 順子
科目英名	Gerontology and Dog Walking						
開講期間	3年次 後期	動物人間関係学科 選択科目 2単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門科目]	
到達目標							
ジェロントロジー（老年学）の視点から、世界に先がけて超高齢社会を迎えたわが国におけるさまざまな健康課題と、イヌを飼う・散歩すること（ドッグウォーキング）が、わが国の健康課題の解決に対して果たす役割を理解することを到達目標とする。具体的には、ジェロントロジーの学問の概念とわが国の現状について説明ができる。ドッグウォーキングが健康にもたらす効果とその具体的な方法を説明できる。							
講義概要							
ジェロントロジー（老年学）の視点から、世界に先がけて超高齢社会を迎えたわが国の現状と健康課題について理解した上で、この課題の解決に対してイヌの散歩が果たす役割とその重要性について解説する。ジェロントロジーの基礎概念、健康寿命や介護予防の重要性の他、高齢者の健康に対するイヌがもたらす影響とその有効性について最新の研究成果をもとに理論的に解説する。							
授業計画							
<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 ジェロントロジーとその概念 3 健康寿命と介護予防の実際 4 高齢者における座り過ぎの健康問題 5 超高齢社会の到来と大往生の創造（ゲストスピーカー） 6 加齢に伴う身体の変化とそれに対する対応（ゲストスピーカー） 7 超高齢社会とペットの役割（中間試験） 8 老年期における心と体のケア（ゲストスピーカー） 9 高齢者の社会参加（ゲストスピーカー） 10 ソーシャルキャピタルとドッグウォーキング（ゲストスピーカー） 11 イヌの健康と運動（ゲストスピーカー） 12 ヒト社会におけるヒトとイヌのより良い散歩（ゲストスピーカー） 13 ドッグウォーキングの効用（中間試験） 14 ドッグウォーキングの展望 15 総括・最終試験 							
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
中間および最終授業で全体に対するフィードバックを行う。							
履修上の注意							
本科目はオムニバス形式で実施する。講演者のスケジュール調整等で授業計画が変更になる場合があるため掲示や連絡事項等に注意すること。							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
事前：授業計画に沿って、関連書籍・資料を読んでおく。事後：授業で配布した資料、関連書籍にて復習する。中間授業内試験による理解度の確認を行う。							
評価方法（評価基準を含む）							
最終試験 50%、小テスト 20%、授業への参加度 30%によって総合的に評価する。							
教科書							
特に指定しない							
参考書、教材等							
東大がつくった高齢社会の教科書、東京大学高齢社会総合研究機構（編著）、東京大学出版 超高齢社会の基礎知識、鈴木隆雄(著)、講談社現代新書							

授業科目	産業動物学			実務家教員	-	担当教員	鎌田 壽彦
科目英名	Farm Animal Science						
開講期間	3年次 前期	必修科目 1単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門科目]	
到達目標							
わが国で飼育されている主な産業動物は牛・豚・鶏である。これらの動物の役割は食料の生産にあり、我々の生活と密接に関係している。これら動物の存在意義について理解するとともに、生物を利用した食料生産の仕組みを理解できるようになることを目標とする。							
講義概要							
牛、馬、豚を主とする産業動物の歴史的背景、現状、及び食料生産に占める役割について概説する。 産業動物を理解するためには、ほ乳動物の生理、生態、習性等についての知見が役立ち、これらについて講義で触れるが、関連する部分を既に学んだ科目から学びなおすことも重要である。本講義では、産業動物の衛生、疾病についても解説し、動物看護との関連性についても役立つようにする。							
授業計画							
<ol style="list-style-type: none"> 1 産業動物とは、産業動物の歴史 2 産業動物と人の食生活 3 豚について 4 鶏について 5 牛について 6 我が国では少数が飼育されている、あるいは全く飼育されていない産業動物について 7 産業動物の飼料、繁殖、健康について 8 乳・肉・卵から作られる食品について 							
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
課したレポートについて、その結果を紹介し解説する。							
履修上の注意							
動物生理学、動物機能形態学、動物遺伝学等で得た知識が関係するので、これらを復習しておくことが望ましい。							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
授業で配付した資料を復習して理解を深め、次回授業の予習とする。							
評価方法（評価基準を含む）							
授業への参加度(40%)、とレポートの評価（60%）により総合的に評価する。							
教科書							
教科書は特に指定しない。講義時に資料を配布する。							
参考書、教材等							
授業時に指示する。							

授業科目	実験動物学				実務家 教員	—	担当 教員	◎今村 伸一郎・梅村 隆志
科目英名	Laboratory Animal Science							
開講期間	3年次 後期	必修科目 1単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門科目]		
到達目標								
動物実験はなぜ必要なのか、動物実験の現状（動物実験擁護論と反対論）、倫理的かつ科学的動物実験、各種実験動物の特性、適正な動物実験、動物実験における危害防止などについて理解する。本講義の到達目標は、動物実験の必要性和それをを行うにあたり十分に考慮しなければならないルールについて説明できるようになることである。								
講義概要								
実験動物は生命科学の研究には欠くことのできないものである。これまでに、様々な生命現象の解明や有益な薬の開発が、実験動物を用いて行われてきた。動物実験は単に科学的であるだけでなく、実験動物の福祉を十分配慮した実験でなければならない。本講義では、各種実験動物の利用特性、動物実験を取り巻く社会情勢、適正な動物実験のあり方と「科学的かつ倫理的動物実験」を行うための知識について概説する。								
授業計画								担当教員
1 実験動物学概説：動物実験の意義、実験動物の定義と利用状況、歴史と今後の展望								今村 伸一郎
2 動物実験の倫理と法規制 各種実験動物の比較生物学：								今村 伸一郎
3, 4 マウス、ラット、ハムスター、スナネズミ、モルモット、ウサギ、 ネコ、イヌ、ブタ、サル等								今村 伸一郎
5 実験動物の育種・繁殖								梅村 隆志
6 実験動物の遺伝学的・微生物学的制御								梅村 隆志
7 疾患モデル・遺伝子改変動物								梅村 隆志
8 動物実験からヒトへの外挿								梅村 隆志
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
各担当者で1回ずつレポートを課す予定で、これについては返却しながらコメントする予定である。								
履修上の注意								
動物実験に関しては賛否両論があるので、動物実験の是非について反対意見の人々と十分な議論ができるよう自分の意見を常に明確にしておく必要がある。その上で授業に出席してほしい。								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
毎回資料を配布する予定だが、予習は自分の裁量の中でやるとして、復習は、授業および資料のノート整理を中心に、しっかりとまとめておくこと。								
評価方法（評価基準を含む）								
授業参加度（30%）、学期末試験（50%）、レポート（20%）により総合的に成績評価を行う。								
教科書								
特に指定しない。 適宜プリントを配布する。								
参考書、教材等								
最新実験動物学 前島一淑、笠井憲雪編、朝倉書店								

授業科目	野生動物学			実務家教員	—	担当教員	小宮 輝之
科目英名	Wild Animal Science						
開講期間	2年次 後期	必修科目 2単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門科目]	
到達目標							
野生動物学を学ぶためには、野生動物が現在に至る過程、日本や世界にどのように生息し、どんな環境で生活し、人と関わっているのかを知っておかなければならない。講義前半では動物の系統進化と分類、野生動物の形態、行動、社会的構造を、後半では人間の社会経済活動と野生動物との関連を学び、野生動物に対する豊富な知識の修得と、社会が求める野生動物の保全や行動管理技術に必要な知識の修得を目標とする。							
講義概要							
現存の野生動物が今に至る過程、そしてそれらが現在日本や世界にどのように生息し、どのような環境でどのような生活様式を持ち、どのように人と関わっているのかを講義する。講義前半では野生動物の系統進化と分類、形態、行動、社会的構造を、後半では人間の社会経済活動と野生動物との関連を学び、野生動物に対する豊富な知識の修得と、社会が求める野生動物の保全や行動管理技術に必要な知識を解説する。 対象動物は哺乳類を中心とし、人との関連性が深い動物、保全上の問題を抱える動物、外来動物等を取り上げる。							
授業計画							
1 野生動物とのつき合い方：講義の目的と特色、講義の進め方等のガイダンス 2 動物の系統進化と分類：分類区分、種の定義、分子系統学分類 3 動物の形態：機能形態進化、収斂進化 4 日本の野生動物（1）哺乳類 5 野生動物の痕跡観察 6 日本の野生動物（2）動物と四季 7 日本の野生動物（3）鳥類 8 野生動物の栄養：糞から考える 9 野生動物の栄養：飼料から考える 10 上野動物園のクマ飼育史 11 ヒトと関係の深い動物（1）イヌ、ネコの原種と近縁野生種 12 ヒトと関係の深い動物（2）ウシ、ウマ、ロバの原種と近縁野生種 13 ヒトと関係の深い動物（3）ゾウ、キリンなど日本への渡来史 14 ヒトと関係の深い動物（4）家禽の原種と近縁野生種 15 野生動物学総括							
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
出席カード裏への感想、質問に次回授業で応じ、学生にフィードバックする。							
履修上の注意							
野生動物学と合わせて保全生物学を受講していることが望ましい。指定教科書に事前に目を通しておくと講義内容を理解し易い。講義中における自筆ノートの作成や重要説明の記入を行なうこと。							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
事前学習：毎回の授業前に、指定教科書の関係項目に目を通すこと。 事後学習：毎回の授業後に、関連書物や自筆ノートで復習すること。							
評価方法（評価基準を含む）							
授業への参加度（40%）と定期試験により（60%）により総合的に評価する。							
教科書							
ZOO っとたのしー！動物園 小宮輝之著 文一総合出版 うんちくいっぱい動物のうんち図鑑 小宮輝之著 小学館							
参考書、教材等							
日本人と動物の歴史①～③ 小宮輝之著 ゆまに書房 くらべてわかる哺乳類 小宮輝之著 山と溪谷社 系統樹をさかのぼって見えてくる進化の歴史 長谷川政美著 ベレ出版 日本の家畜・家禽 秋篠宮文仁・小宮輝之共著 学研 スライドで解説し、教科書・参考書で補足しながら授業を進める。							

授業科目	動物愛護・福祉と関連法規			実務家 教員	—	担当教員	小島 香代子
科目英名	Act on Animal Kindness and Welfare						
開講期間	1年次 前期	必修科目 2単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門科目]	
到達目標							
<p>動物に対する考え方（動物観）は、動物の扱い方に直結する。人と動物の共生を目指すとき、動物愛護や動物福祉の考え方は重要かつ必須である。「動物愛護」と「動物福祉」どちらも動物に配慮する言葉・思想であり、類似する部分も多く、それぞれの言葉の意味やその違いを説明するのは難しい。</p> <p>本講義では、動物愛護と動物福祉の思想や理念を、歴史や原則、法律、動物に関わる諸問題を通して理解を深める。また、動物観は多様であることや日本人特有の動物観にふれ、動物に対する自分の考え方（スタンス）や意見を持てるようにする。そして今後、職場や家庭や地域で、人と動物の共生のために、動物愛護・動物福祉の観点からどのような試みができるのか考察することを本講義の到達目標とする。</p>							
講義概要							
<p>悠久の歴史を有する人と動物の関わりを、文化の歴史と理解し、マクロの観点から人と動物が共有する生態系（地球）における温暖化、野生動物の絶滅等の諸問題を論じ、動物愛護管理法を背景に、人と動物の共存こそが地球の将来を救う方策であることを講義する。</p>							
授業計画							
<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション、概論：動物愛護・動物福祉・動物の権利とは 2 動物観の多様性と日本人の動物観 3 日本における動物愛護運動の歴史 4 動物愛護とは：「個人の心の在り方」を脱皮し、社会の普遍性を認識し共有する（招聘講師） 5 動物愛護思想の変遷：アニミズムからアニマルライツまでの多様な歴史をたどる（招聘講師） 6 動物福祉の歴史 7 動物福祉の原則と評価 8 産業動物の福祉 9 実験動物・野生動物・展示動物の福祉 10 愛玩動物（ペット）の福祉 11 関連法規の現状：動物看護師として獣医師法、補助犬法、フード安全法などを学ぶ（招聘講師） 12 日本人は犬猫をどのように扱ってきたのか？ 13 動物愛護・動物福祉の推進①：教育と啓発の必要性 14 動物愛護・動物福祉の推進②：人と動物の共生のために、私たちができること 15 振り返りとまとめ：動物愛護と動物福祉のこれから 							
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
<p>次回の授業で、課題・レポート中の見解や質問について、回答・コメントする</p>							
履修上の注意							
なし							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
<p>事前学修：次回の授業内容について、情報収集をし、自分なりの予測を立て、考えを持っておくこと</p> <p>事後学修：授業内容を振り返り、課題およびレポートを提出すること</p>							
評価方法（評価基準を含む）							
<p>授業への参加度 40%、課題およびレポート 60%として総合的に評価する。</p>							
教科書							
特に指定しない							
参考書、教材等							
授業中に資料を配付する							

授業科目	医療安全				実務家教員	—	担当教員	本田 三緒子
科目英名	Medical safety							
開講期間	4年次 後期	動物看護学科 選択科目2単位	動物人間関係学科 必修科目2単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育〔専門科目〕	
到達目標								
医療安全の確保は、医療現場において最も重要な課題の一つであり、基本的な考え方を理解し、医薬品・医療用具、作業環境の整備医療事故の防止につながる内容やヒューマンエラーについて学び、「安全文化」の醸成と定着について理解することを到達目標とする。								
講義概要								
<p>“ワンヘルス”を掲げる人と動物の共生社会においては、医療現場等のペット関連産業の現場に関わる全ての人間と動物に関しての医療安全を考慮する必要がある。</p> <p>危険因子を排除するシステム作り、事故の予防、再発防止といったリスクマネジメント、さらに、訴訟化防止、訴訟対策といったコンフリクト・マネジメント等について解説し、今後の展望を具体的事例に基づいて講義する。</p>								
授業計画								
<ol style="list-style-type: none"> 1 医療安全とヒューマンファクター 2 医療従事者の心構えを再認識する 3 医療安全の分化・調査と分析 4 医療安全のプログラム作成 5 リスクの高い業務工程とは 6 医療安全における指標・薬剤事故について 7 安全を左右する業務工程について 8 労働環境に関する危険の同定 9 医療安全のための評価ツール、測定データの収集 10 望ましい医療安全管理報告 11 業務工程の再設計、エラーを減らす（危害分析と観察） 12 業務工程の死設計に必要な情報源 13 解決策の優先順位について 14 自院の医療安全プログラムを評価する 15 まとめ（BCPからBCMへの展開） 								
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
医療事故に関する新聞報道の切り抜きメモ作成、課題研究の実施、グループワーク・サポート。								
履修上の注意								
医療安全に関する、ニュースや報道に感心を持ち、真摯に調べ臨むこと、ポイント・ノートで課題整理を自ら完成すること。								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
事前学習「次回講義内容」について予告するので各自・予習すること。 事後学修「レポート提出、ポイント・ノートのとりまとめ」								
評価方法（評価基準を含む）								
授業への参加度：50%、レポート・発表など50%で総合的に評価する								
教科書								
特に指定しない、毎回プリント資料を配布する。								
参考書、教材等								
<ol style="list-style-type: none"> 1. よくわかる医療安全がイドブック、東京都病院協会診療情報管理委員会監訳、学研メディカル出版 2. 事件事例で学ぶ医療リスクマネジメント、宗像 雄、嶋森好子、学研メディカル出版 3. 医療安全ワークブック4版、川村治子、医学書院 								

授業科目	高齡動物看護学			実務家 教員	—	担当 教員	◎富田 幸子・鈴木 友子 花田 道子・本田 三緒子
科目英名	Animal Geriatrics Technology						
開講期間	4年次 前期	動物看護学科 選択科目 2単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門科目]	
到達目標							
<p>本科目は前半に高齡動物看護学と後半に動物自然療法論を含む講座である。動物医療の進展やヒトと動物の暮らしの変化等に伴い犬猫の寿命が飛躍的に長く伸び、様々な問題が生じている。高齡動物の病態生理を理解説明でき、その後の健康管理や治療補助および高齡動物の生活の質（quality of life, QOL）の維持および向上を目指す予防看護の方法の説明に加えて、高齡動物の飼い主教育をすることができる。自然療法論では、現代西洋医学の看護知識を基本にして、化学療法では補助できない疾患動物の自然治癒力を理解し、からだの中と外の両面から捉える東洋医学を理解実践できる。</p>							
講義概要							
<p>高齡動物の理解とその周囲をとりまく状況について解説し、高齡に伴う各臓器別の変化と正確な知識、それに対応する必要な看護について講義する。さらに、QOLの維持管理に必要な知識と死と向き合うグリーフケアについて講義する。自然療法論は実際に経験のある教員による講義で、東洋医学の考え方と応用を展開講義し、動物看護師の技術の拡大を目指す。</p>							
授業計画							担当教員
<ol style="list-style-type: none"> 1 高齡動物をめぐる状況：老犬ドッグ 2 高齡動物と循環器・呼吸器疾患の看護 3 高齡動物と消化器・内分泌疾患の看護 4 高齡動物と運動器・神経疾患の看護 5 高齡動物と認知障害・口腔疾患の看護 6 高齡動物と腫瘍・泌尿器疾患の看護 7 高齡動物と術後管理・リハビリテーション・感染症の看護 8 高齡動物における疾患予防とグリーフケア 9 自然療法・補完・代替療法と現代西洋医学の比較 10 ホリスティック医療・東洋医学の基礎知識 11 中医療（漢方・生薬・鍼灸療法など）の基礎知識（動物看護への応用を含む） 12 ホリスティック栄養療法・栄養補助食品 13 ストレスとリラクゼーション・デトックスプログラム・マイクロバブルの効能 14 アロマテラピー/バッチフラワーバジリメデー/ハーバルメディシンの効能 15 事故防止と安全管理 							本田 三緒子 富田 幸子 花田 道子 本田 三緒子 鈴木 友子 富田 幸子 本田 三緒子 富田 幸子 花田 道子 花田 道子 花田 道子 花田 道子 本田 三緒子 本田 三緒子 本田 三緒子
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
<p>フィードバックとして小テストは回収後、すぐに解答し解説を行なう。または、レポートはコメントを記載して返却する。</p>							
履修上の注意							
<p>これまでの3年間で学んできた臨床動物看護（内科学、外科学の講義と実習）を履修・単位修得していることが望ましい。これらの上に成り立つ科目のため、各々の講義前に関連科目の予習をしてから講義に望んでほしい。また新聞やニュースなどでとりあげられる動物関連の最新情報にも耳を傾け、社会環境や動物とヒトの介護問題に注意を向けてほしい。</p>							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
<p>事前学修：各講義内容に関連するこれまでの講義資料、教科書を読んでおくこと。 事後学修：配布資料、教科書をもとに復習を行い、知識を確認する。</p>							
評価方法（評価基準を含む）							
<p>授業への参加態度、レポート提出及び小テスト 40%、定期試験 60%から総合的に評価する。</p>							
教科書							
<p>特になし。講義内容に合った資料を配布する</p>							
参考書、教材等							
<ol style="list-style-type: none"> 1) 犬と猫におけるリハビリテーション、支持療法および緩和療法（監修 長谷川篤彦、学窓社 2012）. 2) 高齡動物の医学（監訳 長谷川篤彦、インターズー 2013）. 3) 疾患別 動物看護学ハンドブック（緑書房 2012）. 4) ペットの自然療法辞典（監訳 山根義久、ガイアブックス 2008）. 5) ペットホリスティック・ケア-ペットの心と体を癒やす- 高橋美知代 著、ペットライフ 2008）. 6) ペットのための鍼灸マッサージマニュアル（石野孝 著、医道の日本社 2012） 							

授業科目	在宅・訪問動物看護論			実務家 教員	—	担当 教員	◎富田 幸子・花田 道子 本田 三緒子
科目英名	Home Care and Home-Visit Animal Nursing Care						
開講期間	4年次 後期	動物看護学科 選択科目 2単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門科目]	
到達目標							
<p>近年の動物医療の発展は、良質な食餌の普及、予防医学の進歩、病気に対する飼い主の意識向上によってイヌ・ネコの寿命を飛躍的に亢進させた。それに伴って、疾病動物、とくに高齢の疾病動物は病院での治療後、自宅での継続した看護やケアが必要となることが多くなっている。そのため前半はヒトの在宅看護で蓄積された知識について理解する。ヒトの在宅看護から得られる情報を基本として、第5回からは在宅動物看護で予想される問題点を理解して列挙でき、その対処方法を学修する。第13から15回で動物医療面接法を理解できる。</p>							
講義概要							
<p>動物にとって住み慣れた自宅、飼い主のそばで飼育されることはもっとも好ましいことである。本講義ではヒトでこれまでに培われてきた在宅看護の方法論（家庭訪問、訪問看護）についてとりあげ解説する。次にこれを基本に、動物にとっての在宅訪問看護の役割と在宅での看護方法を講義する。第13,14,15回は動物医療面接法を説明し、演習を実施する。</p>							
授業計画							担当教員
<ol style="list-style-type: none"> 動物医療における在宅・訪問看護（ヒトの在宅看護から） 訪問看護する心がまえ(ヒトの看護に学ぶ、プライバシー保護、コミュニケーション術、訪問看護で何ができるか) 訪問・在宅看護のトラブル防止(ヒトの判例から問題点をつかむ) ヒトにおける訪問看護とは（ゲストスピーカー） 在宅動物看護の必要性と課題 在宅動物看護における飼主支援（退院時支援と調整） 在宅動物看護における飼主支援（安全対策と感染予防） 在宅動物看護における緊急対応、環境改善・医療機器 在宅動物看護と動物看護術（ゲストスピーカー） 在宅動物看護と動物看護術（ゲストスピーカー） 在宅動物看護と栄養管理 在宅動物看護とターミナル期(看取り支援とは) 在宅動物看護と倫理的課題(飼主のポリシーを理解する)と動物医療面接 在宅・訪問動物看護の動物医療面接 在宅・訪問看護看護の動物医療面接（演習） 							富田 幸子 本田 三緒子 本田 三緒子 富田 幸子 花田 道子 本田 三緒子 本田 三緒子 本田 三緒子 富田 幸子 富田 幸子 花田 道子 花田 道子 富田 幸子 富田 幸子 富田 幸子
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
小テストは回収後、直後に解答を行う。レポートはコメントを記載して返却する。							
履修上の注意							
動物看護学（内科学、外科学、総合）の講義と実習を履修・単位取得していることが望ましい。日頃から様々な雑誌、新聞、テレビなどのメディアに注目して周囲の社会環境、ヒトや動物の看護に関する情報を考える目を養うことが大切である。							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
事前学修：講義後、次回講義についての予告をするのでそれについて各自予習すること。 事後学修：レポートは期限内に提出すること。							
評価方法（評価基準を含む）							
授業への参加度（レポートを含む）20%、小テスト20%、定期試験60%の結果等を踏まえ総合的に評価する。							
教科書							
教科書は特に指定しない。毎回プリントを配布する。							
参考書、教材等							
<ol style="list-style-type: none"> 1) 家族看護を基盤として在宅看護論Ⅰ（第4版、日本看護協会出版会） 2) 在宅看護（改訂第2版）（学研） 3) 犬と猫におけるリハビリテーション、支持療法および緩和療法（学窓社） 4) 臨床動物看護学Ⅰ 動物医療コミュニケーション、認定動物看護師教育コアカリキュラム2019（インターズー） 5) 1年目に身に付ける社会人マナー&接遇スキル50（インターズー） 							

授業科目	動物災害・危機管理				実務家教員	—	担当教員	◎福山 貴昭・小島 香代子
科目英名	Animal Health Emergency Management							
開講期間	4年次 後期	動物人間関係学科 必修科目 2単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門科目]		
到達目標								
はじめに災害大国と称される日本が抱える自然災害リスクを理解し、一般的な災害知識、防災知識を学修する。その上で、災害時の動物関連の法令、災害時に動物がもたらす二次災害、災害時動物救護活動を学修し、災害時に動物を取り巻く状況を理解する。特に動物看護の観点から災害を見直すことで、災害と動物の新たな関連性や、より機能的な減災方法を提案できる人材の育成を到達目標とする。								
講義概要								
災害の多い日本における飼い主及び家庭動物の災害時危機管理を多角的観点から学修する。家庭動物・展示動物における災害時救護活動に関連する法整備やペット救護に関連した官民一体構造について解説する。過去の災害による被災動物状況の報告、海外の災害時動物救護活動の報告、災害時に家庭動物及び展示動物について、近隣地域に及ぼす可能性のある二次災害を解説する。また、ペット同行避難の現状と課題を学修し、将来に向けた課題の解決法についてまとめる。								
授業計画								担当教員
1 災害時動物関連の法律								福山 貴昭
2 日本において想定される自然災害								福山 貴昭
3 東日本大震災 被災動物の現状								小島 香代子
4 東日本大震災 被災動物の救護活動								小島 香代子
5 災害時のペット救護活動								小島 香代子
6 シェルターワーク								小島 香代子
7 ペット関連問題								小島 香代子
8 今後のペット関連問題								小島 香代子
9 犬猫の保護活動								小島 香代子
10 犬猫の保護活動 行政の現状と課題								小島 香代子
11 動物管理者の防災 1								福山 貴昭
12 動物管理者の防災 2								福山 貴昭
13 動物管理事業者の被害想定								福山 貴昭
14 動物管理事業者の事業継続計画策定方法。								福山 貴昭
15 防災用具解説								福山 貴昭
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
授業内で模範レポートを示す。								
履修上の注意								
なし								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
事前学修「各授業回の内容に関連する資料を読んでおくこと」								
事後学修「毎授業後、授業内容を読んでおくこと」								
評価方法（評価基準を含む）								
課題（60%）、授業への参加度（40%）を基に総合的に評価する。								
教科書								
プリント等を随時頒布する。								
参考書、教材等								
特になし								

授業科目	ペット関連産業論				実務家教員	—	担当教員	越村 義雄
科目英名	Pet-related Industry							
開講期間	4年次 前期	動物看護学科 必修科目 2単位	動物人間関係学科 選択科目 2単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門科目]	
到達目標								
<p>ペット関連ビジネスにはどのような産業・ビジネスがあるかを学び、過去から現在に至るまで、ペット関連産業・ビジネスがどのように変遷して来たかを学ぶ。また将来どのように変化して行くかを考察する。この授業を受講することにより、学生が職業を選択する際の必要な基礎知識を学ぶことにより、自身の希望の具現化や適切な職業選択ができるようになると共に、将来の明確な目標設定ができ、社会に出て活躍するのに必要な能力を身につける。</p>								
講義概要								
<p>ペットに関連する産業各分野についてその現状と動向を解説する。ペットの育種・繁殖業や生体販売業を始めとし、しつけ教室、ペットフード、飼育器具類、洋服類、グルーミング、ドッグラン等の一連のペット関連産業、ペット共生住宅、ペットホテル、同伴カフェ等の住宅設計・建築業や関連サービス業、動物関連出版業、動物保険、老犬猫ホーム、葬儀に至るまでの関連業、また動物園、テーマパークやサファリパークさらに国外サファリの見学を含む観光・旅行産業、さらに新たな分野である家庭用動物ロボット産業についても解説し、その将来性や課題について講義する。</p>								
授業計画								
<ol style="list-style-type: none"> 1 全体的且つ広義な講義の進め方と世界および日本の飼育頭数・飼育率の現状と将来予測。 2 ペット関連産業にはどのような分野があるか。 3 各産業分野の歴史。 4 各産業分野の現状。 5 各産業を考察する際に、影響をもたらす要因（世界および日本の政治、経済、環境、感染症、人口等）。 6 世界および日本の消費者・ペット飼育者の価値の変遷。 7 世界および日本のペット事情の変化。 8 コロナ時代は VUCA（不安定性、不確実性、複雑性、曖昧模糊）の時代。その対応。 9 コロナ時代の会社経営。どのようなことを考察し、経営すべきかを学ぶ。 10 ペット関連ビジネスのリスク対応と対策。 11 ペット関連ビジネスの販売方法5つを学ぶ。 12 ペット関連ビジネスの広告・販促のやり方（メディア、プロモーション、SNSの効果的活用） 13 ペットの高齢化と人の高齢化についてのペット関連ビジネスとその将来性。 14 ペット関連ビジネスの差別化のやり方。 15 ペット関連産業の各 SWOT 分析と人とペットの理想郷創り・ワンヘルスの具現化。 								
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
試験の実施やレポート作成に対するフィードバックの実施								
履修上の注意								
ほぼ毎回、資料を配布し説明する。必ずノートを取ることを。質問時間を設ける。								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
資料とノートの復習と次回のテーマに関する学習の仕方をその都度指示。								
評価方法（評価基準を含む）								
中間での理解度テスト約20%、レポート提出約20%、最終試験の成績約60%によって総合評価する。								
教科書								
特に指定しない。								
参考書、教材等								
特に指定しない。								

授業科目	ペットビジネス起業論			実務家教員	—	担当教員	宮下 めぐみ
科目英名	Pet Business Entrepreneurship						
開講期間	4年次 後期	動物人間関係学科 選択科目 2単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門科目]	
到達目標							
本講義はわが国の多様なペット関連市場の各種現状をデータや実例などから吸収し、ペット関連市場にビジネスチャンスになりうる商品やサービス等の模索を行う。ペット関連市場への就職に役立つ知識や起業に関しての経営手法等を修得し、ペット業界の即戦力となりうるようにスキルアップを目指す。							
講義概要							
<p>本科目では、ペット関連産業における起業に必要な知識を学修する。</p> <p>起業を行うには、まずは産業界でのニーズを把握し、収益を確保できる分野を見出す必要がある。そのため、社会動向、業界のトレンド、消費者の動向等を分析する。</p> <p>また、起業に必要な実務として、起業に必要な会社設立の手続き、会計・資金調達・税金・労務管理、関連法規等の基礎を学修する。</p> <p>さらに、ゲストスピーカーとして実際に起業している実務家を招き、起業を成功させるための秘訣等、より実践的な知識を学ぶ。</p> <p>最後に総括として、学生が実際に事業計画を作成し、発表を行う。</p>							
授業計画							
<ol style="list-style-type: none"> 1 ペット関連市場の状況(1)：コンパニオンアニマル市場（流通や問題点等） 2 ペット関連市場の状況(2)：流行犬種&猫種分析 3 ペット関連市場の状況(3)：ペット関連商品の市場分析 4 ペット関連市場の状況(4)：ペット関連サービスの市場分析 5 ペット関連市場の状況(5)：ペット保険の現状と役割（予防医療の推進） 6 ペット関連市場の状況(6)：ペットビジネスに関する法令 7 ペット関連市場の状況(7)動物病院の現状と分析 8 ペット関連市場の状況(8)ペットツーリズム 9 ペット業界の就職事情(1)就職に関する知識～労務関連～ 10 ペット業界の就職事情(2)就職に関する知識～資格など～ 11 事例研究：ビジネスビジョンの作成 ～売買成立の話～ 12 ビジネスプラン(1)：事業計画の立て方 ～SWOT分析など～ 13 ビジネスプラン(2)：事業計画の立て方 ～収支計画など～ 14 ビジネスプラン(3)：事業計画の立て方 ～リスク計画など～ 15 ビジネスプラン(4)：ビジネスプラン報告会 							
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
ビジネスプラン記載用紙にフィードバックとしてコメントを記載する。							
履修上の注意							
授業の後半でビジネスプランの作成を行い、報告会にて各自プレゼンを行う。止むを得ない欠席の際は、事前に届け出るか、後日担当教員の指示を仰ぎ、次回の講義までにプリントの作成をし、持参すること。							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
事前学習として、関連書物やサイトの確認（60分）、事後学習として配布資料の確認（60分）が必要。							
評価方法（評価基準を含む）							
授業への参加度を40%、ビジネスプランの作成・報告を30%、試験を30%とし総合評価する。							
教科書							
なし							
参考書、教材等							
適宜、資料を配布する。							

授業科目	消費者行動分析学			実務家 教員	—	担当 教員	杉山 尚子
科目英名	Consumer Behavior Analysis						
開講期間	4年次 後期	動物人間関係学科 選択科目 2単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門科目]	
到達目標							
動物に関わる職業人が行動分析学の知見に基づいて、コンシューマーとしての伴侶動物の飼い主との関係を考えられるようになることを目標とする。							
講義概要							
本科目は消費者個人、グループ、組織あるいは商品やサービスの購入、使用、処分等に関する消費者の感情的、精神的、行動的反応を分析する学問であり、心理学、社会学、社会人類学、マーケティングや経済学、さらに統計学の要素も含まれる学際的な社会科学である。消費者の行動を正確に予測することはこれまで困難であるとされてきた。消費者の感情、態度、好み等が消費者行動にどのように影響するかを分析することにより、徐々に解明が進んでいることを解説する。							
授業計画							
<ol style="list-style-type: none"> 1 行動分析学とは 2 行動分析の枠組みから消費者を考える 3 行動の基本原則 (1) : レスポンデント行動 4 行動の原則の応用 (1) : レスポンデント行動 5 行動の基本原則 (2) : オペラント行動 6 行動の原則の応用 (2) : オペラント行動 7 行動経済学 8 消費者行動のモデル 9 マーケティングと消費者 10 組織行動マネジメント 11 人と組織をどのように変えるか 12 動物病院とマーケティング 13 ペットショップとマーケティング 14 動物園におけるマーケティング 15 水族館におけるマーケティング 							
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック							
履修上の注意							
事前学修 (調査、報告書作成) と発表を軸に据えた演習形式の授業となる。履修者数の制限をかけるので、履修登録に注意すること。							
事前・事後学修 (予習・復習) の内容							
事前学修 : 調査、報告書の作成							
事後学修 :							
評価方法 (評価基準を含む)							
定期試験 (50%)、事前学修と発表 (50%) を基に総合的に評価する。							
教科書							
指定しない。資料を適宜配布する。							
参考書、教材等							
指定しない。資料を適宜配布する。							

授業科目	情報危機管理論			実務家教員	—	担当教員	若林 義啓
科目英名	Information Risk Management						
開講期間	4年次 前期	動物人間関係学科 選択科目 2単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門科目]	
到達目標							
<p>情報社会における様々な危険を学び、情報倫理・情報モラルを理解する。個人では自身を適切な方法で守れるようになり、ネット社会での事件・事故に遭っても適切な対処法を選択し、危機を乗り越えられるようになることを目指す。また、仕事に就いてから起こる企業や日常業務の情報セキュリティ事故を学び、企業の情報セキュリティと日常業務の情報セキュリティを提案できるようになることを目指す。</p>							
講義概要							
<p>現代の情報社会では、企業は企業活動に情報を最大限に活用し、ネット社会では幅広い世代が様々なサービスの恩恵を受けている。その一方で情報に関わる新たな問題や犯罪が多数発生しており、社会的な問題となっている。本科目では、高度情報社会における問題とリスクマネジメント、SNS やコンピューターウィルスに対する個人レベルのセキュリティ、企業や組織のリスクマネジメント、情報の適切な取り扱い方法と問題が発生した時の対処法について解説する。</p>							
授業計画							
<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス、情報セキュリティとは 2 ネットワーク社会の危険 3 情報倫理と情報モラル 4 個人の情報セキュリティ事故の事例 5 マルウェアとは 6 法律とプライバシー 7 個人ができる情報セキュリティとリスクマネジメント 8 情報セキュリティの仕組み 9 企業の情報セキュリティ事故の事例 10 日常業務の情報セキュリティ事故 11 テレワークの情報セキュリティ 12 法律と企業コンプライアンス 13 企業の情報セキュリティ対策 14 情報セキュリティとリスクマネジメント 15 情報セキュリティのまとめ 							
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
<p>課題は次の回に解説を行う。</p>							
履修上の注意							
<p>演習や課題に主体的に取り組むこと。初回に授業に対する姿勢、成績評価について説明する。</p>							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
<p>授業のテーマについて調べておくこと。</p>							
評価方法（評価基準を含む）							
<p>小テスト（20%）、授業内試験またはレポート（60%）、主体的に学修に取り組む態度（20%）の総合評価とする。</p>							
教科書							
<p>特に指定なし。必要に応じて資料を配布する。</p>							
参考書、教材等							
<p>特になし</p>							

授業科目	動物とアート			実務家 教員	—	担当 教員	齊藤 康介
科目英名	Animals in Art						
開講期間	1年次 前期	動物人間関係学科 選択科目 1単位	授業形態	演習	科目区分	専門教育 [専門科目]	
到達目標							
デッサンを通して質感・構図・物の変化を捉えることにより、バランス感覚・空間意識を持てるようになることを目標とする。							
講義概要							
デッサンの題材として、ペットを描くことで、動物に対して関心を高め、構図・バランス・質感の違い、観察力を身につける。また、自然石に動物を表現することで造形力・想像力を養い、立体に対する意識を持たせる。自由な発想で動物の世界を描かせることで、オリジナリティーのある表現・構図力・想像力及び客観的に物を見る力を身につける演習を行う。							
授業計画							
1 絵画について カリキュラムの意味 基礎デッサン① 鉛筆デッサンにより明暗の調子を学ぶ 2 基礎デッサン② ハッチングの方向、グラデーションの幅の広い表現、動き、バランス表現 3 基礎デッサン① 鉛筆、ダーマトグラフ（白）、コンテ（白）により質感、構図、明暗の調子を学ぶ 4 基礎デッサン② ダーマトグラフ（白）、コンテ（白）により質感、構図、明暗の調子を学ぶ 5 作品完成と合評 6 動物の絵（自分の周りにいる動物を描く）① 構図、バランスを考え、特徴をつかむ 7 動物の絵（自分の周りにいる動物を描く）② 毛の方向を意識して描く 8 動物の絵（自分の周りにいる動物を描く）③ 作品の完成と合評 9 自然石を利用した立体表現① 動物をイメージして、顔（頭部）、全身を表現する 10 自然石を利用した立体表現② 自然石の造形の妙を理解、消化する 11 自然石を利用した立体表現③ 作品の完成と合評 12 動物（生き物）の世界① 同一画面に構図、画面構成を考え、様々な生き物を自由に入れる 13 動物（生き物）の世界② 同一画面に構図、画面構成を考え、様々な生き物を自由に入れる 14 動物（生き物）の世界③ 同一画面に構図、画面構成を考え、様々な生き物を自由に入れる 15 レビューと合評							
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
実技のため、試験やレポート等無し。要望メッセージは、初回の授業カリキュラム説明の際に質問を受ける。 1 課題ごとに合評を行う。							
履修上の注意							
課題ごとに持ち物を忘れないこと							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
基本的に予習・復習無し。15回の授業で5課題行う。各課題のスタート時に課題ごとの内容説明、ねらい、必要性、目的等を伝え、学生はそのための準備が必要である。実技で必要な道具、資料等忘れ物をしないこと。また、1課題ごとの合評をとおして、目的を達成出来たか、自分の力を十分に発揮出来たか、次のステップに結び付く為の意欲を持たせる。実技の性格上、授業時間内に終わらなかった場合は、必ず仕上げて提出すること。							
評価方法（評価基準を含む）							
課題ごとの作品評価（90%）と授業への参加度（10%）の総合的評価							
教科書							
特に指定しない							
参考書、教材等							
田中光常「動物ワールド」写真集 上野動物園グラフ		※デッサン作品資料		レオナルド・ダ・ヴィンチ・ミケランジェロ アルブレヒト・デューラー アンリ・ルソー サルバドール・ダリ			
		※油絵資料（動物作品）		ワールドスミス			
		※アクリル作品（動物作品）					

授業科目	動物文化人類学			実務家 教員	—	担当 教員	奥野 卓司
科目英名	Animal Cultural Anthropology						
開講期間	3年次 前期	動物人間関係学科 選択科目 2単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門科目]	
到達目標							
世界の多様な文化のありよう、動物観を学び、人間と動物の関係、動物愛護の考え方の多様性、相対性を理解する。そのもとで、近未来の動物看護のあり方について、国際的に通じる自分の考えを構築する。							
講義概要							
文化人類学のなかで、とくに動物と人間、民族との関係に関わるテーマについて解説する。文化人類学の構造主義、機能主義の考え方からはじめ、フィールドワーク、質的調査等の方法論を知る。その後、担当者がこれまで調査、研究してきた、養蚕、鶺鴒、家禽化、生き物に関する民族芸術、クールジャパン等の各論に入り、近未来の人類と動物の関係について考察する。 これによって、学生は世界の多様な文化のありよう、動物観を学び、人間と動物の関係、動物愛護の考え方の多様性、相対性を理解できる。また、そのもとで、近未来の動物愛護のあり方について、SDGs、生物多様性、アニマルウェルフェア等、世界の中での自文化を相対化して、各自の考えを構築する。							
授業計画							
<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション・・・文化とは何か 2 パンダはなぜかわいいか・・・「攻撃性」抑制の表象 3 霊長類学、動物社会学から生まれた文化人類学・・・「裸のサル」の生態探求 4 文化人類学の方法・・・フィールドワークと比較、解説 5 狩猟社会と農耕社会・・・動物・植物を「食べる」文化の構造と機能 6 遊牧社会の起源と展開・・・動物を核とした文化の構造と機能 7 アニミズム、トーテミズム、シャーマニズム・・・宗教の原初的形態と動物観 8 縄文文化から「花鳥風月」へ・・・柳田國男、折口信夫、南方熊楠、今西錦司、梅棹忠夫 9 「生類憐みの令」はあったのか・・・キリスト教と東アジア多神教の「動物愛護」比較 10 ニワトリはいつから庭にいるのか・・・「家畜化」の起源と展開 11 「鶺鴒」の起源と伝搬を求めて・・・世界の鶺鴒文化・日本の「観光鶺鴒」 12 アニメ・アニマル・アニミズム・・・「鳥獣戯画」、若沖・鶴亭から「火の鳥」、ジブリまで 13 家族関係としてのペットの位置・・・「コンパニオン・アニマル」とは 14 「利己的な遺伝子」としてみた人類史・・・人間はウイルスの殻か 15 人類と動物の近未来・・・SDGs、多様性かシンギラリティか 							
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
各回の冒頭で前回のレポートに書かれた質問に回答する。また、意見について（匿名のまま）報告し、受講生に討議してもらう。							
履修上の注意							
授業中、スマホによるパワーポイントの撮影は禁止する。							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
各回の授業で述べた人名やテクニカル・タームは、必ずインターネットや書物で確認し、理解しておくこと。							
評価方法（評価基準を含む）							
各回のレポート（50%）、定期試験（50%）の総合で評価する。 なお、講義中の質問、意見表明、態度は上記に加点する。							
教科書							
定めない。必要なレジュメを配布する。							
参考書、教材等							
『鳥と人間の文化誌』奥野卓司著（筑摩書房） 『動物観と表象』奥野卓司・秋篠宮文仁編著（岩波書店）							

授業科目	水族動物学			実務家 教員	—	担当 教員	吉田 俊一
科目英名							
開講期間	3年次 後期	動物人間関係学科 選択科目 2単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門科目]	
到達目標							
<p>陸上と異なる水中環境へ適応した水域に生息する動物の生物学的特性と、ヒトとの関わりについて理解を深めることを到達目標とする。具体的には、水族動物の生物学的特性について説明できること、人間活動や環境とのかかわりについて説明できること、水族動物との共生について考えることができることを目標とする。</p>							
講義概要							
<p>河川、湖沼、地下水、海洋などの水域に生息する水族動物について講義する。近年、マンション等での生活者の増加に伴い、魚類（熱帯魚、金魚など）の飼育への関心が高くなっており、ペットショップ等での魚類の販売も多い。水族館や動物園においても魚類、哺乳類等の水族動物の飼育展示が行われ、それらに携わる者に動物の飼育や病気、適切な管理などの専門的知識が求められている。本講義は、それらをふまえて水族動物の基礎的な形態、生態、人との関わり、資源管理などについて講義する。</p>							
授業計画							
<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 水族動物とは何か 2 無脊椎動物 3 魚類 4 その他の水棲動物 5 水棲哺乳類（鯨類） 6 水棲哺乳類（鰐脚類） 7 水棲動物（魚類）の病気 8 水棲動物（魚類）の飼育 9 水棲動物（魚類）の展示 10 水棲動物（哺乳類）の病気 11 水棲動物（哺乳類）の飼育 12 水棲動物（哺乳類）の展示 13 ヒトと水棲動物の関係 14 水棲動物の保全と資源管理 15 まとめ・テスト 							
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
講義内で適宜フィードバックする							
履修上の注意							
特になし							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
講義前後に配布資料および関連書籍を読んでおく							
評価方法（評価基準を含む）							
試験 50%、授業への参加度および授業内での提出課題 50%の総合評価							
教科書							
特に指定しない							
参考書、教材等							
講義内で適宜紹介する							

授業科目	動物園・水族館論			実務家 教員	—	担当 教員	小宮 輝之
科目英名	Zoo & Aquarium Science						
開講期間	3年次 前期	動物人間関係学科 選択科目 2単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門科目]	
到達目標							
動物園・水族館の社会的役割も歴史と共に変化している。従来からレクリエーションの場、環境学習の場、希少動物の保護の場、研究の場という4つの役割があると言われてきた。最近では人々の心の癒しの場という機能が加わってきた。講義前半では動物園・水族館の歴史を通じて、将来あるべき方向について学ぶ。後半では現状の具体的活動について講義し、動物園・水族館に関する豊富な知識の修得と、社会が求める動物園・水族館の在り方について考察できる知識の修得を到達目標とする。							
講義概要							
日本や世界における動物園や水族館の現在に至る歴史的経緯を解説した後、現在の飼育管理方法、展示方法、繁殖・収集・個体識別方法、栄養管理、行動管理、施設管理、環境エンリッチメント、疾病予防、検疫等につき講義する。さらにいくつかの動物種については、その具体例を紹介する。これらを学ぶことにより、動物園・水族館における総合的保全活動、野生個体群の保全、科学と研究、個体群管理、教育と研修、コミュニケーション、パートナーシップ、持続的資源利用、動物福祉と倫理等の分野を理解させ、これからの課題等についても問題意識を持たせることを講義する。							
授業計画							
<ol style="list-style-type: none"> 1 動物園・水族館論で学ぶべきこと：講義の目的と特色、講義の進め方等のガイダンス 2 動物園・水族館の歴史 I 3 戦後復興と上野動物園 4 動物園・水族館の歴史 II 5 種の保存（域外保全の場としての動物園・水族館） 6 希少種保全への国際協力 パンダを例に 7 哺乳類の繁殖 8 魅力的な展示の創造、 9 鳥類の飼育展示・繁殖 10 保全のための技術 11 水族館の飼育展示・繁殖 12 動物園での観察・データ収集と野生動物への応用 13 日本在来家畜の現状と保全 14 命の教育 15 動物園・水族館論総括 							
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
出席カード裏への感想、質問に次回授業で応じ、学生にフィードバックする。							
履修上の注意							
動物園・水族館論と合わせて野生動物学を受講していることが望ましい。動物学や畜産学の知識、自然環境への興味、それに動物園・水族館の体験があればよい。指定教科書に希少動物保全の具体例を記載してあるので、目を通しておくと理解し易い。講義中における自筆ノートへの記入を行なうこと。							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
事前学習：毎回の授業前に、指定教科書の関係項目に目を通すこと。 事後学習：毎回の授業後に、関連書物や自筆ノートで復習すること。							
評価方法（評価基準を含む）							
授業への参加度（40%）と定期試験（60%）により総合的に評価する。							
教科書							
動物園ではたらく 小宮輝之著 イースト・プレス							
参考書、教材等							
物語上野動物園の歴史 小宮輝之著 中公新書 日本の家畜・家禽 秋篠宮文仁・小宮輝之共著 学研 昔々の上野動物園絵はがき物語 小宮輝之著 求龍堂 スライド、DVD で解説し、教科書で補足しながら授業を進める。							

授業科目	有害動物学			実務家教員	—	担当教員	谷川 力
科目英名	Pestology						
開講期間	3年次 後期	動物人間関係学科 選択科目 2単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門科目]	
到達目標							
<p>本講義の内容は、3年次後期の選択科目である専門科目である。ヒトや動物（主にペット等）の居住環境ではそれらに害を与える生物が存在する。その悪い影響を与える生物の知識の習得は動物を扱う職種だけでなく、広くヒトの生活する環境内でも公衆衛生上問題である。有害生物を学ぶことは、ヒトを中心とした生活環境で身近に生息する生物の生態や対策に関する知識が得られる。到達目標はそれらの有害生物の生態を学び、防除やその対策を立案できるようになることである。</p> <p>一方、生物を扱う業種は保護や育成などもあるが、有害な生物をコントロールすることも重要であり、それに特化したペストコントロールを扱う業種も存在する。本講義ではその基礎を学び、将来の就職先の業種の一つとして捉えることもできる。なお、「Pestology」という英名は「pest」と「logy」の合成語で「ペスト(有害なもの)を研究する学問」という意味である。</p>							
講義概要							
<p>近年、高病原性鳥インフルエンザや重症熱性血小板減少症候群(SFTS)等目に見えない生物による、ヒトへの感染症被害がクローズアップされている。また、ネズミや昆虫等の有害動物による被害も多く発生している。このように有害動物は、生活圏に入り込み、多くの害を人、食品、家財等に与える。本講義では、有害動物をネズミ、昆虫類、ダニ類、その他に分け、それらの被害を分類して、その基礎知識を学び、駆除や予防対策の立案方法について講義する。</p>							
授業計画							
<ol style="list-style-type: none"> 1 有害生物概論 2 有害生物の基本 3 ネズミの生態と対策 4 ゴキブリの生態と対策 5 ハエの生態と対策（不快害虫も含む） 6 蚊の生態と対策（吸血害虫も含む） 7 ダニ・ノミ等ペットに関わる生物の生態と対策 8 トコジラミ・アリ・ハチ・シロアリ等家屋にかかわる生物の生態と対策 9 ハクビシン・アライグマ・コウモリ・ハト等の生態と対策 10 その他衛生害虫・不快害虫・食品害虫の紹介 11 新型コロナウイルス感染症等の消毒とその準備 12 環境改善・IPMによる防除方法 13 薬剤による防除方法（殺虫剤・殺鼠剤・忌避剤等） 14 捕獲による防除方法 15 まとめ 							
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
授業終了後に直接またはメールにて質疑応答する。またその質疑内容が聴講学生全体に必要であれば次回授業で解説する。							
履修上の注意							
授業は配布資料、パワーポイントを基に進める。重要事項を積極的にノートに書きとめるようにし、自筆ノートの作成と記憶の定着に心がけること。配布資料とパワーポイントを見ながら理解すること。							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
授業計画を事前に確認しその内容を予習すること。毎回事後学修：授業後に当日の聴講内容と配布された資料を確認すること。							
評価方法（評価基準を含む）							
学期末レポート（70%）、授業への参加度（30%）から総合的に評価する。							
教科書							
特になし。資料を講義時に配付する。							
参考書、教材等							
有害生物防除事典（オーム社）谷川 力他、衛生動物の事典（朝倉書店）谷川 力他							

授業科目	サイエンスイングリッシュ			実務家 教員	—	担当 教員	小黑 美枝子
科目英名	Scientific English						
開講期間	3年次 前期	選択科目 2単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [専門科目]	
到達目標							
<p>動物看護学や動物人間関係学専攻で要求されるサイエンス (科学) は、国際的で、学問進歩が急速である。グローバルな視野に立ち、英文参考書、資料、論文などの科学英語に抵抗なく読むことが要求されている。本授業では、基礎的な科学英文を読解するためのスキルを修得することを目標とする。卒業研究における英語資料、論文の読解のための基礎力修得を到達目標とする。また、国際社会が身近になり、英語のリスニングも、動物や動物と人間の関わりに関する分野、またその関連科学分野においても必要になっている。そのために、基礎的英文読解力に基づいた専門分野の科学英語の英文読解力を修得することを到達目標とする。</p>							
講義概要							
<p>諸専門科目で要求される、サイエンス分野の英語文献、資料を理解するための基礎的な英文読解のスキルの修得を目標とする。他に配当の基礎の英語科目での既習内容を継続的に発展させ、結びつきを図りながら、サイエンス英語読解の基礎能力の確実な定着を目指す。サイエンス英語に特有な英文構造の把握、専門用語、関連語彙、用語の習熟から進めていく。さらに、読解スキルを実践的に使えるようになるために、専門的英語教科書での精読を進めていく。あわせて、英語を耳、口を使って学修するために、CD等によるリスニングや、音読の繰り返しを行い、専門分野の科学英語を解説する。</p>							
授業計画							
<p>1 オリエンテーション (サイエンスイングリッシュの科目の紹介、1, 2年次に学修した英語科目との違いを説明、サイエンスイングリッシュの学び方を紹介)</p> <p>2 動物看護学関連: Animal Biology, Cells & Basic Tissues</p> <p>3 動物看護学関連: Blood</p> <p>4 動物看護学関連: Bone</p> <p>5 動物看護学関連: Movement of Materials within the Body</p> <p>6 動物看護学関連: Basic Nutrition(1)</p> <p>7 動物看護学関連: Basic Nutrition(2)</p> <p>8 動物人間関係学関連: How Dogs Think inside the Canine Mind</p> <p>9 動物人間関係学関連: Amazing Tales of Amazing Dogs Doing Utterly Amazing Things</p> <p>10 動物人間関係学関連: The Golden Retriever Who Saved a Baby Deer</p> <p>11 動物人間関係学関連: The One Eyed Rescue Who Sniffed out Skin Cancer</p> <p>12 動物人間関係学関連: A Dog's Five Senses: They are just Like Ours-But not</p> <p>13 学生によるトピックス提供、発表(1)</p> <p>14 学生によるトピックス提供、発表(2)</p> <p>15 レビュー、確認テスト</p>							
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック							
試験や小テストの解説を15回目授業中に行い、フィードバックする。							
履修上の注意							
辞書を駆使し、課題の予習をしっかりと行うこと。Moodleを利用して掲示、授業参考資料などを配布するので、注意を怠らないこと。							
事前・事後学修 (予習・復習) の内容							
事前学修: 授業で配布したプリントは、単語を調べ予習すること。							
事後学修: 重要な語彙や表現をノートにまとめる。							
評価方法 (評価基準を含む)							
授業時に実施する小テスト (授業への参加度を含む)、確認テストを総合的に評価する。評価基準は、それぞれ、40%、60%の割合とする。							
教科書							
配布プリント							
参考書、教材等							
Animal Biology and Care, Sue Dallas, Blackwell Science							
Time Special Edition How Dogs Think 2018 Time Inc. Books							

授業科目	アカデミックスキルズ			実務家 教員	—	担当 教員	新島 典子
科目英名	Academic Skills						
開講期間	3年次 前期	動物人間関係学科 必修科目 2単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [総合科目]	
到達目標							
「動物人間関係学」に関わる研究の手法を学修し、卒業論文を作成するに当たって必要なそれぞれの研究方法を学修することを目標とする。							
講義概要							
「動物人間関係学」に関わる研究の方法を講義し、卒業論文を作成する方法を学修する。具体的には、研究テーマの選び方、研究方法の選択、文献の検索法と引用法、研究計画の立て方、研究における倫理的配慮、データの集め方と解析法、論文のまとめ方、原稿の書き方と推敲、口頭発表の仕方、学術誌への投稿の方法等を解説する。							
授業計画							
<ol style="list-style-type: none"> 1 研究に着手する前の心構え 2 研究テーマの選び方 3 研究方法の選択 1 (文献研究) 4 研究方法の選択 2 (症例研究) 5 研究方法の選択 3 (理論研究) 6 研究方法の選択 4 (調査研究) 7 研究方法の選択 5 (実験研究) 8 文献の検索法、記載の仕方、資料の引用法、著作権や肖像権への配慮 9 研究計画の立て方 10 研究における倫理的配慮 1 11 研究における倫理的配慮 2 12 データの集め方と解析法 13 論文のまとめ方、構成 14 原稿の書き方と推敲 15 口頭発表の仕方、学術誌への投稿方法他、研究結果の公開手段について 							
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック							
理解のために適宜課題を提出してもらおう。原則返却は行わないが、フィードバックとして、必要に応じて解説や質問への回答を適宜行う。							
履修上の注意							
各種変更や連絡掲示、授業参考資料などの配布を行うため、Moodle を頻繁に確認し、担当教員からの連絡等に注意すること。							
事前・事後学修 (予習・復習) の内容							
Moodle 上の指示や授業中の指示に従って、必要な予習復習を行うこと。							
評価方法 (評価基準を含む)							
授業への参加度(50%)、レポート等提出物(50%)により総合的に評価する。							
教科書							
なし。必要に応じて、授業や掲示板で通知する。							
参考書、教材等							
なし。必要に応じて、授業や掲示板で通知する。							

授業科目	統計学			実務家教員	—	担当教員	植田 富貴子
科目英名	Statistics						
開講期間	2年次 後期	選択科目 2単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [総合科目]	
到達目標							
動物を対象として行った実験結果から、全体の傾向を把握し、また種々の外的および内的要因によって起こる実験の誤差を取り除き、あるいはその誤差を補正して一つの正しい推論を導き出す最適な統計手法を学修し、推計学解析に関する基礎的な方法を修得することを到達目標とする。							
講義概要							
本科目では特定の集団の傾向や性質、集団現象を数量的かつ客観的に把握するための統計手法を学術論文の論証として適切に理解し、活用する。そして、研究主題に関連する文献・調査・実験等から得られた様々な情報やデータをコンピュータ上で整理し、データを解析して図表化するための技術を学修する。また、平均・分散・標準偏差・相関係数等の基礎統計量や、平易で多用性のある統計検定をいくつか解説する。							
授業計画							
<ol style="list-style-type: none"> 1 生物統計学とは 2 母集団と標本、データの中心 3 分散、標準偏差、標準誤差 4 分散、標準偏差、標準誤差の演習 5 エクセル演習 6 推定と検定 7 平均値の差の検定法 (1) 対応のない2組の標本数が等しい場合 8 平均値の差の検定法 (2) 対応のない2組の標本数が異なる場合 9 平均値の差の検定法 (3) 対応のある場合 10 エクセル演習 11 分散分析法 12 カイ二乗検定法 13 相関係数 14 回帰係数 15 エクセル演習 							
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
講義ごとに演習を行い、その結果について解説する。							
履修上の注意							
受講に際しては、平方根並びに10桁以上の計算可能な電卓を持参すること。							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
事前学習：授業内容に関連する教科書のページをよく読んでおくこと。							
事後学習：授業内容を復習して、計算問題を解くこと。							
評価方法（評価基準を含む）							
定期試験 50%、授業への参加度 50%により評価する。							
教科書							
計量生物学 生物統計の基礎と演習 田中一栄（監修）天野 卓、野村こう、横濱道成編著 三共出版							
参考書、教材等							
特に指定しない。							

授業科目	動物看護学総合演習			実務家 教員	—	担当 教員	今村 伸一郎
科目英名	Practice in Animal Health Technology						
開講期間	4年次 後期	選択科目 1単位	授業形態	演習	科目区分	専門教育 [総合科目]	
到達目標							
4年間学んできた動物看護学について総まとめを行い、専門知識の定着を目指す。専門基礎科目の知識と専門臨床科目の知識の融合が図られ、いろいろな想定場面でそれら知識の活用ができるようになることを目標とする。							
講義概要							
専門基礎科目である解剖学、生理学、病理学、薬理学の基礎知識の再確認を行い、そのうえで、臨床科目の知識にそれらが応用され、活用されるよう、反復演習を行う。							
授業計画							
1 解剖学の整理 2 生理学の整理 1 3 生理学の整理 2 4 病理学の整理 1 5 病理学の整理 2 6 薬理学の整理 7 動物臨床看護学（基礎）の整理 1 8 動物臨床看護学（基礎）の整理 2 9 動物臨床看護学（内科）の整理 1 10 動物臨床看護学（内科）の整理 2 11 動物臨床看護学（検査）の整理 1 12 動物臨床看護学（検査）の整理 2 13 動物臨床看護学（外科）の整理 1 14 動物臨床看護学（外科）の整理 2 15 動物看護学総まとめ							
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
毎回演習問題に取り組み、その解説を行っていく。							
履修上の注意							
国家試験受験を見据え、各自この授業に臨むにあたり、まず自身でその単元の総復習を行ってから演習に参加してもらいたい。							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
各回の演習内容を把握し、必ずその範囲の予習（1年生からの復習）を行ってから演習に臨むこと。演習で扱った内容に関しては、必ず自己整理を行うことを習慣づけてほしい。							
評価方法（評価基準を含む）							
定期試験 60%、毎回の演習参加度（演習内で行うテストの成績およびやり直しレポート）40%として、総合的に判定する。							
教科書							
特に指定しないが、基本的に、4年間各科目で使用してきた教科書を中心に演習内容を構築する。							
参考書、教材等							
必要に応じて提示する。							

授業科目	卒業論文				実務家教員	—	担当教員	内田 明彦・小黒 美枝子 梅村 隆志・今村 伸一郎 岡崎 登志夫・植田 富貴子 富田 幸子・谷口 明子 島森 尚子・高橋 克樹 石川 牧子・新島 典子 若林 義啓・奥野 卓司 加藤 理絵・大橋 由紀子 茂木 千恵・鈴木 友子 秋山 順子・堀井 隆行 福山 貴昭・宮井 紗耶香 三井 香奈
科目英名	Graduation Thesis							
開講期間	4年次 通年	動物看護学科 必修科目 4単位	動物人間関係学科 選択科目 4単位	授業形態	演習	科目区分	専門教育 [総合科目]	
到達目標								
主に「動物看護学」あるいは「動物人間関係学」に関わる分野において、担当指導教員の指導の下、特に興味を持った事項についてまとめて、成果として卒業論文もしくは卒業製作物を提出することを目標とする。								
講義概要								
動物看護教育の中で、担当指導教員の指導の下、特に興味を持った事項についてまとめて、成果として論文を提出させることを目的としている。 具体的には、学生の能力の向上や社会に貢献できる人材成長のため、学生が自ら選んだ卒業論文指導教員の下で、動物看護学に関する文献調査から始まり、研究テーマの設定、実行計画の立案、課題に継続的に取り組む自主性、得られたデータをまとめて発表する能力までを、一貫して指導する。								
授業計画								
研究テーマの設定、実行計画の立案、研究の実施、得られたデータを論文あるいは作品にまとめる。 なお、作成した論文あるいは製作物の提出締切日は、別に掲示板で通知する。中間報告および卒業論文発表会を実施する。								
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
必要に応じて指導教員とディスカッションをし、研究内容の検討を行う。								
履修上の注意								
各所属研究室で個別指導となるので、連絡等に注意すること。								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
評価方法（評価基準を含む）								
研究態度（30%）と提出論文または製作品（70%）で総合的に判断する。								
教科書								
なし								
参考書、教材等								
なし								

授業科目	インターンシップ			実務家教員	-	担当教員	◎堀井 隆行・秋山 蘭 三井 香奈
科目英名	Internship						
開講期間	3・4年次 通年	選択科目 2単位	授業形態	実習	科目区分	専門教育 [総合科目]	
到達目標							
<p>学生が在学中に動物に関連する事業を展開する企業や団体等（動物病院を含む）において、将来のキャリアに関連した就業体験をおこなうことにより、主体的な職業選択の能力や職業意識の育成及び実務的知識の修得を目標とする。</p>							
講義概要							
<p>本科目では、事前授業を通して社会人基礎力を身につけるとともに、インターンシップの実践を通して職業意識を培い、自らの職業適性について考え、実社会への適応能力を身に付けていく。さらには、事後授業を通して自らの体験を振り返るとともに他者と多様な職域での就業体験を共有し、将来のキャリア形成に向けた自己の課題や職業選択を考える機会とする。</p>							
授業計画							
<p>1. 科目インターンシップに向けた事前授業（4～7月）</p> <p>事前授業1 オリエンテーション インターンシップとは、企業を知る、自分を知る</p> <p>事前授業2 ビジネスマナー①身だしなみと立ち居振る舞い</p> <p>事前授業3 ビジネスマナー②言葉遣いと電話応対</p> <p>事前授業4 ビジネスマナー③報告・連絡・相談、記録と守秘義務、席次・名刺交換・手紙（お礼状）のマナー</p> <p>事前授業5 エントリーシート・履歴書の書き方</p> <p>事前授業6 面接のシミュレーション</p> <p>事前授業7 インターンシップ先との連絡のとり方</p> <p>事前授業8 インターンシップ直前オリエンテーション①</p> <p>事前授業9 インターンシップ直前オリエンテーション②</p> <p>2. 科目インターンシップ（8～9月） 16時間以上の科目としての学外インターンシップ 大学指定の企業等（動物病院を含む）で実施する</p> <p>3. 科目インターンシップ後の事後授業（10月）</p> <p>事後授業1 就業体験の共有</p> <p>事後授業2 今後のキャリア形成に向けた総括</p>							
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
<p>授業内のレポートについては、総括したコメントを返す。また、要望や質問等については都度口頭にて回答を行う。</p>							
履修上の注意							
<p>通年科目となっているが、実施スケジュールの概略は上記の通りである。 詳細なスケジュールは初回授業にて別途提示する。 Moodle を経由した授業案内や資料配布を行うため、Moodle およびメールを確認すること。 対外的な科目履修になるため、責任や誠意ある行動をするように心がける。 遅刻・欠席や課題提出の遅れは厳禁とする。</p>							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
<p>各授業回に関連する内容を書籍等で下調べしておくこと。また、授業後には配布資料等を基に内容をまとめること。さらに、各自インターンシップ先の業界・企業研究をすること。</p>							
評価方法（評価基準を含む）							
<p>授業への参加度（30%）・インターンシップ評価（30%）・課題レポート（40%）による総合評価。</p>							
教科書							
<p>特になし。必要に応じて随時プリントを配布する。</p>							
参考書、教材等							
<p>必要に応じて随時紹介する。</p>							

授業科目	研修・ボランティア活動			実務家教員	—	担当教員	若林 義啓・◎加藤 理絵 宮井 紗弥香
科目英名	Volunteer Study & Activity						
開講期間	1~4 年次 通年	選択科目 1 単位	授業形態	実習	科目区分	専門教育 [総合科目]	
到達目標							
<p>動物看護及び動物人関係学を学ぶ人間として、飼い主がペットと安心して生活できる環境を提供できる知識と能力を持つことが求められる。動物病院の中だけではなく、様々な状況や環境で生じている。地域支援、高齢者支援、子育て支援、障害者支援、農業支援、震災時の支援など様々な場面で動物に関わる職業人としての役割が求められている。</p> <p>この授業では、実際に研修やボランティアに参加し、「飼い主と動物」を取り巻く環境に対して、専門職として介入ができる知識と能力を身に付けることを到達目標とする。</p>							
講義概要							
<p>本授業では、大学で指定する研修とボランティア活動に参加することが義務付けられる。前期に講義（事前授業）を行い、それらの意義や原則を理解することとする。そして、夏季休暇を利用した研修やボランティア活動を実践し、後期には事後授業を実施し、研修やボランティアに関する発表とレポート提出をもって単位認定を行うこととする。</p>							
授業計画							
<p>事前授業</p> <p>1 回目 オリエンテーション、「海外研修」、「国内研修」の紹介と研修意義</p> <p>2 回目 ボランティアの意義：ボランティア、地域づくり、活動の紹介①</p> <p>3 回目 ボランティアの意義：ボランティア、地域づくり、活動の紹介②</p> <p>4 回目 ボランティアの意義：ボランティア、地域づくり、活動の紹介③</p> <p>実習 下記予定地のいずれかで実施する（複数選択可）</p> <p>(1) 海外研修：海外における伴侶動物などの社会的地位と現状（実費）</p> <p>(2) 国内研修：北里大学八雲牧場 産業動物における飼育・管理についての実習（実費）</p> <p>(3) 学内ボランティア：学内ボランティア、学内イベントや研修の手伝い</p> <p>(4) 科目担当が認めた研修やボランティア</p> <p>事後授業</p> <p>1 回目 研修やボランティアで学んだことの振り返りと発表・報告会</p>							
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
レポートなどは必要に応じて返却する。							
履修上の注意							
<p>実習先との連絡を徹底し、事故のないように注意する。</p> <p>「海外研修」および「国内研修」は実費とする。詳しい内容は第 1 回目の授業内で説明する。</p> <p>（「海外研修」および「国内研修」は、本授業を履修しなくても参加可能な研修である）</p>							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
シラバスに当日の講義内容が示されているので予習をすること、また復習についても必ず講義の後まとめたノート作りをする。							
評価方法（評価基準を含む）							
出席（25%）と研修・ボランティア参加状況（25%）、レポート（25%）と発表（25%）を総合的に勘案し判断する。							
教科書							
随時プリントを配布する。							
参考書、教材等							
なし							

授業科目	動物実習短期留学			実務 家 教 員	-	担 当 教 員	◎島森 尚子・加藤 剛
科目英名	Short-term Animal Practical Training Abroad						
開講期間	1～4 年次 通年	選択科目 4 単位	授業形態	講義・実習	科目区分	専門教育 [総合科目]	
到達目標							
海外の動物関連施設における実際的な英語および動物飼育実習の学修を通じて、多文化共生社会における動物関連学問領域のあり方を幅広く学び、グローバルな視野を身に着ける。							
講義概要							
本科目は、オーストラリアのオーストラリア動物園と提携した海外実習科目である。現地の教育担当者及び飼育担当者に指導を受けながら現地での動物飼育の体験を通じて、多文化共生社会における動物関連学問領域のあり方を幅広く学び、グローバルな視野を身に着けることを目標とする。渡航前及び実習中には、実際に必要とされる英語の学修を日本人及びネイティブの英語教員が行い、現地スタッフとの潤滑なコミュニケーションをはかる。帰国後は各自プレゼンテーションを行い、実習で学んだことを振り返る。							
授業計画							
1 事前学修 1 オリエンテーション (講義目的・内容と履修方法の理解)							
2 事前学修 2 地域学習 (実習先の地域に関する英語学修)							
3 事前学修 3 旅行英語 (渡航および滞在に必要な語彙および表現)							
4 事前学修 4 専門英語 (実習に必要な語彙および表現)							
5 事前学修 5 専門英語 (実習に必要な語彙および英語)							
6 実習 1 オーストラリア動物園での実習							
7 実習 2 オーストラリア動物園での実習							
8 実習 3 オーストラリア動物園での実習							
9 実習 4 オーストラリア動物園での実習							
10 実習 5 オーストラリア動物園での実習							
11 実習 6 オーストラリア動物園での実習							
12 実習 7 オーストラリア動物園での実習							
13 実習 8 オーストラリア動物園での実習							
14 事後学習 1 学生による実習報告発表および担当教員による講評							
15 事後学習 2 学生による実習報告発表および担当教員による講評							
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック							
実習報告発表後に講評を行う。							
履修上の注意							
海外での生活および実習の受講に支障がない健康状態であること、および定められた日程および実習先で求められる規律を遵守することを履修の条件とする。社会情勢によって、あるいは最低参加人数 (前回は 16 名。変更があった場合は掲示にて知らせる。) が充足されない場合開講しないことがある。なお、本科目は海外での実習体験であるため、旅費等を含めた別途費用が必要となる。 授業計画は、諸般の事情により変更になることがある。4月に説明会を行い、履修登録を行う。							
事前・事後学修 (予習・復習) の内容							
事前学習で学んだ内容をよく復習して実習に臨むこと。実習の際は当日行った内容を毎回ノートにまとめ、疑問点等があれば次回に質問すること。							
評価方法 (評価基準を含む)							
授業参加状況 70%、発表およびレポート 30%として総合的に評価する。							
教科書							
教場・Moodle にて配布する。							
参考書、教材等							
教室・Moodle にて資料を配布する。 動物園にて実習テキストを配布する。							

授業科目	アッセンブリーアワー I				実務家教員	—	担当教員	◎新島 典子・植田 富貴子
科目英名	Special Seminar I							
開講期間	1年次 通年	必修科目 1単位	授業形態	講義	科目区分	専門教育 [総合科目]		
到達目標								
<p>学園の建学の精神と大学の教育理念を通して、日本における動物看護や動物人間関係の歴史や日本における現状について多角的視点から理解することを目指す。また、学内外の講師を招いた講演会・セミナーを通じて学ぶ姿勢、文章表現力、コミュニケーション能力や礼節等の大学生としての基礎力を修得し、自ら将来のためにすべきことを考える能力を見つけることを目標とする。</p>								
講義概要								
<p>本学の学生として学園の建学の精神と大学の教育理念を含めた、動物愛護の精神に基づいた様々な人と動物のかかわりを幅広く学ぶ。これにより、動物看護学科、動物人間関係学科において目指す教育の目的を認識させる。コミュニケーションアワー、自校教育アワー、キャリア教育アワー、トピックスアワーの4つの柱から構成される本科目において、1年次生を対象に4年間の土台作りを目的としている。</p>								
授業計画								
<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション、学生生活・教務ガイダンス、図書館ガイダンス 2 [自校教育アワー1] 学園と動物看護の歴史について 3 [自校教育アワー2] 動物愛護の精神と本学の教育理念（創始者記念礼拝） 4 [自校教育アワー3] 動物看護フォーラム（創立記念日） 5 [自校教育アワー4] ヤマザキ動物愛護シンポジウム（絆祭） 6 [キャリア教育アワー1] 動物園における動物看護の仕事 7 [キャリア教育アワー2] 馬に関わる動物看護の仕事 8 [キャリア教育アワー3] 身体障害者補助犬の仕事 9 [トピックスアワー1] ストレスへの対処方法 10 [トピックスアワー2] 消費者教育 11 [トピックスアワー3] 薬物、アルコール依存の危険性 12 [コミュニケーションアワー1] 動物関連職域に必要なコミュニケーションやマナー 13 [コミュニケーションアワー2] 動物園の役割と展示動物の健康管理・園内見学 14 [コミュニケーションアワー3] 国内海外研修・実習報告会 15 総括（1年次の振り返り） 								
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック								
<p>質問について、中間および最終回の総括においてフィードバックする。</p>								
履修上の注意								
<p>隔週、通年授業であり、講演者のスケジュール調整等で授業計画が変更になる場合がある。Moodle を利用して各種変更や連絡の掲示、授業参考資料の配布等を行うので、Moodle を頻繁に確認すること。</p>								
事前・事後学修（予習・復習）の内容								
<p>事前：授業計画に沿って、関連書籍・資料を読んでおく。事後：授業で配布した資料、関連書籍にて復習し、1週間以内にMoodle からレポートを提出。レポート内容について総括回でレビューを行う。</p>								
評価方法（評価基準を含む）								
<p>レポート(Moodle にて提出)50%、授業への参加度 50%で総合的に判断する。レポートの評価基準：与えられた課題を講義内容とからめて深く考察しているかどうかを評価する。</p>								
教科書								
<p>特に指定なし。必要に応じて資料を配布する。</p>								
参考書、教材等								
<p>必要に応じて授業や掲示板にて通知する。</p>								

授業科目	アッセンブリーアワーⅡ			実務家教員	—	担当教員	梅村 隆志・◎秋山 順子
科目英名	Special Seminar II						
開講期間	4年次 通年	必修科目 1単位	授業形態	演習	科目区分	専門教育 [総合科目]	
到達目標							
ヒトと動物の共生する平和な社会の構築を目的とし、社会における動物とヒトの多様な関係を修得することを目標とする。卒業に向かい、社会に巣立つ前に社会人としての基礎力を身につけることを到達目標とする。							
講義概要							
アッセンブリーアワーⅠにおいて学んだ幅広い基礎知識の上に、動物とのかかわりという視点から環境や職業や社会について学び、動物看護学科および動物人間関係学科生にふさわしい知識のより深い修得を目指す。これまでの日本の変化発展における動物とのかかわりのあり方、動物が伝統と変化を構築してきた歴史的価値を学ばせ、豊かな人間性を養うと共に、課題研究を通じて、自己研修を深め、社会人となるにふさわしい教養を充実させる。							
授業計画							
<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション、授業初回に詳細の授業計画内容を提示する。 2 [自校教育アワー1] 学園と動物看護の歴史（理事長講話） 3 [自校教育アワー2] 人と動物の共生（絆祭公開講座） 4 [自校教育アワー3] 動物俳句 5 [自校教育アワー4] 卒業論文発表会 6 [キャリア教育アワー1] 社会における動物関連の職業 7 [キャリア教育アワー2] 社会人マナーeラーニング 8 [キャリア教育アワー3] 社会人コミュニケーション 9 [トピックスアワー1] 社会人のストレスマネジメント 10 [トピックスアワー2] 博物館の歴史 11 [トピックスアワー3] 人と動物のかかわりの課題と研究 12 [コミュニケーションアワー1] 国立科学博物館見学 13 [コミュニケーションアワー2] 救急救命講習Ⅰ 14 [コミュニケーションアワー3] 救急救命講習Ⅱ 15 総括、4年次の振り返り 							
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック							
授業中に課題レポートに対する解説を行い、フィードバックする。							
履修上の注意							
隔週・通年授業で、講演者のスケジュール調整結果によって授業計画の順番や日時の変更がありうる。初回授業にて配布する授業計画表を確認すること。また、Moodle を利用し参考資料の配布や課題の提出、授業案内を行うため、連絡掲示等を必ず確認すること。							
事前・事後学修（予習・復習）の内容							
事前学修 掲示される「授業の計画内容」を確認すること。							
事後学修 レジメや板書を活用して、授業内容を課題レポートとしてまとめる。							
評価方法（評価基準を含む）							
授業への参加度（60%）、および課題レポート等提出物（40%）をもとに総合的に評価する。							
教科書							
なし。必要に応じて、掲示板や授業中に通知する。							
参考書、教材等							
なし。必要に応じて、掲示板や授業にて通知する。							

実務家教員担当科目一覧(動物看護学科)

	科目名	必修/選択	学年	開講期	単位数
1	動物臨床検査学実習	必修	2	前期	2単位
	特に受託検査項目の種類と特徴及び受託検査における異常データ出現原因やその発見、それに対する対処方法について、実務経験を活かした授業を展開している。				
2	小動物臨床栄養学	選択	2	後期	2単位
	民間企業、動物愛護団体でのペットフード開発等の実務経験と大学での獣医学博士としての犬猫栄養学研究、ならびに栄養学についての獣医師向け講座・セミナー実施経験を基に、深みがありつつ理解し易い講義を行っている。				
3	動物リハビリテーション	選択	4	前期	2単位
	動物病院の動物看護師としての実務と動物リハビリテーションを米国の獣医大学教育病院で研鑽した経験を活かし臨場感のある授業を展開。小動物医療現場で実践する理学療法理論と技術をわかりやすく指導すると共に動物看護の可能性を探求する。				
4	動物病院実習	必修	3	通年	2単位
	動物病院様の協力を得て、動物看護師として現場で遭遇するであろう実践部分の教育をお願いしている。事前授業と事後授業を組み合わせることにより、現場での実務者からの指導をより意義のあるものとしている。				
5	動物飼育管理実習	必修	2	通年	2単位
	動物飼育管理実習では、ウマ領域では八王子乗馬倶楽部ディレクターの細野茂之、爬虫類・両生類領域では田園調布動物病院院長の田向健一、観賞魚領域では日本観賞魚振興事業協同組合専務理事の吉田俊一という各領域の第一人者が、業界・現場の実態に即した飼育管理方法について知識・技術の指導を行っている。				
6	野生動物学	必修	2	後期	2単位
	動物園で飼育員として働いた経験から得られた野生動物についての知識を用いて、野生動物の進化や形態、分類を解説する。また、野生動物の保全や行動管理技術を用いて、野生動物と人との共生について、学生に考えてもらう。				
7	高齢動物看護学	選択	4	前期	2単位
	動物の高齢化に伴い動物の加齢性変化に応じた看護も必要となってくることに對し、臨床実務経験者の獣医師が生活の質の維持・向上を根底に、疾患別看護についてはそれぞれの得意分野を担当し、全般的な感染症、認知症、代替医療、グリーフケアについても経験を活かして講義する。				
8	在宅・訪問動物看護論	選択	4	後期	2単位
	小動物臨床に獣医師として長年携わってきた経験をもとに、高齢化あるいは疾患を有する動物などの在宅及び訪問における動物看護の方法、役割、意義を講義し、さらに在宅・訪問看護に当たって動物看護師の前に人間としてのマナーについても経験を活かして講義する。				
9	インターンシップ	選択	3・4	通年	2単位
	ペット関連産業の実務経験者である教員が、ペット関連産業の市場規模や業態等の特殊性も踏まえた上での社会人基礎力の教育を事前授業にて行う。また、インターンシップ実施中においても、学生が現場で抱える悩み等に実務経験者として対応する。				
実務家教員担当科目：18単位／卒業要件：124単位					

実務家教員担当科目一覧(動物人間関係学科)

	科目名	必修/選択	学年	開講期	単位数
1	動物臨床検査学実習	選択	2	前期	2単位
	特に受託検査項目の種類と特徴及び受託検査における異常データ出現原因やその発見、それに対する対処方法について、実務経験を活かした授業を展開している。				
2	臨床心理学	選択	2	前期	2単位
	これまで行ってきた学生相談業務、また、現在行っている中高でのスクールカウンセラーという心理臨床の実践経験で得た知識、また実践における最新の状況等について随時講義において情報提供を行っている。				
3	コミュニケーション論	選択	3	後期	1単位
	これまで行ってきたカウンセリング業務において他者との対話やコミュニケーションにおいて重要なノウハウにとどまらず、自分自身との対話を重要視し、トータル的なコミュニケーション能力、スキル、スタイルの確立を促すプログラムとして構成している。				
5	動物飼育管理実習	必修	2	通年	2単位
	動物飼育管理実習では、ウマ領域では八王子乗馬倶楽部ディレクターの細野茂之、爬虫類・両生類領域では田園調布動物病院院長の田向健一、観賞魚領域では日本観賞魚振興事業協同組合専務理事の吉田俊一という各領域の第一人者が、業界・現場の実態に即した飼育管理方法について知識・技術の指導を行っている。				
6	コンパニオンドッグトレーニング実習	選択	4	前期	2単位
	国内外における家庭犬、使役犬、シェルター犬の育成、行動修正、トレーニングの経験を活かし、行動の科学と理論に裏付けされた犬の行動特性を基本としたトレーニング技術の習得を目指す。				
7	野生動物学	必修	2	後期	2単位
	動物園で飼育員として働いた経験から得られた野生動物についての知識を用いて、野生動物の進化や形態、分類を解説する。また、野生動物の保全や行動管理技術を用いて、野生動物と人との共生について、学生に考えてもらう。				
8	ペットビジネス起業論	選択	3	後期	2単位
	小動物臨床に獣医師として約5年ほど従事し、その後、アニコム損害保険株式会社に2005年から勤務。現在は経営企画部で新規事業の立上げやイベントの企画などに従事している。実務経験からペット業界の現状と傾向、また、その中からニーズをくみ取りビジネスにしていく過程を基本的な考えから講義する。				
9	動物園・水族館論	選択	3	前期	2単位
	多摩動物公園や上野動物園での展示動物飼育の実務経験を活かし、動物園・水族館に関する豊富な知識について教授する。また、動物園・水族館の役割や歴史を通して、学生がこれからの動物園・水族館のあり方を考えていけるように講義する。				
10	インターンシップ	選択	3・4	通年	2単位
	ペット関連産業の実務経験者である教員が、ペット関連産業の市場規模や業態等の特殊性も踏まえた上での社会人基礎力の教育を事前授業にて行う。また、インターンシップ実施中においても、学生が現場で抱える悩み等実務経験者として対応する。				
実務家教員担当科目: 17単位 / 卒業要件: 124単位					